

“コロナ禍における親の「孤育ち」実態
および子育て支援に対するニーズの変化”
に関する調査報告

2021年度ドコモ市民活動団体助成事業調査結果報告書

NPO 法人育ちあいサポートブーケ

監修 甲南女子大学 伊藤 篤 教授

目 次

P

I	調査テーマ	1
II	本調査において検証しようとした“コロナ禍がもたらした変化”に関する予測	1
III	調査の概要	1
	1. 問題背景	1
	2. 目的	3
	3. 調査対象者と抽出方法	3
	(1) 調査対象者	
	(2) 調査対象の選定方法	
	4. 調査の手順・方法	4
	(1) 【調査Ⅰ】保護者を対象とする調査	
	(2) 【調査Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ】支援者を対象とする調査	
	5. 調査期間と回収結果	5
	(1) 調査期間	
	(2) 回収結果	
	6. 調査結果の概要	5
	(1) 【調査Ⅰ】保護者を対象とする調査結果	
	<基礎集計の結果について>	5
	<クロス集計の結果について>	
	a 「就業状況」別によるクロス集計	17
	b 「人口密度」別によるクロス集計	23
	(2) 支援者を対象とする調査結果	
	i 【調査Ⅱ】「地域子育て支援拠点事業所」および「利用者支援事業所（基本型）」 対象の調査結果	25
	ii 【調査Ⅲ】「地域子育て支援拠点事業」および「利用者支援事業（基本型）」 担当職員対象の調査結果	
	<基礎集計の結果について>	30
	<クロス集計の結果について>	35
	iii 【調査Ⅳ】「乳児家庭全戸訪問事業」担当職員対象の調査結果	36
IV	考察・まとめ	40
	(1) コロナ禍における子育ての実態	40
	(2) コロナ禍での子育て支援	44
	(3) 今後に向けて	48
V	集計結果（図・記述）	51
巻末	資料	187

「2021 年度ドコモ市民活動団体助成事業」調査結果報告書

“コロナ禍における親の「孤育ち」実態および子育て支援に対するニーズの変化” に関する調査報告

NPO 法人育ちあいサポートブーケ
監修 甲南女子大学 伊藤篤教授

I 調査テーマ

コロナ禍における親の「孤育ち」実態および子育て支援に対するニーズの変化

II 本調査において検証しようとした“コロナ禍がもたらした変化”に関する予測

コロナ禍がおよぼしたと私たち研究グループが予測した子育てへの影響（変化）は以下の3点である。

- ① 人との交流が不活化したことで、子育て家庭の孤立が加速度的に進行する
- ② 親が親として育つための支えを得にくい孤立的な子育て環境（親の「孤育ち」）がもたらされたことで、親による子育ての困難が顕在化する
- ③ 子育て家庭への多様なアプローチ（支援の入口の質的・量的拡大）および親のニーズに個別的に寄り添う支援が以前にも増して必要となる

III 調査の概要

1. 問題背景

カナダで誕生した親支援プログラム「Nobody's Perfect」という名称が端的に示しているように、誰もが最初から完璧な親ではなく、子どもと共に育っていくのが親である。多様な人々との交流や彼らによる見守りの中で、子育てを学びながら親が親として育つ「親育ちの場」は、かつては家族・親族との関係性や地域の人々との関係性のうちに自然な形で組み込まれていた。言い換えれば、日常の生活内に一定の「健全な子育て環境」が形成されていた。

しかし、近年、育てている子どもの祖父母や近隣の人々などとの物理的・心理的距離を取って暮らす核家族が増加していき、親子が孤立するようになったことで、子育ての先輩をモデルとして子育てを学ぶ機会が乏しくなった。つまり、親が親として育つべき時期において、かつてほど容易に支援を得られにくい「親の“孤育ち”」の状況が課題となったのである。

そこで、地域子育て支援拠点などの政策的（意図的）に設定された「親育ちの場」が、そこでの支援者とのかかわりや子育ての仲間との交流などを通して、子育て家庭（親子）に対して、かつて家族・親族や地域の人々が担ってきた「健全な子育て環境」を代替的に提供するようになり、「親の“孤育ち”」解消に成果をあげてきた。

しかし、2020 年を迎えて以降、にわかに報道されるようになった新型コロナウイルスの

感染が瞬く間に日本国内にもまん延した。緊急事態宣言等が繰り返し発出され、こうした「場」による支援の提供にも制限がかかるようになり、親子も外出の自粛を余儀なくされ、地域における子育て支援は、その役割を十分に果たせないままに約2年が過ぎている。

当法人は、子ども虐待を防止しすべての子どもの健全な発育を目指し、望ましい「健全な子育て環境」の再構築をミッションとしている。これまで、親子の居場所づくりを通じた「親の“孤育ち”」解消を目指して、「場」における対面支援を主軸に長年にわたり取り組んできた。しかしながら、コロナ禍に見舞われて以降、当法人が兵庫県川西市より事業委託を受けて運営する「地域子育て支援拠点A」の利用実態は、それ以前に比べて大きく変動している（表1を参照）。

表1 川西市地域子育て支援拠点Aにおけるコロナ禍以前・以後の利用実態の比較

項目	コロナ禍以前の5か月間 2019年10月～2020年2月	コロナ禍以後の5か月間 2020年10月～2021年2月
開室日数	138日	139日
来所者数	5,993人	2,618人
交流事業	9回実施・107人参加	0回実施・0人参加
相談件数	390件（うち市との連携4件）	282件（うち市との連携8件）

この拠点Aは、コロナ禍の期間であっても、表1に示す開室日数から分かるように、感染症対策を工夫しつつ開室を継続した。それにもかかわらず、同表が示すように、来所者数は大幅に激減し、交流事業は中止を余儀なくされた。

来所者数の半減は、予約は不要としたものの、同時に利用できる定員を設定（限定）したことが要因の一つだと思われるが、定員を超えて待機する利用者が多くはなかったことから、外出自粛による利用控えがあったと考えられる。市内全施設で事業実施が中止となり、交流の機会が一切消失された時期もあった。

相談については、件数減（27.7%の減少）とはいえ、来所者数の減少比率（56.3%の減少）と比較すると、悩みを抱える人の増加、あるいはママ友がいない・ママ友に会えないなど相談相手の消失が推察される。また、相談内容からは、新生児を抱えての未知のウイルスへの恐怖心や育児スキルに対する不安傾向が強く、子どもとの関わり方を体得できていない様子や、感染回避のため親を頼れない、一時預かり利用へも抵抗感が強いなど、コロナ禍における「孤軍奮闘」の子育て・「暗中模索」の子育てといった実態がうかがえた。

来所者の様子からコロナ禍がもたらした子育てへの影響が顕著に感じ取られたことから、コロナ禍による支援の「場」の機能不全は、大多数の子育て家庭においては潜在的な弊害を生んでいると思われた。

以上のような川西市の実態から、新型コロナウイルスまん延の影響は、おそらくは全国の子育て環境に急激な変化をもたらしているものと推察できる。従前より課題であった「親の

“孤育ち”が加速化し、親の子育て困難感の高まりも予測され、それらが、子どもの育ちに対してネガティブな影響をおよぼす危険性や潜在的な虐待リスクを増大させる可能性が懸念される現状にあるといえる。

2. 目的

すでに述べたように、コロナ禍による子育て環境の急激な変化が、「親の“孤育ち”」を加速させ、親の子育て困難感を高めることになり、その結果として、子どもの育ちが阻害されることや子どもへの虐待リスクが増大することが強く懸念されるため、こうした現状に寄り添った支援の強化は喫緊の課題といえる。

そこで、本調査では、保護者を対象とした調査を通して、コロナ禍において子育て家庭がどのように孤立しているのか、その実態（親の“孤育ち”の実態）を捉え、それによって親子が受けている影響を明らかにする。あわせて、地域子育て支援拠点事業、利用者支援事業（基本型）に携わる「親育ちの場」での支援者と、乳児家庭全戸訪問事業に携わる「訪問」による支援者を対象とした調査を実施して、支援者の視点から捉えるコロナ禍における子育て家庭の実態、親子への影響も明らかにする。

さらに、上記の調査結果を踏まえ、このコロナ禍において求められる支援ニーズの変化を探り出し、子育て家庭を孤立に追い込むような現在の子育て環境において、今後有効な子育て支援のあり方を考察・提起することを本研究の目的とする。

3. 調査対象者と抽出方法

（1）調査対象者

【調査Ⅰ】

兵庫県在住の0歳以上3歳未満（2021年11月30日現在）の乳幼児を育てる保護者

【調査Ⅱ】

兵庫県の41市町で開設されている「地域子育て支援拠点事業所」および「利用者支援事業所（基本型）」

【調査Ⅲ】

兵庫県の41市町にて実施されている「地域子育て支援拠点事業」もしくは「利用者支援事業（基本型）」を担当する職員（各1～3名程度）

【調査Ⅳ】

兵庫県の41市町で「乳児家庭全戸訪問事業」を担当する訪問員（各1～2名程度）

（2）調査対象の選定方法

保護者を対象とする【調査Ⅰ】はWeb調査とし、WebアンケートのQRコードを掲載したチラシとインターネットを介した告知拡散等により、兵庫県全域において、2021年9月22日～11月30日までの期間、回答への協力をよびかけた。結果として、保護者451名か

ら協力を得ることができ、うち子どもの年齢が本調査の対象外であった等の理由で不適切な回答を除いた有効回答は 447 名分であった。

支援者を対象とする【調査Ⅱ】【調査Ⅲ】【調査Ⅳ】については、兵庫県こども政策課より兵庫県全 41 市町の「地域子育て支援拠点事業」「利用者支援事業（基本型）」「乳児家庭全戸訪問事業」を総括する部署宛に 2021 年 9 月 1 日付で調査協力依頼文書をメール送付してもらった後、重ねて当法人より同部署へ調査協力依頼文書をメール送付し、調査協力の可否を訪ねた。期日までに調査協力可能な返信のあった市町は 18 だったが、返信がなかった 23 市町には再度メールや電話で調査協力の可否を確認することにより、最終的に 38 市町から調査Ⅱ～Ⅳいずれかの調査について協力の許可を得られ、調査期間終了期日である 11 月 30 日（一部市町で 12 月 10 日まで）までに 37 市町からの回答を得た。

【調査Ⅱ】については、34 市町の「地域子育て支援拠点事業所」および「利用者支援事業所（基本型）」145 か所より、【調査Ⅲ】については、33 市町の地域子育て支援拠点の職員および利用者支援専門員（基本型）合わせて 293 名分の回答を得た。【調査Ⅳ】については 24 市町の乳児全家庭全戸訪問員 42 名分の回答を得ることができた。（各調査の回答市町については、本報告書巻末「資料 5」参照）。

4. 調査の手順・方法

(1) 【調査Ⅰ】保護者を対象とする調査

保護者を対象とする調査は Web を用いることとした。調査内容と質問項目を研究グループで検討し決定した（具体的な質問項目については本報告書巻末「資料 1」を参照）。

上記 Web アンケートにアクセスするための QR コードを掲載したチラシを作成し、兵庫県内で協力許可を得られた地域子育て支援拠点や保育所・認定こども園、コープこうべの子育て活動拠点、ひょうご子育てコミュニティ登録団体等の拠点、イベント等でおおよそ 8,000 部を配布した。さらに、当法人のフェイスブック・インスタグラム・ホームページでの告知拡散、神戸新聞社子育てサイト「すきっぷ」での告知やメールマガジン配信、「ひょうご子育てコミュニティ」会員へのメーリングリスト配信等、インターネットを介し対象となる保護者を募集した。

得られた数量的データは「IBM SPSS Statistics (Ver.21)」および「js-STAR_XR (release 1.1.8j)」による解析を行い、自由記述の回答に関しては、類似の内容をカテゴリー化するという方法によって整理した。

(2) 【調査Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ】支援者を対象とする調査

【調査Ⅱ】【調査Ⅲ】「地域子育て支援拠点事業」および「利用者支援事業（基本型）」の各事業所およびその職員を対象とする調査についても、その内容と質問項目を研究グループで検討し決定した（具体的な質問項目については本報告書巻末「資料 2・資料 3」を参照）。ただし、【調査Ⅱ】については、各事業所により設問の捉え方にばらつきがみられたので、

得られた情報は【調査Ⅲ】および【調査Ⅳ】の情報を補完するデータとして活用、報告することとした。

【調査Ⅳ】「乳児家庭全戸訪問事業」を担当する訪問員を対象とする調査についても、その内容と質問項目を研究グループで検討し、決定した（具体的な質問項目については本報告書巻末「資料4」を参照）。

いずれの調査においても、各市町の希望にそって、各調査票を郵送もしくは Word 文書を添付したメールにより送付して調査を実施した。郵送もしくはメールにより回収された回答をデータ化し集計した。数量的データについては「IBM SPSS Statistics (Ver.21)」および「js-STAR_XR (release 1.1.8j)」により解析を行い、自由記述の回答に関しては、類似の内容をカテゴリー化するという方法によって整理した。

5. 調査期間と回収結果

(1) 調査期間

保護者を対象とする調査（調査Ⅰ） 2021年9月22日～11月30日

支援者を対象とする調査（調査Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）2021年9月2日～11月30日（一部の市町で延長12月10日まで）

(2) 回収結果

調査Ⅰ 保護者を対象とする web 調査 447名

調査Ⅱ 34市町の地域子育て支援拠点事業所・利用者支援事業所（基本型）

145か所

調査Ⅲ 33市町の地域子育て支援拠点事業・利用者支援事業（基本型）職員 293名

調査Ⅳ 24市町の乳児家庭全戸訪問事業訪問員 42名

6. 調査結果の概要

【調査Ⅰ】～【調査Ⅳ】の各設問回答結果については、本報告書Ⅴ.集計結果の「表Ⅰ～Ⅳ、記述Ⅲ・Ⅳ」に示す。本項では、各調査の結果の概要を述べるものとする。

(1) 【調査Ⅰ】保護者を対象とする調査結果

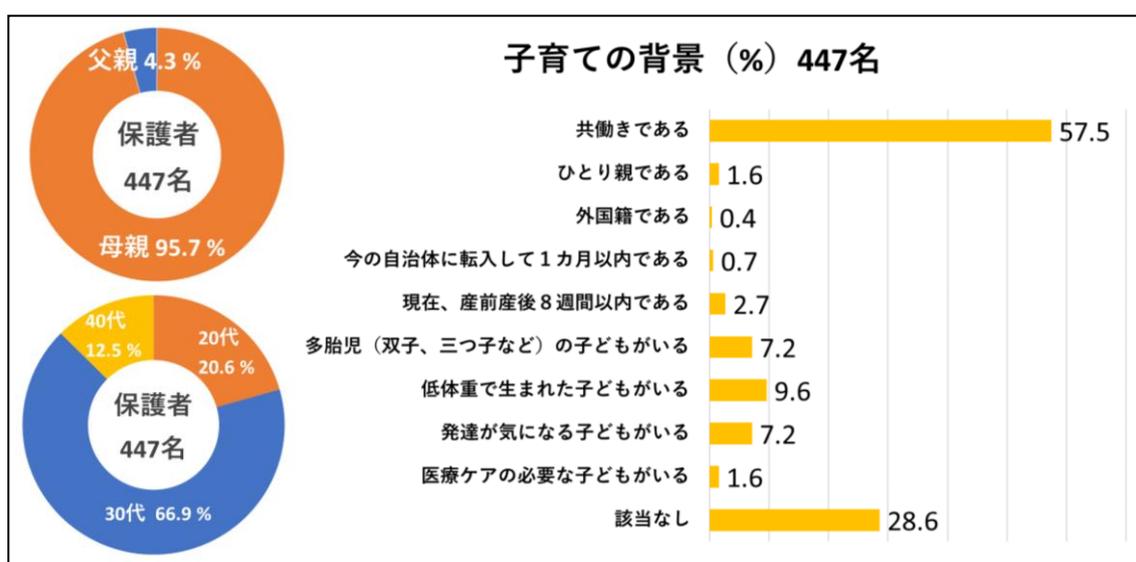
<基礎集計の結果について>

本調査において有効な回答を得られた兵庫県在住の0歳以上3歳未満の子どもを育てている保護者447名のうち「母親」は428名95.7%「父親」は19名4.3%であった（設問1）。保護者の年代に関しては、「30代」が66.9%と最も多く、次いで「20代（20.6%）」「40代（12.5%）」であった（設問2）。

また、設問3では、保護者のおかれている現状（共働き、ひとり親、外国籍他）や子の抱える特性（多胎児、要医療ケア他）等、子育て環境に影響すると推察される家庭それぞれの

多様な子育ての背景を把握するための 10 項目（「該当なし」を含む）について「そうである」ものを回答してもらった。その結果、本調査の回答者においては、「共働きである」保護者（育休中も一部含まれる）が 57.5%を占めた。「産前産後 8 週間以内」の保護者は 2.7%、「ひとり親」は 1.6%、「今の自治体に転入して 1 ヶ月以内」は 0.7%、「外国籍である」保護者は 0.4%であった。本調査の回答者である保護者が育てている子の特性としては「低体重で生まれた」が 9.6%、「多胎児」「発達が気になる子」はいずれも 7.2%であり、「医療ケアが必要」な子を育てている保護者は 1.6%であった。

本調査においては、兵庫県 41 市町のうちの 28 市町に在住する保護者より回答を得ることができた（設問 6）。

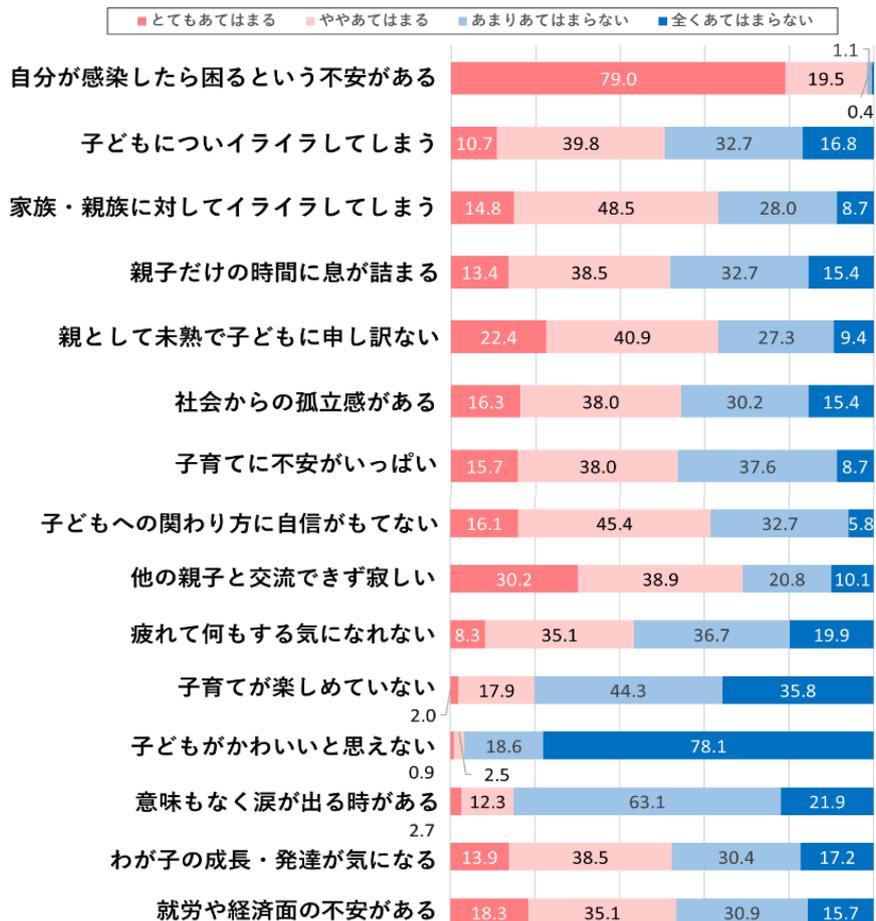


「コロナ禍での子育て」に関し、まず「コロナ禍において子どもとどのように過ごしているか」という問い（設問 7）において「そうである」と回答された割合の最も高かった項目は「なるべく外出を控えて自宅で過ごしている（62.2%）」であり、次いで「なるべく同居家族以外の人と会ったり遊んだりしないように過ごしている（50.6%）」「親子で散歩や運動を心がけて過ごしている（42.7%）」という結果であった。一方で「子育てひろばや児童館など子育て支援施設の利用を控えている」に「そうである」と回答した保護者は 27.1%であった。また、祖父母との付き合い方について「実家への帰省をできるだけ控えている」に対して「そうである」と回答した保護者は 38.9%、「祖父母など離れて暮らす親族とは LINE など SNS を利用しオンラインで交流を図るようにしている」と回答した保護者は 38.5%であった。なお「ママ友パパ友など地域の知人とは LINE など SNS を利用しオンラインで交流を図るようにしている」は 7.8%、「オンラインの親子交流会を利用している」は 6.0%にとどまっている。

コロナ禍における子どもとの過ごし方（%） 447名



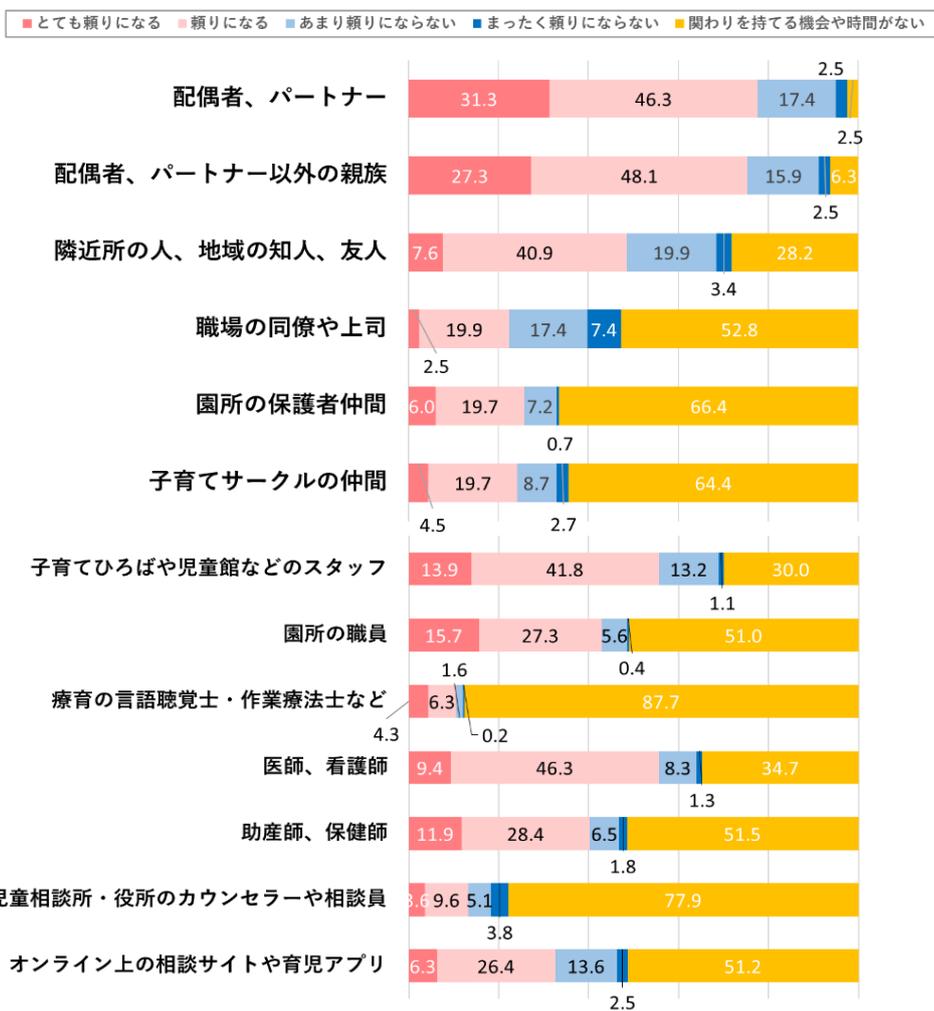
コロナ禍の子育てをどのように感じているか（%） 447名



次に「コロナ禍の子育て環境において日々どのように感じているか」を尋ねるために、15の質問項目を示し、それぞれに関して「とてもあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の四件法で回答を求めた（設問 8）。「とてもあてはまる」「ややあてはまる」をあわせた「該当する」割合の著しく高かった項目は「自分が感染したら困るという不安がある（98.5%）」であった。次いで「他の親子と交流できず寂しい（69.1%）」「家族・親族（子どもは除く）に対してイライラしてしまう（63.3%）」「親として未熟で子どもに申し訳ない気持ち（63.3%）」「子どもへの関わり方（遊び方、しつけ方、世話の仕方など）に自信が持てない（61.5%）」との結果であった。「該当する」と「該当しない」のそれぞれが概ね半数の項目は、「社会からの孤立感がある（54.3%）」「子育てに不安がいっぱい（53.7%）」「就労や経済面の不安がある（53.4%）」「我が子の成長・発達が気になる（52.4%）」「親子だけの時間に息が詰まる（51.9%）」「子どもについてイライラしてしまう（50.5%）」であった。なお、「子どもがかわいいと思えない」は 3.4%と低い割合にとどまっていたが、産後うつ状態に陥っている可能性を尋ねる項目に着目すると、「疲れて何もする気になれない（43.4%）」「子育てが楽しめていない（19.9%）」「意味もなく涙が出る時がある（15.0%）」の項目に「該当する」と回答した者が一定の割合で見られている。

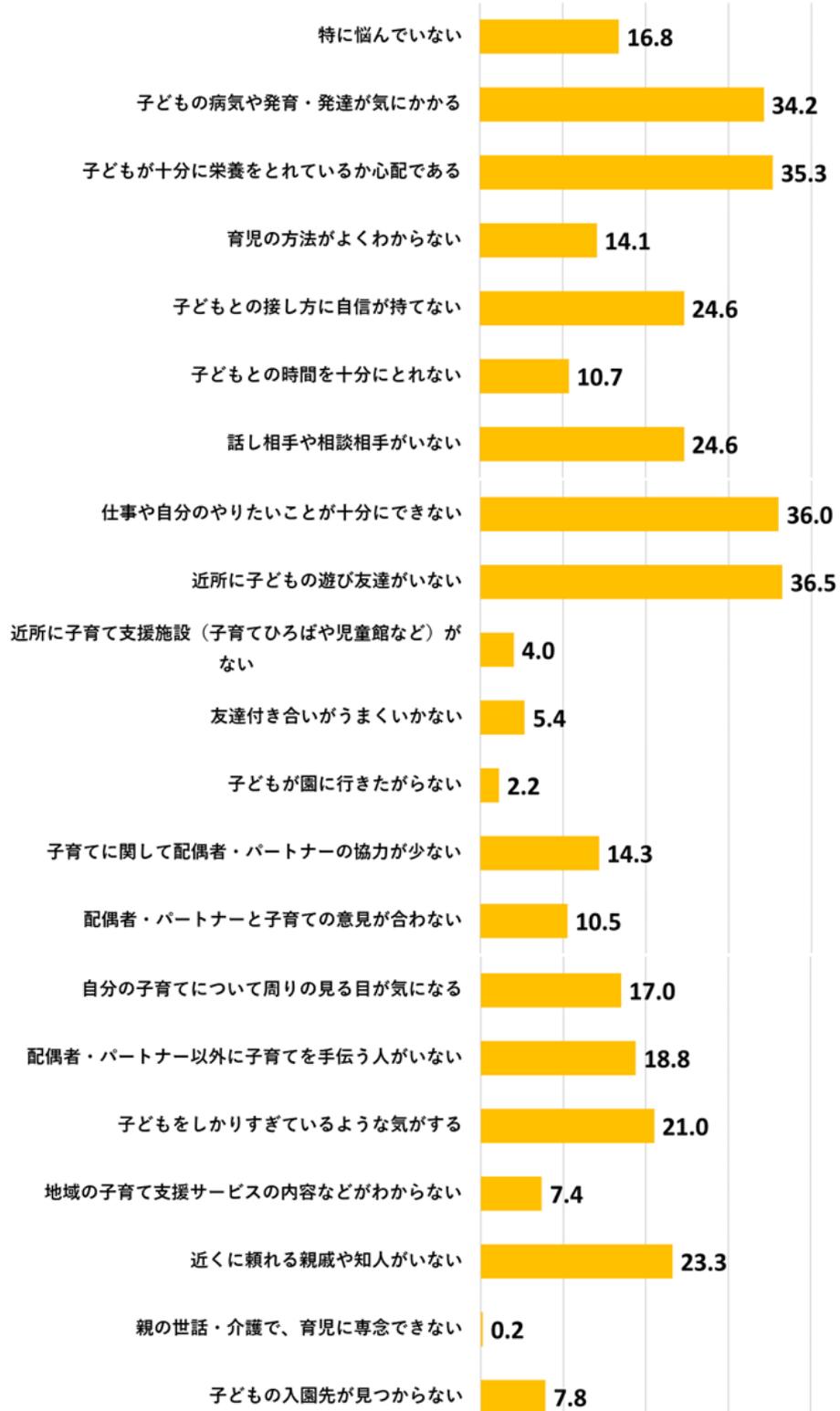
続いて「子育ての悩みやしんどさに対し（次の人や場は）どれくらい頼りになるか」を尋ねるために、子育てのサポートに関わりがあると思われる 13 の人や場を挙げ、「とても頼りになる」「頼りになる」「あまり頼りにならない」「まったく頼りにならない」「関わりを持てる機会や時間がない」の五択一での回答を求めた（設問 9）。「とても頼りになる」「頼りになる」と回答した保護者をあわせて、その割合が高かったのは「配偶者、パートナー（77.6%）」「配偶者、パートナー以外の親族（75.4%）」であった。次いで「子育て支援施設（子育てひろばや児童館など）のスタッフ」「医師、看護師」が同率で 55.7%、続いて「隣近所の人、地域の知人、友人（48.5%）」であった。「保育園、保育所、こども園、託児所の職員」「助産師、保健師」については、「とても頼りになる」「頼りになる」の回答合計のそれぞれの割合は 43.0%、40.3%であったが、「あまり頼りにならない」「全く頼りにならない」の回答合計のそれぞれの割合は 6%、8.3%と低い一方で、「関わりを持てる機会や時間がない」という回答がそれぞれ 51.0%、51.5%と高い割合でみられたことから、日常生活を送る中で接触する機会がない回答者が一定数いる可能性と、コロナ禍などで関わりたくても関われないため、頼れる資源になり得なかった可能性があることが推察される。これら以外に「関わりを持てる機会や時間がない」との回答に高い割合を示したのは「療育の場にいる言語聴覚士、作業療法士などのスタッフ（87.7%）」「児童相談所、役所の窓口などにいるカウンセラー（心理士）、相談員など（77.9%）」「子育てサークルの仲間（64.4%）」「職場の同僚や上司（52.8%）」「オンライン上の相談サイトや育児アプリ（51.2%）」であった。

子育ての悩みやしんどさに対して頼りになる存在（％） 447名

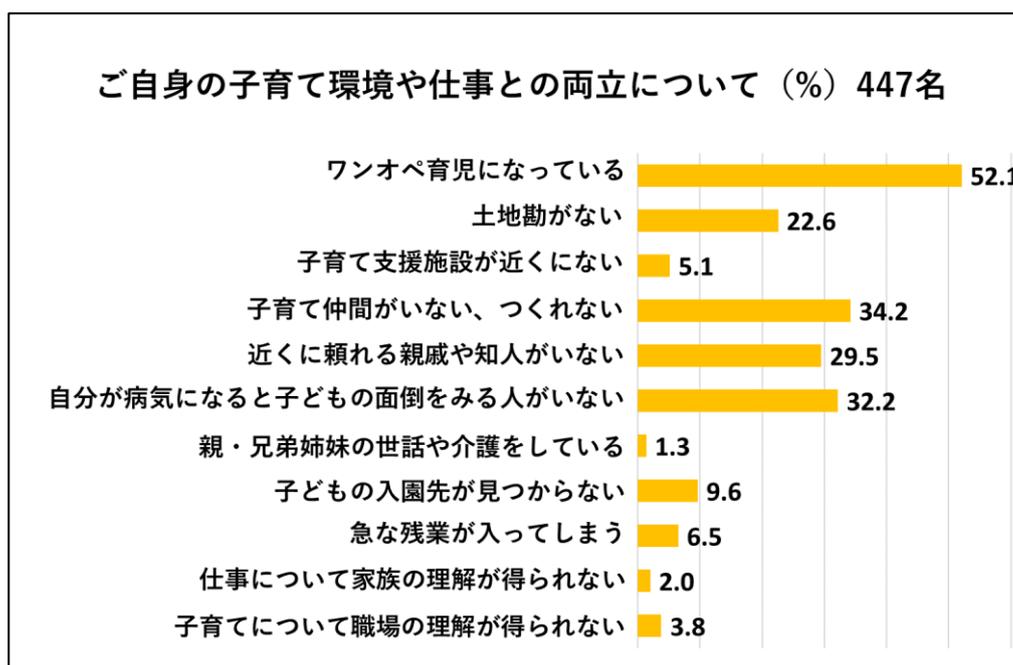


また、子育てに関して「自身が日頃悩んでいること」を尋ねるために、22の選択肢を用意し、それらから「そうである」ものを選択する（複数回答可）（設問10）よう求めたところ、回答にばらつきがみられた。選択された割合の高い順に「近所に子どもの遊び友達がいない（36.5%）」「仕事や自分のやりたいことが十分にできない（36.0%）」「子どもが十分に栄養をとれているか心配である（35.3%）」「子どもの病気や発育・発達が気にかかる（34.2%）」「子どもとの接し方に自信が持てない（24.6%）」「話し相手や相談相手がいない（24.6%）」「近くに頼れる親戚や知人がいない（23.3%）」であった。一方で「特に悩んでいない」を選択した保護者も16.8%あった。

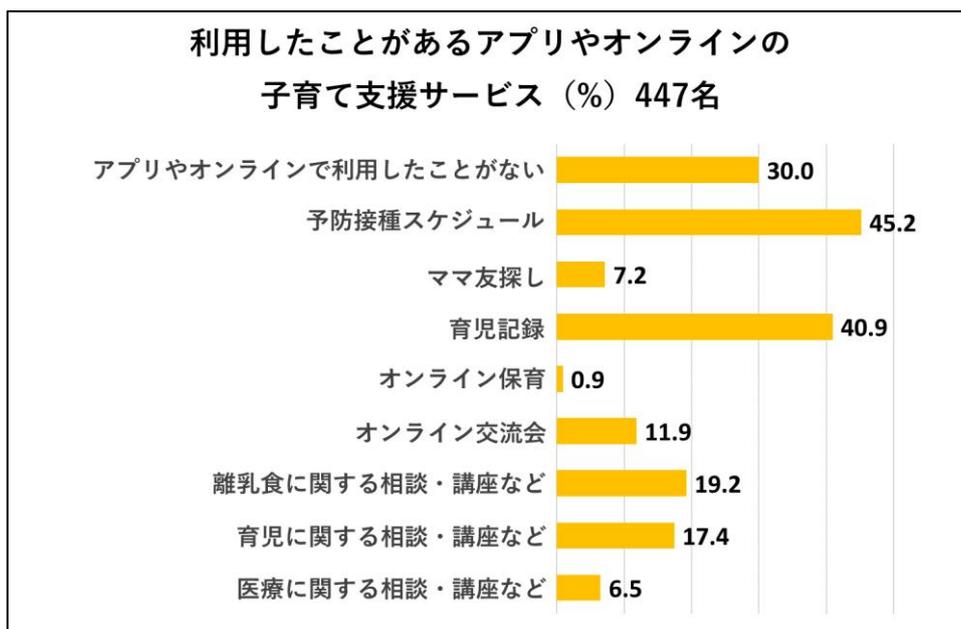
ご自身が日頃悩んでいること (%) 447名



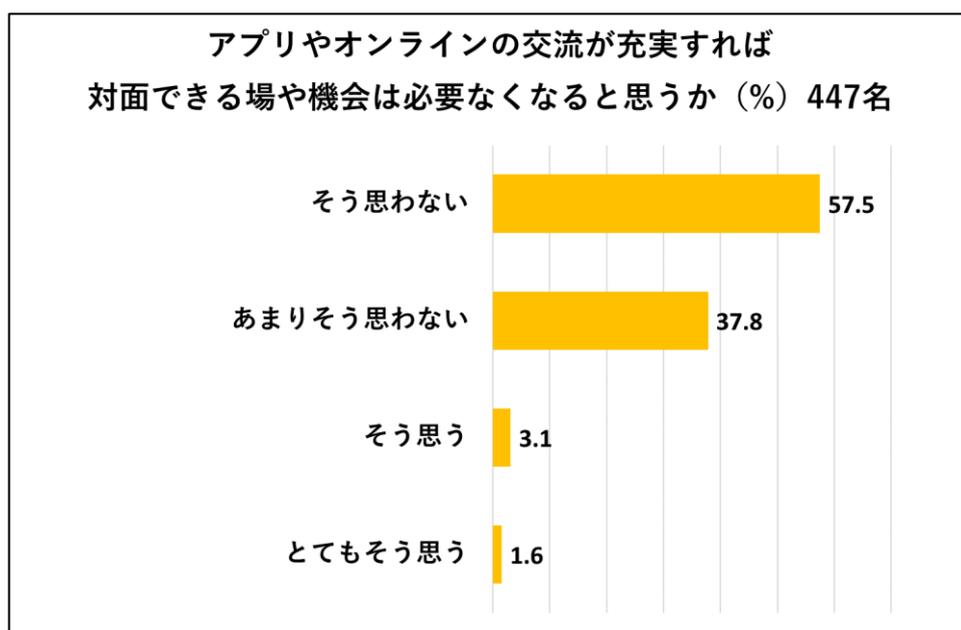
さらに「自身の子育て環境や仕事との両立」を尋ねるために、12の選択肢を用意し、それらから「そうである」ものを選択する（複数回答可）（設問12）よう求めたところ、最も高い割合で選択されたのは「ワンオペ育児（育児負担に偏りがある状態）になっている（52.1%）」で、次いで「子育て仲間がいない、つぐれない（34.2%）」「自分が病気になると子どもの面倒をみる人がいない（32.2%）」「近くに頼れる親戚や知人がいない（29.5%）」「土地勘がない（22.6%）」であった。また、比較的低い割合を示したのは「親・兄弟姉妹の世話や介護をしている（1.3%）」「仕事についての家族の理解が得られない（2.0%）」「子育てについて職場の理解が得られない（3.8%）」であった。



「アプリやオンラインの子育て支援サービスで利用したことのあるもの」を尋ねるために、10の選択肢を用意し、それらから「利用したことがある」ものを選択する（複数回答可）よう求めた問い（設問13）では、「予防接種スケジュール（45.2%）」が最も多く、次いで「育児記録（40.9%）」であった。「利用したことがある」との回答の割合が比較的低いものとしては、「オンライン保育（0.9%）」「医療に関する相談・講座など（6.5%）」「ママ友探し（7.2%）」「オンライン交流会（11.9%）」であった。なお、「アプリやオンラインで利用したことがない」という回答は、全体の30.0%を占めていた。

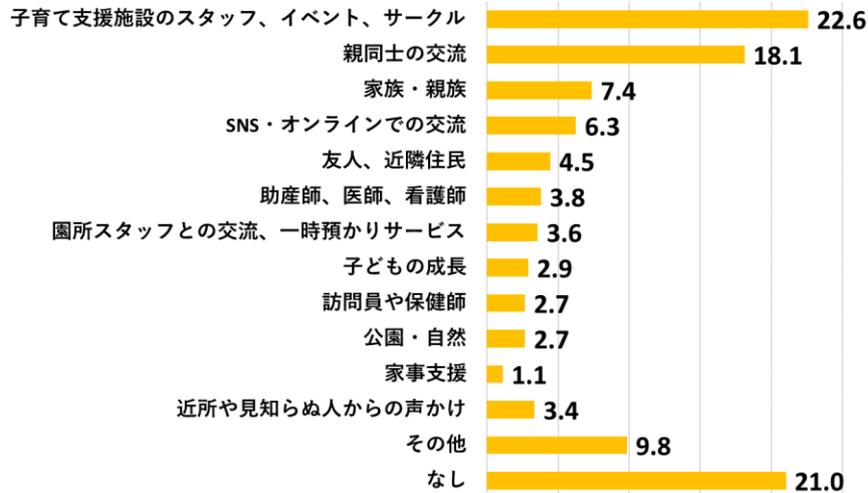


さらに「今後、アプリやオンラインの子育て支援サービスや交流が充実すれば、子育てひろばや児童館など親子同士で対面できる場や機会はなくなると思うか」の問いに「そう思わない」「あまりそう思わない」「そう思う」「とてもそう思う」の四件法で回答を求めたところ、「そう思わない (57.5%)」「あまりそう思わない (37.8%)」「そう思う (3.1%)」「とてもそう思う (1.6%)」との結果が得られた (設問 14)。回答の理由を自由記述で求めた問い (設問 15) では、対面での交流は「コミュニケーションとして必要」「子どもの成長に必要」「親子のリフレッシュ」になるとの回答が多かった。また、次の設問 16 で尋ねた「コロナ禍で子育てを楽にしてくれたり子育てに前向きになれたりした出会いや出来事」としては、「子育て支援施設のスタッフやイベント、サークル」「親どうしの交流」との記述が多く見られた。



コロナ禍でご自身の子育てを楽にしてくれたり

子育てに前向きになれた出会いや出来事 (%) 447名

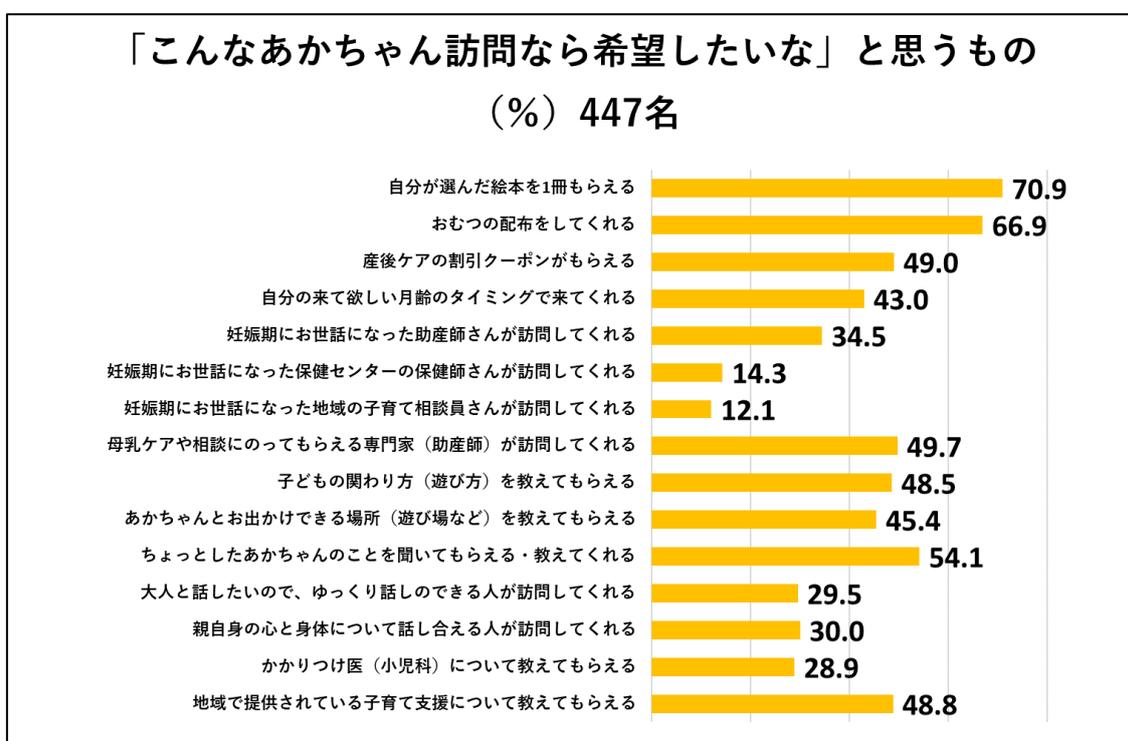


「家庭訪問」についての一連の問いでは、まず、「自治体の新生児訪問指導やこんにちは赤ちゃん事業などの家庭訪問についての自身の気持ち」について13の選択肢を示し「そうである」ものを選択してもらった（複数回答可）（設問17）結果、64.7%の保護者が「訪問してもらえてありがたかった」と回答し、60.0%の保護者が「すべての母子に必要な制度だと思う」と回答した。一方で「希望していないのに家に来られるのは不快（3.8%）」「虐待を疑われているのではと不安になる（4.5%）」という回答も低い割合ではあるものの、選択されていた。

自治体の「新生児訪問指導」「こんにちは赤ちゃん事業」など家庭訪問についての気持ち (%) 447名



続いての問いでは「こんな赤ちゃん訪問なら希望したい」と思うものについて16の選択肢より選択するよう回答（複数回答可）を求めた（設問18）。最も多く選択されたのは「自分が選んだ絵本を1冊もらえる（70.9%）」であり、次いで「おむつの配布をしてくれる（66.9%）」「ちょっとした赤ちゃんのことを聴いてもらえる・教えてくれる（54.1%）」「母乳ケアや相談にのってもらえる専門家（助産師）が訪問してくれる（49.7%）」「産後ケアの割引クーポンがもらえる（49.0%）」「地域で提供されている子育て支援について教えてもらえる（48.8%）」「子どもの関わり方（遊び方）を教えてもらえる（48.5%）」などであった。「その他」の自由記述では「父親へのはたらきかけ」や「訪問のタイミング」「訪問の回数」などについて言及されているものがみられた。

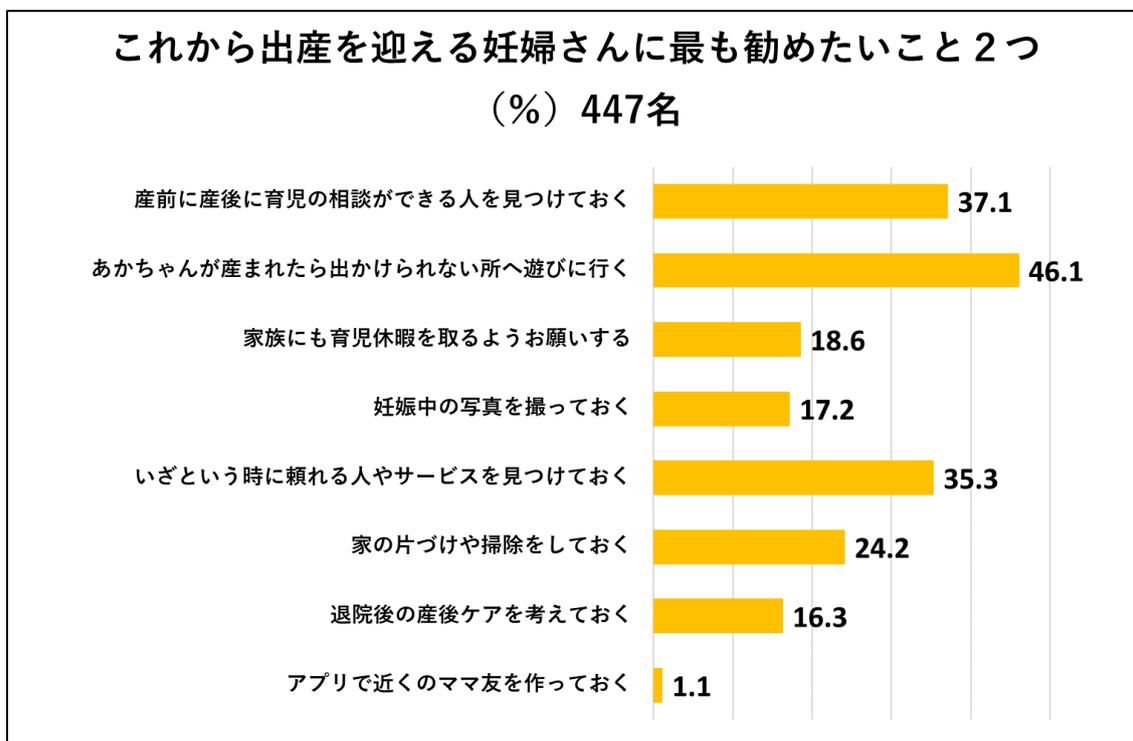


「これから出産を迎える妊婦さんに最も勧めたいこと」を9の選択肢より2つ選択してもらうよう求めた問い（設問19）では、「赤ちゃんが産まれたら出かけられない所へ遊びに行っておく（46.1%）」が最も多かった。次いで「産前のうちに産後の育児の相談ができる人を見つけておく（37.1%）」「いざという時に頼れる人やサービスを見つけておく（35.3%）」であった。

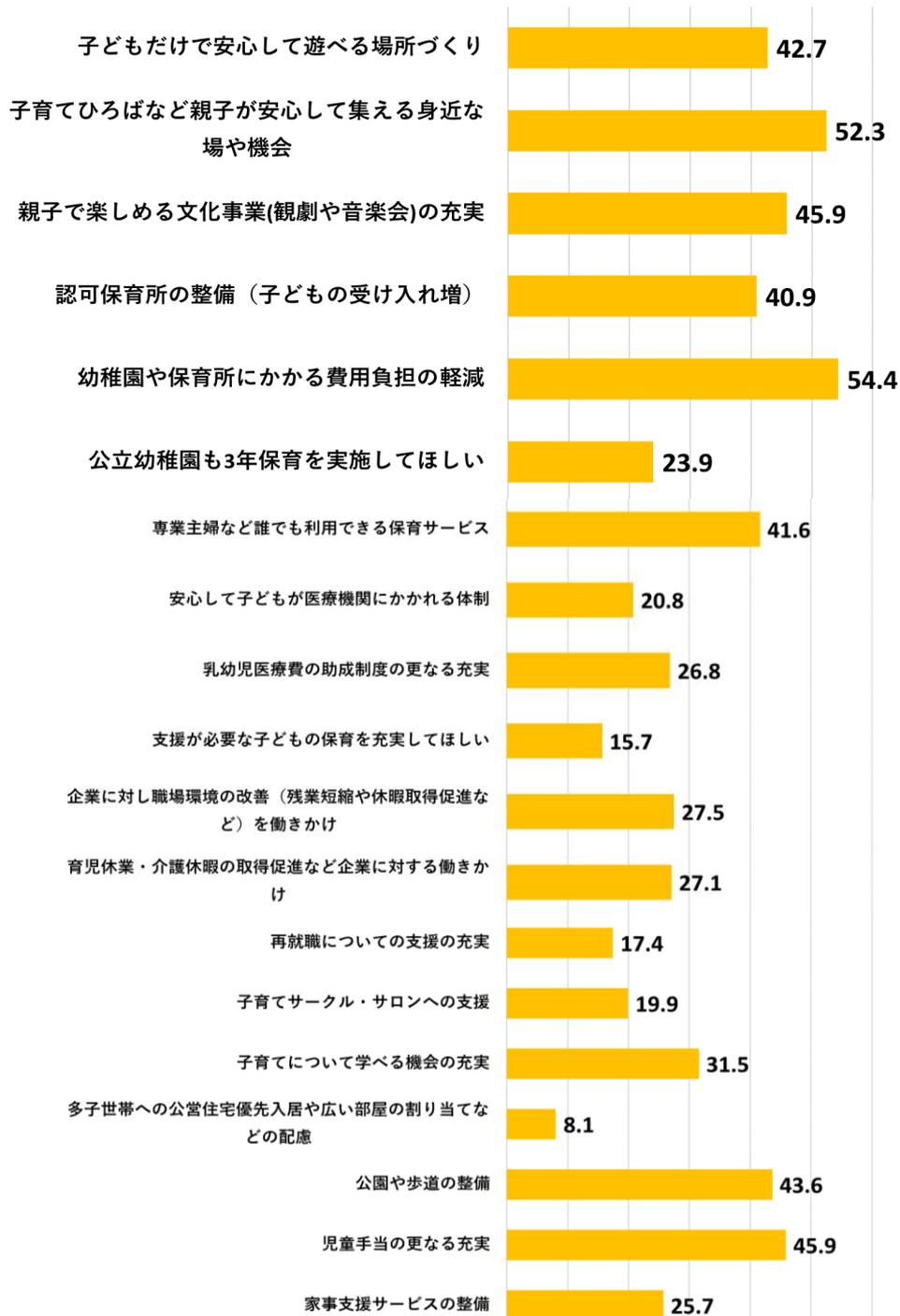
最後に「子育て支援について自身の自治体にもっと力を入れてほしいと思うもの」について20の選択肢から選択してもらうよう求めた（複数選択可）（設問20）。その結果、「幼稚園や保育所にかかる費用負担を軽減してほしい（54.4%）」「子育てひろばや児童館など、親子が安心して集まれる身近な場や機会を増やしてほしい（52.3%）」「児童手当をもっと充

実してほしい（45.9%）」「親子で楽しめる文化事業（観劇や音楽会）を充実させてほしい（45.9%）」などが自治体に望むこととして高い割合で選択された。

（以上の詳細は本報告書Ⅴ.集計結果の「表Ⅰ-1～44」に示したので参照されたい）



子育て支援についてあなたの自治体に
もっと力を入れてほしいと思うもの（％） 447名



<クロス集計の結果について>

a 「就業状況」別によるクロス集計

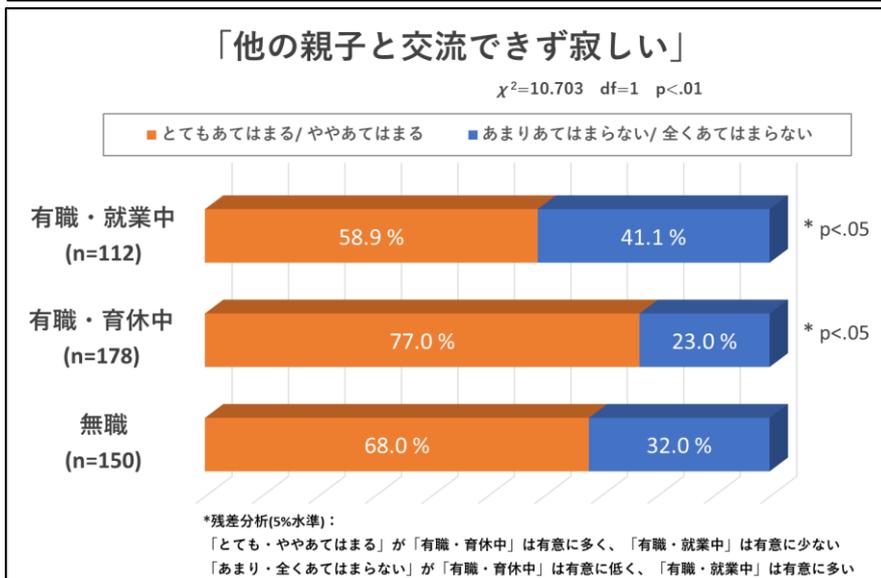
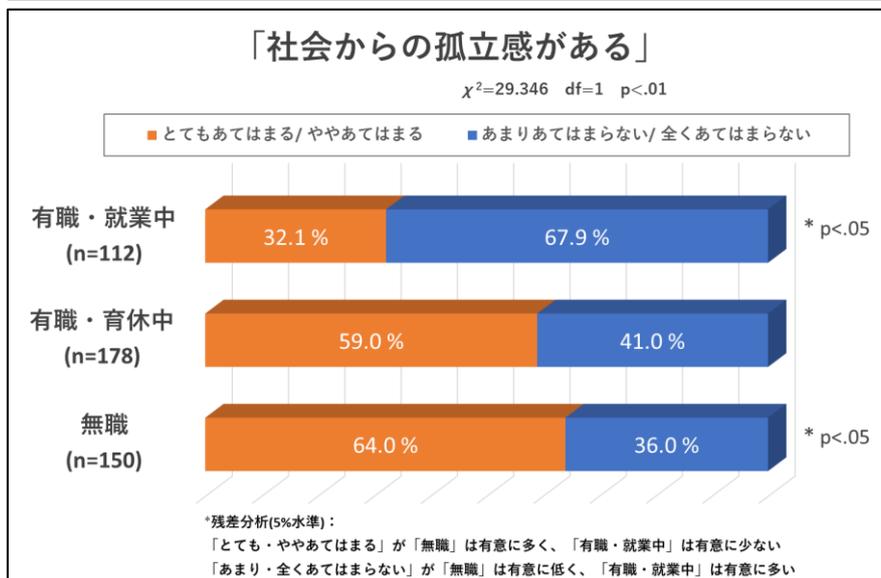
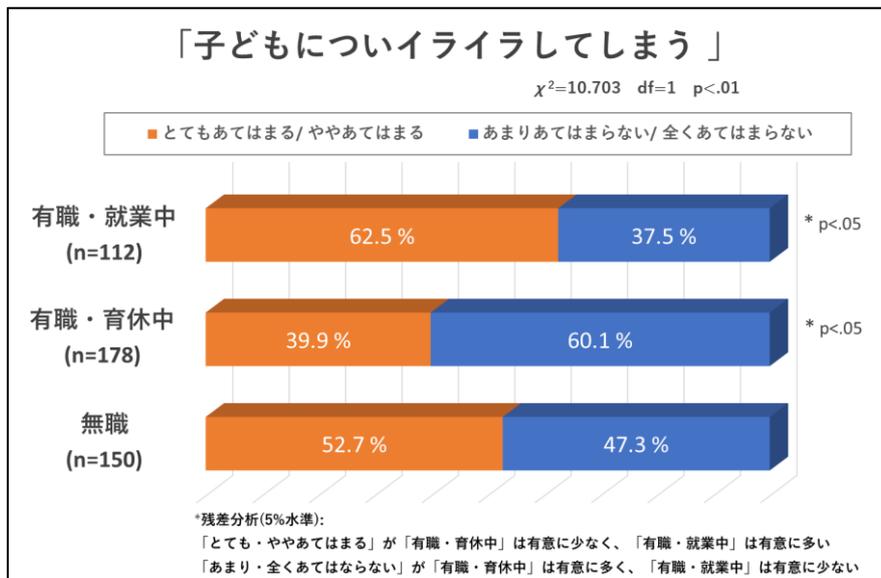
保護者が「就業し保育所等を利用しながら子育てしているのか」あるいは「在宅で子育てをしているのか」そしてそれが「育休中であるのか否か」の違いは、子育ての在り様に影響を与え得ることはこれまでも認識されてきたことである。本調査の結果においても、保護者の「就業状況」による影響を分析・考察するため、前述の基礎集計に加えて、「就業状況」別のクロス集計を行うこととした。

「就業状況」別のグルーピングを行うにあたっては、回答者一人ひとりの「設問3」および「設問4」における回答から、その「就業状況」を精査した。その結果、回答者447名の回答のうち、「就業状況」を判別し得なかった7名を除外し、440名の保護者を「無職」150名（34.1%）、「有職・育休中」178名（40.45%）、「有職・就業中」112名（25.45%）の3群に振り分けた。なお、440名のうち父親は19名で、そのうち17名が「有職・就業中」であり、2名が「有職・育休中」、「無職」は0名であった。

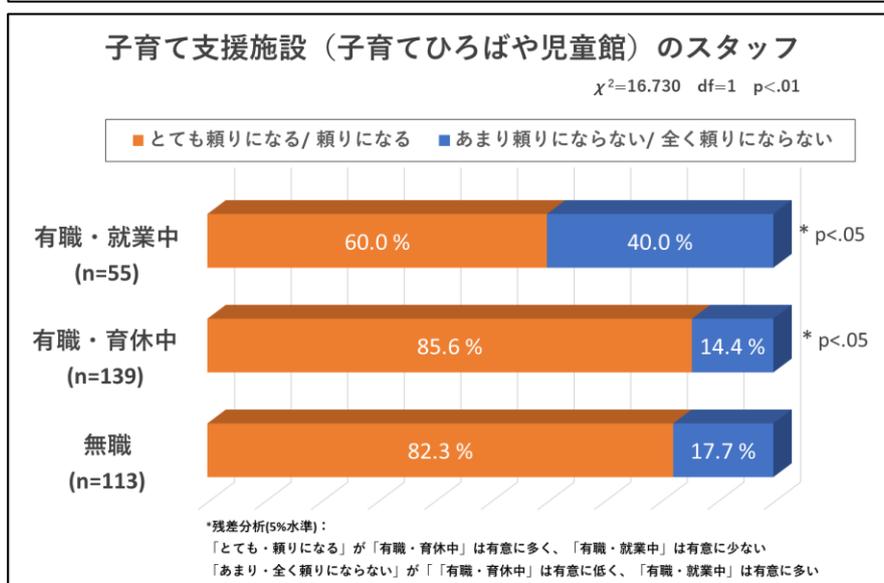
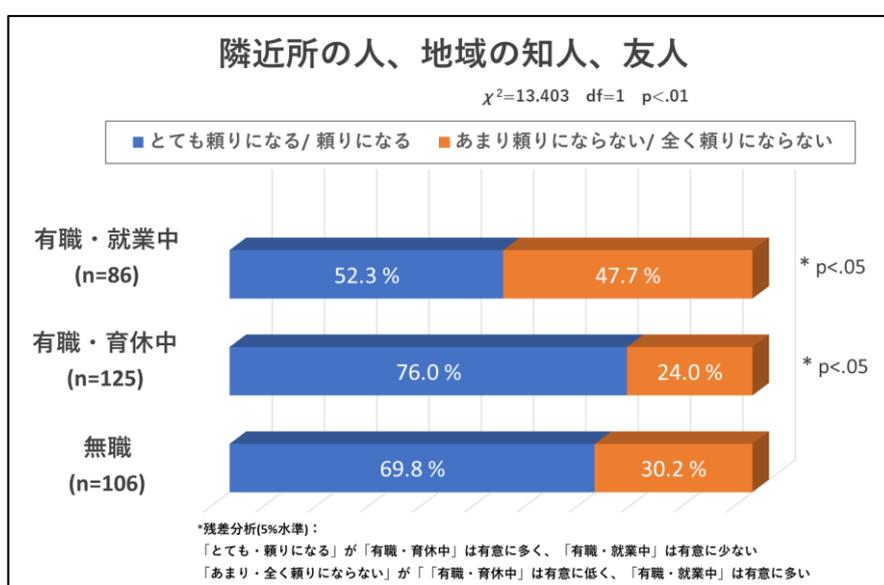
以下、この「就業状況」別の3群と就業関係以外の項目への回答とのクロス集計を「SPSS」によって行った。また、このクロス分布に関して、「js-STAR_XR」によって Pearson の χ^2 検定を行った。さらに、この χ^2 検定において有意差を認めたものについては、さらに、残差分析（Bonferroni の補正）も行った。この残差分析で示される結果は、「有意差あり（ $p < .01$ のものもすべて 5%水準と表記する）」とされた群の分布がクロス表全体の周辺度数および総度数から算出される期待度数から有意に多い（少ない）ことを表している。以下、 χ^2 検定において有意差が見られた結果のうち主なもののみ示す（この結果の詳細は本報告書V「集計結果」の表I-45～86に示したので参照されたい）。

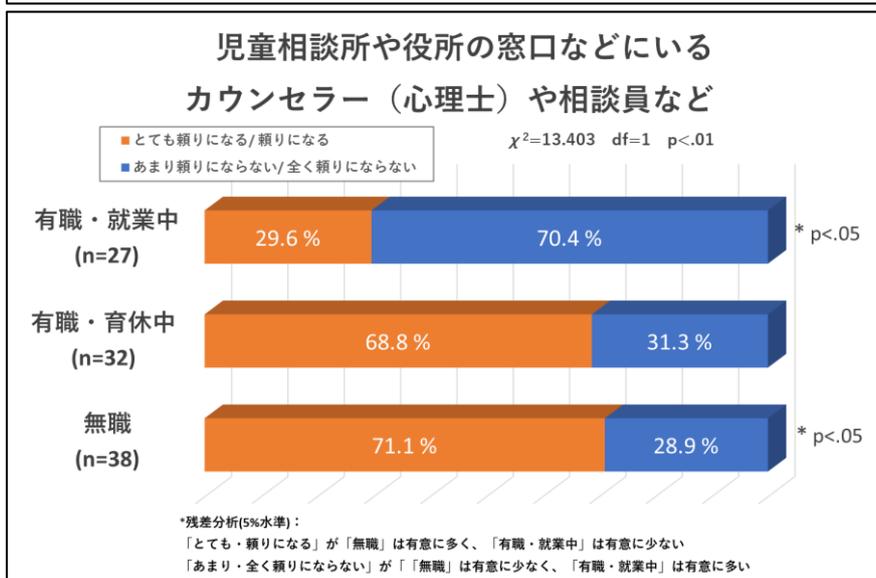
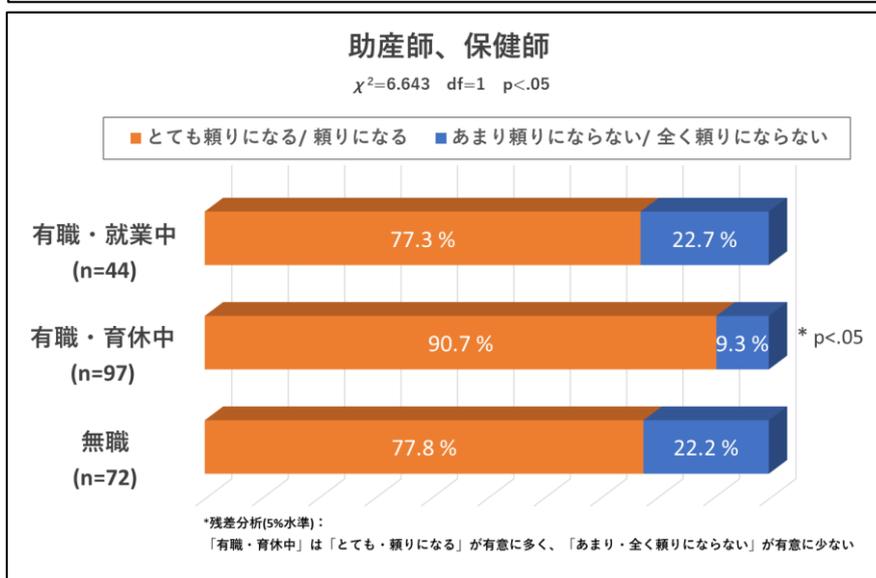
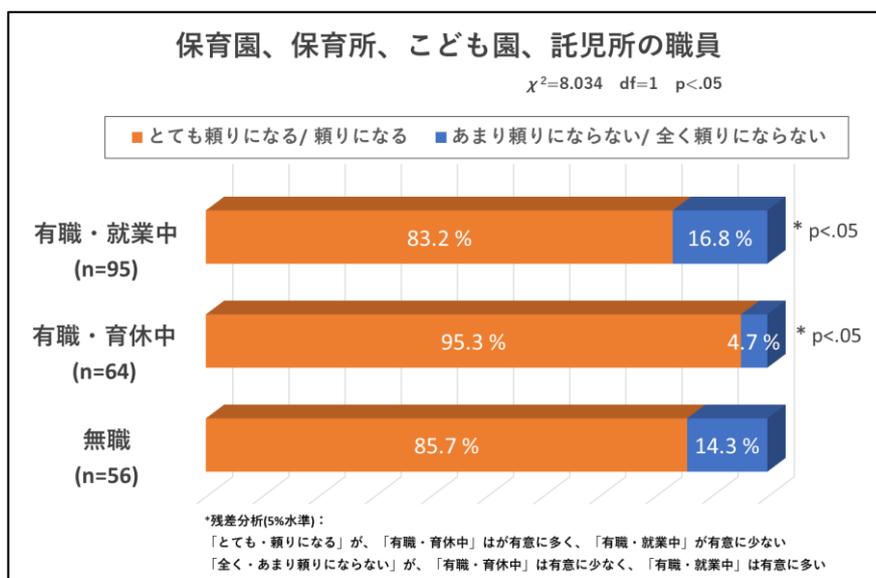
設問7「コロナ禍での子どもとの過ごし方」において「実家に帰省するのをできるだけ控えている」に「そうである」と回答した保護者は3群のうち「無職」保護者の割合が有意に多かった。

また、設問8「コロナ禍の子育て環境において、日々どのように感じているか」の問いにおいては、4つの選択肢である「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を「肯定（あてはまる）」に集約し、「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」を「否定（あてはまらない）」に集約した上で χ^2 分析を行った。その結果、「子どもにイライラしてしまう」については、「有職・育休中」の保護者は「否定」が有意に多い一方で、「有職・就業中」は「肯定」が有意に多く、「社会からの孤立感がある」については「無職」保護者において「肯定」が有意に多く、「有職・就業中」保護者は「否定」が有意に多かった。さらに、「他の親子と交流できず寂しい」については、「有職・育休中」保護者は「肯定」が有意に多いが、「有職・就業中」保護者では「肯定」が有意に少ないという結果となった。

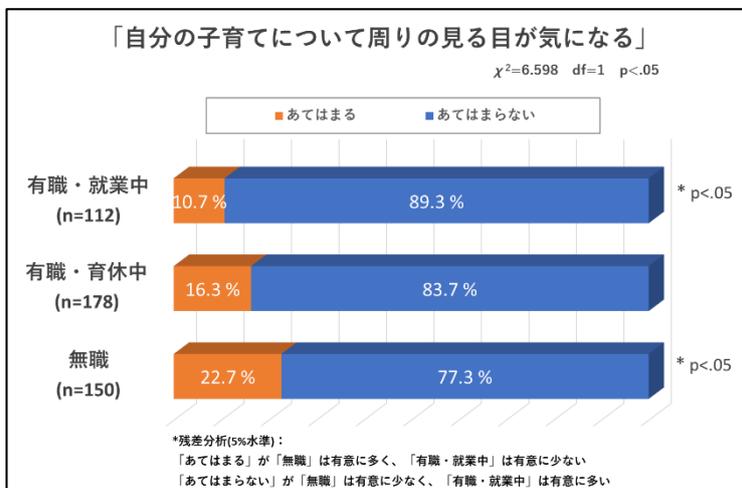
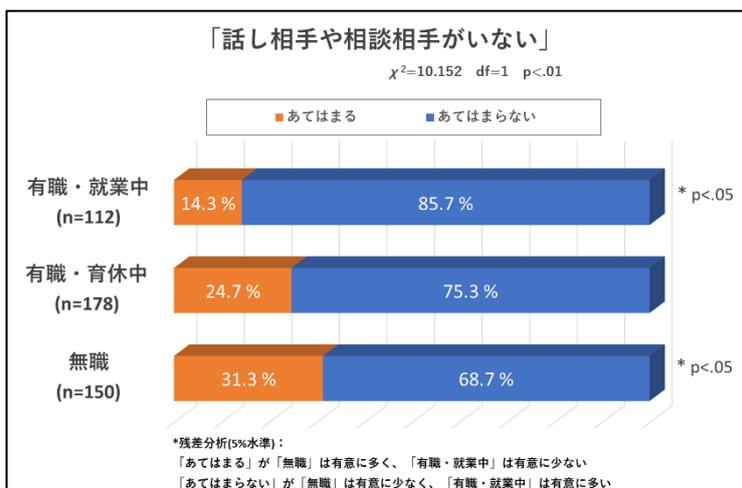
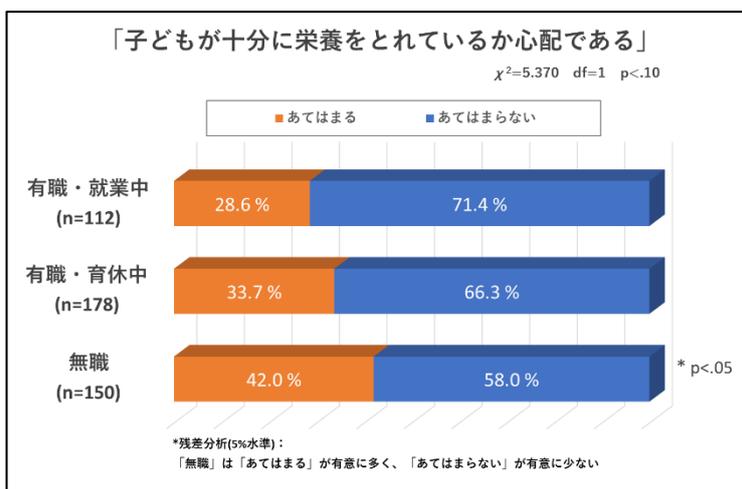


設問9「子育ての悩みやしんどさに対し、次の人や場はどのくらい頼りになるか」との問いでは、「関わりを持てる機会や時間がない」を選んだ回答者を除外し、「とても頼りになる」「頼りになる」を「肯定（頼れる）」に集約し、「あまり頼りにならない」「全く頼りにならない」を「否定（頼れない）」に集約した上で、 χ^2 分析を行った。その結果、3群のうち「有職・育休中」の保護者による「肯定」の回答が有意に多かったのは、「隣近所の人、地域の知人、友人」「子育て支援施設（子育てひろばや児童館など）のスタッフ」「保育園、保育所、認定こども園、託児所の職員」「助産師、保健師」であった。なお、「児童相談所、役所の窓口などにいるカウンセラー（心理士）、相談員など」を「肯定的」に選択した人数が有意に多かったのは「無職」保護者であった。

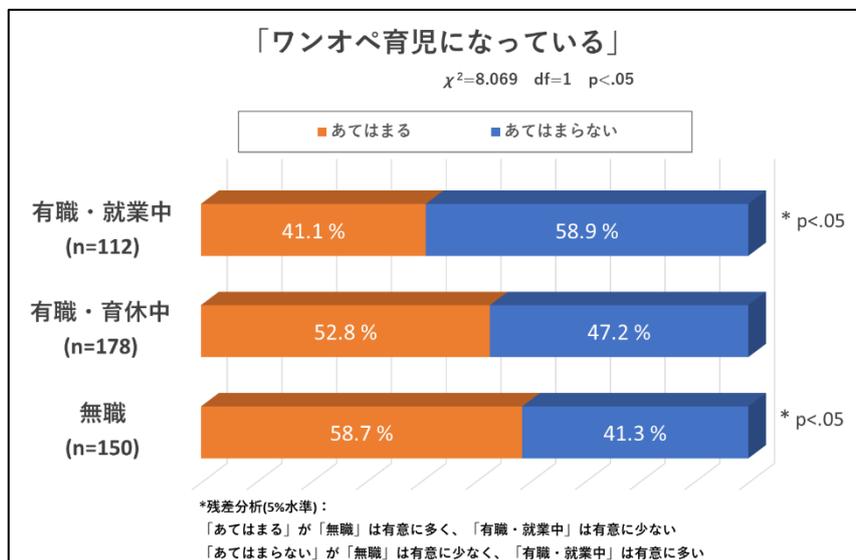




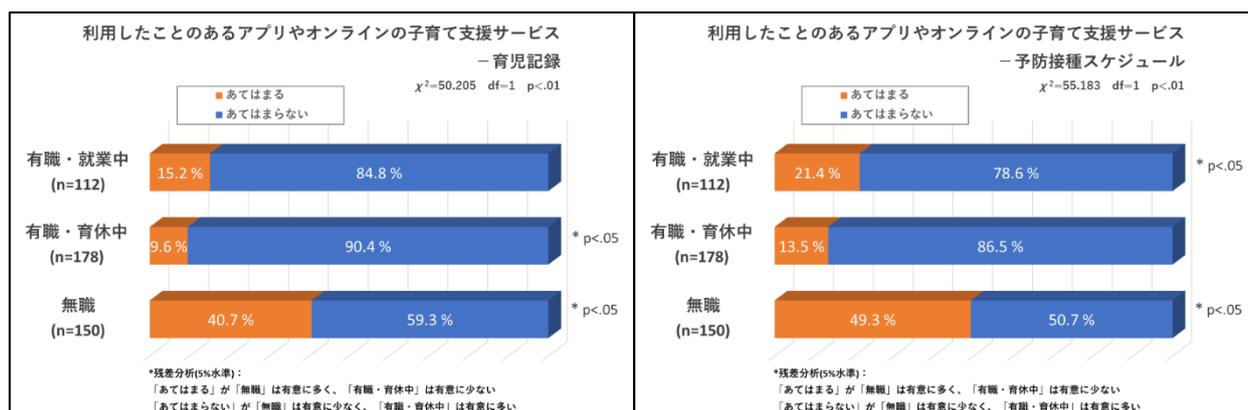
設問 10「自身が日頃悩んでいること」の問いにおいては、「子どもが十分に栄養をとれているか心配である」について「そうである」と回答した「無職」保護者が有意に多かった。さらに「話し相手や相談相手がない」「自分の子育てについて周りの見目が気になる」についても「そうである」と回答した者は、「無職」保護者に有意に多かったが、これらについては「有職・就業中」の保護者には「そうではない」とする回答者が有意に多かった。



設問 12 では「自身の子育て環境や仕事との両立」について尋ねているが、「ワンオペ育児になっている」に「そうである」と回答したのは「無職」保護者が有意に多く、「有職・就業中」保護者は「そうではない」との回答が有意に多いという結果であった。



設問 13 「アプリやオンラインの子育て支援サービスで利用したことのあるもの」については「予防接種スケジュール」「育児記録」を「利用した」との回答が、いずれも「無職」保護者が有意に多く、それらを「利用していない」と回答した保護者が有意に多かった群は「有職・育休中」であった。

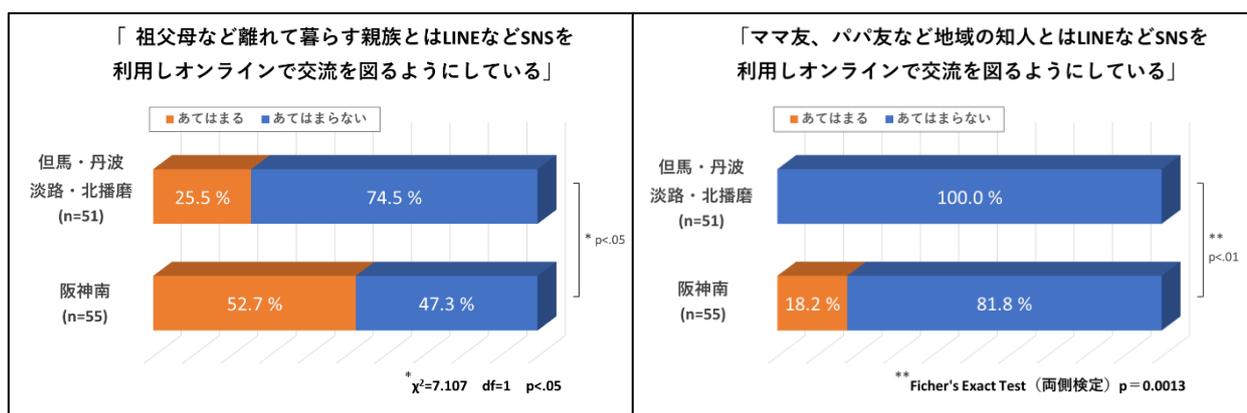


b 「人口密度」別によるクロス集計

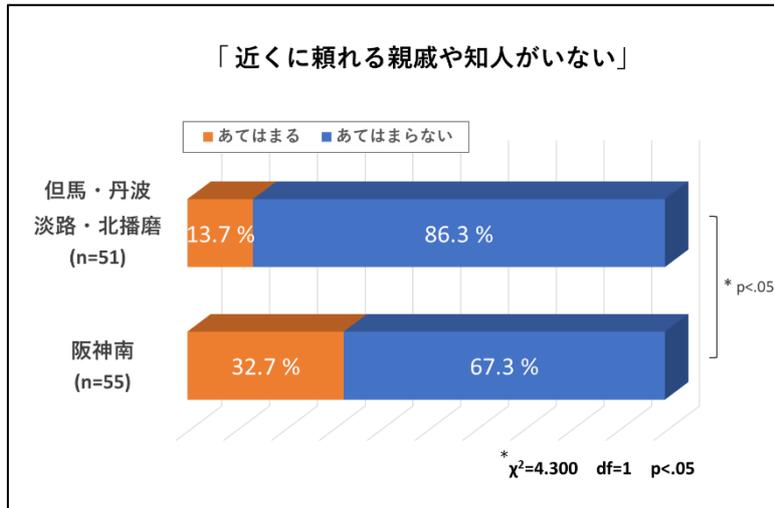
兵庫県ホームページ「https://web.pref.hyogo.lg.jp/ac02/ab_hyogo.html」では、兵庫県の特徴が「北は日本海に面し、南は瀬戸内海から淡路島を介し太平洋と続き、大都市から農山村、離島まで、さまざまな地域で構成されている」と記述されている。市町により人口密度や生活環境が大きく異なることから、本調査では県内全域での結果を見ることと併せて、在住市町の人口密度の違いが子育てにおよぼす影響についても検証を試みた。すなわち、「人口密度の高い地域」と「人口密度の低い地域」の2つの群を選定して分析することとした。

「人口密度の高い地域」とし「尼崎市・西宮市・芦屋市」に在住する保護者、「人口密度の低い地域」として「但馬市・丹波市・淡路市・北播磨地域」に在住する保護者を選択したところ、前者が55名（「阪神南地域」とする）、後者が51名（「但馬・丹波・淡路・北播磨地域」とする）となった。以下、この「地域」別の2群と自治体関係以外の項目への回答とのクロス集計を「SPSS」によって行った。また、このクロス分布に関して、「js-STAR_XR」によって Pearson の χ^2 検定（セル内の度数が少ない場合には Fisher's Exact Test）を行った。以下、 χ^2 検定において有意差が見られた結果のうち主なもののみ示す（この結果の詳細は、本報告書V「集計結果」の表 I-87~128 に示したので参照されたい）。

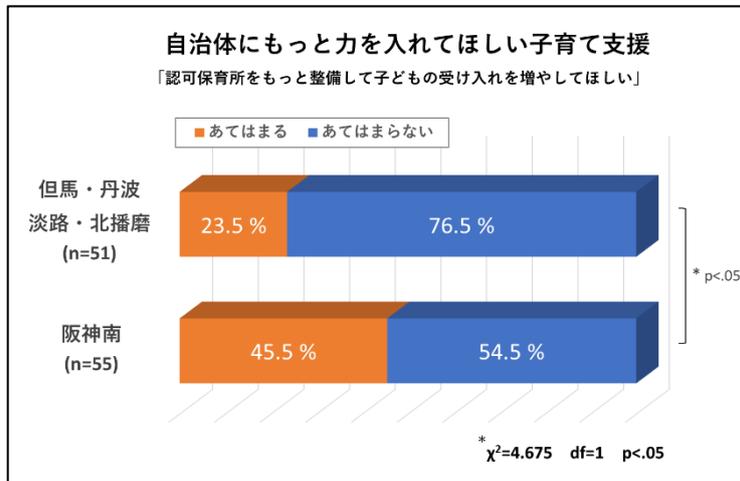
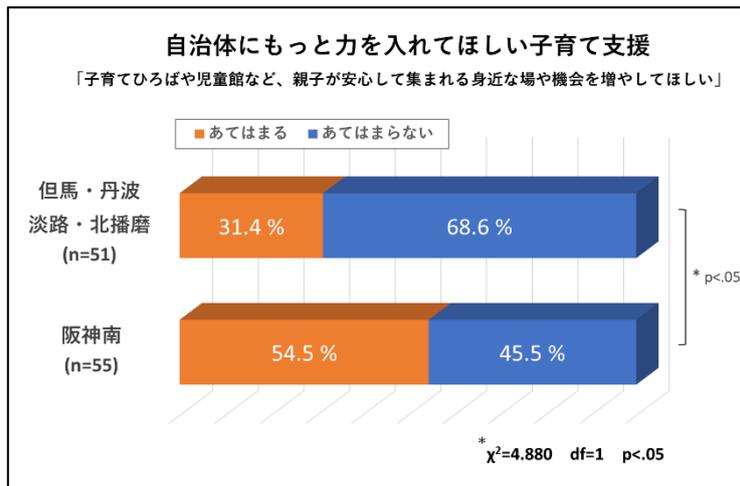
設問7「コロナ禍での子どもとの過ごし方」では「祖父母など離れて暮らす親族とはLINEなどSNSを利用しオンラインで交流を図るようにしている」と「ママ友パパ友など地域の知人とはLINEなどSNSを利用しオンラインで交流を図るようにしている」について「そうである」と回答した保護者が有意に多かったのは「阪神南地域」であり、それが有意に少なかったのが「但馬・丹波・淡路・北播磨地域」であった。



また、設問12「自身の子育て環境や仕事の両立」については「近くに頼れる親戚や知人がいない」という項目に「そうである」と回答した保護者が有意に多かったのは「阪神南地域」であり、それが有意に少なかったのは「但馬・丹波・淡路・北播磨地域」であった。



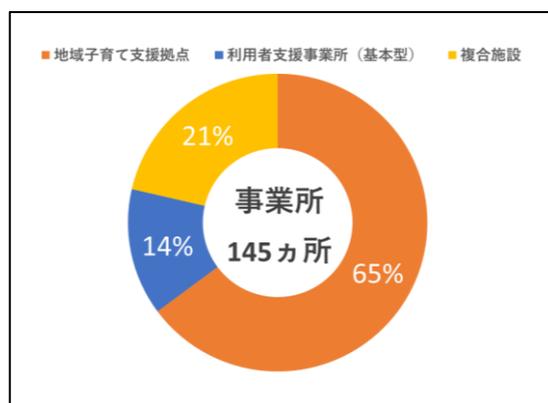
設問 20 で尋ねた「自治体に力を入れてほしいこと」の問いでは、「子育てひろばや児童館など、親子が安心して集まれる身近な場や機会を増やしてほしい」「認可保育所をもっと整備して子どもの受け入れを増やしてほしい」という希望が「阪神南地域」の保護者に有意に多かった。



(2) 支援者を対象とする調査結果

i 【調査Ⅱ】「地域子育て支援拠点事業所」および「利用者支援事業所（基本型）」対象の調査結果

兵庫県内において「地域子育て支援拠点事業」または「利用者支援事業（基本型）」を実施している事業所のうち、回答を得られたのは34市町145か所の事業所であった。これらは、各市町によって「地域子育て支援拠点事業」のみを実施する事業所、「利用者支援事業（基本型）」のみを実施する事業所、「地域子育て支援拠点事業」と「利用者支援事業（基本型）」とを複合的に実施する事業所の3種があると想定できる。本調査の回答から、それらを特定したところ、「地域子育て支援拠点事業所」94箇所、「利用者支援事業所（基本型）」20箇所、「地域子育て支援拠点・利用者支援（基本型）複合事業所」31箇所であった（設問1）。本調査において、「利用者支援事業（基本型）」を担当する職員とは「地域子育て支援拠点」に常駐する者の他「地域子育て支援拠点」以外の事業所において事業を担当する者も含まれている。なお、各事業の概要については、厚生労働省ホームページ「子ども・子育て支援 | 厚生労働省 (mhlw.go.jp)」を参照されたい。主な結果については下記のとおりである（詳細は本報告書V「集計結果」の表Ⅱ-1～18に示す通りである）。



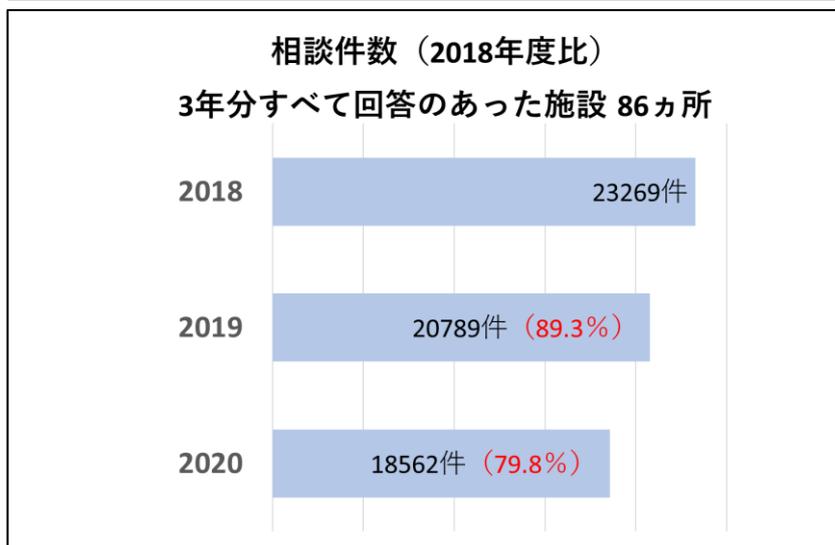
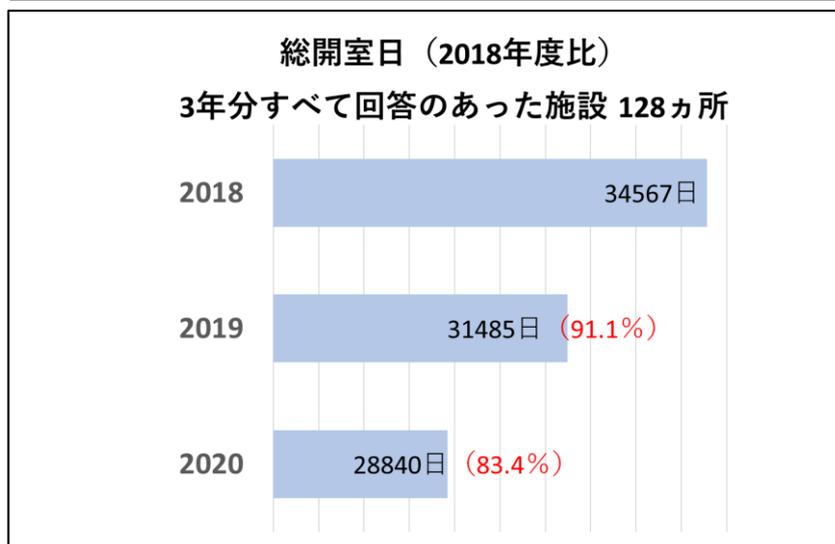
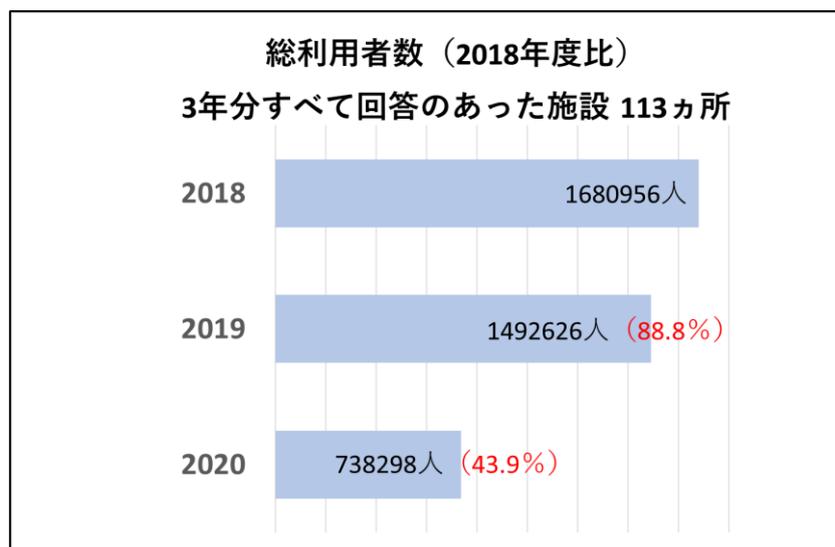
本調査で回答を得られた事業所の「運営主体」については、「自治体直営（76箇所）」「社会福祉協議会（31箇所）」「（社会福祉協議会以外の）社会福祉法人（14箇所）」「NPO法人（13箇所）」「学校法人（8箇所）」「任意団体（2箇所）」「その他（4箇所）」であった（設問3）。

事業の「実施場所」については「公共施設・公民館」が54箇所と最も多く、次いで「児童館（39箇所）」「単独施設（18箇所）」「保育所（13箇所）」「空き店舗・商業施設（11箇所）」「認定こども園（10箇所）」「民家・マンションなど（4箇所）」「幼稚園（2箇所）」で、「その他」との回答は7箇所であった（設問4）。

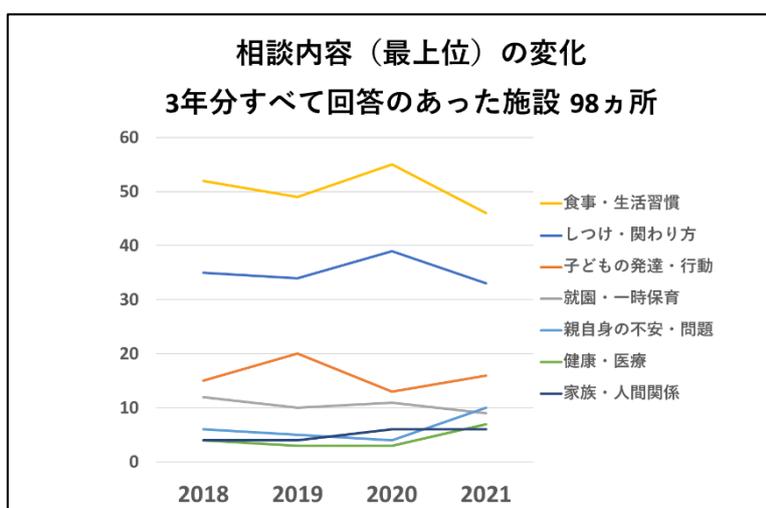
設問6では2018年度～2020年度の「利用者数」の推移を尋ねた。3年度分すべてに回答があった事業所（113箇所）を選択して集計したところ、その平均値は2018年度14,876人、2019年度13,209人、2020年度6,534人であった。2018年度を基準とすると、2019年度は11.2%の減少、2020年度においては56.1%の減少に至っている。

また、2018年度～2020年度の「総開室日」の推移については、3年度分すべてに回答があった事業所（128箇所）を選択して集計したところ、その平均値は2018年度270日、2019年度246日、2020年度225日であった。2018年度を基準とすると、2019年度は8.9%

の減少、2020年度においては16.6%の減少に至っている。



設問 11 では「相談内容の変化」について、各年度において件数の多かった相談内容を多い順に 3 つ、自由記述による回答を求めた。得られた自由記述から、相談内容を 8 のカテゴリーに整理できる見通しを持った。しかし、回答を精査する中で事業所ごとに相談の捉え方やカウント方法の差異が認められたため、この設問に関する分析には、数量的データとしての信頼性や妥当性には限界がある。こうした前提条件の中で、把握できる傾向を示すと、「(子どもの) 食事・生活習慣」「(子どもの) しつけ・関わり方」「子どもの発達・行動」が常に相談内容の上位に位置づいている一方で、2018 年度からの経年変化を見ると、「親自身の不安・問題」や「家族・人間関係」に関する相談を第 1 位として挙げる事業所が、度数は少ないものの増加傾向にあった。

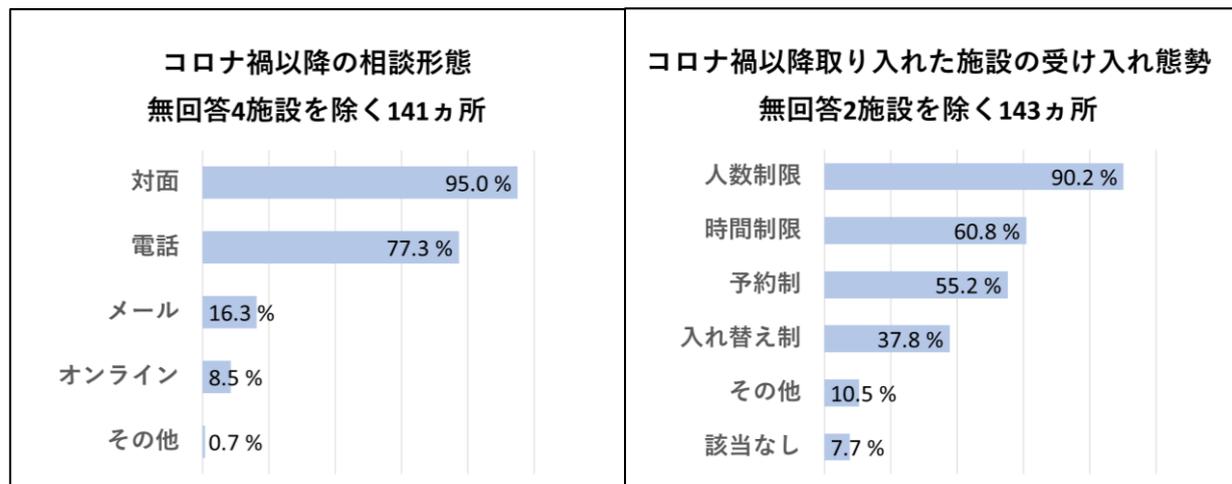


各事業所の設置されている「施設（同じ敷地、隣接の建物を含む）で実施している事業」について尋ねた問い（設問 12）では、「地域子育て支援拠点事業（138 箇所）」「利用者支援事業（基本型）（56 箇所）」の他「放課後児童健全育成事業（40 箇所）」「一時預かり事業（26 箇所）」「子育て援助活動支援事業（ファミリーサポートセンター）（19 箇所）」「養育支援訪問事業（7 箇所）」「乳児家庭全戸訪問事業（6 箇所）」、「子育て短期支援事業（日帰り型）」「子育て短期支援事業（宿泊型）」「病児保育事業」がいずれも 4 箇所であった。

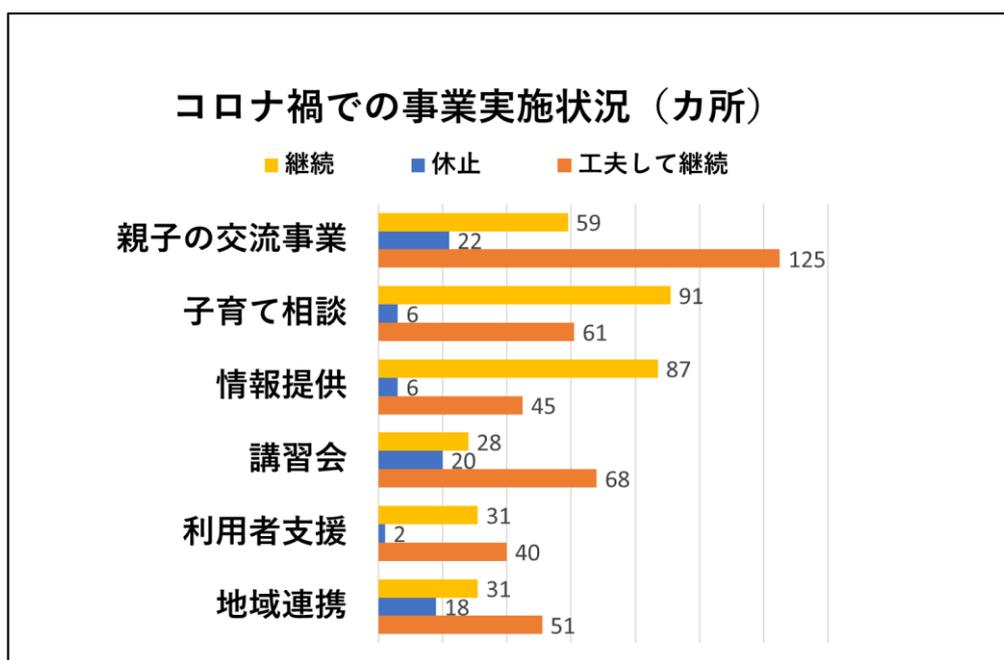
設問 15 では「コロナ禍になって以降の相談（対応）形態」について 5 つの選択肢を示し、あてはまるものを尋ねた（複数回答）。回答を得られた事業所（無回答を除く）のうち、95.0%の事業所が「対面」での相談を実施しており、次いで「電話（77.3%）」「メール（16.3%）」「オンライン（8.5%）」「その他（0.7%）」であった。

設問 16 では「コロナ禍になって以降の施設の受け入れ態勢」について 6 つの選択肢を示しあてはまるものを選択してもらった（複数回答）。その結果、コロナ禍で利用者を受け入れるために 90.2%の事業所が「人数制限」を行い、60.8%の事業所が「時間制限」を行っていることが明らかとなった。その他には「予約制（55.2%）」「入れ替え制（37.8%）」「その

他（10.5%）」という結果であった。「該当なし」と回答した事業所は7.7%あった。

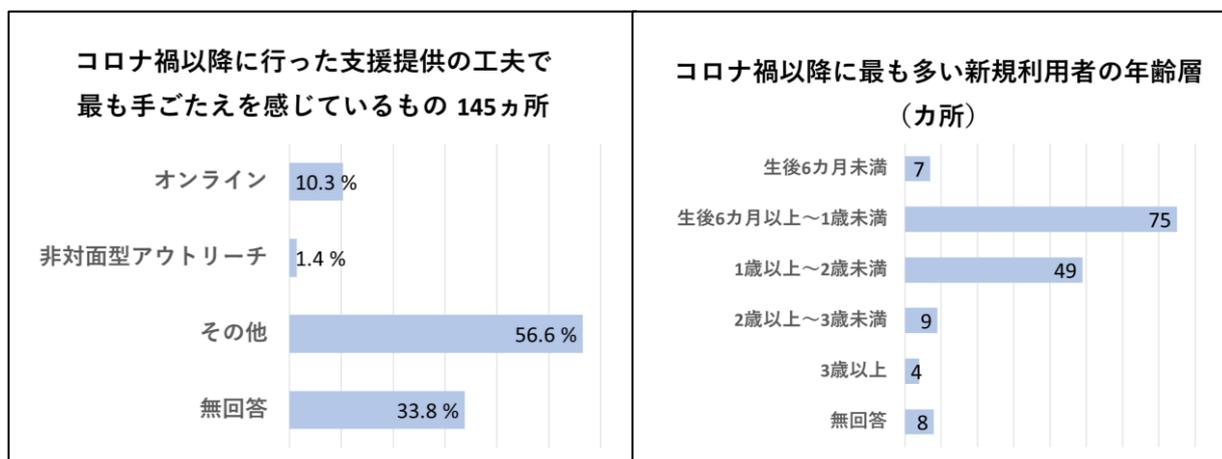


設問 17 では「2021 年 9 月までの拠点事業の実施状況」について「継続」「休止」「工夫して継続」のいずれの状況であるかを尋ねた。それによれば、「工夫して継続」している事業で最も多かったのは「親子の交流事業（125 箇所）」、次いで「講習会（68 箇所）」であり、「（通常どおり）継続」している事業所が多かった事業は「子育て相談（91 箇所）」「情報提供（87 箇所）」であった。一方で「休止」と回答した事業で最も多かったのは「親子の交流事業（22 箇所）」、次いで「講習会（20 箇所）」であった。併せて、その事業実施における「工夫」について自由記述で回答を求めたところ、「人数制限（189 箇所）」「予約制（114 箇所）」「マスク・検温・消毒・手洗い・換気（59 箇所）」「ソーシャルディスタンス（45 箇所）」「ホームページ・ユーチューブ・ズーム・SNS の活用（41 箇所）」などであった。



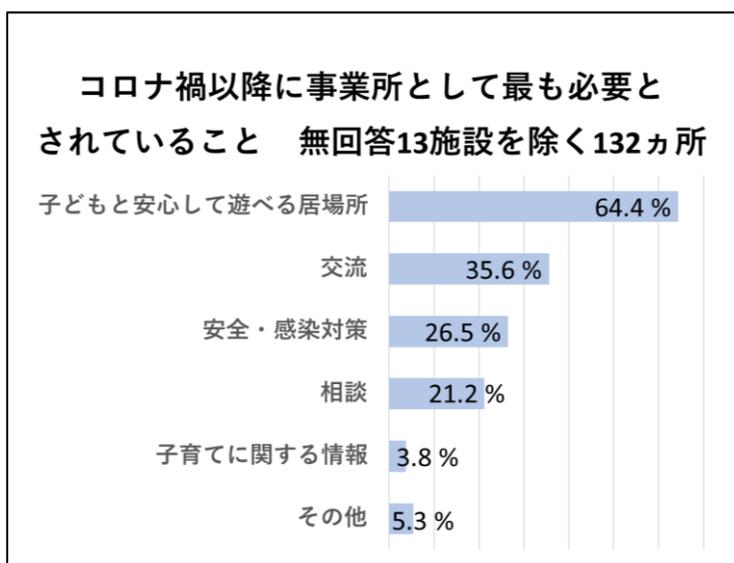
設問 18「コロナ禍になって以降に行った支援提供の工夫について最も手ごたえを感じているもの」に関しては、「オンライン」が 10.3%、「非対面型アウトリーチ」が 1.4%で、「その他」と回答した事業所が 56.6%を占めていた。「その他」の自由記述の内容を抜粋してみると、「開所・事業継続」が 27 箇所、「メール・情報誌によるアウトリーチ」が 13 箇所、「感染対策」が 12 箇所、「電話・対面相談」が 8 箇所、「利用登録・予約制度」「電話訪問」がいずれも 6 箇所という結果であった。

また、設問 19「コロナ禍以降の新規利用者が多かった年齢層」に関しては、最も多かったのは「生後 6 か月以上 1 歳未満（75 箇所）」、次いで「1 歳以上 2 歳未満（49 箇所）」であった。「2 歳以上 3 歳未満」は 9 箇所、「生後 6 か月未満」は 7 箇所であった。



「コロナ禍以降、拠点または事業所として利用者から必要とされていると思われること」について自由記述で回答を求めた（設問 20）結果を整理したところ、以下の 6 つのカテゴリーが得られた。すなわち、「子どもと安心して遊べる居場所（85 箇所）」「交流（47 箇所）」「安全感染対策（35 箇所）」

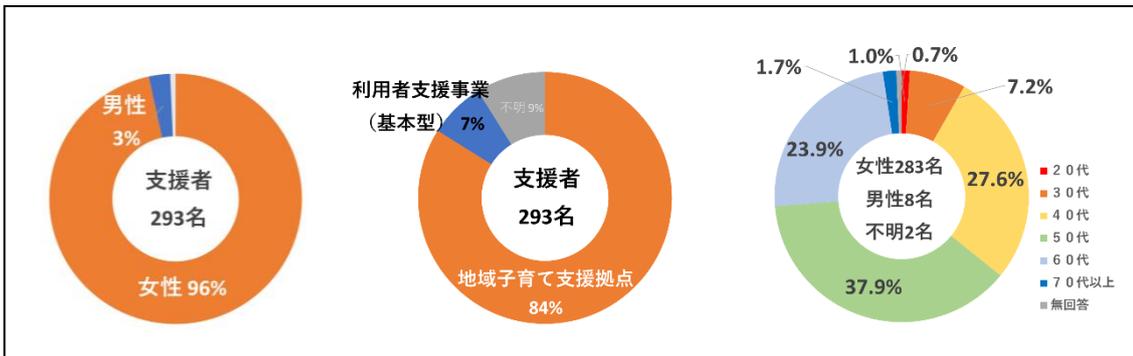
「相談（28 箇所）」「子育てに関する情報（5 箇所）」「その他（7 箇所）」であった。最後の「その他」として挙げられていた具体的内容は、「母親に対する支援・孤立化解消」「妊娠期からの孤立化予防」「施設の交通至便性」「幼稚園・保育所や子育ての情報の提供」などであった。



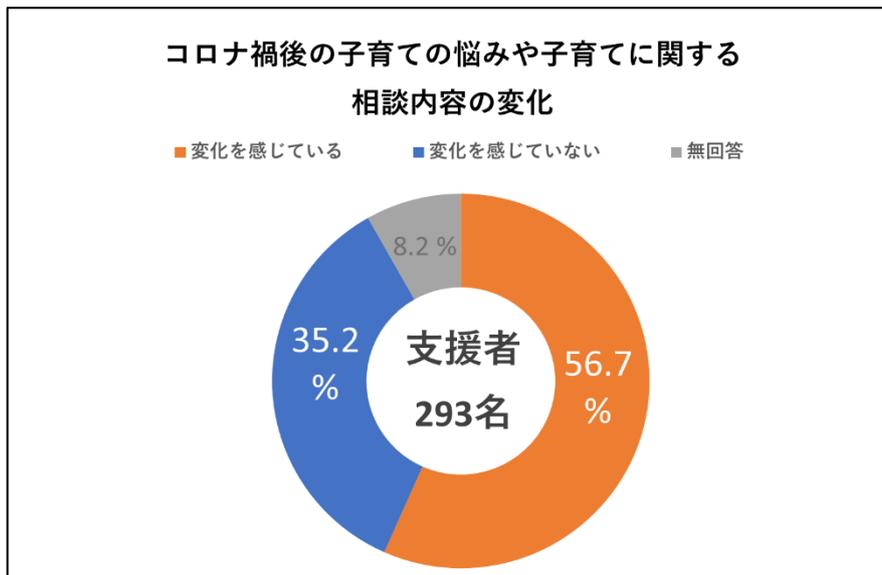
ii 【調査Ⅲ】「地域子育て支援拠点事業」および「利用者支援事業（基本型）」担当職員対象の調査結果

＜基礎集計の結果について＞

兵庫県内において「地域子育て支援拠点事業」「利用者支援事業（基本型）」を実施している事業所のうち、回答を得られた33市町において当該事業を担当する職員293名分の集計結果から、支援者から見た「コロナ禍での子育て実態や親子の変化等」について、比較的顕著な傾向を捉えられた項目は次のとおりであった（結果の詳細は本報告書Ⅴ「集計結果」の表Ⅲ-1～13 および記述Ⅲ-1～5 を参照されたい）。



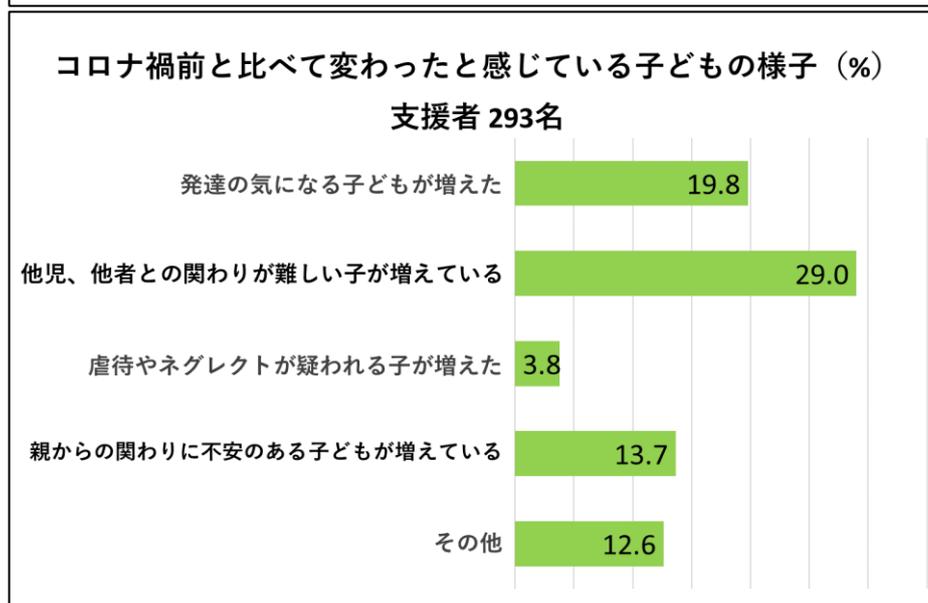
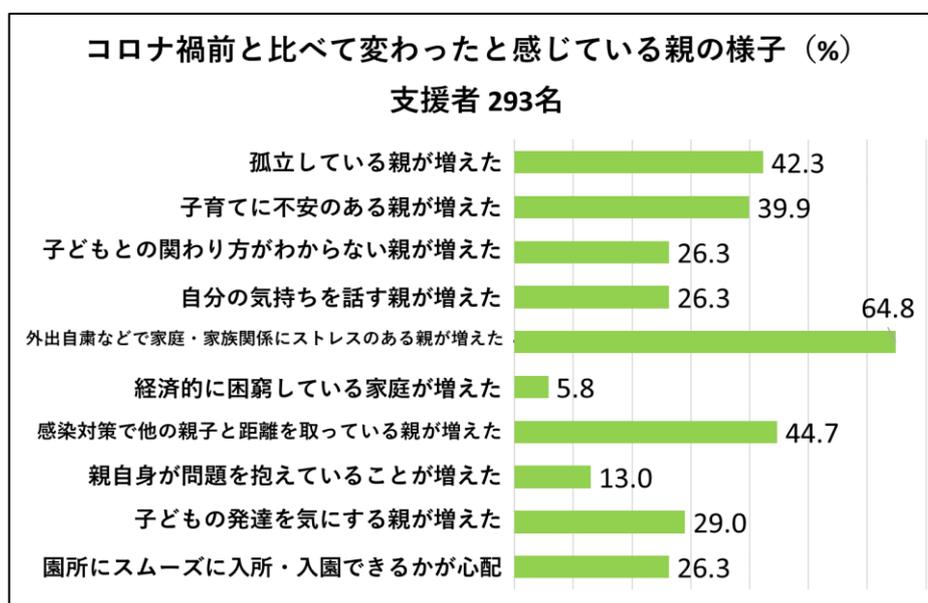
まず「コロナ禍になって以降親の子育ての悩みや子育てに関する相談内容に変化はあったか」の問い（設問6）に対して、「変化を感じている」と回答した支援者は56.7%、「あまり変化を感じない」と回答した支援者は35.2%であった（無回答8.2%）。



次に、その変化について「コロナ禍がもたらすどのような影響によるものであると感じているか」との問い（設問8）に対する自由記述からは、「外出できないこと」「子育て支援サ

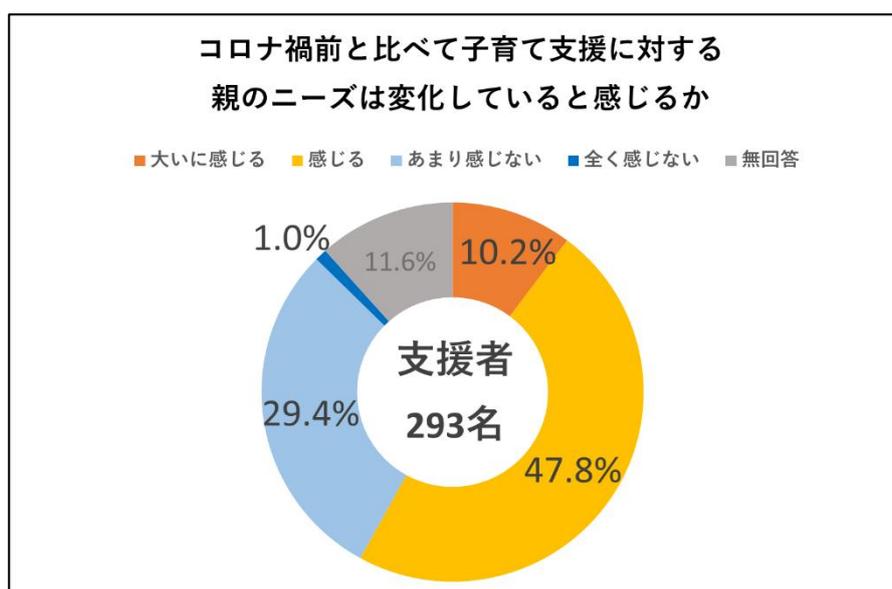
ービスなどの休止・制限」「新型コロナ感染防止やその長期化」などが主な原因として抽出された。

また、支援者の視点で捉えられた「コロナ禍で変わったと感じている親の様子」についての一連の問い（設問 9）に関して、「あてはまる」と回答された項目は「外出自粛などにより変化した家庭生活や家族との関係にストレスを抱える親が増えた」の割合が最も高く（64.8%）、次いで「感染症対策で他の親子と距離をとっていると思われる親が増えた（44.7%）」「孤立している親が増えた（42.3%）」「子育てに不安のある親が増えた（39.9%）」「子どもの発達を気にする親が増えた（29.0%）」であった。一方で、「あてはまる」の選択率が低かった項目は「経済的に困窮している家庭が増えた（5.8%）」「親自身が問題を抱えていることが増えた（精神疾患、病気、介護、家族との関係など）（13.0%）」であった。



次に「コロナ禍で変わったと感じている子どもの様子」についての問い（設問 10）については、「無回答（46.4%）」が多かったが、「他児、他者との関わりが難しい子が増えている（29.0%）」「発達の気になる子どもが増えた（19.8%）」「親からの関わりに不安のある子どもが増えている（13.7%）」に一定数の回答がみられ、それぞれの項目に関しては、支援の現場で感じている具体的な子どもたちの様子の変化が数多く記述されていた。

次に、「コロナ禍で子育て支援に対する親のニーズは変化していると感じるか」という問い（設問 11）に関しては、「おおいに感じる」「感じる」をあわせた割合は 58.0%、「あまり感じない」「まったく感じない」の回答の割合をあわせて 30.4%であった（無回答 11.6%）。



「おおいに感じる」「感じる」と回答した支援者の「親のニーズがどのように変化しているか」に関する自由記述（設問 12）を整理したみたところ、主に次のような結果が得られた。

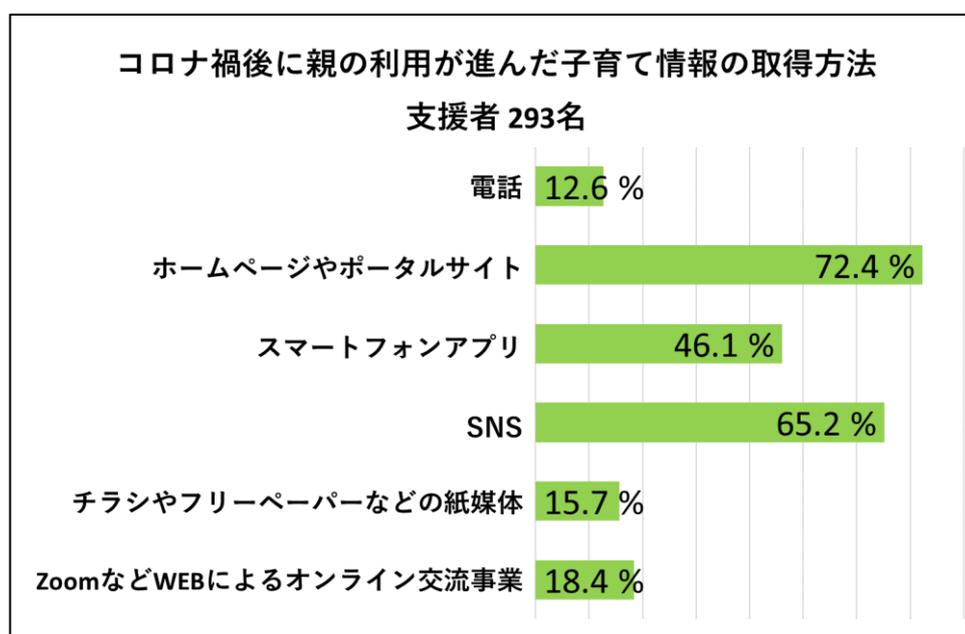
まず、“①「感染することの不安・心配」「自由に外出することがままならない」という前提から生じるニーズの変化”が 1 つの категорияとしてまとめられ、具体的な内容としては、「感染から守られ安全に遊べる居場所やイベントを求めている」「子育てひろばなどに対して（消毒・換気などの）コロナ対策の徹底を求める」「会いたい人に自由に会えないため、以前よりも自分の話を聴いてもらえる場所を求めている」などが記述されていた。

次に、“②「以前に比べて子育て仲間と集う機会が減った」という前提から生じるニーズの変化”という categoriaの内容としては、「交流の場がなくなったことや親同士での情報交換や悩みを話すことはできないことに不安を感じる親が多くなった（こうした不安を低減・解消したい）」「これまで以上に話し相手（他者とのコミュニケーション）や居場所を求めるようになった」を挙げることができる。

また、“③「ずっと家庭内で子どもと過ごしている・過ごさざるを得ない」という前提から生じるニーズの変化”が 1 つの categoriaとしてまとめられ、具体的な内容としては、

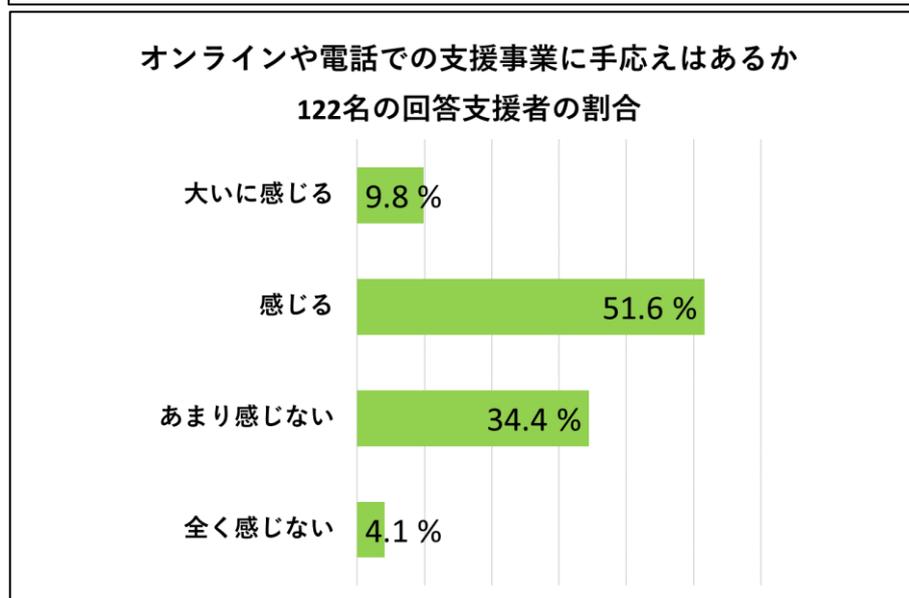
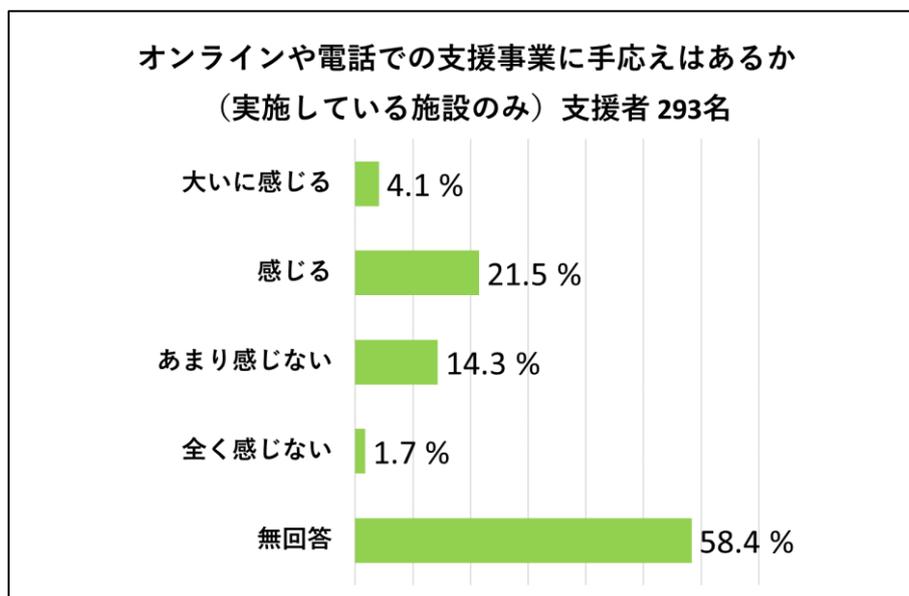
「子どもと二人きりで息が詰まる」ことから、その「つらさや孤独についての訴えの増加」「相談などの対応が求められている」こと、「自宅以外での居場所」や「一時保育・託児サービス」「親のリフレッシュ」、「家庭内での親子の過ごし方を知りたい」などのニーズが挙がっていた。

さらに、“④「集団で集まったり活動したりすることによって感染の危険性が増す」という前提から生じるニーズの変化”というカテゴリーには、「大人数より少人数での講座やイベント、居場所などの希望」「講座よりもただ安心して遊べる、過ごせる場所をより強く求める傾向」などが記されていた。また「子育てサークル、センター、ひろばなどの利用減」という記述は、「コロナ禍で人が密集するような場所や催しは避けたいが何とか方法を変えてやって欲しいというニーズ」あるいは「コロナ禍が収束しそれらへの参加や利用が再び心置きなくできることへのニーズ」と読み替えることができると考える。



「コロナ禍になって以降、親の利用が進んでいると思うもの」についての問い（設問 13）においては、「インターネット上のホームページやポータルサイト（72.4%）」「SNS（フェイスブック、インスタグラム、ツイッター、ライン、ユーチューブなど）（65.2%）」「スマートフォンアプリ（46.1%）」の選択率が高く、「ズームなどウェブによるオンライン交流事業」「チラシやフリーペーパーなどの紙媒体」「電話」については、いずれもあまり利用が進んでいないと捉えられていることが明らかとなった。その上で、オンラインや電話での支援事業を実施している支援者に対して、「オンラインや電話での支援事業への手応え」を尋ねた問い（設問 18）では、オンライン等事業を実施していないなどの理由から「無回答（58.4%）」の割合が高かったものの、オンライン等事業を実施した支援者の回答では、手応えを「大いに感じる」「感じる」割合は 25.6%、それを「あまり感じない」「全く感じない」の割合は

16.0%であった。なお、オンラインや電話での支援事業を実施している支援者は全体のおおむね4割ほどを占めていた。そのように回答した理由を尋ねた設問19では、実践に基づいての実態や保護者の反応など多くの具体的な記述がみられた。



さらに「コロナ禍で子育て支援を十分に提供するにはどのような工夫が必要か」との問い（設問15）に対する自由記述では、「新型コロナの感染対策を実施・徹底することの工夫により、拠点等の開室を維持すること」が最も多く、次いで「情報を保護者が得やすくなる手段の工夫」「外出しない・できない保護者が支援につながるための工夫」についての記述が多くみられた。また、「直接対面による支援の提供が難しい場合の代替手段の工夫」や「新型コロナウイルスの影響で課題を抱えるようになった（課題を抱えている可能性のある）保護者に支援が届くための工夫」に関する記述も複数見られた。

<クロス集計の結果について>

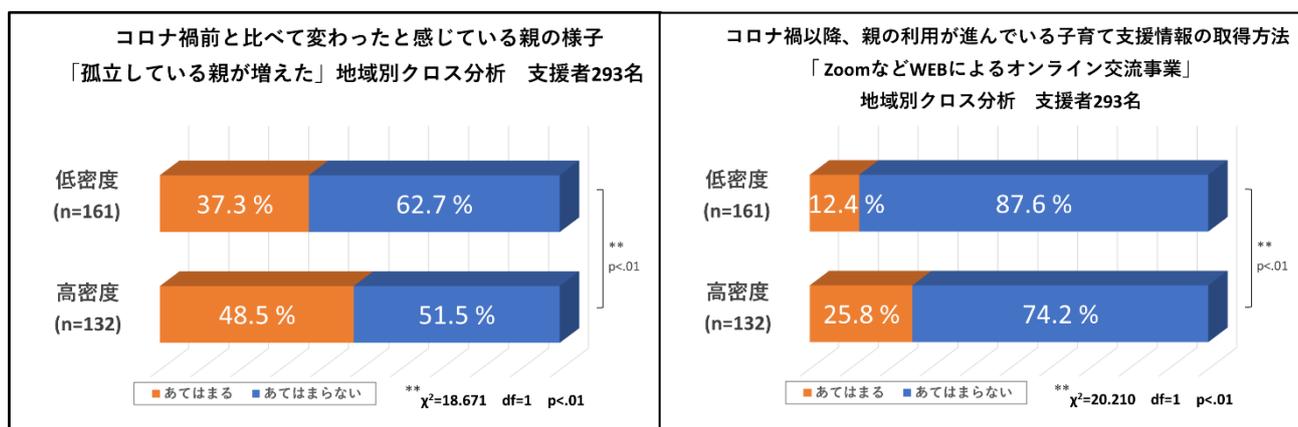
保護者に関して行った地域別のクロス集計において、人口密度の違いによる子育てへの影響に差異の見られる項目があったが、「地域子育て支援拠点事業」および「利用者支援事業（基本型）」を担当する職員（293名）が勤務する自治体の人口密度（世帯数も考慮した）の違いによって、子育て家庭の捉え方や支援の方法などに違いが見られるかどうかを検討するため、クロス集計（「高密度群・低密度群」と「その他の項目」とのクロス集計を行うこととした。

グルーピングは、2群のNが同程度になるよう考慮し、人口密度1,500人/1キロ平方メートル以上かつ70,000世帯以上の自治体、人口密度1,500人/1キロ平方メートル未満の自治体（これらはすべて70,000世帯未満）という基準で群分けをした。その結果、「高密度群」132名、「低密度群」161名となった。以下、この「人口密度」別の2群と自治体関係以外の項目への回答とのクロス集計を「SPSS」によって行った。また、このクロス分布に関して、「js-STAR_XR」によって Pearson の χ^2 検定（セル内の度数が少ない場合には Fisher's Exact Test）を行った。以下、 χ^2 検定において有意差が見られた結果のみ示す（この結果の詳細は、本報告書V「集計結果」の表III-13～24に示したので参照されたい）。

設問2「回答者の年代」では、「高密度」群では50代の支援者が有意に多く、「低密度」群では40代の支援者が有意に多かった。

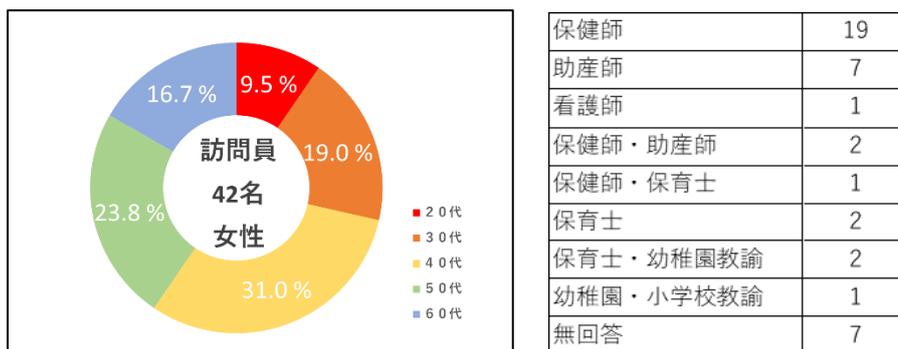
設問9「コロナ禍以前と比べて、変わったと感じている親の様子」については、「孤立している親が増えた」との項目に対し、「高密度」群の方が「肯定」が多い傾向が見られた。

設問13「コロナ禍になって以降、子育て支援情報の取得方法として親の利用が進んでいると思うもの」のうち、「ZoomなどWEBによるオンライン交流事業」については、「高密度」群の方が「低密度」群より、「肯定」が有意に多い結果となった。



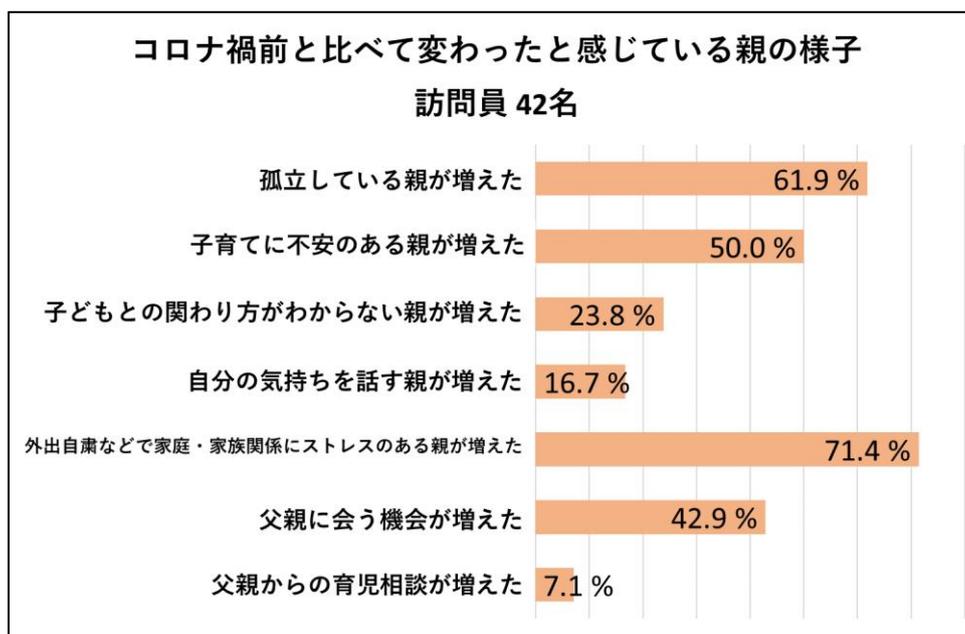
iii 【調査Ⅳ】「乳児家庭全戸訪問事業」担当職員対象の調査結果

兵庫県内において「乳児家庭全戸訪問事業」を実施している市町のうち 24 市町・42 名の訪問員から回答が得られた。当該事業を担当する訪問員の回答を集計した結果から、家庭訪問を通して訪問員が捉えた「コロナ禍での子育て実態や親子の変化等」については、以下に記すとおりであった。なお、本調査の設問 5 では、「訪問員の保有資格」を問うているが、本調査に回答している訪問員 42 名のうち 30 名が「看護師」「助産師」「保健師」のいずれかの資格を保持する者であった（結果の詳細は本報告書Ⅴ「集計結果」の表Ⅳ-1～13 および記述Ⅳ-1～3 を参照されたい）。

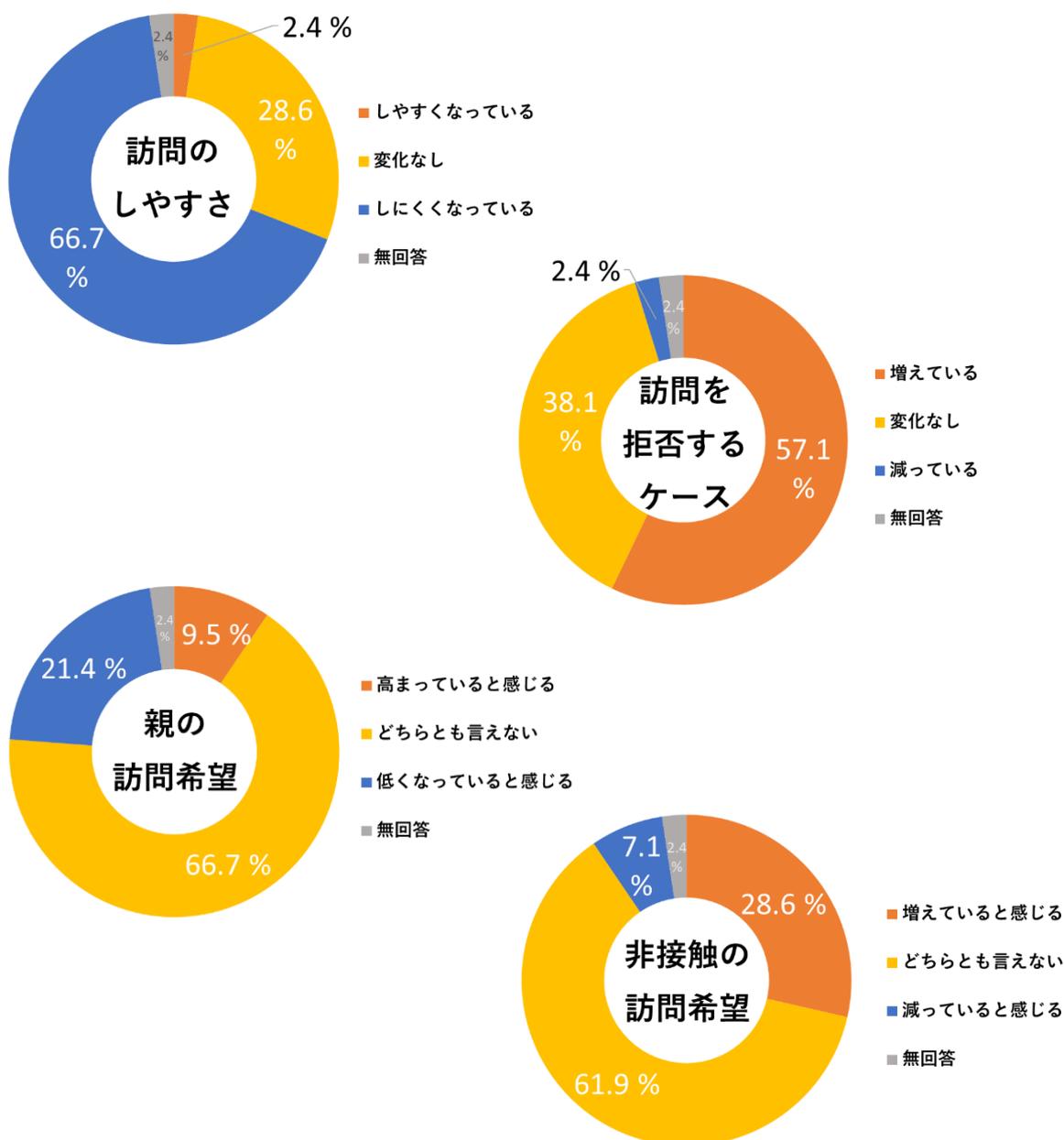


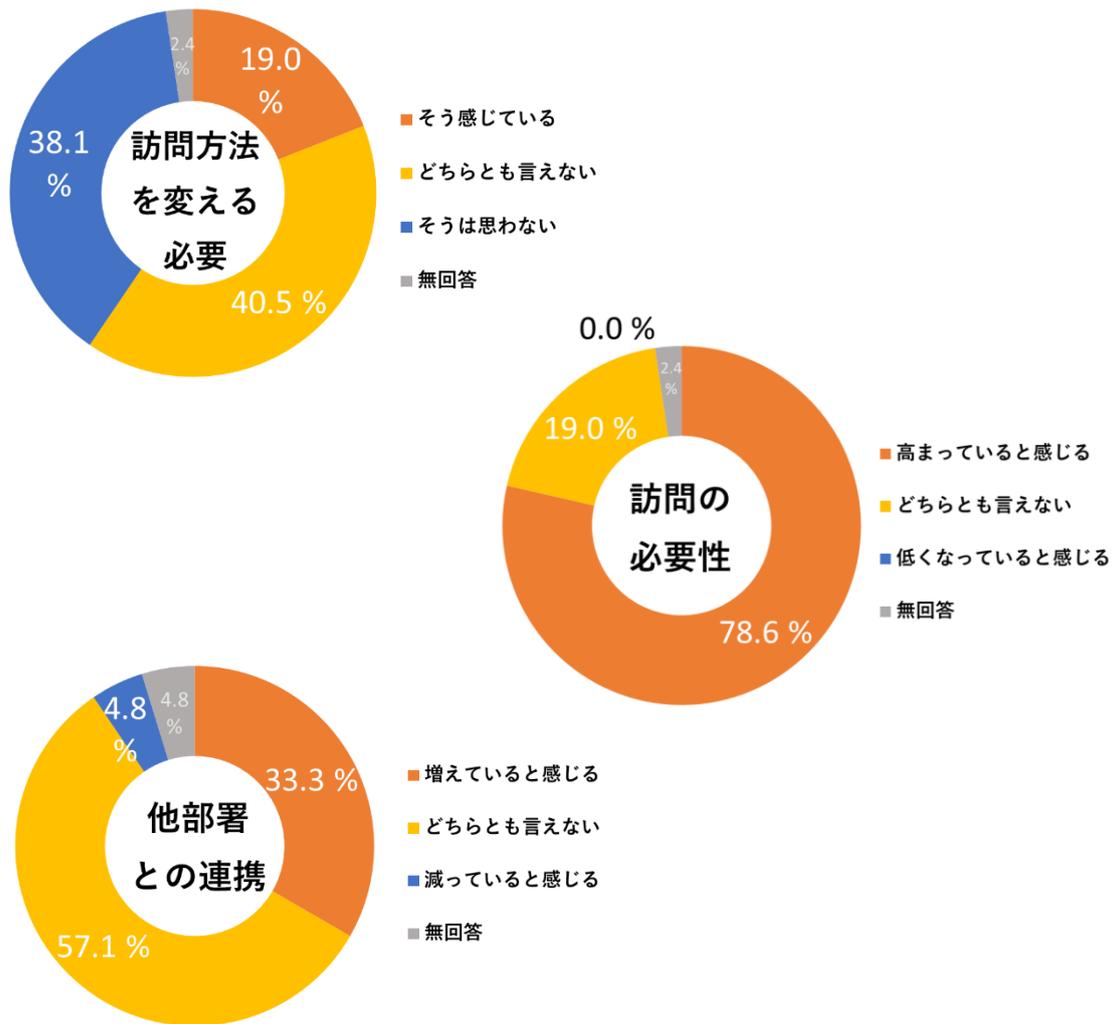
保健師	19
助産師	7
看護師	1
保健師・助産師	2
保健師・保育士	1
保育士	2
保育士・幼稚園教諭	2
幼稚園・小学校教諭	1
無回答	7

まず、訪問を通して捉えられた「コロナ禍で変わったと感じている親の様子」に関する一連の問い（設問 6）において、「あてはまる」と回答された割合が高い項目は、「外出自粛などにより変化した家庭生活や家族との関係にストレスを抱える親が増えた（71.4%）」「孤立している親が増えた（61.9%）」であった。次いで割合が高かった回答は、「子育てに不安のある親が増えた（50.0%）」であった。なお、「コロナ禍で変わったと感じている親の様子」のひとつとして「父親に会う機会が増えた（42.9%）」が高率であった点は特徴的であろう。



次に「訪問すること」についての「コロナ禍になって以降の変化」に関する一連の問い（設問 8）では、「訪問のしやすさ」について「しにくくなっている（66.7%）」との回答が比較的多かったとともに、「訪問拒否のケース」については「増えている（57.1%）」との回答も見られた。「親の訪問希望（対面・非対面問わず）」「非接触の訪問希望（インターホン越しなど）」に関しては、「どちらともいえない」と回答した訪問員がそれぞれ 66.7%、61.9%となっており、際立った違いは捉えられなかった。同時に「訪問員として感じる訪問の必要性」については、訪問員の 78.6%が「高まっている」と評価していることが明らかとなったが、「訪問方法を変える必要がある」と回答した訪問員は 19.0%にとどまり、38.1%の訪問員が「そうは思わない」、40.5%の訪問員は「どちらとも言えない」と回答した。





「コロナ禍での訪問で最も求められていること」について自由記述での回答を求めた（設問 9）。その結果として、“コロナ禍による生活状況の変化から生じる影響を取り上げ、それを考慮した上で自分たち訪問員に求められる役割等を記述した回答”というカテゴリに該当する記述が最も多くみられた。具体的には「コロナ禍による生活状況の変化から生じる影響」として、以下に示す 5 つに整理され、それぞれに対して訪問員として求められている役割等が記述されていた。

まず、＜影響 1＞として「(親子ともに) 外出の機会が減ったり・他者との交流が減ったりしている」ことが抽出され、それに応じて求められている対応は「話の傾聴」「情報を伝えること」「いつでも頼れるところがあるという安心感をもってもらうこと」「訪問員のことを困ったときに相談できる一人であると母親に認識してもらうこと」などが挙げられ、「人と話すことが減っているのでより丁寧な訪問が必要」とした記述もみられた。

次に、＜影響 2＞として抽出されたのは「地域の親子が交流できる場（子育て支援センタ

一など) や機会が限定される」であり、これに応じて求められることとして「代わりに行ける場・オンラインでの相談先を伝えること」「不安がある母親には、専門職員が子どもの発達を観察しアセスメントするなどその時期に個別的なアドバイスをすること」「交流の場が絶たれていることから生じる不安・不平・不満・愚痴をすべて聴くこと」という回答が見られた。

さらに、<影響 3>として抽出された「親族からのサポートが得られにくくなっている」ことに関しては、「産後の支援者の有無を確認すること」「困ったときには相談できる場所があることを伝えること」の他、親族に頼れない人に対して「精神面での支援を含めより丁寧な支援が必要」「必要な支援を早い時期に提供することが必要」であるとの記述がみられた。

また、コロナ禍による制限で「産科施設などの医療機関において十分な知識・技術を学びにくくなっている」ことが<影響 4>として抽出された。これに応じて求められる役割として、分娩医療機関での入院中に必要な授乳・育児手技などや知識を獲得できていない人に対して「不安に思っていることを確認しながら指導・助言すること」「精神面の支援を含めより丁寧な支援をすること」「実際に家で困る状況がないか具体的に把握・指導していくこと」といった記述が見られた。

加えて、<影響 5>として産前だけでなく「感染予防の視点から病院受診をためらう」といった影響の記述があり、「以前よりも丁寧に、医療・育児の知識、対応方法をわかりやすく伝えること（継続した支援につながるような寄り添いの姿勢）」が求められるといった回答が見られた。

さらに、同じ「**コロナ禍での訪問で最も求められていること**」の記述に関するカテゴリ化の結果としては、“訪問員として十分な感染対策をする必要性” “コロナ禍の状況において感染を避けたい気持ちがあるかもしれないが、家庭訪問の目的や意義を家庭の側に理解してもらい必要性” に言及した記述が見られた。

また、“**コロナ禍であってもなくても訪問員としての重要な役割を記述した回答**” といったカテゴリも抽出された。それらは、特に産後の母親の「孤立や不安」への対応を中心としたものであった。「育児不安も生じやすくマタニティブルーにもなりやすい出産後 2～3 週間の時期にタイミングよく電話をし、希望にそった訪問ができること」「必要に応じて適切な場所につなぐ、継続支援、孤立が気になる保護者には集う場の紹介や行政の乳幼児相談の利用等を案内し孤立しないようにすること」などの具体的な対応が記述されていた。

IV. 考察・まとめ

(1) コロナ禍における子育ての実態

保護者への調査で得られた数量的なデータ（一部は自由記述も含まれるが）の分析結果と、支援者（事業所の職員および訪問員）への調査から得られた数量的データおよび質的データ（自由記述データ）の結果から、「コロナ禍における子育ての実態」として明らかになったことは、次のとおりである。

- ・外出を控え「同居の家族以外とは極力会わない」生活をしている
- ・外出する際には感染リスクを回避することを優先し、「他者との接触や交流の少ない場所や活動（親子での散歩や運動など）」を選択している
- ・コロナ禍での家族間での距離感が狭まっていることにより「ストレス」が生じているが、そのストレスを解消し難い状況（交流の場の制限あるいは参加への躊躇）にある
- ・コロナ禍で生じた「子育ての学びの機会（産前産後に子育ての知識を得る、子育て拠点などで他の子育てモデルに触れるなど）の減少・消失」により「親の“孤育ち”状況」が深刻化しており、親が子育てに自信をもてない状態に陥っている
- ・子育ては主に配偶者や祖父母など身内の「サポート」に頼ることが多く、地域の支援資源はあまり身近なものであるとはいえない
- ・子育てに「アプリやオンライン」をある程度活用する者はいるが、まだ一般的に浸透しているとはいえず、引き続き「地域子育て支援拠点」や「児童館」のような安全でリアルな支援の場が必要（できれば利用したい）と感じている
- ・地域子育て支援拠点を生後6か月までに利用する親子は少なく、コロナ禍において、産後うつ様の「しんどさ」を感じている保護者が一定数みられる
- ・全体としては上記のような傾向であるが、「就業状況」や「在住地域」によってコロナ禍の影響の受け止め方には差異が見られる側面があるとともに、ニーズにも個人差が見られる

上記の結果については、調査以前からある程度想定されたものではあったが、本調査を通して、保護者の実際の声が反映された紛れもない実態として確認することができた。

本調査では、子育ての現状として半数以上の保護者が「ワンオペ育児である」と回答している。「ワンオペ育児」については、コロナ禍以前より多くの人々が認知していたわが国の子育て実態の一側面であり、それが「コロナ禍で憎悪したかどうか」の判断はできないものの、少なくとも「現在もそういった状況にある」という保護者の実感は明らかといえる。そして、コロナ禍の子育てにおいて、この「ワンオペ育児」状態は、保護者への調査のデータに示されたように「自身が感染したら困る」とほぼ100%の保護者に強く感じさせるひとつの要因になっているとも考えられる。「自分が感染することで子どもの世話をする人がいな

くなる（誰も頼れない）」という懸念から、子育て中の保護者における「コロナ感染への不安や緊張感」「感染予防徹底の意識」がより強いものとなっている可能性は高いと言えよう。

コロナ禍の下での子育てという日常が続く中で、大多数の保護者が「子どものことはかわいい」と思っているが、それと同時に、比較的多くの保護者は「他の親子と交流できない寂しさ」や「家族・親族に対してのイライラ」「子育てへの自信のなさ（親として未熟さへの自覚や子への関わり方への不安など）」を感じており、さらに一定数の保護者は「疲れて何もする気になれない」「子育てが楽しめていない」「意味もなく涙が出る時がある」といった状況に陥っていることが示された。また、これらのことは、「地域子育て支援拠点事業」「利用者支援事業（基本型）」を担当する職員や「乳児家庭全戸訪問事業」を担当する訪問員（以下「支援者」）への各調査においても、「コロナ禍での保護者の様子の変化」を「外出自粛における家族へのストレスを抱える親の増加」や「他の親子との（物理的な）距離感の広がり」「孤立している親の増加」「子育てに不安のある親の増加」として捉えられており、先に述べた保護者への調査を通して示された実態と合致している。

子育て家庭が、感染への強い警戒心をもち、感染回避のため自制的に行動している様子が見えがえしたが、同時に、その状況が長期化したことによる疲弊感やストレスが大きくなっていることも明らかとなった。コロナ禍の長期化は、「感染への強い不安」と「対面での交流への渴望」とのジレンマに陥ったまま子育てに向き合う日々を過ごさざるを得ない状況をもたらし、子育て家庭は「子育てのしんどさ・困難さ」をコロナ禍以前にも増して、より強く抱えているものと思われる。

コロナ禍での子育てについては、全体として上述のような傾向が明らかになったわけであるが、こういった一連の実態の一部には、「就業状況」による違いが影響を及ぼしていることが示唆された。「無職」「有職・育休中」「有職・就業中」の3群の比較においては、「無職」保護者は「実家への帰省控え」をしている者が有意に多いという結果が示され、おそらく日常生活全般において「外出することを自制している傾向」が強いことが推察された。さらには「ワンオペ育児である」「話し相手や相談相手がいない」「自分の子育てについてまわりの目が気になる」と回答した者も有意に多いというデータが得られている。これらのデータから、「無職」保護者のほうが、「有職」保護者よりも「閉鎖的な子育て環境」にあるという印象を持たざるを得ず、「社会からの孤立感」を最も強く感じているのも「無職」保護者であるという結果と通じているように思われる。

以上のことから、閉鎖的な環境に置かれることで「孤立感」を強める事実が確認されたことにより、本稿Ⅱにおいて示した「仮説①：人との交流が不活化したことで、子育て家庭の孤立が加速度的に進行する」は「部分的に」は検証されたと言えよう。「部分的に」というのは、本調査が「0歳～3歳未満の保護者」を対象を絞ったことで、結果的にコロナ禍以前の比較が困難なものであったことから、「加速度的に」に関しては言及し得なかったということである。しかしながら、「現実の事象としてある」ことの確かさについては、明らか

といえる。さらに、ほとんどの家庭にコロナ禍の影響が及んでいると思われる現状から、「子育て家庭の孤立化」はコロナ禍以前よりもより広く生じている事象であることが推察され、その「量的な増加」を以て「進行している」といえるものとする。以上の考察を「仮説①」の検証としたい。

「就業状況」別の3群の比較においては、3群それぞれのさらに興味深い傾向が示された。「有職・育休中」保護者は、「他の親子と交流できないことの寂しさ」をより強く感じており、また、複数の地域資源のサポート（「子育て支援施設のスタッフ」「保育園等の職員」「医師、保健師」「助産師、保健師」）について「頼れる」と回答した者も有意に多いという結果であった。前述の「無職」保護者と「有職・育休中」の保護者は、共にコロナ禍にあって「在宅育児」という同じ状況におかれているのであるが、「無職」の保護者には「抑制的な行動傾向」がみられ、「有職・育休中」の保護者には「外的志向の行動傾向」がみられるという差異が明らかになった。「就業状況」別の3群の比較において、「有職・就業中」保護者については、そもそも「他の親子と交流できないことの寂しさ」や「社会的な孤立」に対して「否定（感じていない）」の者が有意に多かった上に、様々な子育てのサポートについて「頼れる」と回答した者は有意に少ないという結果であった。これらの傾向の差異について考察すると、仕事のような「社会的な活動」への参画が継続しているのか（「有職・就業中」群）、または、一時的に休止しているのか（「有職・育休中」群）、もしくは「社会的な活動」から永続的に遠ざかっているのか（「無職」群）といった「おかれている状態」による「社会的活動との距離感」の差や、さらに「社会的活動との距離」を有する状態が「一時的」であるのか（「有職・育休中」群）、もしくは「永続的」であるのか（「無職」群）といった「在宅育児の期間限定感」のような要因が作用しているのではないかと推察された。

保護者への調査では、保護者全般において、最も頼りにしているのは「配偶者」や「祖母などの親族」という結果が示された。この結果を「コロナ禍での変化」として捉えることまではできないものの、「現状として家族内での助け合いの傾向が強い」ということは明らかにできた。一方、身内以外で「頼りになる」と感じられている地域の資源については、「子育て支援施設の職員」「医師、看護師」、「隣近所の人、地域の知人、友人」であった。本調査の設問を作成するにあたり、調査チームが「サポートたる地域の資源」として想定した「子育てサークルの仲間」「保育園などの保護者仲間」「保育園などの職員」「助産師、保健師」等他の資源に関しては、そもそも「関わりをもつ機会や時間がない」という回答が多くを占める結果が示された。「関わりをもつ機会や時間がない」ことの背景については、「頼りにしたかったが、関わりを持つ機会を得られなかった」のか、「関わりをもつ必要を感じなかった、持ちたくはなかった」のか、あるいは「サポート資源として認識されていなかった」のか、など様々な原因が考えられる。本調査では、その詳細まで把握することはできなかったが、実際、0歳～3歳未満の保護者にとっては、今ある地域の資源について、サポートたる資源として身近に感じられるものではないといった現状が明らかとされた。

また、人口密度で振り分けられた「地域」別のクロス集計においても注目すべき結果が示されている。人口密度の低い「但馬・丹波・淡路・北播磨地域」の保護者においては、「近くに頼れる親戚や知人がいる」と回答した割合が有意に「高い」との結果についてである。このことについては、支援者への調査においても「人口密度が高い地域の事業所の支援者」と「人口密度が低い地域の事業所の支援者」でのクロス集計の結果で有意差のみられた回答がある。それは、「人口密度が高い地域の事業所の支援者」の多くが「孤立している親が増えた」と捉えているのに対して、「人口密度が低い地域の事業所の支援者」は「孤立した親はさほど増えているとは思わない」と捉えているという結果である。

そして、同じく支援者への調査において、「人口密度の高い地域の事業所の支援者」は「Zoom など WEB によるオンライン交流事業」について「保護者の利用が進んでいる」と捉えているのに対し、「人口密度の低い地域の事業所の支援者」は「保護者の利用が進んでいる」とは捉えていない。実は「オンラインの活用」については、人口密度によって分けられた保護者 2 群での比較においても差異が見られている。「祖父母や友人との交流において LINE 等を活用している」割合は、人口密度の高い「阪神南地域」では有意に高く、「但馬・丹波・淡路・北播磨地域」では低かったのである。

これらの結果を関連づけて考察すると、「人口密度が高い地域」すなわち「隣近所に人が多くいる」であろう地域であっても、コロナ禍のような状況で「つながりが絶たれ孤立感を生みやすい」という傾向が推察され、その中で「オンラインの活用」は進みつつあるといえる。一方で、「人口密度が低い地域」すなわち「人との物理的距離がある」地域では、「コロナ禍はつながりや交流にあまり変化をもたらしていない」といった可能性が読み取れ、さらには「子育て家庭を孤立に追い込まないような何らかの力が働いている、ないしは保たれている」可能性が読み取れる。それは、感染リスクの低い地理的条件からくるものなのか、もともと「地縁」や「家単位」でのつながりが残る地域性からくるコミュニティの盤石さを物語るものなのか、その原因を特定することは難しい。しかし、それを今後さらに追求することによって、「厳しい子育て環境」を緩和するヒントが得られる可能性が膨らんだといえよう。

いずれにしても、以上から、「社会的活動との距離感」や「地域・生活環境の違い」が、各人のコロナ禍の受け止め方やそれに基づく行動様式に影響をおよぼすことが明らかとなったと言える。言い換えれば、「社会的活動との距離感」や「地域・生活環境の違い」は、新型コロナに感染することへの敏感さやどのような支援を求めるのかなどの個人差を広く生じさせている要因であることは確かといえる。

続けて、本稿Ⅱで示した「仮説②：親が親として育つための支えを得にくい孤立的な環境（親の「孤育ち」）がもたらされたことで、親による子育ての困難が顕在化する」に関して検証を進めたい。

まず、保護者への調査を通して「親として未熟で申し訳ない気持ち」「子どもへの関わり

方に自信がもてない」「子育てに不安がいっぱい」など、コロナ禍において保護者は「親としての不安感」を強く感じていることが示され、「外出自粛でのストレス」「子どもへのイライラ」「社会からの孤立感」などを抱えていることが明らかにされている。

また、事業所への調査では、地域子育て支援拠点などでは、コロナ禍において9割が「人数制限」を行い、6割が「時間制限」を行っていることが示された。さらに、その開室日数も2018年度からの3年間で平均的に減少していることが確認できた。そういった現状において、「利用者数」も2018年度からの3年間で56.1%の減少に至っている。また「相談件数」についても同じく減少傾向がみられており、おそらく、場の縮小とともに相談の場や機会など「相談の受け皿」も十分に提供できていない状況にあることが推察される。

支援者への調査の中で指摘されたように「産前産後の学びの機会」が消失（減少）していることで「育児の知識などを習得できないままに子育てがスタートしている」という現状に加え、コロナ禍によって、様々に制限された不自由な環境の中で子育てが営まれているといえる。また、上述した拠点の現状で見られたように、「子育ての不安感」を軽減するような支援は十分に提供できておらず、特に交流が制限されたことで、多様な子育てのモデルに触れることができないことが、子育ての気づきを得ることを難しくさせていると言える。例えば、他の親子との交流は、わが子以外の様々な子ども達の姿から、わが子の成長具合を知り、親としての関わり方や発達の心配などの気づきをもたらしてくれる。しかし、交流がきわめて限定されるという現状では、わが子の成長具合がどのようなものが分からず過度に不安を抱えるケースや、逆に他児と比較する機会がないことで、わが子に支援が必要であることを見落としてしまうケースが生じているかもしれない。また、少人数の交流の輪の中で他児と比較してしまうことで、かえって不安を強めるようなケースも考えられる。

いずれにしても、コロナ禍での子育て環境は、子育てする保護者に不安感をもたらしている上に、それを軽減するための支援を支援者側が十分に提供できないことが加わるため、保護者の不安感はますます増幅しているといえる。これらを総じて「子育ての困難感」と呼ぶとすれば、その顕在化は明らかといえるだろう。以上のことから「仮説②」は検証されたものと考えられる。

（2） コロナ禍での子育て支援

保護者への調査で得られた数量的なデータ（一部は自由記述も含まれるが）の分析結果と、支援者（事業所の職員および訪問員）への調査から得られた数量的データおよび質的データ（自由記述データ）の結果から、「コロナ禍における子育て支援のニーズ」として明らかになったことは、次のとおりである。

- ・ 日常的な閉塞感を緩和する（感染の心配のない）安全な居場所、小さな集まり
- ・ 子育てを学ぶ機会
- ・ 相談、傾聴の受け皿

- ・タイムリーな支援を行うための子どもの発達のアセスメントの機会
- ・訪問等のアウトリーチや SNS の活用など幅広い手法の工夫による情報の提供

これらについては、今もすでに多くの現場で取り組まれている内容であると思われるし、支援者にとって目新しさや違和感のあるものではないであろう。しかしながら、それは混乱の事態の中でも、それぞれの現場において、県内の支援者たちが、保護者が必要としていることに寄り添い、制限の多い厳しい環境の中でも必要と思われる支援を継続していく道を模索し工夫しながら取組みを進める努力を重ねてきたということに他ならないのだと考える。コロナ禍を機に、私たち支援者は、これまでの方法に少しずつ「修正」を加えた支援を継続する中で、それを「ニュー・スタンダード（新たな標準）」として受け入れ定着させつつあるということかもしれない。本調査の結果を基に考察することを通して、現在の取組みを継続することの意義を再確認することとともに、本報告書を通じて、この先に生じてくるであろう「子育てをめぐる課題」に備えて、これからの子育て支援に求められる視点やそれに基づいて実現すべき支援の具体は何かを、それぞれの実情にあわせて検討していくための素材を読者の皆様に提供することができれば幸いである。

子育て家庭の「感染リスク」への感度の高さについては前述したとおりであるが、そのことをふまえ、コロナが「未知のウイルス」であるからには、当面の間、「感染対策の徹底」による「安全性・安心感」は支援を提供する際の大前提であるだろう。ただ、子育ての日常において「過度に無菌状態にこだわる」ことが通常となってしまうことの弊害がないとは言えず、両者の兼ね合いを図ることについても伝える時機を見定める必要はあると思われる。また、本調査において「外出自粛によるストレス」を保護者が強く感じていることが示されたことから、これまで以上に「ストレス緩和」に重点をおいた「居場所」や「傾聴・相談の受け皿」を提供することが重要な支援になっているといえる。これまでのような「多様な親子が混在し活発な交流ができる場」を提供できない現状を「仮」とし不十分と捉えるのではなく、まずは「場が開いていること」自体が貴重な支援となっていること、さらに変化した「場」のあり方として、コロナ禍での八方塞がりの子育て環境の中で「(親子や夫婦などの関係から一旦離れることにより) 気持ちの切り替えができる場」として「ストレスをケアしていくこと」にも大きな意義があることを再認識したい。

さらに、本調査では、コロナ禍での出産に際して、産科施設入院中や保健センターなどで提供される「育児の知識や技術を学ぶ機会」が、「コロナ以前のように得られにくくなっている」という現状があり、その影響が保護者の「子育ての不安」に結びついている可能性が示唆された。コロナ禍に保護者が感じていることとして、「親として未熟で子どもに申し訳ない」「子育てに不安がいっぱい」「子どもへの関わり方(遊び方、しつけ方、世話の仕方など)に自信が持てない」といったことが比較的高い割合でみられたことは、前にも触れたが、産前産後に子育ての基本的な知識を得る機会にめぐまれず、その後も交流がままならない中で、子育てのモデルを得る機会に乏しいことに起因するものであるとも考えられ

る。支援者は、まずは、コロナ禍以降に出産を迎えた保護者が「子育てについて学ぶ機会を得られず、不安が大きいこと」「知らずにできていないことがある可能性もあること」を認識しておく必要があるといえる。そして、それが子どもの育ちにも影響をおよぼすことが懸念され、そのことは本調査でも多くの支援者の記述に表れていた。例えば、月齢に応じた子どもとの関わり方が分からないために、ほどよい関わりがなされなかったり、わが子の成長具合について適正な評価をできず過度に神経質になったり、支援の必要性が見過されてしまったりといったことが起こり得るかもしれない。このことは、「子どもの発達に気になる点が増えてきている」と捉えている支援者が比較的高い割合で見られたのに対し、「わが子の成長・発達が気になる」と回答した保護者は半々であったという結果から考察している。

「親が親として育つ機会」を支援していくことの重要性はコロナ禍以前より認識されてきたことであり、子どもの育ちに関わる懸念がほんのわずかにでもあるのならば、その払拭に向けた方策を検討していきたいものである。例えば、「子育ての学びの機会」をこれまでよりもより意識的・積極的に提供することは当面必要とされる支援のひとつであると考えられる。

また、本調査では、支援者による記述の中で、コロナ禍によって、「乳幼児健診」の実施をめぐる変更一時期の遅れ、対象者の制限、調査紙のみの実施などを余儀なくされている現状に触れられており、そのこともまた「子どもの発達」に影響を及ぼす懸念が示唆される。その解決策として、例えば、「乳児家庭全戸訪問」のような機会において、専門職が「子どもの発達」をアセスメントすることによってタイムリーに支援を提供できればよい、という意見が見られた。本調査においては「子どもの発達に気になる点が増えてきている」と支援者の多くが感じていることから、健診以外の機会においても専門職のアセスメントが受けられるなど、どのようにしてアセスメントを受ける機会を身近なものにしていけるかに関する検討が進むとよいと思われる。地域の子育て支援関連事業と母子保健の関連事業は、事業の対象者や内容が近接していながら、役所内での担当課が異なるケースも多く、互いの連携が難しいこともあるようだが、「子育て世代包括支援センター」などを中心にすでに連携されているところもあるし、今後進められようというところもある。「子どもの発達」にタイムリーな支援を提供できる機会の創出においては、両事業のますますの連携によって、それぞれの強みを互いに活かし合えることによってもたらされる支援の拡充が実現されることを望みたい。

次に「支援との接点」について考察する。保護者への調査の結果からは、産後の保護者にとって、地域の資源が子育てのサポートを提供してくれる身近な・頼れる存在ではない（求めているか否かまでは明らかではないものの）可能性が示された。一方で、「これから出産を迎える妊婦さんに最も勧めたいこと」として「産前のうちに、産後の育児の相談をできる人を見つけておく」「いざというときに頼れる人やサービスを見つけておく」という保護者の回答が多くみられ、これらは、産後すぐに何かの資源につながる難しさを実感していることに基づく意見である。本調査においても「生後6か月までに地域子育て支援拠点に新規登録する親子」の数が少ないことが示された。「こんにちは赤ちゃん事業などの訪問」につい

でも、「訪問してもらえてありがたかった」と感じていることがわかった。これらのことから、保護者は支援を必要としていないわけではなく、「必要な時に必要な支援を得るために自分からはアプローチできていない」そして、それは「どこにアプローチしてよいかわからない」あるいは「産後という時期にはアプローチする余裕がない」という原因があると推察される。このことを踏まえ、(情報提供のような積極的な発信なども含め) 支援者から産前の保護者も視野に入れて積極的にアプローチするという意識が必要だと思われる。

まずは、どんな資源であれ、それが支援の糸口や入り口になり得る可能性をもっていることから、せめて今ある地域のサポート資源を「頼れる」存在としてより有効に機能させていくことが必要であると考えます。保護者が SOS を自ら発してくれるとは限らないことの多い現状を考えれば、入り口を少数に集約することによる利便性は大きい反面、広域に散らばる入り口から、偶然にでも拾い上げられる SOS もあるはずである。あらゆる資源が入り口となることは、より多くの子育て家庭を支援につなげられる可能性を広げ、子ども達の命や豊かな人生を担保することにつながると思われる。

コロナ禍において、子育て家庭それぞれに抱える事情はより多様となり、それぞれの行動パターンも支援との繋がり方もこれまで以上に複雑に変化していると思われる。例えば、「明確な SOS を以て自ら必要な支援を求めようとする保護者」にとっては、「どこが入り口かわからない」状況を避け、身近な場所に機能を集約された資源があり、「ワンストップ」で(専門的支援も含めて)必要な支援に辿り着けることが望ましく、散らばっている資源のうち必要としている支援が「どこにあるのか探すこと」、支援を受けるために「そこへ足を運ぶこと」といった労力を軽減することが支援へ繋がるためのハードルを下げることになるであろう。一方で、「SOS を発するための行動に至らない保護者」や「支援が必要である自身の状況に気づいていない保護者」などにとっては、たまたま用事があって立ち寄った身近な「どこか」で、その SOS が何気なく拾い上げられることをきっかけに水面下での他資源との連携が機能し適正な支援が提供されることもまた、必要な支援を必要な人に届けることのひとつの有効な手立てになるだろう。ただし、その前提にあるのは、ごく日常的で身近な資源が様々に点在していて広く門戸を開いていること、そして、(自らは発してはこない) SOS を何気なく拾い上げ、その場でアセスメントし、その後の支援を的確にコーディネートができるような力量を備えた人材がいること、さらには、どこの入り口からでも資源同士の連携を適正に機能させられる仕組みも必要となる。これを実現するためには、身近な場所であればあるほど、そこにいる支援者には、他の資源に関する熟知度が求められるなど、期待されるハードルは低くはないが、せめて今ある資源どうしがそのような連携を目指すことの必要性を共有することができれば、セーフティネットを大きく広げることにつながっていくと思われる。

これまでも、支援の手がおよばない「場に来ない人・来られない人」にどうアプローチしていくかは、私たち支援者をずっと悩ませてきた課題のひとつであるが、地域子育て支援拠点事業のターゲットとして、まずは目の前の「場に来られる」人に照準をあてて私たちは支

援してきた。しかし、このコロナ禍により、拠点で接することのできる親子がごく限られてしまう中で、この問題は多くの子育て家庭に広くおよぶ全体的な課題になってきたと思われる。コロナ禍を機に、すでに「オンライン事業」や「SNSでの発信」など、試行錯誤の中で新しい取り組みに努力をしている現場も多い。「居場所」を維持することと同時に、「訪問」や「オンライン」など様々な手法を取り入れ、子育て家庭とより多くの接点を生み出すことで、SOSを拾いに行く工夫が必要なのかもしれない。そして、前述のように、私たち自身もセーフティネットを担う地域の資源のひとつとして、引き続き支援者としての質の向上に努めることが求められている。

これまでの考察をふまえ、「コロナ禍の子育て」といっても十把ひとからげして語れるものではないことを念頭におき、これまで以上に多様化する個々の親子が求めるニーズを丁寧に把握する姿勢、そうしたニーズに寄り添う姿勢が求められていると言えよう。

以上を、「仮説③：子育て家庭への多様なアプローチ（支援の入り口の質的・量的拡大）および親（子）のニーズに個別的に寄り添う支援が以前にも増して必要となる」をめぐる検証とする。

（3）今後に向けて

これまで「地域子育て支援拠点」は、多様な子育てのモデルに触れられ、交流によってピアサポートが得られる場所であった。多様な人々がより多く寄り集まることによって生まれる「場の支援力」を高めるために、私たち支援者は、多様性が受容され、どの親子にとっても居心地がよく、主体的な学びが生まれる場をつくることに注力してきた。しかし、このコロナ禍によって、それらがうまく機能しなくなりつつあることは確かであるし、日々注力すべき目標も変化している状況にある。一時的な緊急事態では終わらなかったコロナ禍の長期化により、少しずつ変化してしまった拠点の現状は、ほぼこのままの形で維持されていくのではないかという気さえする。しかしながら、大多数の保護者は「親子同士で対面できる場が、今後、アプリやオンラインの子育て支援に代えられるものではない」と思っていることは、本調査が明らかにしたところである。小規模な居場所が今後も維持されていくのであれば、小さな地区単位ごとにその数を増やすことを目指すことが現状にマッチするのかもしれない。そして、私たち支援者は、たとえ小さな輪であっても、人々が集うことで生まれる力動性に恃む支援を継続しつつも、コロナ禍以降に生じてきたと思われる課題を見据え、それに即した子育て支援を模索していかなくてはならない。

本調査を通して検証された仮説に基づき示された「子育て家庭への多様なアプローチ（支援の入り口の質的・量的拡大）および親のニーズに個別的に寄り添う支援への取組み」の必要性を踏まえて、私たち法人では、「家庭訪問型子育て支援（ホームビジティング）」という取組みを検討したいと考えている。地域のボランティアによる家庭訪問を通して、保護者の話を「傾聴」し、保護者の「ストレス」を「ケア」し、必要に応じて保護者を「地域の資源につなぐ」ことが実現すれば望ましいと考えている。本調査は、特に資源につながりにくい

産後の保護者に対して、必要な支援を必要なタイミングで届けることで「親の“孤育ち”」解消を目指す「家庭訪問サービス」の検討を進めていくための大きな根拠と強い動機となった。

なお、この度の調査では、保護者・支援者から多くの貴重なデータを得ることができた。考察を深める必要のある興味深い結果が大変多かったのだが、当報告書では仮説の検証に焦点化したため、触れることのできなかつた分析結果などが多く残されている。コロナ禍での子育てについては、個々人の事情や背景により、その影響は千差万別であろうということは本調査結果が明らかにしたところである。前述のように、明らかにしきれなかつた細やかな差異も決して看過してよいわけではなく、それらの中に隠されたニーズが今後の子育て支援のあり方にヒントを与えてくれる可能性もある。私たち法人においては、本調査の結果から得られる課題をしっかりと意識し、保護者のニーズに寄り添う子育て支援に努めていくとともに、読者の皆様が、広く公開されるこの調査結果に関して、ご自分の地域特性を踏まえながら、多様な視点からさらなる考察を深めていただくことを期待したい。

コロナ禍でもたらされた「育児のスタート期」における子育ての在り様に生じた個人差は、おそらくコロナ禍収束後の子育てにもひそかな形でその影響の余波を残していくものと思われる。このコロナ禍での生活環境の変化は、とりわけコロナ禍の只中に「出産」し「育児のスタート期」を過ごした親子（コロナ禍以前を知らない親子）にとっては、その変化した状況自体が（ネガティブな要素も含めて）「標準的な（当たり前の）子育ての日常」となっているかもしれない。であるとしたら、支援者には、これまで実施してきた子育て支援の課題意識や取組みの前提をいったん見直す覚悟と柔軟さが求められていると言える。当初一時的な緊急事態に過ぎないと思われたこのコロナ禍の長期化は、人々の行動や生活様式、価値観、人生観にまで、社会全体に著しい変化をもたらした。私たち支援者は、子育て当事者にも生じている変化に向き合い、寄り添う姿勢をもつ中で、求められるニーズを見極めなくてはならない。そして、すでにもう変化しつつある子育て支援の形を「ニュー・スタンダード」として受け入れ、時代に即した支援のあり方を新たに確立しつつ、引き続き支援の質の向上を追求していくことが求められているのだと思われる。現在見られるようになった子育ての日常の大きな変化や小さな変化による影響は、この先の数年後に、子ども達の姿に表れてくることになるのだろう。この先の課題を見越した支援のあり方を検討し実施していくことは、子育て支援における喫緊の課題である。

最後に、本調査の実施に際しては、大変多くの保護者や支援者の皆様方からご協力を賜ったことに心より御礼を申し上げたい。保護者の皆様の回答の一つひとつからは、厳しい環境の中で子育てをされていることが読み取れ、支援者としては襟を正される思いであった。また、支援者の皆様の回答からは、対面支援を行う現場にとって大変困難な局面におかれている中でも、必要な支援は何かを模索し、工夫をこらしながら、できる限りの支援を届けようと努力をされている様子、思いが伝わってきた。私たち法人も皆様の仲間として、これからもともに学び合い支え合う機会をいただきながら、少しでも子育てしやすい社会を

つくっていくことの一助を担えるよう微力ながら努めていきたいと考えている。

V 集計結果（表・記述）

調査 I 保護者を対象とする調査の基礎集計結果

※単一選択の場合は、総計欄があるが、複数選択可の場合は総計欄はない。

表 I -1

Q1 回答者	人	%
母親	428	95.7
父親	19	4.3
総計	447	100.0

表 I -2

Q2 年代	人	%
20代	92	20.6
30代	299	66.9
40代	56	12.5
総計	447	100.0

表 I -3

Q3 差し障りなければ、あてはまる項目をすべてお選びください。	人	%
共働きである	257	57.5
ひとり親である	7	1.6
外国籍である	2	0.4
今の自治体に転入して1カ月以内である	3	0.7
現在、産前産後8週間以内である	12	2.7
多胎児（双子、三つ子など）の子どもがいる	32	7.2
低体重で生まれた子どもがいる	43	9.6
発達が気になる子どもがいる	32	7.2
医療ケアの必要な子どもがいる	7	1.6
該当なし	128	28.6

表 I -4

Q4-1 仕事	人	%
会社員・派遣社員・契約社員・公務員	204	45.6
専門職・技術職	31	6.9
パート・アルバイト	42	9.4
自営業・自由業・家族従業員	15	3.4
内職	2	0.4
無職	151	33.8
その他	6	1.3

表 I -5

Q4-2 勤務状況（あてはまるものすべて）	人	%
該当なし	156	34.9
育休中	179	40.0
1日7時間以上（フルタイム）勤務	57	12.8
1日7時間未満（時短）勤務	44	9.8
在宅ワーク	19	4.3
週5日以上	34	7.6
週4日以内	24	5.4
その他	3	0.7

表 I - 6

Q7 コロナ禍において、お子さまとどのように過ごされていますか。 あてはまるものをすべてお選びください。（いくつでも）	人	%
1 コロナ禍前とあまり生活は変わらない	45	10.1
2 以前よりも家族で過ごす時間が増えた	170	38.0
3 なるべく外出を控えて自宅で過ごしている	278	62.2
4 なるべく同居家族以外の人と会ったり遊んだりしないように過ごしている	226	50.6
5 実家へ帰省するのをできるだけ控えている	174	38.9
6 祖父母など離れて暮らす親族とはLINEなどSNSを利用しオンラインで交流を図るようにしている	172	38.5
7 子育てひろばや児童館など子育て支援施設の利用を控えている	121	27.1
8 親子で散歩や運動を心がけて過ごしている	191	42.7
9 公園など屋外では他の親子と遊んでいる	103	23.0
10 オンラインの親子交流会を利用している	27	6.0
11 ママ友、パパ友など地域の知人とはLINEなSNSを利用しオンラインで交流を図るようにしている	35	7.8
12 自主的に登園を控えることもある	30	6.7
13 経済的理由で就労時間が増えた分、子どもとの時間が減った	7	1.6
14 その他	13	2.9

表 I-6 続き その他 (Q7) 自由記述抜粋

その他 自由記述抜粋
<p>【感染状況をみながら外出している】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援センターを積極的に利用している。 ・ 緊急事態宣言中は外出を控え、解除されたら児童館や子育てひろばを利用している。 ・ 子育て広場や公共の施設で毎日あそんでいる。 ・ 9月以降は外出を控えることがほぼ無くなりました。
<p>【コロナ禍での子育てがスタンダードである】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが産まれたのがコロナ禍なので比べられない。 ・ コロナ禍になってから結婚・出産をしたので、コロナ前との違いがよく分からない。 ・ 2020年5月に出産だったため、コロナ禍育児しか経験していない。 ・ 生まれたときからコロナ禍だったので生活が変わったかはわからないが、人混みや都会(神戸大阪)には行かないようにしている。 ・ コロナ禍の中で産まれたため、前との変化はない。
<p>【感染対策による行動制限】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ回避のため半年以上前から実家に帰省したまま神戸には帰っていない。 ・ 人混みを避けて外で遊んでいる。 ・ 外食が減った。 ・ 親しい友人と会えていない。

表 I-7

Q8-1 自分が感染したら困るという不安がある	人	%
とてもあてはまる	353	79.0
ややあてはまる	87	19.5
あまりあてはまらない	5	1.1
全くあてはまらない	2	0.4
総計	447	100.0

表 I-8

Q8-2 子どもについイライラしてしまう	人	%
ややあてはまる	178	39.8
あまりあてはまらない	146	32.7
全くあてはまらない	75	16.8
とてもあてはまる	48	10.7
総計	447	100.0

表 I-9

Q8-3 家族・親族に対してイライラしてしまう	人	%
ややあてはまる	217	48.5
あまりあてはまらない	125	28.0
とてもあてはまる	66	14.8
全くあてはまらない	39	8.7
総計	447	100.0

表 I-10

Q8-4 親子だけの時間に息が詰まる	人	%
ややあてはまる	172	38.5
あまりあてはまらない	146	32.7
全くあてはまらない	69	15.4
とてもあてはまる	60	13.4
総計	447	100.0

表 I - 11

Q8-5 親として未熟で子どもに申し訳ない 気持ち	人	%
ややあてはまる	183	40.9
あまりあてはまらない	122	27.3
とてもあてはまる	100	22.4
全くあてはまらない	42	9.4
総計	447	100.0

表 I - 12

Q8-6 社会からの孤立感がある	人	%
ややあてはまる	170	38.0
あまりあてはまらない	135	30.2
とてもあてはまる	73	16.3
全くあてはまらない	69	15.4
総計	447	100.0

表 I - 13

Q8-7 子育てに不安がいっぱい	人	%
ややあてはまる	170	38.0
あまりあてはまらない	168	37.6
とてもあてはまる	70	15.7
全くあてはまらない	39	8.7
総計	447	100.0

表 I - 14

Q8-8 子どもへの関わり方（遊び方、しつけ 方、世話の仕方など）に自信が持てない	人	%
ややあてはまる	203	45.4
あまりあてはまらない	146	32.7
とてもあてはまる	72	16.1
全くあてはまらない	26	5.8
総計	447	100.0

表 I -15

Q8-9 他の親子と交流できず寂しい	人	%
ややあてはまる	174	38.9
とてもあてはまる	135	30.2
あまりあてはまらない	93	20.8
全くあてはまらない	45	10.1
総計	447	100.0

表 I -16

Q8-10 疲れて何もする気になれない	人	%
あまりあてはまらない	164	36.7
ややあてはまる	157	35.1
全くあてはまらない	89	19.9
とてもあてはまる	37	8.3
総計	447	100.0

表 I -17

Q8-11 子育てが楽しめていない	人	%
あまりあてはまらない	198	44.3
全くあてはまらない	160	35.8
ややあてはまる	80	17.9
とてもあてはまる	9	2.0
総計	447	100.0

表 I -18

Q8-12 子どもがかわいいと思えない	人	%
全くあてはまらない	349	78.1
あまりあてはまらない	83	18.6
ややあてはまる	11	2.5
とてもあてはまる	4	0.9
総計	447	100.0

表 I -19

Q8-13 意味もなく涙が出る時がある	人	%
全くあてはまらない	282	63.1
あまりあてはまらない	98	21.9
ややあてはまる	55	12.3
とてもあてはまる	12	2.7
総計	447	100.0

表 I -20

Q8-14 わが子の成長・発達が気になる	人	%
ややあてはまる	172	38.5
あまりあてはまらない	136	30.4
全くあてはまらない	77	17.2
とてもあてはまる	62	13.9
総計	447	100.0

表 I -21

Q8-15 就労や経済面の不安がある	人	%
ややあてはまる	157	35.1
あまりあてはまらない	138	30.9
とてもあてはまる	82	18.3
全くあてはまらない	70	15.7
総計	447	100.0

表 I -22

Q9-1 配偶者、パートナー	人	%
頼りになる	207	46.3
とても頼りになる	140	31.3
あまり頼りにならない	78	17.4
関わりを持てる機会や時間がない	11	2.5
まったく頼りにならない	11	2.5
総計	447	100.0

表 I -23

Q9-2 配偶者、パートナー以外の親族	人	%
頼りになる	215	48.1
とても頼りになる	122	27.3
あまり頼りにならない	71	15.9
関わりを持てる機会や時間がない	28	6.3
まったく頼りにならない	11	2.5
総計	447	100.0

表 I -24

Q9-3 隣近所の人、地域の知人、友人	人	%
頼りになる	183	40.9
関わりを持てる機会や時間がない	126	28.2
あまり頼りにならない	89	19.9
とても頼りになる	34	7.6
まったく頼りにならない	15	3.4
総計	447	100.0

表 I -25

Q9-4 職場の同僚や上司	人	%
関わりを持てる機会や時間がない	236	52.8
頼りになる	89	19.9
あまり頼りにならない	78	17.4
まったく頼りにならない	33	7.4
とても頼りになる	11	2.5
総計	447	100.0

表 I -26

Q9-5 保育園、保育所、こども園の保護者仲間	人	%
関わりを持てる機会や時間がない	297	66.4
頼りになる	88	19.7
あまり頼りにならない	32	7.2
とても頼りになる	27	6.0
まったく頼りにならない	3	0.7
総計	447	100.0

表 I -27

Q9-6 子育てサークルの仲間	人	%
関わりを持てる機会や時間がない	288	64.4
頼りになる	88	19.7
あまり頼りにならない	39	8.7
とても頼りになる	20	4.5
まったく頼りにならない	12	2.7
総計	447	100.0

表 I -28

Q9-7 子育て支援施設（子育てひろばや児童館など）のスタッフ	人	%
頼りになる	187	41.8
関わりを持てる機会や時間がない	134	30.0
とても頼りになる	62	13.9
あまり頼りにならない	59	13.2
まったく頼りにならない	5	1.1
総計	447	100.0

表 I -29

Q9-8 保育園、保育所、こども園、託児所の職員	人	%
関わりを持てる機会や時間がない	228	51.0
頼りになる	122	27.3
とても頼りになる	70	15.7
あまり頼りにならない	25	5.6
まったく頼りにならない	2	0.4
総計	447	100.0

表 I -30

Q9-9 療育の場にいる言語聴覚士、作業療法士などのスタッフ	人	%
関わりを持てる機会や時間がない	392	87.7
頼りになる	28	6.3
とても頼りになる	19	4.3
あまり頼りにならない	7	1.6
まったく頼りにならない	1	0.2
総計	447	100.0

表 I - 31

Q9-10 医師、看護師	人	%
頼りになる	207	46.3
関わりを持てる機会や時間がない	155	34.7
とても頼りになる	42	9.4
あまり頼りにならない	37	8.3
まったく頼りにならない	6	1.3
総計	447	100.0

表 I - 32

Q9-11 助産師、保健師	人	%
関わりを持てる機会や時間がない	230	51.5
頼りになる	127	28.4
とても頼りになる	53	11.9
あまり頼りにならない	29	6.5
まったく頼りにならない	8	1.8
総計	447	100.0

表 I - 33

Q9-12 児童相談所、役所の窓口などにいる カウンセラー（心理士）、相談員など	人	%
関わりを持てる機会や時間がない	348	77.9
頼りになる	43	9.6
あまり頼りにならない	23	5.1
まったく頼りにならない	17	3.8
とても頼りになる	16	3.6
総計	447	100.0

表 I - 34

Q9-13 オンライン上の相談サイトや育児アプリ	人	%
関わりを持てる機会や時間がない	229	51.2
頼りになる	118	26.4
あまり頼りにならない	61	13.6
とても頼りになる	28	6.3
まったく頼りにならない	11	2.5
総計	447	100.0

表 I - 35

Q10 ご自身が日頃悩んでいることについて、あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)	人	%
1 特に悩んでいない	75	16.8
2 子どもの病気や発育・発達が気にかかる	153	34.2
3 子どもが十分に栄養をとれているか心配である	158	35.3
4 育児の方法がよくわからない	63	14.1
5 子どもとの接し方に自信が持てない	110	24.6
6 子どもとの時間を十分にとれない	48	10.7
7 話し相手や相談相手がいない	110	24.6
8 仕事や自分のやりたいことが十分にできない	161	36.0
9 近所に子どもの遊び友達がいない	163	36.5
10 近所に子育て支援施設(子育てひろばや児童館など)がない	18	4.0
11 友達付き合いがうまくいかない	24	5.4
12 子どもが園に行きたがらない	10	2.2
13 子育てに関して配偶者・パートナーの協力が少ない	64	14.3
14 配偶者・パートナーと子育ての意見が合わない	47	10.5
15 自分の子育てについて周りの見目が気になる	76	17.0
16 配偶者・パートナー以外に子育てを手伝う人がいない	84	18.8
17 子どもをしかりすぎているような気がする	94	21.0
18 地域の子育て支援サービスの内容などがわからない	33	7.4
19 近くに頼れる親戚や知人がいない	104	23.3
20 親の世話・介護で、育児に専念できない	1	0.2
21 子どもの入園先が見つからない	35	7.8
22 その他	11	2.5

表 I-35 続き その他 (Q10) 自由記述抜粋

その他 自由記述抜粋
<p>【感染対策の影響に対する不安感】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまり外出できないのでいろんなものに触れ合う機会が減っていて心配。 ・マスクで顔の半分が隠れていることに対する子どもへの影響に不安がある。 ・子ども達のマスク生活による心の発達や健康面が気になる。
<p>【必要な子育て支援や情報の困り事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子育て広場が少なくコロナ禍で利用制限もあるため使いにくさを感じる時がある。 ・一時保育や園庭開放が少なく参加できない。 ・コロナで保育園の見学ができず決めきれない。また満3歳児クラスなど、幼稚園・保育園の仕組みで知らないことが多く、知る機会もなく、情報収集に苦戦している
<p>【親自身のしんどさ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夫が父親になりきれず、そんな姿を見ていると未熟さが腹立たしく気持ちのやり場がない。 ・緊急事態宣言中で天気が悪い時、密室育児になるため、鬱になってしまいそうだった。 ・シングルのつらさ、不安。 ・働きたいのに働けない。 ・仕事や自分の友人に会いたい。

表 I - 36

Q12 ご自身の子育て環境や仕事との両立について、あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)	人	%
1 ワンオペ育児(育児負担に偏りがある状態)になっている	233	52.1
2 土地勘がない	101	22.6
3 子育て支援施設(子育てひろばや児童館など)が近くにない	23	5.1
4 子育て仲間がない、つぐれない	153	34.2
5 近くに頼れる親戚や知人がいない	132	29.5
6 自分が病気になると子どもの面倒をみる人がいない	144	32.2
7 親・兄弟姉妹の世話や介護をしている	6	1.3
8 子どもの入園先が見つからない	43	9.6
9 急な残業が入ってしまう	29	6.5
10 仕事について家族の理解が得られない	9	2.0
11 子育てについて職場の理解が得られない	17	3.8
12 その他	47	10.5

表 I-36 続き その他 (Q12) 自由記述抜粋

<p>その他 自由記述抜粋</p>
<p>【該当なし】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人と同業のため仕事のしんどさも分かり、帰宅後はよく子供と遊んでくれて不自由なく過ごせている。 ・繋がりが多方面に多くあり充実している。
<p>【就業・復職に関する悩み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復職が不安でいっぱい。 ・仕事に復帰すると子供との時間がかかり減ってしまう。 ・土日勤務、泊まり勤務もあり職場復帰した際に両立できるかが心配。 ・子供を育てながら働きにくい、休暇がとりにくい。 ・職場が遠く園の送迎に支障がでる見込み、職場が遠い(片道1時間半)。 ・朝夕が忙しい。 ・働きたいが保育料が高いなどの理由で働けない。 ・働きたいが早生まれなので保育園に入れるのに抵抗がある。 ・仕事を探すためのハローワークが遠くて子連れで行きにくい。 ・求職中では保育園の入園は難しいと聞きなかなか仕事を始められない。 ・就活中のため認可保育園入園が困難。 ・双子育児に専念したいため仕事を離職。
<p>【子育て支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍になり一時保育の面接だけで7カ月待ちで、結局利用したい時期に利用できず終わった。 ・シングル世帯、子育て世帯への支援が地域によって格差がありすぎる。
<p>【子育て環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・義父母が近くにおいて積極的に関わろうとはして下さるが、高齢で頻繁に預かってもらうことは難しい。 ・遊具のある公園や気軽に遊ばせられる場所が近くにない。 ・家が密集していて、自分の家の音、他人の音が気になる。

表 I - 37

Q13 アプリやオンラインの子育て支援サービスで、利用したことがあるものをすべてお選びください。(いくつでも)	人	%
1 アプリやオンラインで利用したことがない	134	30.0
2 予防接種スケジュール	202	45.2
3 ママ友探し	32	7.2
4 育児記録	183	40.9
5 オンライン保育	4	0.9
6 オンライン交流会	53	11.9
7 離乳食に関する相談・講座など	86	19.2
8 育児に関する相談・講座など	78	17.4
9 医療に関する相談・講座など	29	6.5
10 その他	16	3.6

表 I - 38

Q14 今後、アプリやオンラインの子育て支援サービスや交流が充実すれば、子育てひろばや児童館など、親子同士で対面できる場や機会は必要なくなると思いますか。	人	%
そう思わない	257	57.5
あまりそう思わない	169	37.8
そう思う	14	3.1
とてもそう思う	7	1.6
総計	447	100.0

表 I - 39

Q15 前問14でそのように答えた理由をお答えください。	人	%
対面交流：コミュニケーションとしての必要性	210	47.0
対面交流：子どもの成長に必要	138	30.9
オンライン交流：対面交流との質の違いによる満足度の低さ	73	16.3
対面交流：親子のリフレッシュ	47	10.5
オンライン交流：子どもと時間を共有しづらい	14	3.1
オンライン交流：利便性、必要性	30	6.7
オンライン交流：苦手、利用しない	13	2.9
その他	8	1.8

表 I - 40

Q16 コロナ禍においてご自身の子育てを楽にしてくれたり、子育てに前向きになれたりした出会いや出来事があれば教えてください。	人	%
子育て支援施設のスタッフ、イベント、サークル	101	22.6
親同士の交流	81	18.1
家族・親族	33	7.4
SNS・オンラインでの交流	28	6.3
友人、近隣住民	20	4.5
助産師、医師、看護師	17	3.8
園所スタッフとの交流、一時預かりサービス	16	3.6
子どもの成長	13	2.9
訪問員や保健師	12	2.7
公園・自然	12	2.7
家事支援	5	1.1
近所や見知らぬ人からの声かけ	15	3.4
その他	44	9.8
なし	94	21.0

表 I-40 続き その他 (Q16) 自由記述抜粋

<p>その他 自由記述抜粋</p>
<p>コロナ禍でも開室してくれていた地域の子育て支援の場には感謝しかなかった。感染の恐怖よりも一人で初めての育児に向き合わなければならないことの方がつらかったので、施設スタッフさんや遊びにつれてきていた他の保護者さんと育児の話ができたことが本当にストレス解消になっていた</p>
<p>子育て支援センターには大変お世話になった。コロナ禍で一時保育や園庭開放をやっていない保育園やこども園が多い中、緊急事態宣言中も託児サービスやオープンルームをして下さり本当に救われた。これがなかったら毎日泣いていたかもしれない。</p>
<p>保健師さんが訪問してくれたり、個別に電話で相談に乗ってもらったりしたのは妊娠中からとても頼りになりました。あとは子どもが双子なので、双子サークルでアドバイスをもらったりLINEチャットの多胎グループでも投稿をしたり読んだり、いつもお世話になっています。同じような悩みを抱えている人がいると思うと、直接会えなくてもうんうんと共感でき、子育て頑張ろうと思っています。</p>
<p>今入ってる子育てサークルのメンバーと出会いこれから一緒に子供達の成長を見守れる仲間ができて特に前向きになった。</p>
<p>家族の存在が大きく感じた 子どもの成長と一緒に喜んでくれる</p>
<p>YouTubeに上がっている子育てについての動画をみて、前向きな気持ちになっていた。</p>
<p>検診でお医者さんがいつも『よく育ってます。お母さん自身持ってね。自慢の娘です！』と励ましてくれるので前向きになれている。</p>
<p>ひとりで子供を連れて電車に乗っていたとき、見知らぬご婦人に声をかけられ、コロナ禍で大変だけど頑張って、と色々と話してくれ励まされ、嬉しかった。</p>
<p>遠出しないので、地域の方とのつながりが深まった。</p>
<p>公園など子どもが集まる場所に行くと、子ども同士は楽しそうに距離を気にせず関わっていく姿にほっこりした。</p>

表 I - 41

Q17 自治体の「新生児訪問指導」や「こんにちはあかちゃん事業」などの家庭訪問について、あなたのお気持ちとしてあてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)	人	%
1 全ての母子に必要な制度だと思う	268	60.0
2 ハガキなど紙面の申込みが面倒	75	16.8
3 訪問してもらえてありがたかった	289	64.7
4 オンライン対応にして欲しい	22	4.9
5 希望してないのに家に来られるのは不快	17	3.8
6 絵本や子育て支援の情報をもらえて良かった	177	39.6
7 話はしたいが感染対策で会うのに抵抗がある	62	13.9
8 虐待を疑われているのではと不安になる	20	4.5
9 もっとゆっくり話を聞いて欲しかった	34	7.6
10 自分にはあまり必要だと思わなかった	24	5.4
11 相談したいことがある時に来て欲しい	122	27.3
12 知人や家族と身近な人や、近所の人に訪問されると気疲れする	22	4.9
13 その他	29	6.5

表 I-41 続き その他 (Q17) 自由記述抜粋

<p>その他 自由記述抜粋</p>
<p>【訪問対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来られる前まではすごく抵抗があったが、結果としては産後でなかなか外出できない中でもあったのでたくさんお話や相談ができて嬉しかった。 ・コロナ禍初期だったので訪問して欲しくなかったの、資料をポストに入れるだけの対応で助かった。 ・保健師さんが頼りにならなかった。本などはもらえて有難かった。 ・マイナスな事しか言わない人が、新生児訪問で来たので逆にイメージが悪くなった。 ・その人がプロであるか素人であるか関係なく、現代の子育て事情や社会状況を理解してほしい。例えば、時間が解決してくれるとかもうすぐ楽になるとか未来の話あまりしないほしい。 ・右も左も分からないのは"今"やのにそんなこといわれてもしんどいねん！てなる人が来るのは迷惑でしかない。 ・なにを話したらいいかわからないこともある。 ・もっと支援が必要だった。
<p>【訪問のタイミング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと早く来てほしかった。 ・コロナ禍のため、訪問が遅くなっていきなり来られてびっくりした。何の訪問かもわからない状態だった。。 ・新生児訪問の担当さんが来るのが早すぎだと思った。もう少し週を遅らせて来てほしかった。 ・引越してきたのでサービスを受けていない。
<p>【要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一子は必ず実施して、第二子以降は任意もしくはオンラインや電話のみで十分だと思う。オンラインでの申込み可能にして欲しい。 ・訪問して話ができただけは気持ちよくなって良かった。子どもがまだ生まれたばかりで何時に寝るか分からない中、予約するのが難しいと感じた。 ・体重測定はありがたいのですが、100g単位での測定だったので家の体重計と変わらなかった。せっかくしていただけるなら服も全て脱いで10g単位で測ってほしい。 ・もっと年齢近い人がよかった。 ・合わない人は嫌なので選びたい。
<p>【訪問回数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数回来てほしい ・一回きりではなく、産後すぐ、半年後、1年後と、数回あるのいいです。産後1年はなかなか外出できず、でも、自分の体のこと、赤ちゃんの成長のこと等、悩みはその時その時で変わるので。また、助産師、整体師、保健センター職員はなど、事前に悩みを聞いて適切な人に訪問してほしいです。
<p>【訪問の必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人的には家に他人をあげるのに抵抗があるので不快ではあるものの、虐待防止などの観点からすべての母子に必要な制度だと思う。 ・自分には必要ないかなーと思うけれど、必要なお母さん、子どもたちの見過ごしになってはいけないので、全員必須でした方がいい。

表 I - 42

Q18 「こんなあかちゃん訪問なら希望したいな」と思うものをすべてお選びください。(いくつでも)	人	%
1 自分が選んだ絵本を1冊もらえる	317	70.9
2 おむつの配布をしてくれる	299	66.9
3 産後ケアの割引クーポンがもらえる	219	49.0
4 自分の来て欲しい月齢のタイミングで来てくれる	192	43.0
5 妊娠期にお世話になった助産師さんが訪問してくれる	154	34.5
6 妊娠期にお世話になった保健センターの保健師さんが訪問してくれる	64	14.3
7 妊娠期にお世話になった地域の子育て相談員さんが訪問してくれる	54	12.1
8 母乳ケアや相談にのってもらえる専門家(助産師)が訪問してくれる	222	49.7
9 子どもの関わり方(遊び方)を教えてもらえる	217	48.5
10 あかちゃんとお出かけできる場所(遊び場など)を教えてもらえる	203	45.4
11 ちょっとしたあかちゃんのことを聞いてもらえる・教えてくれる	242	54.1
12 大人と話したいので、ゆっくり話しのできる人が訪問してくれる	132	29.5
13 親自身の心と身体について話し合える人が訪問してくれる	134	30.0
14 かかりつけ医(小児科)について教えてもらえる	129	28.9
15 地域で提供されている子育て支援について教えてもらえる	218	48.8
16 その他	16	3.6

その他 自由記述抜粋
<p>【訪問対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来られる前まではすごく抵抗があったが、結果としては産後でなかなか外出できない中でもあったのでたくさんお話や相談ができて嬉しかった。 ・コロナ禍初期だったので訪問して欲しくなかったので、資料をポストに入れるだけの対応で助かった。 ・保健師さんが頼りにならなかった。本などはもらえて有難かった。 ・マイナスな事しか言わない人が、新生児訪問で来たので逆にイメージが悪くなった。 ・その人がプロであるか素人であるか関係なく、現代の子育て事情や社会状況を理解していない。時間が解決してくれるとかもうすぐ楽になるとか未来の話をあまりしないでほしい。 ・右も左も分からないのは“今”やのにそんなこといわれてもしんどいねん！てなる人が来るのは迷惑でしかない。 ・なにを話したらいいかわからないこともある。 ・もっと支援が必要だった。
<p>【訪問のタイミング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと早く来てほしかった。 ・コロナ禍の為、訪問が遅くなっていきなり来られてびっくりした。何の訪問かもわからない状態だった。。 ・新生児訪問の担当さんが来るのが早すぎだと思った。もう少し遅を遅らせて来てほしかった。 ・引越してきていたのでサービスを受けていない。
<p>【要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一子は必ず実施して、第二子以降は任意もしくはオンラインや電話のみで十分だと思う。オンラインでの申込み可能にして欲しい。 ・訪問して話げたのは気持ちよくなって良かった。子どもがまだ生まれたばかりで何時に寝るか分からない中、予約するのが難しいと感じた。 ・体重測定はありがたいのですが、100g単位での測定だったので家の体重計と変わらなかった。せつかくしていただけるなら服も全て脱いで10g単位で測ってほしい。 ・もっと年齢近い人がよかった。 ・合わない人は嫌なので避けたい。
<p>【訪問回数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数回来てほしい ・一回きりではなく、産後すぐ、半年後、1年後と、数回あるのいいです。産後1年はなかなか外出できず、でも、自分の体のこと、赤ちゃんの成長のこと、等、悩みはその時その時で変わるの。また、助産師、整体師、保健センター職員はなど、事前に悩みを聞いて適切な人に訪問してほしいです。
<p>【訪問の必要性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人的には家に他人をあげるのに抵抗があるので不快ではあるものの、虐待防止などの観点からすべての母子に必要な制度だと思う。 ・自分には必要ないかなーと思うけれど、必要なお母さん、子供たちの見過ごしになってはいけないので、全員必須でした方がいい。

表 I-42 続き その他 (Q18) 自由記述抜粋

<p>その他 自由記述抜粋</p>
<p>【訪問する人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に住む子育ての先輩の訪問。 ・顔馴染みのスタッフさんが来てくれると、とても心強いと思う。 ・保育士さんに来てほしい。
<p>【父親向け訪問の要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・父親側にサポートをつけて欲しい。母親は否が応でもやっていくしかないし、産んでいるので親になりやすいだろうが、父親は産む事による変化も無く、親になるための意識を持つ機会も少ない。 ・母親だけでなく父親向けに来て欲しい。 ・配偶者や家族に、産後のお母さんの気持ちや産後クライシス、産後うつ、身体、生活の変化を伝えてほしい。本人同士だと、ケンカになってしまう。
<p>【訪問の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生児というより月齢が大きくなった際、世代や価値観が違いすぎる専門家からちゃんと話も聞かず闇雲に「うんうん、頑張ってるね！大丈夫大丈夫！」と軽く肯定されることが多くてかえってモヤモヤすることが多い。子育てや社会の常識が変わっていて、そこに不安を覚えていることをわかってくれないことが多くてかえって疲れてしまうことがあるので、専門家の方達も最新の情報にアップデートして欲しいと感じる。
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生後2カ月の時だけでなく5.6カ月も来て欲しい。(健康診断がないので) ・多胎児家庭にはもっと積極的に訪問や連絡をして欲しい。自分から電話をする時間すらない。 ・そもそも産後にしんどい時に知らない人に家にこられること、しゃべることがしんどい。健診で充分かなと思う。 ・ご飯も届けてくれる。 ・ミルク配布してくれる。 ・兄弟のことについても相談できる。 ・保育園申し込みの流れについて教えてもらえる。 ・産後ケアの利用可能日が6ヶ月までだったので、もう少し長かったら利用したのと思う。せめて1歳までは猶予がないとバタバタしてて落ち着かない。

表 I - 43

Q19 これから出産を迎える妊婦さんに、最も勧めたいことを2つお選びください。	人	%
1 産前に産後に育児の相談ができる人を見つけておく	166	37.1
2 あかちゃんが産まれたら出かけられない所へ遊びに行く	206	46.1
3 家族にも育児休暇を取るようお願いする	83	18.6
4 妊娠中の写真を撮っておく	77	17.2
5 いざという時に頼れる人やサービスを見つけておく	158	35.3
6 家の片づけや掃除をしておく	108	24.2
7 退院後の産後ケアを考えておく	73	16.3
8 アプリで近くのママ友を作っておく	5	1.1
9 その他	20	4.5

表 I-43 続き その他 (Q19) 自由記述抜粋

<p>その他 自由記述抜粋</p>
<p>【出産や産後の育児に関する準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はりきって育児グッズを揃えすぎなくていい。 ・おっばいマッサージをしておく。 ・出産してから悩むことを先に教えておいてほしかった。特にねんね、授乳、離乳食について。
<p>【父親への働きかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夫に、嫌になるくらい産後の女性の様子や新生児の一日とその対応方法で疲弊するか伝える。私はほぼ毎日話してました。 ・父親になる旦那やパートナーと産前の両親教室等に行って、妊娠中～産褥期の大変さ、子育て、産後クライシス等についての情報を予め夫婦で共有しておく。 ・パートナーや家族に、「産後すぐは以前までの元気な妻・母ではないんだよ」と伝えて、積極的に育児に関わってほしいと伝えておく。 ・主人にマンガ「コウノトリ」をみせておく ・父親に出産育児の大変さを理解させ、出産後に協力してほしいことを日頃からやってもらう。いきなりやれと言ってもやらないし、できない。 ・旦那さんに家事子育ては一緒にする事だと言うことをわかってもらっておく。欧米欧州では普通の事なのに、日本の男性は本当に女性任せすぎると思う。
<p>【産後必要になる資源】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産後は忙しくて探す時間がないからいざという時に頼れる人やサービスを見つけておく。 ・同級生など話しやすい友人かつ先輩ママである人と連絡を取りやすくしておく。 ・ミールキットサービスを利用する。 ・産後一年ぐらいに必要な公的な手続きや情報を集めておくこと。 ・保育所見学や、役所手続きなどについて事前に調べておく。 ・Twitterで信頼できる小児科医をフォローしておく（産後知りたいことはたくさんあるけれど、調べる時間がないので、受動的に情報を手に入れられるのは助かった）。 ・近所のショッピングセンターや百貨店にあるエレベーターの場所や、授乳室の場所を覚えておくと、ベビーカーで出掛けられるようになったときに困らない。
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思う存分寝ておく、寝れるときに寝る。 ・自分の好きなように過ごす。 ・夫婦で旅行に行っておく。

表 I - 44

Q20 子育て支援について、あなたの自治体にもっと力を入れてほしいと思うものをすべてお選びください。	人	%
1 子どもだけで安心して遊べる場所づくりをしてほしい	191	42.7
2 子育てひろばや児童館など、親子が安心して集まれる身近な場や機会を増やしてほしい	234	52.3
3 親子で楽しめる文化事業（観劇や音楽会）を充実させてほしい	205	45.9
4 認可保育所をもっと整備して子どもの受け入れを増やしてほしい	183	40.9
5 幼稚園や保育所にかかる費用負担を軽減してほしい	243	54.4
6 公立幼稚園も3年保育を実施してほしい	107	23.9
7 専業主婦など誰でも利用できる保育サービスがほしい	186	41.6
8 安心して子どもが医療機関にかかる体制を整備してほしい	93	20.8
9 乳幼児医療費の助成制度をもっと充実してほしい	120	26.8
10 支援が必要な子どもの保育を充実してほしい	70	15.7
11 企業に対して職場環境の改善（残業時間の短縮や休暇の取得促進など）を働きかけてほしい	123	27.5
12 育児休業・介護休暇の取得促進などを企業に対して働きかけてほしい	121	27.1
13 再就職についての支援を充実してほしい	78	17.4
14 子育てサークル・サロンへの支援をしてほしい	89	19.9
15 子育てについて学べる機会を充実してほしい	141	31.5
16 多子世帯への公営住宅優先入居や広い部屋の割り当てなど住環境面での配慮がほしい	36	8.1
17 公園や歩道の整備をしてほしい	195	43.6
18 児童手当をもっと充実してほしい	205	45.9
19 家事支援サービスを整備してほしい	115	25.7
20 その他	28	6.3

表 I-44 続き その他 (Q20) 自由記述抜粋

<p>その他 自由記述抜粋</p>
<p>【産後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦検診はもちろんだが、出生後の検診助成をしてほしい。 ・宿泊できる産後のケア施設を増やしてほしい。 ・産前産後ケアのクーポンを出してほしい。
<p>【行政の仕組みやサービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子手帳の交付を土日祝日も行って欲しい。 ・明石市のような子育てしたい！と思えるような支援がほしい。(18歳まで医療費免除、0歳時おむつ定期便、2児以降の保育料無償化など) ・区役所で行う健診のクオリティを上げて欲しい。(密にしない、長時間かけない、昼寝時間以外の時間帯も選択できるようにするなど) ・行政だけでサービスを終しようとはせず、地域のことをよく知る、当事者の活動や当事者に寄り添う市民活動団体を支援&活用して市民サービスを充実させて欲しい。 ・様々な制度で所得制限があるが、平等に配布・支援して欲しい。 ・出産時の給付を手厚くしてほしい。 ・双子は産休は早いのに保育園預かりはなぜ産前産後8週なのか？多胎児家庭できょうだいいたら年齢構成にもよるがかなり大変。
<p>【医療・相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間救急が市外なので市内だと助かる。 ・小児科が本当に少ない！もっと身近にあればと感じる毎日。 ・好きな時に赤ちゃんの体重を測れたり相談できる人がいる場所を作って欲しい。
<p>【一時預かりの拡充】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リフレッシュ保育のハードルを下げてほしい。 ・両親が遠方のため、二人目妊娠出産時の子育て支援サービスをしてほしい。 ・急な用事の時に一時預りなどが簡単に利用できるようにしてほしい。
<p>【子育て支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親向けだけでなく父親向けの教室や講座を必須にして欲しい。 ・市の学習センターの開所時間を長くしてほしい(現在14時半まで)。
<p>【公共の環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市部エリアだけでも路上喫煙を禁止にして欲しい、兵庫県は全国で最も厳しい条例を設けていると保健センターでポスターを掲載しているわりに駅周辺や公共施設の入り口前で喫煙者をよく見かける。 ・公共交通機関においてベビーカーでも利用しやすいようバリアフリーを充実させてほしい。

調査 I 保護者の「就業別」によるクロス集計結果

※単一選択の場合は、総計欄があるが、複数選択可の場合は総計欄はない

表 I-45

Q1 ご回答される方	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
母親	150	100.0	176	98.9	95	84.8
父親	0	0.0	2	1.1	17	15.2
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I-46

Q2 年代	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
20代	28	18.7	46	25.8	18	16.1
30代	98	65.3	118	66.3	76	67.9
40代	24	16.0	14	7.9	18	16.1
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I-47

Q3 差し障りなければ、あてはまる項目をすべてお選びください	無職*		有職・育休中*		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
共働きである	0	0.0	158	88.8	97	86.6
ひとり親である	1	0.7	3	1.7	3	2.7
外国籍である	2	1.3	0	0.0	0	0.0
今の自治体に転入して1カ月以内である	1	0.7	1	0.6	1	0.9
現在、産前産後8週間以内である	4	2.7	6	3.4	2	1.8
多胎児（双子、三つ子など）の子どもがいる	12	8.0	11	6.2	8	7.1
低体重で生まれた子どもがいる	16	10.7	17	9.6	10	8.9
発達が気になる子どもがいる*	16	10.7	5	2.8	11	9.8
医療ケアの必要な子どもがいる	2	1.3	1	0.6	3	2.7
該当なし	112	74.7	8	4.5	7	6.3

*は $\chi^2=8.900$ df=1 p<.05

残差分析(5%水準)：「あてはまる」が「無職」は有意に多く、「有職・育休中」は有意に少ない

「あてはまらない」が「無職」は有意に少なく、「有職・育休中」は有意に多い

表 I - 47 続き Q3「発達が気になる子どもがいる」に関するクロス分析結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	16	10.7	134	89.3	150	100.0
有職・育休中	5	2.8	173	97.2	178	100.0
有職・就業中	11	9.8	101	90.2	112	100.0
計 (人)	32		408		440	

表 I - 48

Q4-1 仕事	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
会社員・派遣社員・契約社員・公務員	0	0.0	140	78.7	64	57.1
専門職・技術職	0	0.0	19	10.7	9	8.0
パート・アルバイト	0	0.0	15	8.4	27	24.1
自営業・自由業・家族従業員	0	0.0	3	1.7	10	8.9
内職	0	0.0	0	0.0	2	1.8
無職	149	99.3	0	0.0	0	0.0
その他	1	0.7	1	0.6	0	0.0
総数	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I - 49

Q4-2 勤務状況 (あてはまるものすべて)	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
該当なし	150	100.0	0	0.0	0	0.0
育休中	0	0.0	178	100.0	0	0.0
1日7時間以上 (フルタイム) 勤務	0	0.0	4	2.2	53	47.3
1日7時間未満 (時短) 勤務	0	0.0	1	0.6	43	38.4
在宅ワーク	0	0.0	2	1.1	17	15.2
週5日以上	0	0.0	1	0.6	33	29.5
週4日以内	0	0.0	0	0.0	24	21.4
その他	0	0.0	1	0.6	2	1.8

表 I -50

Q7 コロナ禍において、お子さまどのように過ごされていますか。(いくつでも)	無職		有職・育休中		有職・就業者	
	人	%	人	%	人	%
1 コロナ禍前とあまり生活は変わらない	13	8.7	16	9.0	16	14.3
2 以前よりも家族で過ごす時間が増えた	58	38.7	67	37.6	43	38.4
3 なるべく外出を控えて自宅で過ごしている	95	63.3	110	61.8	69	61.6
4 なるべく同居家族以外の人と会ったり遊んだりしないように過ごしている	80	53.3	90	50.6	54	48.2
5 実家へ帰省するのをできるだけ控えている[†]	69	46.0	61	34.3	41	36.6
6 祖父母など離れて暮らす親族とはLINEなどSNSを利用しオンラインで交流を図るようにしている	60	40.0	65	36.5	44	39.3
7 子育てひろばや児童館など子育て支援施設の利用を控えている	48	32.0	40	22.5	32	28.6
8 親子で散歩や運動を心がけて過ごしている	57	38.0	81	45.5	49	43.8
9 公園など屋外では他の親子と遊んでいる	37	24.7	36	20.2	28	25.0
10 オンラインの親子交流会を利用している	5	3.3	14	7.9	6	5.4
11 ママ友、パパ友など地域の知人とはLINEなSNSを利用しオンラインで交流を図るようにしている	14	9.3	15	8.4	4	3.6
12 自主的に登園を控えることもある	5	3.3	12	6.7	13	11.6
13 経済的理由で就労時間が増えた分、子どもとの時間が減った*	0	0.0	1	0.6	5	4.5

[†]は $\chi^2=5.036$ df=1 p<.10

残差分析(5%水準)：「無職」は「あてはまる」が有意に多く、「あてはまらない」が有意に少ない

*はFisher's Exact Test (両側検定) p=0.0335 (p<.05) 「無職」は除外して検定

表 I - 50 続き Q7-5 「実家に帰省するのをできるだけ控えている」に関するクロス分

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	69	46.0	81	54.0	150	100.0
有職・育休中	61	34.3	117	65.7	178	100.0
有職・就業中	41	36.6	71	63.4	112	100.0
計 (人)	171		269		440	

表 I - 50 続き Q7-13 「経済的理由で就労時間が増えた分、子どもとの時間が減った」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	-	-	-	-	-	-
有職・育休中	1	0.6	177	99.4	178	100.0
有職・就業中	5	4.5	107	95.5	112	100.0
計 (人)	6		284		290	

※Q8 有意差検定は「とてもあてはまる」「ややあてはまる」と「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」を各1つ計2つのカテゴリーに集約して 3×2 のクロス分析を行い、有意差の見られたものについて残差分析を実施した。

表 I - 51

Q8-1 自分が感染したら困るという不安がある	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
とてもあてはまる	125	83.3	140	78.7	85	75.9
ややあてはまる	23	15.3	35	19.7	25	22.3
あまりあてはまらない	1	0.7	3	1.7	1	0.9
全くあてはまらない	1	0.7	0	0.0	1	0.9
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I - 52

Q8-2 子どもについてイライラしてしまう**	無職		有職・育休中*		有職・就業中*	
	人	%	人	%	人	%
とてもあてはまる	22	14.7	14	7.9	11	9.8
ややあてはまる	57	38.0	57	32.0	59	52.7
あまりあてはまらない	49	32.7	69	38.8	27	24.1
全くあてはまらない	22	14.7	38	21.3	15	13.4
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

**は $\chi^2=14.708$ df=1 p<.01

残差分析(5%水準): 「とても・ややあてはまる」が「有職・育休中」は有意に少なく、「有職・就業中」は有意に多い
「あまり・全くあてはまらない」が「有職・育休中」は有意に多く、「有職・就業中」は有意に少ない

表 I - 52 続き Q8-2 「子どもについてイライラしてしまう」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	79	52.7	71	47.3	150	100.0
有職・育休中	71	39.9	107	60.1	178	100.0
有職・就業者	70	62.5	42	37.5	112	100.0
計 (人)	220		220		440	

表 I - 53

Q8-3 家族・親族に対してイライラしてしまう	無職		有職・育休中		有職・就業者	
	人	%	人	%	人	%
とてもあてはまる	26	17.3	24	13.5	13	11.6
ややあてはまる	68	45.3	83	46.6	64	57.1
あまりあてはまらない	44	29.3	50	28.1	29	25.9
全くあてはまらない	12	8.0	21	11.8	6	5.4
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I - 54

Q8-4 親子だけの時間に息が詰まる	無職		有職・育休中		有職・就業者	
	人	%	人	%	人	%
とてもあてはまる	28	18.7	71	39.9	12	10.7
ややあてはまる	59	39.3	60	33.7	41	36.6
あまりあてはまらない	43	28.7	28	15.7	39	34.8
全くあてはまらない	20	13.3	19	10.7	20	17.9
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I - 55

Q8-5 親として未熟で子どもに申し訳ない気持ち	無職		有職・育休中		有職・就業者	
	人	%	人	%	人	%
とてもあてはまる	45	30.0	29	16.3	25	22.3
ややあてはまる	55	36.7	77	43.3	48	42.9
あまりあてはまらない	36	24.0	53	29.8	30	26.8
全くあてはまらない	14	9.3	19	10.7	9	8.0
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I - 56

Q8-6 社会からの孤立感がある**	無職*		有職・育休中		有職・就業者*	
	人	%	人	%	人	%
とてもあてはまる	39	26.0	29	16.3	5	4.5
ややあてはまる	57	38.0	76	42.7	31	27.7
あまりあてはまらない	42	28.0	51	28.7	42	37.5
全くあてはまらない	12	8.0	22	12.4	34	30.4
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

**は $\chi^2=29.346$ df=1 p<.01

残差分析(5%水準)：「とても・ややあてはまる」が「無職」は有意に多く、「有職・就業者」は有意に少ない
「あまり・全くあてはまらない」が「無職」は有意に低く、「有職・就業者」は有意に多い

表 I - 56 続き Q8-6 「社会からの孤立感がある」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	96	64.0	54	36.0	150	100.0
有職・育休中	105	59.0	73	41.0	178	100.0
有職・就業者	36	32.1	76	67.9	112	100.0
計 (人)	237		203		440	

表 I - 57

Q8-7 子育てに不安がいっぱい	無職		有職・育休中		有職・就業者	
	人	%	人	%	人	%
とてもあてはまる	27	18.0	27	15.2	16	14.3
ややあてはまる	62	41.3	70	39.3	33	29.5
あまりあてはまらない	47	31.3	69	38.8	50	44.6
全くあてはまらない	14	9.3	12	6.7	13	11.6
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I - 58

Q8-8 子どもへの関わり方（遊び方、しつけ方、世話の仕方など）に自信が持てない	無職		有職・育休中		有職・就業者	
	人	%	人	%	人	%
とてもあてはまる	32	21.3	24	13.5	16	14.3
ややあてはまる	68	45.3	84	47.2	47	42.0
あまりあてはまらない	39	26.0	63	35.4	41	36.6
全くあてはまらない	11	7.3	7	3.9	8	7.1
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I - 59

Q8-9 他の親子と交流できず寂しい**	無職		有職・育休中*		有職・就業者*	
	人	%	人	%	人	%
とてもあてはまる	49	32.7	56	31.5	27	24.1
ややあてはまる	53	35.3	81	45.5	39	34.8
あまりあてはまらない	32	21.3	33	18.5	26	23.2
全くあてはまらない	16	10.7	8	4.5	20	17.9
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

**は $\chi^2=10.703$ df=1 p<.01

残差分析(5%水準)：「とても・ややあてはまる」が「有職・育休中」は有意に多く、「有職・就業者」は有意に少ない
「あまり・全くあてはまらない」が「有職・育休中」は有意に低く、「有職・就業者」は有意に多い

表 I - 59 続き Q8-9 「他の親子と交流できず寂しい」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	102	68.0	48	32.0	150	100.0
有職・育休中	137	77.0	41	23.0	178	100.0
有職・就業中	66	58.9	46	41.1	112	100.0
計 (人)	305		135		440	

表 I - 60

Q8-10 疲れて何もする気になれない	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
とてもあてはまる	13	8.7	10	5.6	11	9.8
ややあてはまる	56	37.3	56	31.5	44	39.3
あまりあてはまらない	55	36.7	75	42.1	33	29.5
全くあてはまらない	26	17.3	37	20.8	24	21.4
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I - 61

Q8-11 子育てが楽しめていない	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
とてもあてはまる	7	4.7	2	1.1	0	0.0
ややあてはまる	29	19.3	29	16.3	20	17.9
あまりあてはまらない	60	40.0	81	45.5	55	49.1
全くあてはまらない	54	36.0	66	37.1	37	33.0
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I - 62

Q8-12 子どもがかわいいと思えない	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
とてもあてはまる	2	1.3	2	1.1	0	0.0
ややあてはまる	4	2.7	2	1.1	4	3.6
あまりあてはまらない	29	19.3	31	17.4	23	20.5
全くあてはまらない	115	76.7	143	80.3	85	75.9
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I - 63

Q8-13 意味もなく涙が出る時がある	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
とてもあてはまる	6	4.0	4	2.2	2	1.8
ややあてはまる	24	16.0	16	9.0	15	13.4
あまりあてはまらない	25	16.7	46	25.8	24	21.4
全くあてはまらない	95	63.3	112	62.9	71	63.4
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I -64

Q8-14 わが子の成長・発達が気になる	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
とてもあてはまる	20	13.3	22	12.4	20	17.9
ややあてはまる	59	39.3	73	41.0	37	33.0
あまりあてはまらない	42	28.0	57	32.0	34	30.4
全くあてはまらない	29	19.3	26	14.6	21	18.8
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I -65

Q8-15 就労や経済面の不安がある	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
とてもあてはまる	29	19.3	28	15.7	24	21.4
ややあてはまる	53	35.3	64	36.0	39	34.8
あまりあてはまらない	41	27.3	60	33.7	34	30.4
全くあてはまらない	27	18.0	26	14.6	15	13.4
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

※Q9 有意差検定は「とても頼りになる」「頼りになる」と「あまり頼りにならない」「全く頼りにならない」を各1つ計2つのカテゴリーに集約して3×2のクロス分析を行い、有意差の見られたものについて残差分析を実施した。

表 I -66

Q9-1 配偶者、パートナー	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
とても頼りになる	51	34.0	47	26.4	40	35.7
頼りになる	62	41.3	94	52.8	48	42.9
あまり頼りにならない	28	18.7	30	16.9	19	17.0
全く頼りにならない	3	2.0	4	2.2	3	2.7
関わりを持てる機会がない	6	4.0	3	1.7	2	1.8
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I -67

Q9-2 配偶者、パートナー以外の親族	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
とても頼りになる	47	31.3	42	23.6	33	29.5
頼りになる	62	41.3	101	56.7	46	41.1
あまり頼りにならない	28	18.7	23	12.9	20	17.9
全く頼りにならない	3	2.0	4	2.2	4	3.6
関わりを持てる機会がない	10	6.7	8	4.5	9	8.0
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I - 68

Q9-3 隣近所の人、地域の知人、友人**	無職		有職・育休中*		有職・就業中*	
	人	%	人	%	人	%
とても頼りになる	13	8.7	17	9.6	4	3.6
頼りになる	61	40.7	78	43.8	41	36.6
あまり頼りにならない	28	18.7	22	12.4	39	34.8
全く頼りにならない	4	2.7	8	4.5	2	1.8
関わりを持てる機会がない	44	29.3	53	29.8	26	23.2
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

**は $\chi^2=13.403$ df=1 p<.01

残差分析(5%水準)：「とても・頼りになる」が、「有職・育休中」は有意に多く、「有職・就業中」は有意に少ない

「全く・あまり頼りにならない」が、「有職・育休中」は有意に少なく、「有職・就業中」は有意に多い

表 I - 68続き Q9-3「隣近所の人、地域の知人、友人」に関するクロス分布結果

	頼りになる		頼りにならない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	74	69.8	32	30.2	106	100.0
有職・育休中	95	76.0	30	24.0	125	100.0
有職・就業中	45	52.3	41	47.7	86	100.0
計(人)	214		103		317	

表 I - 69

Q9-4 職場の同僚や上司†	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
とても頼りになる	1	0.7	3	1.7	7	6.3
頼りになる	5	3.3	38	21.3	45	40.2
あまり頼りにならない	6	4.0	41	23.0	30	26.8
全く頼りにならない	5	3.3	16	9.0	12	10.7
関わりを持てる機会がない	1	0.7	80	44.9	18	16.1
総計	18	12.0	178	100.0	112	100.0

†は $\chi^2=2.973$ df=1 p<.10

残差分析：有意差なし

表 I - 69続き Q9-4「職場の同僚や上司」に関するクロス分布結果

	頼りになる		頼りにならない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	6	35.3	11	64.7	17	100.0
有職・育休中	41	41.8	57	58.2	98	100.0
有職・就業中	52	55.3	42	44.7	94	100.0
計(人)	99		110		209	

表 I - 70

Q9-5 保育園、保育所、こども園の保護者仲間	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
とても頼りになる	10	6.7	8	4.5	9	8.0
頼りになる	25	16.7	24	13.5	38	33.9
あまり頼りにならない	7	4.7	10	5.6	14	12.5
全く頼りにならない	3	2.0	0	0.0	0	0.0
関わりを持てる機会がない	105	70.0	136	76.4	51	45.5
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I - 71

Q9-6 子育てサークルの仲間	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
とても頼りになる	12	8.0	1	0.6	6	5.4
頼りになる	30	20.0	41	23.0	16	14.3
あまり頼りにならない	16	10.7	12	6.7	10	8.9
全く頼りにならない	5	3.3	2	1.1	4	3.6
関わりを持てる機会がない	87	58.0	122	68.5	76	67.9
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I - 72

Q9-7 子育て支援施設（子育てひろばや児童館 など）のスタッフ**	無職		有職・育休中*		有職・就業中*	
	人	%	人	%	人	%
とても頼りになる	29	19.3	24	13.5	9	8.0
頼りになる	64	42.7	95	53.4	24	21.4
あまり頼りにならない	17	11.3	20	11.2	20	17.9
全く頼りにならない	3	2.0	0	0.0	2	1.8
関わりを持てる機会がない	37	24.7	39	21.9	57	50.9
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

**は $\chi^2=16.730$ df=1 p<.01

残差分析(5%水準)：「とても・頼りになる」が、「有職・育休中」は有意に多く、「有職・就業中」が有意に少ない
「全く・あまり頼りにならない」が、「有職・育休中」は有意に少なく、「有職・就業中」は有意に多い

表 I - 72続き Q9-7 「子育て支援施設のスタッフ」に関するクロス分布結果

	頼りになる		頼りにならない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	93	80.9	22	19.1	115	100.0
有職・育休中	119	85.6	20	14.4	139	100.0
有職・就業中	33	60.0	22	40.0	55	100.0
計(人)	245		64		309	

表 I - 73

Q9-8 保育園、保育所、こども園、託児所の職員*	無職		有職・育休中*		有職・就業中*	
	人	%	人	%	人	%
とても頼りになる	20	13.3	18	10.1	32	28.6
頼りになる	28	18.7	43	24.2	47	42.0
あまり頼りにならない	7	4.7	3	1.7	15	13.4
全く頼りにならない	1	0.7	0	0.0	1	0.9
関わりを持てる機会がない	94	62.7	114	64.0	17	15.2
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

*は $\chi^2=8.034$ df=1 p<.05

残差分析(5%水準)：「とても・頼りになる」が、「有職・育休中」はが有意に多く、「有職・就業中」が有意に少ない

「全く・あまり頼りにならない」が、「有職・育休中」は有意に少なく、「有職・就業中」は有意に多い

表 I - 73続き Q9-8「保育園、保育所、託児所の職員」に関するクロス分布結果

	頼りになる		頼りにならない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	48	72.7	18	27.3	66	100.0
有職・育休中	61	95.3	3	4.7	64	100.0
有職・就業中	79	83.2	16	16.8	95	100.0
計(人)	188		37		225	

表 I - 74

Q9-9 療育の場にいる言語聴覚士、作業療法士などのスタッフ	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
とても頼りになる	11	7.3	4	2.2	4	3.6
頼りになる	11	7.3	5	2.8	11	9.8
あまり頼りにならない	1	0.7	2	1.1	3	2.7
全く頼りにならない	0	0.0	1	0.6	0	0.0
関わりを持てる機会がない	127	84.7	166	93.3	94	83.9
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

表 I - 75

Q9-10 医師、看護師*	無職		有職・育休中		有職・就業中*	
	人	%	人	%	人	%
とても頼りになる	22	14.7	14	7.9	6	5.4
頼りになる	60	40.0	92	51.7	51	45.5
あまり頼りにならない	7	4.7	13	7.3	17	15.2
全く頼りにならない	3	2.0	1	0.6	2	1.8
関わりを持てる機会がない	58	38.7	58	32.6	36	32.1
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

*は $\chi^2=6.481$ df=1 p<.05

残差分析(5%水準)：「有職・就業中」は、「とても・頼りになる」が有意に少なく、「あまり・全く頼りにならない」が有意に多い

表 I - 75 続き Q9-10 「医師、看護師」に関するクロス分布結果

	頼りになる		頼りにならない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	82	89.1	10	10.9	92	100.0
有職・育休中	106	88.3	14	11.7	120	100.0
有職・就業者	57	75.0	19	25.0	76	100.0
計 (人)	245		43		288	

表 I - 76

Q9-11 助産師、保健師*	無職		有職・育休中*		有職・就業者	
	人	%	人	%	人	%
とても頼りになる	20	13.3	22	12.4	11	9.8
頼りになる	36	24.0	66	37.1	23	20.5
あまり頼りにならない	12	8.0	6	3.4	9	8.0
全く頼りにならない	4	2.7	3	1.7	1	0.9
関わりを持てる機会がない	78	52.0	81	45.5	68	60.7
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

*は $\chi^2=6.643$ df=1 p<.05

残差分析(5%水準): 「有職・育休中」は「とても・頼りになる」が有意に多く、「あまり・全く頼りにならない」が有意に少ない

表 I - 76 続き Q9-11 「助産師、保健師」に関するクロス分布結果

	頼りになる		頼りにならない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	56	77.8	16	22.2	72	100.0
有職・育休中	88	90.7	9	9.3	97	100.0
有職・就業者	34	77.3	10	22.7	44	100.0
計 (人)	178		35		213	

表 I - 77

Q9-12 児童相談所、役所の窓口などにいる カウンセラー (心理士), 相談員など**	無職*		有職・育休中		有職・就業者*	
	人	%	人	%	人	%
とても頼りになる	7	4.7	7	3.9	2	1.8
頼りになる	20	13.3	15	8.4	6	5.4
あまり頼りにならない	3	2.0	7	3.9	13	11.6
全く頼りにならない	8	5.3	3	1.7	6	5.4
関わりを持てる機会がない	112	74.7	146	82.0	85	75.9
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

**は $\chi^2=13.143$ df=1 p<.01

残差分析(5%水準): 「とても・頼りになる」が「無職」は有意に多く、「有職・就業者」は有意に少ない

「あまり・全く頼りにならない」が「無職」は有意に少なく、「有職・就業者」は有意に多い

表 I - 77 続き

Q9-12 「児童相談所、役所の窓口などにいるカウンセラー（心理士）、相談員など」に関するクロス分布結果

	頼りになる		頼りにならない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	27	71.1	11	28.9	38	100.0
有職・育休中	22	68.8	10	31.3	32	100.0
有職・就業中	8	29.6	19	70.4	27	100.0
計（人）	57		40		97	

表 I - 78

Q9-13 オンライン上の相談サイトや育児アプリ**	無職		有職・育休中		有職・就業中*	
	人	%	人	%	人	%
とても頼りになる	13	8.7	13	7.3	2	1.8
頼りになる	43	28.7	57	32.0	17	15.2
あまり頼りにならない	15	10.0	29	16.3	15	13.4
全く頼りにならない	3	2.0	2	1.1	6	5.4
関わりを持てる機会がない	76	50.7	77	43.3	72	64.3
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

**は $\chi^2=9.689$ df=1 p<.01

残差分析(5%水準)：「有職・就業中」は「とても・頼りになる」が有意に少なく、「あまり・全く頼りにならない」が有意に多い

表 I - 78 続き

Q9-13 「オンライン上の相談サイトや育児アプリ」に関するクロス分布結果

	頼りになる		頼りにならない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	56	75.7	18	24.3	74	100.0
有職・育休中	70	69.3	31	30.7	101	100.0
有職・就業中	19	47.5	21	52.5	40	100.0
計（人）	145		70		215	

表 I - 79

Q10 ご自身が日頃悩んでいることについて、あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
1 特に悩んでいない	21	14.0	29	16.3	24	21.4
2 子どもの病気や発育・発達が気にかかる	53	35.3	61	34.3	38	33.9
3 子どもが十分に栄養をとれているか心配である ^{†1}	63	42.0	60	33.7	32	28.6
4 育児の方法がよくわからない	19	12.7	29	16.3	14	12.5
5 子どもとの接し方に自信が持てない	38	25.3	50	28.1	22	19.6
6 子どもとの時間を十分にとれない ^{**1}	7	4.7	20	11.2	20	17.9
7 話し相手や相談相手がいない ^{**2}	47	31.3	44	24.7	16	14.3
8 仕事や自分のやりたいことが十分にできない	60	40.0	62	34.8	35	31.3
9 近所に子どもの遊び友達がいない ^{†2}	62	41.3	67	37.6	32	28.6
10 近所に子育て支援施設(子育てひろばや児童館など)がない	6	4.0	10	5.6	2	1.8
11 友達付き合いがうまくいかない	9	6.0	12	6.7	3	2.7
12 子どもが園に行きたがらない ※ χ^2 検定は実施せず	4	2.7	1	0.6	5	4.5
13 子育てに関して配偶者・パートナーの協力が少ない	22	14.7	26	14.6	14	12.5
14 配偶者・パートナーと子育ての意見が合わない	13	8.7	20	11.2	12	10.7
15 自分の子育てについて周りの見る目が気になる*	34	22.7	29	16.3	12	10.7
16 配偶者・パートナー以外に子育てを手伝う人がいない	32	21.3	30	16.9	21	18.8
17 子どもをしかりすぎているような気がする	35	23.3	30	16.9	26	23.2
18 地域の子育て支援サービスの内容などがわからない	13	8.7	13	7.3	7	6.3
19 近くに頼れる親戚や知人がいない	40	26.7	42	23.6	20	17.9
20 親の世話・介護で、育児に専念できない	0	0.0	0	0.0	0	0.0
21 子どもの入園先が見つからない	11	7.3	19	10.7	5	4.5

^{†1}は $\chi^2=5.370$ df=1 p<.10

残差分析(5%水準)：「無職」は「あてはまる」が有意に多く、「あてはまらない」が有意に少ない

^{**1}は $\chi^2=11.790$ df=1 p<.01

残差分析(5%水準)：「あてはまる」が「無職」は有意に少なく、「有職・就業中」は有意に多い

「あてはまらない」が「無職」は有意に多く、「有職・就業中」は有意に少ない

^{**2}は $\chi^2=10.152$ df=1 p<.01

残差分析(5%水準)：「あてはまる」が「無職」は有意に多く、「有職・就業中」は有意に少ない

「あてはまらない」が「無職」は有意に少なく、「有職・就業中」は有意に多い

^{†2}は $\chi^2=4.643$ df=1 p<.10

残差分析(5%水準)：「有職・就業中」は「あてはまる」が有意に少なく、「あてはまらない」が有意に多い

※「あてはまる」の回答者が極めて少なく、「無職」および「有職・育休中」は、調査時点において「子ども園に通わせていない」ために選択することがなかったと推察される。これに対し「有職・就業中」は「子ども園に通わせている」ものの、行きたがらないと回答したのは5名に過ぎず、行きたがらない子はほとんどいないと示唆される。以上から χ^2 検定は実施しなかった。

*は $\chi^2=6.598$ df=1 p<.05

残差分析(5%水準)：「あてはまる」が「無職」は有意に多く、「有職・就業中」は有意に少ない

「あてはまらない」が「無職」は有意に少なく、「有職・就業中」は有意に多い

表Ⅰ-79続き Q10-3「子どもが十分に栄養をとれているか心配である」に関するクロス分析結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	63	42.0	87	58.0	150	100.0
有職・育休中	60	33.7	118	66.3	178	100.0
有職・就業中	32	28.6	80	71.4	112	100.0
計(人)	155		285		440	

表Ⅰ-79続き Q10-6「子どもとの時間を十分にとれない」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	7	4.7	143	95.3	150	100.0
有職・育休中	20	11.2	158	88.8	178	100.0
有職・就業中	20	17.9	92	82.1	112	100.0
計(人)	47		393		440	

表Ⅰ-79続き Q10-7「話し相手や相談相手がいない」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	47	31.3	103	68.7	150	100.0
有職・育休中	44	24.7	134	75.3	178	100.0
有職・就業中	16	14.3	96	85.7	112	100.0
計(人)	107		333		440	

表Ⅰ-79続き Q10-9「近所に子どもの遊び友達がいない」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	62	41.3	88	58.7	150	100.0
有職・育休中	67	37.6	111	62.4	178	100.0
有職・就業中	32	28.6	80	71.4	112	100.0
計(人)	161		279		440	

表 I - 79 続き Q10-15 「自分の子育てについての周りの目が気になる」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	34	22.7	116	77.3	150	100.0
有職・育休中	29	16.3	149	83.7	178	100.0
有職・就業者	12	10.7	100	89.3	112	100.0
計 (人)	75		365		440	

表 I - 80

Q12 ご自身の子育て環境や仕事との両立について、あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)	無職		有職・育休中		有職・就業者	
	人	%	人	%	人	%
1 ワンオペ育児(育児負担に偏りがある状態)になっている*1	88	58.7	94	52.8	46	41.1
2 土地勘がない*2	43	28.7	39	21.9	17	15.2
3 子育て支援施設(子育てひろばや児童館など)が近くにない	9	6.0	8	4.5	6	5.4
4 子育て仲間がない、つぐれない	58	38.7	58	32.6	35	31.3
5 近くに頼れる親戚や知人がいない	52	34.7	48	27.0	30	26.8
6 自分が病気になると子どもの面倒をみる人がいない	52	34.7	55	30.9	33	29.5
7 親・兄弟姉妹の世話や介護をしている	1	0.7	2	1.1	3	2.7
8 子どもの入園先が見つからない*3	12	8.0	25	14.0	6	5.4
9 急な残業が入ってしまう	0	0.0	14	7.9	15	13.4
10 仕事について家族の理解が得られない	1	0.7	5	2.8	3	2.7
11 子育てについて職場の理解が得られない	0	0.0	13	7.3	4	3.6

*1は $\chi^2=8.069$ df=1 p<.05

残差分析(5%水準): 「あてはまる」が「無職」は有意に多く、「有職・就業者」は有意に少ない
「あてはまらない」が「無職」は有意に少なく、「有職・就業者」は有意に多い

*2は $\chi^2=6.705$ df=1 p<.05

残差分析(5%水準): 「あてはまる」が「無職」は有意に多く、「有職・就業者」は有意に少ない
「あてはまらない」が「無職」は有意に少なく、「有職・就業者」は有意に多い

*3は $\chi^2=6.696$ df=1 p<.05

残差分析(5%水準): 「有職・育休中」は「あてはまる」が有意に多く、「あてはまらない」が有意に少ない

表 I - 80 続き Q12-1 「ワンオペ育児になっている」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	88	58.7	62	41.3	150	100.0
有職・育休中	94	52.8	84	47.2	178	100.0
有職・就業者	46	41.1	66	58.9	112	100.0
計 (人)	228		212		440	

表 I - 80 続き Q12-2 「土地勘がない」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	43	28.7	107	71.3	150	100.0
有職・育休中	39	21.9	139	78.1	178	100.0
有職・就業者	17	15.2	95	84.8	112	100.0
計 (人)	99		341		440	

表 I - 80 続き Q12-8 「子どもの入園先が見つからない」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	12	8.0	138	92.0	150	100.0
有職・育休中	25	14.0	153	86.0	178	100.0
有職・就業者	6	5.4	106	94.6	112	100.0
計 (人)	43		397		440	

表 I - 81

Q13 アプリやオンラインの子育て支援サービスで、利用したことがあるものをすべてお選びください。(いくつでも)	無職		有職・育休中		有職・就業者	
	人	%	人	%	人	%
1 アプリやオンラインで利用したことがない	46	30.7	29	16.3	24	21.4
2 予防接種スケジュール**1	74	49.3	24	13.5	24	21.4
3 ママ友探し	12	8.0	3	1.7	3	2.7
4 育児記録**2	61	40.7	17	9.6	17	15.2
5 オンライン保育	2	1.3	0	0.0	0	0.0
6 オンライン交流会	13	8.7	4	2.2	4	3.6
7 離乳食に関する相談・講座など	28	18.7	8	4.5	8	7.1
8 育児に関する相談・講座など	24	16.0	6	3.4	6	5.4
9 医療に関する相談・講座など	10	6.7	4	2.2	4	3.6

**1は $\chi^2=55.183$ df=1 p<.01

残差分析(5%水準): 「あてはまる」が「無職」は有意に多く、「有職・育休中」は有意に少ない

「あてはまらない」が「無職」は有意に少なく、「有職・育休中」は有意に多い

**2は $\chi^2=50.205$ df=1 p<.01

残差分析(5%水準): 「あてはまる」が「無職」は有意に多く、「有職・育休中」は有意に少ない

「あてはまらない」が「無職」は有意に少なく、「有職・育休中」は有意に多い

表 I - 81 続き Q13-2 「予防接種スケジュール」に関するクロス分布結果

	利用あり		利用なし		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	74	49.3	76	50.7	150	100.0
有職・育休中	24	13.5	154	86.5	178	100.0
有職・就業者	24	21.4	88	78.6	112	100.0
計 (人)	122		318		440	

表 I - 81 続き Q13-4 「育児記録」に関するクロス分布結果

	利用あり		利用なし		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	61	40.7	89	59.3	150	100.0
有職・育休中	17	9.6	161	90.4	178	100.0
有職・就業中	17	15.2	95	84.8	112	100.0
計 (人)	95		345		440	

※Q14 有意差検定は「そう思わない」「あまりそう思わない」と「そう思う」「全く思わない」を各1つ計2つのカテゴリーに集約して3×2のクロス分析を行い、有意差の見られたものについて残差分析を実施した。

表 I - 82

Q14 今後、アプリやオンラインの子育て支援サービスや交流が充実すれば、子育てひろばや児童館など、親子同士で対面できる場や機会は必要なくなると思いますか。*	無職		有職・育休中*		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
そう思わない	90	60.0	107	60.1	55	49.1
あまりそう思わない	56	37.3	64	36.0	47	42.0
そう思う	1	0.7	6	3.4	7	6.3
とてもそう思う	3	2.0	1	0.6	3	2.7
総計	150	100.0	178	100.0	112	100.0

*は $\chi^2=5.996$ df=1 $p<.05$

残差分析(5%水準): 「有職・育休中」は「あてはまらない」が有意に多く、「あてはまる」が有意に少ない

表 I - 82 続き Q14 「対面の場はいらなくなると思うか」に関するクロス分布結果

	思わない		思う		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	146	97.3	4	2.7	150	100.0
有職・育休中	171	96.1	7	3.9	178	100.0
有職・就業中	102	91.1	10	8.9	112	100.0
計 (人)	419		21		440	

表 I - 83

Q17 自治体の「新生児訪問指導」や「こんにちはあかちゃん事業」などの家庭訪問について、あなたのお気持ちとしてあてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
1 全ての母子に必要な制度だと思う	92	61.3	113	63.5	61	54.5
2 ハガキなど紙面の申込みが面倒	26	17.3	25	14.0	24	21.4
3 訪問してもらえてありがたかった*1	104	69.3	120	67.4	60	53.6
4 オンライン対応にして欲しい	10	6.7	7	3.9	5	4.5
5 希望していないのに家に来られるのは不快*2	7	4.7	2	1.1	8	7.1
6 絵本や子育て支援の情報をもたらえて良かった**1	47	31.3	82	46.1	45	40.2
7 話したいが感染対策で会うのに抵抗がある	21	14.0	28	15.7	12	10.7
8 虐待を疑われているのではと不安になる	7	4.7	6	3.4	7	6.3
9 もっとゆっくり話を聞いて欲しかった	14	9.3	13	7.3	7	6.3
10 自分にはあまり必要だと思わなかった	5	3.3	10	5.6	9	8.0
11 相談したいことがある時に来て欲しい†	45	30.0	38	21.3	37	33.0
12 知人や家族と身近な人や、近所の人に訪問されると気疲れする	10	6.7	5	2.8	7	6.3

*1は $\chi^2=8.037$ df=1 p<.05

残差分析(5%水準)：「有職・就業中」は「あてはまる」が有意に少なく、「あてはまらない」が有意に多い

*2は $\chi^2=7.101$ df=1 p<.05

残差分析(5%水準)：「あてはまる」が「有職・育休中」は有意に少なく、「有職・就業中」は有意に多い
「あてはまらない」が「有職・育休中」は有意に多く、「有職・就業中」は有意に少ない

**1は $\chi^2=7.417$ df=1 p<.05

残差分析(5%水準)：「あてはまる」が「無職」は有意に少なく、「有職・育休中」は有意に多い
「あてはまらない」が「無職」は有意に多く、「有職・育休中」は有意に少ない

†は $\chi^2=5.588$ df=1 p<.10

残差分析(5%水準)：「有職・育休中」は「あてはまる」が有意に少なく、「あてはまらない」が有意に多い

表 I - 83続き Q17-3「訪問してもらえてありがたかった」に関するクロス分布結

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	104	69.3	46	30.7	150	100.0
有職・育休中	120	67.4	58	32.6	178	100.0
有職・就業中	60	53.6	52	46.4	112	100.0
計(人)	284		156		440	

表 I - 83続き Q17-5「希望していないのに家に来られるのは不快」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	7	4.7	143	95.3	150	100.0
有職・育休中	2	1.1	176	98.9	178	100.0
有職・就業中	8	7.1	104	92.9	112	100.0
計(人)	17		423		440	

表 I - 83 続き Q17-6 「絵本や子育て支援の情報をもらえてよかった」に関する
クロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	47	31.3	103	68.7	150	100.0
有職・育休中	82	46.1	96	53.9	178	100.0
有職・就業中	45	40.2	67	59.8	112	100.0
計 (人)	174		266		440	

表 I - 83 続き Q17-11 「相談があるときに来てほしい」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	45	30.0	105	70.0	150	100.0
有職・育休中	38	21.3	140	78.7	178	100.0
有職・就業中	37	33.0	75	67.0	112	100.0
計 (人)	120		320		440	

表 I - 84

Q18 「こんなあかちゃん訪問なら希望したいな」と思うものをすべてお選びください。(いくつでも)	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
1 自分が選んだ絵本を1冊もらえる*1	97	64.7	139	78.1	76	67.9
2 おむつの配布をしてくれる	94	62.7	125	70.2	74	66.1
3 産後ケアの割引クーポンがもらえる**	57	38.0	102	57.3	56	50.0
4 自分の来て欲しい月齢のタイミングで来てくれる	68	45.3	75	42.1	45	40.2
5 妊娠期にお世話になった助産師さんが訪問してくれる	52	34.7	59	33.1	40	35.7
6 妊娠期にお世話になった保健センターの保健師さんが訪問してくれる	22	14.7	21	11.8	20	17.9
7 妊娠期にお世話になった地域の子育て相談員さんが訪問してくれる	15	10.0	19	10.7	19	17.0
8 母乳ケアや相談にのってもらえる専門家(助産師)が訪問してくれる*2	63	42.0	100	56.2	53	47.3
9 子どもの関わり方(遊び方)を教えてもらえる	66	44.0	97	54.5	51	45.5
10 あかちゃんとお出かけできる場所(遊び場など)を教えてもらえる*3	58	38.7	93	52.2	47	42.0
11 ちょっとしたあかちゃんのことを聞いてもらえる・教えてくれる	72	48.0	105	59.0	60	53.6
12 大人と話したいので、ゆっくり話しのできる人が訪問してくれる	48	32.0	49	27.5	31	27.7
13 親自身の心と身体について話し合える人が訪問してくれる	45	30.0	53	29.8	32	28.6
14 かかりつけ医(小児科)について教えてもらえる	43	28.7	54	30.3	30	26.8
15 地域で提供されている子育て支援について教えてもらえる†	64	42.7	98	55.1	51	45.5

*1は $\chi^2=7.789$ df=1 p<.05

残差分析(5%水準): 「あてはまる」が「無職」は有意に少なく、「有職・育休中」は有意に多い

「あてはまらない」が「無職」は有意に多く、「有職・育休中」は有意に少ない

**は $\chi^2=12.217$ df=1 p<.01

残差分析(5%水準): 「あてはまる」が「無職」は有意に少なく、「有職・育休中」は有意に多い

「あてはまらない」が「無職」は有意に多く、「有職・育休中」は有意に少ない

*2は $\chi^2=6.737$ df=1 p<.05

残差分析(5%水準): 「あてはまる」が「無職」は有意に少なく、「有職・育休中」は有意に多い

「あてはまらない」が「無職」は有意に多く、「有職・育休中」は有意に少ない

*3は $\chi^2=6.625$ df=1 p<.05

残差分析(5%水準): 「有職・育休中」は「あてはまる」が有意に多く、「あてはまらない」が有意に少ない

†は $\chi^2=5.550$ df=1 p<.10

残差分析(5%水準): 「有職・育休中」は「あてはまる」が有意に多く、「あてはまらない」が有意に少ない

表 I - 84 続き Q18-1 「自分が選んだ絵本を1冊もらえる」に関するクロス分布結果

	希望する		希望しない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	97	64.7	53	35.3	150	100.0
有職・育休中	139	78.1	39	21.9	178	100.0
有職・就業中	76	67.9	36	32.1	112	100.0
計(人)	312		128		440	

表Ⅰ-84続き Q18-3「産後ケアの割引クーポンがもらえる」に関するクロス分布

	希望する		希望しない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	57	38.0	93	62.0	150	100.0
有職・育休中	102	57.3	76	42.7	178	100.0
有職・就業中	56	50.0	56	50.0	112	100.0
計(人)	215		225		440	

表Ⅰ-84続き Q18-8「母乳ケアや相談にのってくれる専門家(助産師)が訪問してくれる」に関するクロス分布結果

	希望する		希望しない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	63	42.0	87	58.0	150	100.0
有職・育休中	100	56.2	78	43.8	178	100.0
有職・就業中	53	47.3	59	52.7	112	100.0
計(人)	216		224		440	

表Ⅰ-84続き Q18-10「赤ちゃんと出かけられる場所を教えてもらえる」に関するクロス分布結果

	希望する		希望しない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	58	38.7	92	61.3	150	100.0
有職・育休中	93	52.2	85	47.8	178	100.0
有職・就業中	47	42.0	65	58.0	112	100.0
計(人)	198		242		440	

表Ⅰ-84続き Q18-15「地域提供されている子育て支援について教えてもらえる」に関するクロス分布結果

	希望する		希望しない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	64	42.7	86	57.3	150	100.0
有職・育休中	98	55.1	80	44.9	178	100.0
有職・就業中	51	45.5	61	54.5	112	100.0
計(人)	213		227		440	

表 I - 85

Q19 これから出産を迎える妊婦さんに、最も勧めたいことを 2つお選びください。	無職		有職・育児中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
1 産前に産後に育児の相談ができる人を見つけておく	52	34.7	68	38.2	43	38.4
2 あかちゃんが産まれたら出かけられない所へ遊びに行く	75	50.0	77	43.3	48	42.9
3 家族にも育児休暇を取るようお願いする	23	15.3	37	20.8	22	19.6
4 妊娠中の写真を撮っておく	21	14.0	35	19.7	20	17.9
5 いざという時に頼れる人やサービスを見つけておく	58	38.7	55	30.9	44	39.3
6 家の片づけや掃除をしておく	40	26.7	46	25.8	21	18.8
7 退院後の産後ケアを考えておく	25	16.7	30	16.9	18	16.1
8 アプリで近くのママ友を作っておく	1	0.7	1	0.6	2	1.8

表 I - 86

Q20 子育て支援について、あなたの自治体にもっと力を入れてほしいと思うものをすべてお選びください。	無職		有職・育休中		有職・就業中	
	人	%	人	%	人	%
1子どもだけで安心して遊べる場所づくりをしてほしい ^{*1}	64	42.7	66	37.1	56	50.0
2子育てひろばや児童館など、親子が安心して集まれる身近な場や機会を増やしてほしい	71	47.3	102	57.3	56	50.0
3親子で楽しめる文化事業（観劇や音楽会）を充実させてほしい	61	40.7	86	48.3	54	48.2
4認可保育所をもっと整備して子どもの受け入れを増やしてほしい**1	51	34.0	89	50.0	40	35.7
5幼稚園や保育所にかかる費用負担を軽減してほしい**2	66	44.0	109	61.2	64	57.1
6公立幼稚園も3年保育を実施してほしい**3	55	36.7	33	18.5	17	15.2
7専業主婦など誰でも利用できる保育サービスがほしい**4	109	72.7	37	20.8	36	32.1
8安心して子どもが医療機関にかかる体制を整備してほしい	27	18.0	33	18.5	31	27.7
9乳幼児医療費の助成制度をもっと充実してほしい	37	24.7	48	27.0	33	29.5
10支援が必要な子どもの保育を充実してほしい	20	13.3	26	14.6	22	19.6
11企業に対して職場環境の改善（残業時間の短縮や休暇の取得促進など）を働きかけてほしい	36	24.0	58	32.6	29	25.9
12育児休業・介護休暇の取得促進などを企業に対して働きかけてほしい*1	30	20.0	62	34.8	29	25.9
13再就職についての支援を充実してほしい**5	46	30.7	16	9.0	16	14.3
14子育てサークル・サロンへの支援をしてほしい	27	18.0	40	22.5	21	18.8
15子育てについて学べる機会を充実してほしい*2	41	27.3	67	37.6	31	27.7
16多子世帯への公営住宅優先入居や広い部屋の割り当てなど住環境面での配慮がほしい	10	6.7	13	7.3	13	11.6
17公園や歩道の整備をしてほしい	63	42.0	78	43.8	50	44.6
18児童手当をもっと充実してほしい	61	40.7	88	49.4	53	47.3
19家事支援サービスを整備してほしい	39	26.0	42	23.6	30	26.8

*1は $\chi^2=4.718$ df=1 p<.10

残差分析：有意差なし

**1は $\chi^2=10.298$ df=1 p<.01

残差分析(5%水準)：「あてはまる」が「無職」は有意に少なく、「有職・育休中」は有意に多い

「あてはまらない」が「無職」は有意に多く、「有職・育休中」は有意に少ない

**2は $\chi^2=10.229$ df=1 p<.01

残差分析(5%水準)：「あてはまる」が「無職」は有意に少なく、「有職・育休中」は有意に多い

「あてはまらない」が「無職」は有意に多く、「有職・育休中」は有意に少ない

**3は $\chi^2=20.962$ df=1 p<.01

残差分析(5%水準)：「あてはまる」が「無職」は有意に多く、「有職・育休中」「有職・就業中」は有意に少ない

「あてはまらない」が「無職」は有意に少なく、「有職・育休中」「有職・就業中」は有意に多い

**4は $\chi^2=95.601$ df=1 p<.01

残差分析(5%水準)：「あてはまる」が「無職」は有意に多く、「有職・育休中」「有職・就業中」は有意に少ない

「あてはまらない」が「無職」は有意に少なく、「有職・育休中」「有職・就業中」は有意に多い

*1は $\chi^2=9.176$ df=1 p<.05

残差分析(5%水準)：「あてはまる」が「無職」は有意に少なく、「有職・育休中」は有意に多い

「あてはまらない」が「無職」は有意に多く、「有職・育休中」は有意に少ない

**5は $\chi^2=27.449$ df=1 p<.01

残差分析(5%水準)：「あてはまる」が「無職」は有意に多く、「有職・育休中」は有意に少ない

「あてはまらない」が「無職」は有意に少なく、「有職・育休中」は有意に多い

*2は $\chi^2=5.066$ df=1 p<.10

残差分析(5%水準)：「有職・育休中」は「あてはまる」が有意に多く、「あてはまらない」が有意に少ない

表Ⅰ－86続き Q20－1「子どもだけで安心して遊べる場所づくり」に関するクロス分布結果

	そう思う		そう思わない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	64	42.7	86	57.3	150	100.0
有職・育休中	66	37.1	112	62.9	178	100.0
有職・就業中	56	50.0	56	50.0	112	100.0
計（人）	186		254		440	

表Ⅰ－86続き Q20－4「認可保育所を整備して子どもの受け入れを増やしてほしい」に関するクロス分布結果

	そう思う		そう思わない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	51	34.0	99	66.0	150	100.0
有職・育休中	89	50.0	89	50.0	178	100.0
有職・就業中	40	35.7	72	64.3	112	100.0
計（人）	180		260		440	

表Ⅰ－86続き Q20－5「幼稚園や保育所にかかる費用負担を軽減してほしい」に関するクロス分布結果

	そう思う		そう思わない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	66	44.0	84	56.0	150	100.0
有職・育休中	109	61.2	69	38.8	178	100.0
有職・就業中	64	57.1	48	42.9	112	100.0
計（人）	239		201		440	

表Ⅰ－86続き Q20－6「公立幼稚園も3年保育を実施してほしい」に関するクロス分布結果

	そう思う		そう思わない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	55	36.7	95	63.3	150	100.0
有職・育休中	33	18.5	145	81.5	178	100.0
有職・就業中	17	15.2	95	84.8	112	100.0
計（人）	105		335		440	

表Ⅰ－86続き Q20－7「専業主婦など誰でも利用できる保育サービスがほしい」に関するクロス分布結果

	そう思う		そう思わない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	109	72.7	41	27.3	150	100.0
有職・育休中	37	20.8	141	79.2	178	100.0
有職・就業中	36	32.1	76	67.9	112	100.0
計（人）	182		258		440	

表Ⅰ－86続き Q20－12「育児休業・介護休暇の取得促進などを企業に対して働きかけてほしい」に関するクロス分布結果

	そう思う		そう思わない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	30	20.0	120	80.0	150	100.0
有職・育休中	62	34.8	116	65.2	178	100.0
有職・就業中	29	25.9	83	74.1	112	100.0
計（人）	121		319		440	

表Ⅰ－86続き Q20－13「再就職についての支援を充実してほしい」に関するクロス分布結果

	そう思う		そう思わない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	46	30.7	104	69.3	150	100.0
有職・育休中	16	9.0	162	91.0	178	100.0
有職・就業中	16	14.3	96	85.7	112	100.0
計（人）	78		362		440	

表Ⅰ－86続き Q20－15「子育てについて学べる機会を充実してほしい」に関するクロス分布結果

	そう思う		そう思わない		計	
	人	%	人	%	人	%
無職	41	27.3	109	72.7	150	100.0
有職・育休中	67	37.6	111	62.4	178	100.0
有職・就業中	31	27.7	81	72.3	112	100.0
計（人）	139		301		440	

調査Ⅰ 保護者の「人口密度」別によるクロス集計結果

※単一選択の場合は、総計欄があるが、複数選択可の場合は総計欄はない

表Ⅰ－87

Q1 ご回答される方	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
母親	53	96.4	49	96.1
父親	2	3.6	2	3.9
総計	55	100.0	51	100.0

表Ⅰ－88

Q2 年代	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
20代	16	29.1	11	21.6
30代	30	54.5	33	64.7
40代	9	16.4	7	13.7
総計	55	100.0	51	100.0

表Ⅰ－89

Q3 差し障りなければ、あてはまる項目をすべてお選びください。	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
共働きである	35	63.6	36	70.6
ひとり親である	0	0.0	0	0.0
外国籍である	0	0.0	1	2.0
今の自治体に転入して1カ月以内である	1	1.8	0	0.0
現在、産前産後8週間以内である	3	5.5	1	2.0
多胎児（双子、三つ子など）の子どもがいる*	9	16.4	1	2.0
低体重で生まれた子どもがいる	6	10.9	2	3.9
発達が気になる子どもがいる	2	3.6	3	5.9
医療ケアの必要な子どもがいる	0	0.0	0	0.0
該当なし	11	20.0	12	23.5

*はFisher's Exact Test（両側検定） $p=0.0168$ ($p<.05$)

表Ⅰ－89続き Q3「多胎児の子どもがいる」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
阪神南	9	16.4	46	83.6	55	100.0
但馬・丹波・淡路・北播磨	1	2.0	50	98.0	51	100.0
計（人）	10		96		106	

表 I -90

Q4-1 仕事	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
会社員・派遣社員・契約社員・公務員	27	49.1	25	49.0
専門職・技術職	3	5.5	5	9.8
パート・アルバイト	9	16.4	6	11.8
自営業・自由業・家族従業員	2	3.6	3	5.9
内職	0	0.0	0	0.0
無職	13	23.6	12	23.5
その他	1	1.8	0	0.0

表 I -91

Q4-2 勤務状況（あてはまるものすべて）	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
該当なし	15	27.3	14	27.5
育休中	26	47.3	28	54.9
1日7時間以上（フルタイム）勤務	6	10.9	5	9.8
1日7時間未満（時短）勤務	6	10.9	2	3.9
在宅ワーク	2	3.6	3	5.9
週5日以上	4	7.3	1	2.0
週4日以内	4	7.3	2	3.9
その他	1	1.8	1	2.0

表 I - 92

Q7 コロナ禍において、お子さまとどのように過ごされていますか。(いくつでも)	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
1 コロナ禍前とあまり生活は変わらない	2	3.6	6	11.8
2 以前よりも家族で過ごす時間が増えた	26	47.3	15	29.4
3 なるべく外出を控えて自宅で過ごしている	32	58.2	36	70.6
4 なるべく同居家族以外の人と会ったり遊んだりしないように過ごしている	23	41.8	19	37.3
5 実家へ帰省するのをできるだけ控えている	19	34.5	17	33.3
6 祖父母など離れて暮らす親族とはLINEなどSNSを利用しオンラインで交流を図るようにしている *	29	52.7	13	25.5
7 子育てひろばや児童館など子育て支援施設の利用を控えている	14	25.5	10	19.6
8 親子で散歩や運動を心がけて過ごしている	25	45.5	19	37.3
9 公園など屋外では他の親子と遊んでいる	15	27.3	11	21.6
10 オンラインの親子交流会を利用している	2	3.6	2	3.9
11 ママ友、パパ友など地域の知人とはLINEなどSNSを利用しオンラインで交流を図るようにしている **	10	18.2	0	0.0
12 自主的に登園を控えることもある	4	7.3	3	5.9
13 経済的理由で就労時間が増えた分、子どもとの時間が減った	0	0.0	1	2.0

* は $\chi^2=7.107$ df=1 p<.05

**はFisher's Exact Test (両側検定) p=0.0013 (p<.01)

表 I - 92 続き

Q7-6「祖父母などとはLINEなどオンラインを利用して交流」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
阪神南	29	52.7	26	47.3	55	100.0
但馬・丹波・淡路・北播磨	13	25.5	38	74.5	51	100.0
計 (人)	42		64		106	

表 I - 92 続き

Q7-11「ママ友パパ友など地域の知人とはLINEなどオンラインを利用して交流」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
阪神南	10	18.2	45	81.8	55	100.0
但馬・丹波・淡路・北播磨	0	0.0	51	100.0	51	100.0
計 (人)	10		96		106	

表 I -93

Q8-1 自分が感染したら困るという不安がある	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とてもあてはまる	46	83.6	34	66.7
ややあてはまる	9	16.4	16	31.4
あまりあてはまらない	0	0.0	1	2.0
全くあてはまらない	0	0.0	0	0.0
総計	55	100.0	51	100.0

表 I -94

Q8-2 子どもについイライラしてしまう	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とてもあてはまる	5	9.1	7	13.7
ややあてはまる	21	38.2	24	47.1
あまりあてはまらない	18	32.7	15	29.4
全くあてはまらない	11	20.0	5	9.8
総計	55	100.0	51	100.0

表 I -95

Q8-3 家族・親族に対してイライラしてしまう	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とてもあてはまる	7	12.7	9	17.6
ややあてはまる	27	49.1	26	51.0
あまりあてはまらない	17	30.9	11	21.6
全くあてはまらない	4	7.3	5	9.8
総計	55	100.0	51	100.0

表 I -96

Q8-4 親子だけの時間に息が詰まる	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とてもあてはまる	5	9.1	7	13.7
ややあてはまる	26	47.3	19	37.3
あまりあてはまらない	14	25.5	15	29.4
全くあてはまらない	10	18.2	10	19.6
総計	55	100.0	51	100.0

表 I -97

Q8-5 親として未熟で子どもに申し訳ない気持ち	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とてもあてはまる	10	18.2	9	17.6
ややあてはまる	24	43.6	24	47.1
あまりあてはまらない	10	18.2	15	29.4
全くあてはまらない	11	20.0	3	5.9
総計	55	100.0	51	100.0

表 I -98

Q8-6 社会からの孤立感がある	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とてもあてはまる	12	21.8	7	13.7
ややあてはまる	21	38.2	23	45.1
あまりあてはまらない	12	21.8	13	25.5
全くあてはまらない	10	18.2	8	15.7
総計	55	100.0	51	100.0

表 I -99

Q8-7 子育てに不安がいっぱい	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とてもあてはまる	11	20.0	4	7.8
ややあてはまる	18	32.7	27	52.9
あまりあてはまらない	20	36.4	15	29.4
全くあてはまらない	6	10.9	5	9.8
総計	55	100.0	51	100.0

表 I -100

Q8-8 子どもへの関わり方（遊び方、しつけ方、世話の仕方など）に自信が持てない	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とてもあてはまる	8	14.5	6	11.8
ややあてはまる	26	47.3	24	47.1
あまりあてはまらない	16	29.1	19	37.3
全くあてはまらない	5	9.1	2	3.9
総計	55	100.0	51	100.0

表 I -101

Q8-9 他の親子と交流できず寂しい	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とてもあてはまる	15	27.3	10	19.6
ややあてはまる	28	50.9	21	41.2
あまりあてはまらない	7	12.7	14	27.5
全くあてはまらない	5	9.1	6	11.8
総計	55	100.0	51	100.0

表 I -102

Q8-10 疲れて何もする気になれない	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とてもあてはまる	3	5.5	5	9.8
ややあてはまる	23	41.8	14	27.5
あまりあてはまらない	18	32.7	19	37.3
全くあてはまらない	11	20.0	13	25.5
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 103

Q8-11 子育てが楽しめていない	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とてもあてはまる	1	1.8	0	0.0
ややあてはまる	10	18.2	12	23.5
あまりあてはまらない	22	40.0	18	35.3
全くあてはまらない	22	40.0	21	41.2
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 104

Q8-12 子どもがかわいと思えない	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とてもあてはまる	0	0.0	0	0.0
ややあてはまる	2	3.6	1	2.0
あまりあてはまらない	8	14.5	8	15.7
全くあてはまらない	45	81.8	42	82.4
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 105

Q8-13 意味もなく涙が出る時がある	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とてもあてはまる	1	1.8	0	0.0
ややあてはまる	11	20.0	4	7.8
あまりあてはまらない	14	25.5	10	19.6
全くあてはまらない	29	52.7	37	72.5
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 106

Q8-14 わが子の成長・発達が気になる	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とてもあてはまる	5	9.1	4	7.8
ややあてはまる	16	29.1	19	37.3
あまりあてはまらない	22	40.0	18	35.3
全くあてはまらない	12	21.8	10	19.6
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 107

Q8-15 就労や経済面の不安がある	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とてもあてはまる	15	27.3	15	29.4
ややあてはまる	16	29.1	19	37.3
あまりあてはまらない	16	29.1	8	15.7
全くあてはまらない	8	14.5	9	17.6
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 108

Q9-1 配偶者、パートナー	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とても頼りになる	17	30.9	16	31.4
頼りになる	26	47.3	25	49.0
あまり頼りにならない	9	16.4	10	19.6
まったく頼りにならない	2	3.6	0	0.0
関わりを持てる機会や時間がない	1	1.8	0	0.0
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 109

Q9-2 配偶者、パートナー以外の親族	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とても頼りになる	13	23.6	16	31.4
頼りになる	29	52.7	27	52.9
あまり頼りにならない	7	12.7	5	9.8
まったく頼りにならない	2	3.6	2	3.9
関わりを持てる機会や時間がない	4	7.3	1	2.0
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 110

Q9-3 隣近所の人、地域の知人、友人	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とても頼りになる	3	5.5	4	7.8
頼りになる	20	36.4	26	51.0
あまり頼りにならない	7	12.7	9	17.6
まったく頼りにならない	3	5.5	2	3.9
関わりを持てる機会や時間がない	22	40.0	10	19.6
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 111

Q9-4 職場の同僚や上司	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とても頼りになる	0	0.0	2	3.9
頼りになる	15	27.3	8	15.7
あまり頼りにならない	9	16.4	12	23.5
まったく頼りにならない	2	3.6	4	7.8
関わりを持てる機会や時間がない	29	52.7	25	49.0
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 112

Q9-5 保育園、保育所、こども園の保護者仲間	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とても頼りになる	4	7.3	3	5.9
頼りになる	9	16.4	12	23.5
あまり頼りにならない	1	1.8	6	11.8
まったく頼りにならない	0	0.0	0	0.0
関わりを持てる機会や時間がない	41	74.5	30	58.8
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 113

Q9-6 子育てサークルの仲間	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とても頼りになる	3	5.5	3	5.9
頼りになる	10	18.2	17	33.3
あまり頼りにならない	5	9.1	10	19.6
まったく頼りにならない	1	1.8	3	5.9
関わりを持てる機会や時間がない	36	65.5	18	35.3
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 114

Q9-7 子育て支援施設（子育てひろばや児童館など）のスタッフ	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とても頼りになる	5	9.1	7	13.7
頼りになる	25	45.5	29	56.9
あまり頼りにならない	8	14.5	6	11.8
まったく頼りにならない	1	1.8	1	2.0
関わりを持てる機会や時間がない	16	29.1	8	15.7
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 115

Q9-8 保育園、保育所、こども園、託児所の職員	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とても頼りになる	6	10.9	6	11.8
頼りになる	11	20.0	17	33.3
あまり頼りにならない	3	5.5	3	5.9
まったく頼りにならない	1	1.8	1	2.0
関わりを持てる機会や時間がない	34	61.8	24	47.1
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 116

Q9-9 療育の場にいる言語聴覚士、作業療法士などのスタッフ	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とても頼りになる	1	1.8	1	2.0
頼りになる	3	5.5	7	13.7
あまり頼りにならない	0	0.0	3	5.9
まったく頼りにならない	0	0.0	0	0.0
関わりを持てる機会や時間がない	51	92.7	40	78.4
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 117

Q9-10 医師、看護師	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とても頼りになる	2	3.6	3	5.9
頼りになる	27	49.1	26	51.0
あまり頼りにならない	8	14.5	4	7.8
まったく頼りにならない	1	1.8	1	2.0
関わりを持てる機会や時間がない	17	30.9	17	33.3
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 118

Q9-11 助産師、保健師	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とても頼りになる	3	5.5	6	11.8
頼りになる	18	32.7	19	37.3
あまり頼りにならない	4	7.3	3	5.9
まったく頼りにならない	3	5.5	0	0.0
関わりを持てる機会や時間がない	27	49.1	23	45.1
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 119

Q9-12 児童相談所、役所の窓口などにいる カウンセラー（心理士）、相談員など	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とても頼りになる	0	0.0	1	2.0
頼りになる	6	10.9	7	13.7
あまり頼りにならない	3	5.5	3	5.9
まったく頼りにならない	4	7.3	2	3.9
関わりを持てる機会や時間がない	42	76.4	38	74.5
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 120

Q9-13 オンライン上の相談サイトや育児アプリ	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
とても頼りになる	5	9.1	2	3.9
頼りになる	15	27.3	17	33.3
あまり頼りにならない	9	16.4	8	15.7
まったく頼りにならない	0	0.0	1	2.0
関わりを持てる機会や時間がない	26	47.3	23	45.1
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 121

Q10 ご自身が日頃悩んでいることについて、あてはまるものを すべてお選びください。（いくつでも）	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
1 特に悩んでいない	8	14.5	7	13.7
2 子どもの病気や発育・発達が気にかかる	16	29.1	16	31.4
3 子どもが十分に栄養をとれているか心配である	20	36.4	11	21.6
4 育児の方法がよくわからない	7	12.7	9	17.6
5 子どもとの接し方に自信が持てない	11	20.0	13	25.5
6 子どもとの時間を十分にとれない	3	5.5	6	11.8
7 話し相手や相談相手がいない	16	29.1	11	21.6
8 仕事や自分のやりたいことが十分にできない	20	36.4	22	43.1
9 近所に子どもの遊び友達がいない	19	34.5	13	25.5
10 近所に子育て支援施設（子育てひろばや児童館など）がない	0	0.0	0	0.0
11 友達付き合いがうまくいかない	5	9.1	2	3.9
12 子どもが園に行きたがらない	0	0.0	2	3.9
13 子育てに関して配偶者・パートナーの協力が少ない	6	10.9	8	15.7
14 配偶者・パートナーと子育ての意見が合わない	6	10.9	8	15.7
15 自分の子育てについて周りの見目が気になる	9	16.4	8	15.7
16 配偶者・パートナー以外に子育てを手伝う人がいない	11	20.0	6	11.8
17 子どもをしかりすぎているような気がする	11	20.0	18	35.3
18 地域の子育て支援サービスの内容などがわからない	3	5.5	3	5.9
19 近くに頼れる親戚や知人がいない	12	21.8	9	17.6
20 親の世話・介護で、育児に専念できない	0	0.0	1	2.0
21 子どもの入園先が見つからない	7	12.7	6	11.8

表 I - 122

Q12 ご自身の子育て環境や仕事との両立について、あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
1 ワンオペ育児(育児負担に偏りがある状態)になっている	24	43.6	21	41.2
2 土地勘がない	18	32.7	7	13.7
3 子育て支援施設(子育てひろばや児童館など)が近くにない	0	0.0	0	0.0
4 子育て仲間がいない、つぐれない	21	38.2	12	23.5
5 近くに頼れる親戚や知人がいない* ¹	18	32.7	7	13.7
6 自分が病気になると子どもの面倒をみる人がいない [†]	21	38.2	11	21.6
7 親・兄弟姉妹の世話や介護をしている	0	0.0	2	3.9
8 子どもの入園先が見つからない	8	14.5	7	13.7
9 急な残業が入ってしまう* ²	1	1.8	7	13.7
10 仕事について家族の理解が得られない	1	1.8	0	0.0
11 子育てについて職場の理解が得られない	4	7.3	2	3.9

*¹は $\chi^2=4.300$ df=1 p<.05[†]は $\chi^2=2.722$ df=1 p<.10*²は Fisher's Exact Test (両側検定) p=0.0273 (p<.05)

表 I - 122続き Q12-5「近くに頼れる親戚や知人がいない」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
阪神南	18	32.7	37	67.3	55	100.0
但馬・丹波・淡路・北播磨	7	13.7	44	86.3	51	100.0
計(人)	25		81		106	

表 I - 122続き

Q12-6「自分が病気になると子どもの面倒をみる人がいない」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
阪神南	21	38.2	34	61.8	55	100.0
但馬・丹波・淡路・北播磨	11	21.6	40	78.4	51	100.0
計(人)	32		74		106	

表 I - 122続き Q12-9「急な残業がはいつてしまう」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
阪神南	1	1.8	54	98.2	55	100.0
但馬・丹波・淡路・北播磨	7	13.7	44	86.3	51	100.0
計(人)	8		98		106	

表 I - 123

Q13 アプリやオンラインの子育て支援サービスで、利用したことがあるものをすべてお選びください。(いくつでも)	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
1 アプリやオンラインで利用したことがない	13	23.6	19	37.3
2 予防接種スケジュール	21	38.2	24	47.1
3 ママ友探し	6	10.9	3	5.9
4 育児記録†	29	52.7	17	33.3
5 オンライン保育	1	1.8	0	0.0
6 オンライン交流会	5	9.1	4	7.8
7 離乳食に関する相談・講座など	12	21.8	8	15.7
8 育児に関する相談・講座など	13	23.6	6	11.8
9 医療に関する相談・講座など	6	10.9	4	7.8

†は $\chi^2=3.301$ df=1 p<.10

表 I - 123続き Q12-4「育児記録」に関するクロス分布結果

	利用あり		利用なし		計	
	人	%	人	%	人	%
阪神南	29	52.7	26	47.3	55	100.0
但馬・丹波・淡路・北播磨	17	33.3	34	66.7	51	100.0
計(人)	46		60		106	

表 I - 124

Q14 今後、アプリやオンラインの子育て支援サービスや交流が充実すれば、子育てひろばや児童館など、親子同士で対面できる場や機会は必要なくなると思いますか。	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
そう思わない	35	63.6	24	47.1
あまりそう思わない	18	32.7	24	47.1
そう思う	1	1.8	2	3.9
とてもそう思う	1	1.8	1	2.0
総計	55	100.0	51	100.0

表 I - 125

Q17 自治体の「新生児訪問指導」や「こんにちはあかちゃん事業」などの家庭訪問について、あなたのお気持ちとしてあてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
1 全ての母子に必要な制度だと思う	8	14.5	7	13.7
2 ハガキなど紙面の申込みが面倒	16	29.1	16	31.4
3 訪問してもらえてありがたかった	20	36.4	11	21.6
4 オンライン対応にして欲しい	7	12.7	9	17.6
5 希望していないのに家に来られるのは不快	11	20.0	13	25.5
6 絵本や子育て支援の情報をもらえて良かった	3	5.5	6	11.8
7 話したいが感染対策で会うのに抵抗がある	16	29.1	11	21.6
8 虐待を疑われているのではと不安になる	20	36.4	22	43.1
9 もっとゆっくり話を聞いて欲しかった	19	34.5	13	25.5
10 自分にはあまり必要だと思わなかった	0	0.0	0	0.0
11 相談したいことがある時に来て欲しい	5	9.1	2	3.9
12 知人や家族と身近な人や、近所の人に訪問されると気疲れする	0	0.0	2	3.9

表 I - 126

Q18 「こんなあかちゃん訪問なら希望したいな」と思うものをすべてお選びください。(いくつでも)	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
1 自分が選んだ絵本を1冊もらえる	40	72.7	40	78.4
2 おむつの配布をしてくれる	38	69.1	38	74.5
3 産後ケアの割引クーポンがもらえる	24	43.6	24	47.1
4 自分の来て欲しい月齢のタイミングで来てくれる	27	49.1	17	33.3
5 妊娠期にお世話になった助産師さんが訪問してくれる	15	27.3	16	31.4
6 妊娠期にお世話になった保健センターの保健師さんが訪問してくれる	6	10.9	7	13.7
7 妊娠期にお世話になった地域の子育て相談員さんが訪問してくれる	5	9.1	6	11.8
8 母乳ケアや相談にのってもらえる専門家(助産師)が訪問してくれる[†]	22	40.0	31	60.8
9 子どもの関わり方(遊び方)を教えてもらえる	23	41.8	20	39.2
10 あかちゃんとお出かけできる場所(遊び場など)を教えてもらえる	25	45.5	18	35.3
11 ちょっとしたあかちゃんのことを聞いてもらえる・教えてくれる	30	54.5	24	47.1
12 大人と話したいので、ゆっくり話しのできる人が訪問してくれる	16	29.1	9	17.6
13 親自身の心と身体について話し合える人が訪問してくれる	10	18.2	13	25.5
14 かかりつけ医(小児科)について教えてもらえる	15	27.3	11	21.6
15 地域で提供されている子育て支援について教えてもらえる	25	45.5	27	52.9

[†]は $\chi^2=3.779$ df=1 p<.10

表 I - 126続き

Q18-8「母乳ケアや相談にのってもらえる専門家(助産師)が訪問してくれる」に関するクロス分布結果

	希望する		希望しない		計	
	人	%	人	%	人	%
阪神南	22	40.0	33	60.0	55	100.0
但馬・丹波・淡路・北播磨	31	60.8	20	39.2	51	100.0
計(人)	53		53		106	

表 I -127

Q19 これから出産を迎える妊婦さんに、最も勧めたいことを2つ お選びください。	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
1 産前に産後に育児の相談ができる人を見つけておく	22	40.0	18	35.3
2 あかちゃんが産まれたら出かけられない所へ遊びに行く	28	50.9	20	39.2
3 家族にも育児休暇を取るようお願いする	12	21.8	7	13.7
4 妊娠中の写真を撮っておく	7	12.7	9	17.6
5 いざという時に頼れる人やサービスを見つけておく	20	36.4	18	35.3
6 家の片づけや掃除をしておく	12	21.8	17	33.3
7 退院後の産後ケアを考えておく	6	10.9	12	23.5
8 アプリで近くのママ友を作っておく	1	1.8	1	2.0

表 I -128

Q20 子育て支援について、あなたの自治体にもっと力を入れてほしいと思うものをすべてお選びください。	阪神南		但馬・丹波・淡路・北播磨	
	人	%	人	%
1 子どもだけで安心して遊べる場所づくりをしてほしい	22	40.0	15	29.4
2 子育てひろばや児童館など、親子が安心して集まれる身近な場や機会を増やしてほしい*1	30	54.5	16	31.4
3 親子で楽しめる文化事業（観劇や音楽会）を充実させてほしい	17	30.9	20	39.2
4 認可保育所をもっと整備して子どもの受け入れを増やしてほしい*2	25	45.5	12	23.5
5 幼稚園や保育所にかかる費用負担を軽減してほしい	32	58.2	23	45.1
6 公立幼稚園も3年保育を実施してほしい	13	23.6	13	25.5
7 専業主婦など誰でも利用できる保育サービスがほしい	23	41.8	19	37.3
8 安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備してほしい	13	23.6	7	13.7
9 乳幼児医療費の助成制度をもっと充実してほしい	18	32.7	18	35.3
10 支援が必要な子どもの保育を充実してほしい	9	16.4	7	13.7
11 企業に対して職場環境の改善（残業時間の短縮や休暇の取得促進など）を働きかけてほしい	12	21.8	10	19.6
12 育児休業・介護休暇の取得促進などを企業に対して働きかけてほしい	11	20.0	15	29.4
13 再就職についての支援を充実してほしい	9	16.4	13	25.5
14 子育てサークル・サロンへの支援をしてほしい	11	20.0	8	15.7
15 子育てについて学べる機会を充実してほしい	10	18.2	17	33.3
16 多子世帯への公営住宅優先入居や広い部屋の割り当てなど住環境面での配慮がほしい	8	14.5	4	7.8
17 公園や歩道の整備をしてほしい	20	36.4	19	37.3
18 児童手当をもっと充実してほしい	23	41.8	28	54.9
19 家事支援サービスを整備してほしい	13	23.6	13	25.5

*1は $\chi^2=4.880$ df=1 p<.05*2は $\chi^2=4.675$ df=1 p<.05

表 I -128続き

Q20-2「子育てひろばや児童館など、親子が安心して集まれる身近な場や機会を増やしてほしい」に関するクロス分布結果

	希望する		希望しない		計	
	人	%	人	%	人	%
阪神南	30	54.5	25	45.5	55	100.0
但馬・丹波・淡路・北播磨	16	31.4	35	68.6	51	100.0
計（人）	46		60		106	

表 1 - 128 続き

Q20-4 「認可保育所をもっと整備して子どもの受け入れを増やしてほしい」に関するク
 分布結果

	希望する		希望しない		計	
	人	%	人	%	人	%
阪神南	25	45.5	30	54.5	55	100.0
但馬・丹波・淡路・北播磨	12	23.5	39	76.5	51	100.0
計 (人)	37		69		106	

調査Ⅱ「地域子育て支援拠点事業所」及び「利用者支援事業所(基本型)」を対象とする調査
の基礎集計結果

※単一選択の場合は、総計欄があるが、複数選択可の場合は総計欄はない。

※Q5「事業の開始年月」については、回答に「事業」と「事業所」の開始年月が混在していたため集計結果から除いた。

表Ⅱ－1

Q1 事業所(複合施設を含む)		箇所
地域子育て支援拠点		94
利用者支援事業所(基本型)		20
複 合 施 設	地域子育て支援拠点	31
	利用者支援事業所(基本型)	
総数		145

表Ⅱ－2

Q3 運営主体	
自治体直営	76
社会福祉協議会	31
社会福祉法人	14
NPO法人	13
学校法人	8
任意団体	2
その他	4

重複回答：3施設

表Ⅱ-3

Q4 実施場所	
公共施設・公民館	54
児童館	39
単独施設	18
保育所	13
空き店舗・商業施設	11
認定こども園	10
民家・マンションなど	4
幼稚園	2
その他	7

表Ⅱ-4

Q6 総利用者数	人	平均	2018年比%
2018	1,680,956	14,876	-
2019	1,492,626	13,209	88.8
2020	738,298	6,534	43.9

3年分すべての利用者数について回答のあった事業所113ヵ所

表Ⅱ-5

Q7 総開室日	日	平均	2018年比%
2018	34,567	270	-
2019	31,485	246	91.1
2020	28,840	225	83.4

3年分すべての利用者数について回答のあった事業所128ヵ所

表Ⅱ-6

Q8 曜日別の開室施設										回答
	月	火	水	木	金	土	日	祝	休日	施設数
2018	93	124	126	127	128	86	24	15	125	131
2019	95	125	127	128	127	85	26	16	127	133
2020	100	131	132	133	131	88	26	16	130	140

無回答：2018年14施設、2019年12施設 2020年5施設

表Ⅱ-7

Q9 相談件数	総件数	平均	2018年比%
2018	23,269	271	-
2019	20,789	242	89.3
2020	18,562	216	79.8

3年分すべての利用者数について回答のあった事業所86ヵ所

表Ⅱ-8

Q10 連携数	総件数	平均	相談件数比%
2018	2,475	29	10.6
2019	2,200	26	10.6
2020	1,811	21	9.8

3年分すべての利用者数について回答のあった事業所86ヵ所

表Ⅱ-9

表右欄「各年度の相談内容1位（降順）」は、コロナ禍以降3年度分について、各施設が「1位」とした「相談内容」を8分類にそって多かった順に示したものである

Q11-1 相談内容「1位」の推移（自由記述を8分類した結果／数値は施設数）							
4年分のデータが揃っている98施設	1位				各年度の相談内容1位（降順）		
	2018	2019	2020	2021	2019	2020	2021
食事・生活習慣	52	49	55	46	食事 生活習慣	食事 生活習慣	食事 生活習慣
しつけ・関わり方	35	34	39	33	しつけ 関わり方	しつけ 関わり方	しつけ 関わり方
子どもの発達・行動	15	20	13	16	子どもの 発達・行動	子どもの 発達・行動	子どもの 発達・行動
就園・一時保育	12	10	11	9	就園 一時保育	就園 一時保育	親自身の 不安・問題
親自身の不安・問題	6	5	4	10	親自身の 不安・問題	家族 人間関係	就園 一時保育
健康・医療	4	3	3	7	家族 人間関係	親自身の 不安・問題	健康・医療
家族・人間関係	4	4	6	6	健康・医療	健康・医療	家族 人間関係
その他※	6	10	8	9			

※子育てに関する情報、環境、専門家、登校園しぶり

表Ⅱ-10

表右欄「各年度の相談内容 2 位（降順）」は、コロナ禍以降 3 年度分について、各施設が「2 位」とした「相談内容」を 8 分類にそって多かった順に示したものである

Q11-2 相談内容「2位」の推移（自由記述を8分類した結果／数値は施設数）							
4年分のデータが揃っている85施設	2位				各年度の相談内容2位（降順）		
	2018	2019	2020	2021	2019	2020	2021
子どもの発達・行動	33	26	25	29	食事生活習慣	食事生活習慣	子どもの発達・行動
食事・生活習慣	25	28	23	26	子どもの発達・行動	子どもの発達・行動	食事生活習慣
しつけ・関わり方	15	11	13	11	健康・医療	健康・医療	しつけ関わり方
健康・医療	11	13	10	8	しつけ関わり方	しつけ関わり方	就園一時保育
就園・一時保育	5	7	9	9	就園一時保育	就園一時保育	健康・医療
家族・人間関係	3	3	5	5	親自身の不安・問題	親自身の不安・問題	家族人間関係
親自身の不安・問題	4	6	5	3	家族人間関係	家族人間関係	親自身の不安・問題
その他※	3	9	7	5			

※子育てに関する情報、環境、専門家、登校園しぶり

表Ⅱ－11

表右欄「各年度の相談内容3位（降順）」は、コロナ禍以降3年度分について、各施設が「3位」とした「相談内容」を8分類にそって多かった順に示したものである

4年分のデータが揃っている76施設	3位				各年度の相談内容3位（降順）		
	2018	2019	2020	2021	2019	2020	2021
子どもの発達・行動	22	13	30	25	食事生活習慣	子どもの発達・行動	子どもの発達・行動
食事・生活習慣	15	20	14	13	就園一時保育	食事生活習慣	食事生活習慣
親自身の不安・問題	10	6	6	8	子どもの発達・行動	家族人間関係	家族人間関係
就園・一時保育	10	14	4	9	しつけ関わり方	健康・医療	就園一時保育
家族・人間関係	11	9	9	11	家族人間関係	親自身の不安・問題	親自身の不安・問題
しつけ・関わり方	7	11	3	7	親自身の不安・問題	就園一時保育	しつけ関わり方
健康・医療	4	3	8	4	健康・医療	しつけ関わり方	健康・医療
その他※	5	2	7	6			

※子育てに関する情報、環境、専門家、登校園しぶり

表Ⅱ－12

地域子育て支援拠点事業	138
利用者支援事業（基本型）	56
放課後児童健全育成事業	40
一時預かり事業	26
子育て援助活動支援事業 （ファミリー・サポート・センター事業）	19
養育支援訪問事業	7
乳児家庭全戸訪問事業	6
子育て短期支援事業（日帰り型）	4
子育て短期支援事業（宿泊型）	4
病児保育事業	4
その他	6
該当なし	0
無回答	0

※同じ敷地内、隣接する建物など

表Ⅱ-13

Q15 コロナ禍になって以降の相談形態についてあてはまるものすべて		無回答施設を除いた割合(%)
対面	134	95.0
電話	109	77.3
メール	23	16.3
オンライン	12	8.5
その他	1	0.7
無回答	4	-

表Ⅱ-14

Q16 コロナ禍になって以降、取り入れた施設の受け入れ態勢についてあてはまるものすべて		無回答施設を除いた割合(%)
人数制限	129	90.2
時間制限	87	60.8
予約制	79	55.2
入れ替え制	54	37.8
その他	15	10.5
該当なし	11	7.7
無回答	2	-

表Ⅱ－15

Q17 2021年9月までにおける全ての拠点・事業所事業の実施状況			
	継続	休止	工夫して継続
親子の交流事業	59	22	125
子育て相談	91	6	61
情報提供	87	6	45
講習会	28	20	68
利用者支援(基本型)	31	2	40
地域連携	31	18	51

Q17 事業実施における工夫（自由記述を13分類）	
人数制限	189
予約制	114
マスク・検温・消毒・手洗い・換気	59
ソーシャルディスタンス	45
HP・YouTube・Zoom・SNSの活用	41
時間制限	40
電話・メール	38
情報提供	28
工作キット・情報誌・などの配布	23
場所	21
利用者の登録	15
措置下や感染状況による休止	14
飲食禁止・発声制限	6
地域への出張	4
同意書	1

表Ⅱ-16

Q18 コロナ禍になって以降に行った支援提供の工夫について 最も手ごたえを感じているもの		%
オンライン	15	10.3
非対面型アウトリーチ	2	1.4
その他 [※]	82	56.6
無回答	49	33.8

3施設が重複回答

※その他（自由記述で多かった項目を抜粋）	
開所・事業継続	27
メール・情報誌などによる アウトリーチ	13
感染対策	12
電話・対面相談	8
利用登録・予約制度	6
電話訪問	6
その他	他機関との連携や情報共有 一時預かり、積極的な声掛け 動画やSNSの利用

表Ⅱ-17

Q19 コロナ禍以降の新規利用者はどの年齢層が最も多いか	
生後6カ月未満	7
生後6カ月以上～1歳未満	75
1歳以上～2歳未満	49
2歳以上～3歳未満	9
3歳以上	4
無回答	8

5施設が複数回答

表Ⅱ－18

Q20 コロナ禍以降、拠点または事業所として最も利用者から必要とされていると思われること(自由記述を6分類)		無回答施設を除いた割合 (%)
子どもと安心して遊べる居場所	85	64.4
交流	47	35.6
安全・感染対策	35	26.5
相談	28	21.2
子育てに関する情報	5	3.8
その他*	7	5.3
無回答	13	-

※母親に対する支援・孤立化解消、妊娠期からの孤立化予防、施設の交通至便性、園所や子育て情報の提供

調査Ⅲ「地域子育て支援拠点事業」「利用者支援事業（基本型）」職員への基礎集計結果

※単一選択の場合は、総計欄があるが、複数選択可の場合は総計欄はない。

表Ⅲ-1

回答者の所属	人	%
地域子育て支援拠点	246	84.0
利用者支援事業（基本型）	21	7.2
不明	26	8.9
総計	293	100.0

表Ⅲ-2

Q1 性別	人	%
女性	283	96.6
男性	8	2.7
不明	2	0.7
総計	293	100.0

表Ⅲ-3

Q2 年代	人	%
20代	3	1.0
30代	21	7.2
40代	81	27.6
50代	111	37.9
60代	70	23.9
70代以上	5	1.7
無回答	2	0.7
総計	293	100.0

表Ⅲ-4

Q4 勤続年数（平均）	8.0	年
-------------	-----	---

1年未満は切り捨て

表Ⅲ-5

Q6 コロナ禍になって以降（2020年4月以降）の子育ての悩みや子育てに関する相談内容の変化	人	%
変化を感じている	166	56.7
変化を感じていない	103	35.2
無回答	24	8.2
総計	293	100.0

表Ⅲ-6

Q9 コロナ禍前と比べて、変わったと感じている親の様子（あてはまるものすべて）	人	%
1 孤立している親が増えた	124	42.3
2 子育てに不安のある親が増えた	117	39.9
3 子どもとの関わり方がわからない親が増えた	77	26.3
4 自分の気持ちを話す親が増えた	77	26.3
5 外出自粛などにより変化した家庭生活や家族との関係にストレスを抱える親が増えた	190	64.8
6 経済的に困窮している家庭が増えた	17	5.8
7 感染症対策で他の親子と距離を取っていると思われる親が増えた	131	44.7
8 親自身が問題を抱えていることが増えた（精神疾患、病気、介護、家族との関係など）	38	13.0
9 子供の発達を気にする親が増えた	85	29.0
10 保育所（園）、幼稚園などにスムーズに入所・入園できるかが心配	77	26.3
11 その他	29	9.9
無回答	34	11.6

表Ⅲ-6 続き その他（Q9）自由記述抜粋

子ども園での参観の機会がコロナでなくなり、園に対する不安が多い。
義母との関係の悩みや同居のストレスなど、話すとすっきりしている。
子どもが小さいためか余計に感染が気になる方や親子ひろばの人数制限もあってか以前より新規利用者が少なくなったと感じる。
一人目、三人目の出産を見送り。
同年代の子どもと関わりたい。検診で言葉の遅れを指摘され他の子と関わりが少な

<p>かったのかなと心配する人が多い。</p>
<p>「疲れた」「しんどい」という方が増えたように思う。気分的なものもあると思うが、体力不足のお母さんが増えたような感じがする。</p>
<p>マスク着用により親子ともに表情が読み取りにくくなっている。 → 変化が読み取りにくくなっている。特に、コロナ後の新会員さんはマスク着用でしか面会していないので、元々どういう表情なのかが分からない。</p>
<p>子育ての悩みは多様なネット情報から得ることが多く、相談をするより、親子で遊ぶ場所やママ友を求めている。遊びの場に来る子どもの低年齢化している</p>
<p>外出やイベントに参加する機会が減少したことで、以前より参加したい意欲を感じる。</p>
<p>祖父母に会うことや、祖父母からの支援を受けることができなかつたり、自粛することで子育ての孤立化がみられた。ほかの親子と集うことができなくなり、その姿をみて自分もこれでいいと思う機会がなくなり、漠然とした不安感を話されることが多かった。健診、講座、集いがなくなり、情報を対面で得る場がなくなり、そういう交流の場で解決するささいな育児の悩みや情報の解消がなく、育児に振り回される様子がみられた。</p>
<p>事業の利用者は、マスクの着用、検温、健康確認を理解し、ルールを守って利用されている。</p>
<p>あまり大きく感じないが少し「それっぽい」という感じがうかがえる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる大きな変化は感じられない。 ・子育てになやみはつきもので、行事や定員の縮小はあっても開設しているので多少のストレスはあると思うが、変化を見受けられない。 ・遊びに行ける場所がなくて困っている方は多いが、親にあまり変化はみられない。

表Ⅲ－7

Q10 コロナ禍前と比べて、変わったと感じている子どもの様子(あてはまるものすべて)	人	%
1 発達の気になる子どもが増えた	58	19.8
2 他児、他者との関わりが難しい子が増えている	85	29.0
3 虐待やネグレクトが疑われる子が増えた	11	3.8
4 親からの関わりに不安のある子どもが増えている	40	13.7
5 その他	37	12.6
無回答	136	46.4

表Ⅲ－7 続き (Q10) 各項目を選んだ理由自由記述抜粋

【Q10-1】

<ul style="list-style-type: none"> ・親子だけで過ごす時間が長く、子どもの発達を促す関わりを知らない。 ・8か月を過ぎておすわりができなくても焦らない親も見かける。 ・7か月になっても寝返りをしない。10か月になってもお座りができない。 ・ずりばいを促すように親がしない。 ・外に出る機会が減り、他の子の成長をあまり見ないので自分の子どもの日々の成長に関心をもっていない親もいる。 ・他の子との関わりも減り、親も他の親との交流も減っているから、親の関わりや経験が少ないから発達がゆっくりになっているのかと思う。 ・経験不足による成長のおくれ。
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の遅れが気になる子どもが増えている。 ・発語が少ない、不明瞭。 ・マスクをした状態でコミュニケーションをとる中で、相手の表情も口の動きも分からないので言葉の発達の元となる想像力が身につけていない。 ・マスクで大人の表情や、口の動きが見えないので、言葉などの発達の面で影響があるのではと感じることがある。
<ul style="list-style-type: none"> ・マスクをしている人が増え、表情がない子が増えた。 ・目が合いにくく、笑顔があまりない。
<p>親から離れられない子ども。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・今までもいたが、すぐに相談できる環境が制限されていると思う。 ・健診などがおくれて、他児とくらべることも情報もなくゆっくりしている子どもが増えている。 ・家にいて母の心配がどんどん増し、発達の違いにあてはめようとする ・マスクで表情がわからないこともあり、読み取れない時があったり、発達に影響するかもしれないと不安に思う親が増えた。 ・外出が減り、運動発達が遅い、言葉が出ない、などの相談が増えた。 ・発達の気かりは、コロナ禍の影響に関係なく一定数見られる。家にこもることで不安が高まる親と気づきにくくなる親もいると思われる。 ・保健センターの健診がコロナ禍で短時間になり発達がつかみにくい。 ・病院の受診控えでチェックできない子どもが増えている。 ・お母さんからの相談が増えた。少しのことでも気になるようだ。0～1歳の親子で過ごす時間が密接であるのが要因と思われる。
<ul style="list-style-type: none"> ・在宅家族で兄弟がいる場合、下の子が乳児だと上の子に手がかかり下の子の発達が遅いと思われる子がいる。 ・マスクができず、支援施設に行きにくい子どもは親もつれていきにくく、より発達の差が出ている。
<ul style="list-style-type: none"> ・奇声を発する。 ・多動である／落ち着きがない／じっとすることができない。 ・激しい行動。(物を投げる、人をたたく、癩癩など) ・こころ、感情の起伏が大きい。 ・集団生活の経験不足による社会性の低下、場面にふさわしい行動ができない。 ・精神的に幼い幼児や児童が増加したように思われる。暴力的だったり、全く落ち着かない状況の幼児や児童も多い。 ・小学生が落ち着かない。言葉での指導が難しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を使ったコミュニケーションが低下。 ・マスクが必須になり、表情が掴めないのでコミュニケーション能力が低下したり、発達の的に問題が生じてきている様に感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びをする機会が減り体力低下の子どもが見られる。また、土踏まずがない子が増えているとも聞く。 ・体幹の弱い子がいる。 ・身体能力が年相応に満たない。
<p>家で過ごすことが多くなったためか、他児、異年齢からの刺激を受けることが少なくなっている。遊びに広がりを感じられない。</p>
<p>コロナとの関係はわからないが、「しんどいな」と感じるお子さんが多くなったと感じる。</p>

【Q10-2】

- ・他の子どもが近づいてくると怖がる。泣く。
 - ・集団の中に入れなかったり、人見知りの子どもが多くなった。
 - ・不安が強い。回数来られると徐々に慣れてくる。
 - ・大人には寄っていくが子どもには寄っていかない。
 - ・人見知りが激しく、一時預かりをことわられた。
 - ・広場で他児と一緒にいるよりも、個室でスタッフと遊んでいる方がよい子が増える。
 - ・今まで遊びに来ていた子がコロナ禍で自粛している間に再び遊びに来たとき、場所見知り
が激しくなり、なかなかなじめなくなった。
 - ・親以外とであってないせいか、新しい場所や人になじみにくい子どもが増えている。
 - ・母、父以外の人との関わりを不安がる、慣れるのに時間を要する。
 - ・他の子がいることや家でない場所に安心できない不安そうな様子。
-
- ・しゃべることがマイナスのイメージになっているのか、母も子どももコミュニケーションを取ることが負担になっている。
 - ・マスクをしていないとダメ。マスクをとるときはあまりしゃべってはいけないと先生に言われていて、思いっきり遊べているのか疑問に思う。
 - ・家族以外の人がマスクをしていることで顔の表情が分かりづらく、人見知り傾向が長引いている傾向があるように感じる。
 - ・大人がマスクを着けていることで、表情が読み取れない子が増えている。
 - ・三密を異常なほど気にしている。
-
- ・他児と遊んでいないため、関わって遊べない。
 - ・他の子どもが近づくと嫌がる。
 - ・自分以外の子どもがいると気になって遊べなくなる。
 - ・他児とどう関わったらよいか分からず、立ちすくむ。または、泣いてしまったり、大人にくっついて助けを求める。
 - ・マイペースで関わる。
 - ・「集団が苦手」「母以外の人が苦手」「変化が苦手」「いつもと違う雰囲気や環境が苦手」など。
 - ・どう行動してよいかわからない子、他者他児がいてもかまわず自分のしたいことをやり通すなど、コミュニケーションがとれない。
 - ・あそびをとおしてやりとりができない。
 - ・子ども同士のケンカが減ってきた。
 - ・他児が近寄ると泣き、一緒に遊んだり玩具の貸し借りができない／おもちゃの共有がしづらい／おもちゃの独り占め。
 - ・他の子どもの様子は見えていても、おもちゃの貸し借りがうまくできず。

<ul style="list-style-type: none"> ・他児と自分の関わり方がわからず、臆病になったり様子をさぐっていたり、また、まったく逆に距離感が近すぎることもある。 ・他児や同年齢の子どもと過ごす経験が少ない子が増えている。 ・他者との関わりが上手な子と難しいと思われる子の差が大きい。
<ul style="list-style-type: none"> ・家から出ず、ママと子どもがべったり一緒。 ・家に引きこもる期間が長く、お母さんのそばから離れず緊張した様子。 ・家族以外の人に敏感になる、人見知りの時期も関係あるかもしれないが、泣いたり、ずっと親のそばから離れられない（特に大人への）不安。
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉が出ない。 ・言葉で表現できずすぐに手が出る。 ・小学生にケンカが多い。 ・手足が出る。暴言が出る。 ・コミュニケーションの取り方に課題のある子が増えた。 ・子ども同士手がでてしまう。子どもが物事の切り替えが難しい。成長であることだが頭でわかっていても怒ってしまう。 ・自分中心で行動することが多い。 ・集団になじめない。（終わりの会に参加できない等） ・友達のあそびの邪魔をする。 ・未就園の子どもとの関わり不足のため、トラブルが多い。又、関わりに興味を持たず、ひとりあそび、観察のみという子も多い。 ・家にいる時間が増えたせいか、お片付けの時間になるとぐずったり物の貸し借りができない。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもだけでなく親同士の交流も少なくなっているため、同じ年頃の親子さんでも会話がはずまない。 ・外に出るのを控えている方も多いうように感じる。そのせいか、人と関わるのが少なくでと言われる方も多く、人になれていない方もいるように思う。 ・友だちどうしで遊べていない。保護者どうしも躊躇している。 ・母子ともに他者との関わりが取りづらいうように見受けられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・社会的関わりの減少。 ・交わる機会が減り、経験が少ない子が多い。 ・経験の場、機会が減っている。 ・親子ともに家族のみの関わりの中で過ごしていることが多く体験等が少ない。 ・毎日の生活パターンが単一になり他児、他者とのかかわりが薄くなっている。 ・公園などに気軽に遊びに行けず、他の子と遊ぶ機会が少ない。 ・他人と遊ぶことが減り、どう関わっていいのか経験が少ない。

- ・人と接することが減ったり、おもちゃの共有や会話、物の取り合いなどが少なくなり、関わり方がわからない親子が増えた。
- ・子どもどうしのやりとりなどの発達段階のときに制限されていることが多い。

兄姉妹がいない子どもは、他児との関わりが減っているのでその影響もあり、一緒に遊ぶことが難しい様子。また密接しないために一緒に遊ぶことができない現状がある。子どもそれぞれの気質もあるだろうが、「コロナのせいで」と口にする親が増えている。コロナ禍になる前から増えている。

【Q10-3】

罵声を浴びせられた、叩かれたということを知った。

親子ともにストレスがたまっていると思われる。要対協に通告した。

家で過ごす時間が増え、疲れると話す。

我が子がかawaiiと思えない親が増えた。

親が相談できる相手がおらず、連れ出しにくくもなっているため、家庭内で親子関係が煮詰まっているケースがある。

保護者同士のつきあいが希薄で、わが子ばかりを注視し、しつけのためと、たたいてしまうケースがある。

地域的に都会の真ん中に位置するので訳アリ（単身家庭等）が多く、経済的にも余裕がない。

日常生活の制約が増えたことや、夫の在宅勤務により、母親のストレスが増えたことで、子どもへの悪影響が感じられる。

遠方にある実家へ帰省できないことにより、母親のストレスがかかり、子どもにあたってしまった。

【Q10-4】

- ・母親の不安を話す人がなく、子どもに当たったり、子どもの前で本人の成長を批判するということがあり、子ども自身がその言葉を理解できるため、余計に不安となり、依存する傾向がみられた。
 - ・イヤイヤ期の対応に親が疲れ、周りとの関り不足のため子どもにつらく当たる。子の理解について共感してくれる人が周りにいない様子が伺える。
 - ・虐待までとはいかないが、遊んでいる中で、他の子どもに手をあげたりする子どもの姿を見て、その子どもも親にそのようなことを受けているのでは？と感じる。
 - ・無表情であったり、人とのかかわりに不安を表したりする子どもが増えてきているように思う。子どもが変わったというより、表情に乏しく人とのかかわりが少ない保護者が増えている影響のように感じる。
 - ・母からの声かけに無関心、無視。母が無表情、ストレスを抱えている、しんどそう
 - ・子どもを受け入れることができなかつたり、親は自身のことを優先してしまいがちになり、親子の愛着関係が薄れていると感じることが多くなった。
 - ・親も不安定でストレスを抱え、子どもと関わる余裕がない。
 - ・育児ストレスで疲れている親も多く関わりが薄い
 - ・一日中親子だけで向き合っている時間が長く、親自身はストレスを抱えていることが原因だと思う。
 - ・子どもに対しての反応があまりない。（無表情）
 - ・母と子で過ごす時間が長くなり、ストレスが大きくなり、子どもへの関わりがうまくできない親が増えたように感じる。
 - ・コロナ禍の影響かどうか判断できないが、子どもに注意はしたりするものの、一緒に遊びながら話しかけない親が増えたように感じている。
-
- ・どのように遊んであげたらよいか、関わり方がわからない。
 - ・第一子を育てている親は、他の親の様子をみる機会が減り、親自身、年齢にあった関わり方が難しくなっている。家でどのように遊んでいいのかわからないといった相談がある。
 - ・相談電話にて、何をして遊んであげればよいかわからないという内容もあり、親が笑顔になることが少なくなると子どもも笑顔が少なくなっている。
 - ・子育てひろばだけでなく、他の親子と関わる機会が減少することで、皆がどのように子どもと接しているか見る機会が少なくなり、親自身がどのようにしてよいか学ぶことが少なくなっていると思われるケースが少数だがある。
 - ・親が他児との発達や成長の違いに触れる機会が少なく、子どもへの声掛けや、接し方を知る経験が少ない。
 - ・親自身の育児への自信のなさが感じられるケースがある。
-
- ・子どもの意思より、親の思い通りに動かしたいと思われる声かけであったり。

<ul style="list-style-type: none"> ・先回りしすぎて親が子どもの動きをとめている。 ・自由に遊ぶひろばで他の親子と接近しないよう気を遣い、子どもの動きを厳しく制限される方について、ルールを守り協力的なのはとてもありがたいが、子どもにとってはもっと自由に動ける外の公園などの方が良いような気もする。
他者との交流が不足しているため、コミュニケーション不足。
保育所や幼稚園が休園となったりできるだけ自宅保育をすすめられる期間があったことや在宅勤務が多くなったこと、また出かけることも躊躇される中、自宅で子どもと過ごす時間が長くなり、そういった状況の中で子どもとの関わりがしんどくなった母親からの相談が多くあった。子ども達の様子に変化を感じるということではないが、母親の変化により子どもが何らかの影響を受けているのではないかと思われる。
家にとじこもることが多く、またリモートワークなどで家にいる時間が増えた夫との間での関係性の変化もあるのか、子どもが離れないなどの様子がうかがえる。
<ul style="list-style-type: none"> ・親の顔色をうかがっている子どもの様子が見られる。 ・保護者の期待に応えようと頑張っているが、常に顔色をうかがうのが癖になっている。 ・親に訴えても聴いてもらえず、他者に甘える。(誰でもよい)
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前はよく利用されていた方が来なくなり、家庭でどう過ごしているかなと思う ・外遊びを控えているため、センターに来る回数が減った。夏以降、足が遠のいている。
コロナへの不安から外出をせず、他の子との交流もなく、健診すら受けていない子どもがいる。
雨の日、プレイルームが休みの日は、ビデオ、YouTubeに頼っているという話をよく聞く。映像に関する話題や遊びをする子どもも多い。
「(保護者に)〇時までは、家に帰ったらダメと言われた。」など、お昼を過ぎても家に帰らない子どもや家に帰りたくない子どもがいた。
何日も同じ服を着ている(お風呂は入っているが)学校の持ち物がそろっていない。
親が持つ不安感が子どもに伝わっている。
センター内でも親子が前より密になり、細かいことまで関わりを持っている。子どもの自主性がなくならないか心配。
コロナ禍になる前から増えている。

【Q10-5】

<ul style="list-style-type: none"> ・体温測定、消毒をするのが当たり前、周りの人はマスクをしているのが当たり前になった。以前はマスクの人をこわがる子が多かったが、今はない。 ・マスクをしている人に対して怖がる子がいなくなった。
<p>保護者以外の人と接する機会がなく、子どもの人見知りの期間が長くなっている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・第一回目の緊急事態宣言中、通っている幼稚園が休園になり、我が子と日中二人きりでずっといることで母親自信が、我が子と一緒にいることに「もう無理」だと感じた。その子どもが母の絵を描いて、母親の顔に×（バツ）を描いたという母の話聞く。お互いに外出できないことでストレスが溜まっているのだと感じた。
<p>コロナに関連したことばを耳にするようになった。コロナのここまでの感染がなければ、一生知らない、使わないであろうことばを片言で話している。</p>
<p>ゆったり子育てができていないように思う。成長に焦りを感じている親が多いように思う。</p>
<p>親の戸惑いを感じる人が多いように感じる。</p>
<p>新たな人の利用が増えた。</p>
<p>子どもの様子にはあまり変化を感じていない。むしろこの先何年後かに感じるものかもしれない。</p>
<p>0～3歳の利用施設ですので、親のストレスがあり。</p>
<p>特に思わない。広場に来ている人は感じられない特に変わったとは思わない。</p>

表Ⅲ－8

Q11 コロナ禍前と比べて、子育て支援に対する親のニーズは変化していると感じるか	人	%
大いに感じる	30	10.2
感じる	140	47.8
あまり感じない	86	29.4
全く感じない	3	1.0
無回答	34	11.6
総計	293	100.0

表Ⅲ－9

Q13 コロナ禍になって以降、子育て支援情報の取得方法として親の利用が進んでいると思うもの（あてはまるものすべて）	人	%
1 電話	37	12.6
2 インターネット上のホームページやポータルサイト	212	72.4
3 スマートフォンアプリ	135	46.1
4 SNS（Facebook、Instagram、Twitter、LINE、YouTubeなど）	191	65.2
5 チラシやフリーペーパーなどの紙媒体	46	15.7
6 ZoomなどWEBによるオンライン交流事業	54	18.4
7 その他	8	2.7
無回答	21	7.2

表Ⅲ－10

Q14 ご自身で解決できない場合にどのように解決しているか（あてはまるものすべて）	人	%
1 行政と連携する	204	69.6
2 公的サービスを紹介する	184	62.8
3 民間サービスを紹介する	86	29.4
4 その他	46	15.7
無回答	13	4.4

表Ⅲ－11

Q17 オンラインや電話での支援はどのような親が利用しやすいと感じるか（あてはまるものすべて）	人	%
1 妊婦	70	23.9
2 初めて子育てする親	93	31.7
3 転出者	25	8.5
4 転入者	74	25.3
5 高齢出産した親	18	6.1
6 その他	23	7.8
無回答	165	56.3

表Ⅲ－12

Q18 オンラインや電話での支援事業に手応えはあるか	人	%
1 大いに感じる	12	4.1
2 感じる	63	21.5
3 あまり感じない	42	14.3
4 全く感じない	5	1.7
無回答	171	58.4

調査Ⅲ 支援者の「人口密度」別クロス集計結果

※単一選択の場合は、総計欄があるが、複数選択可の場合は総計欄はない。

表Ⅲ－13

ご回答される方の所属	高密度 人口密度1500人/km ² 以上 かつ70,000世帯以上の自治体		低密度 人口密度1500人/km ² 未満 または70,000世帯未満の自治体	
	人	%	人	%
地域子育て支援拠点	97	73.5	149	92.5
利用者支援事業所(基本型)	15	11.4	6	3.7
不明	20	15.2	6	3.7
総計	132	100.0	161	100.0

表Ⅲ－14

Q1 ご回答される方の性別	高密度		低密度	
	人	%	人	%
女性	124	93.9	159	98.8
男性	7	5.3	1	0.6
不明	1	0.8	1	0.6
総計	132	100.0	161	100.0

表Ⅲ－15

Q2 年代*	高密度		低密度	
	人	%	人	%
20代	2	1.5	1	0.6
30代	5	3.8	16	9.9
40代	28	21.2	53	32.9
50代	58	43.9	53	32.9
60代	34	25.8	36	22.4
70代以上	5	3.8	0	0.0
無回答	0	0.0	2	1.2
総計	132	100.0	161	100.0

*は $\chi^2=10.316$ df=3 p<.05

残差分析(5%水準)：

40歳代は「高密度」が有意に少なく「低密度」は有意に多い

50歳代は「高密度」が有意に多く、「低密度」は有意に低い

表Ⅲ－15続き Q2「年代」に関するクロス分布結果（無回答2を除く）

	20歳代～ 30歳代		40歳代		50歳代		60歳代～ 70歳代以上		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
人口密度「高」	7	5.3	28	21.2	58	43.9	39	29.5	132	100.0
人口密度「低」	17	10.7	53	33.3	53	33.3	36	22.6	159	100.0
計（人）	24		81		111		75		291	

表Ⅲ－16

Q4 勤続年数（平均）	8.3	年	7.7	年
-------------	-----	---	-----	---

1年未満は切り捨て

Ⅲ－17

Q6 コロナ禍になって以降（2020年4月以降）の 子育ての悩みや子育てに関する相談内容の変化	高密度		低密度	
	人	%	人	%
変化を感じている	76	57.6	90	55.9
変化を感じていない	49	37.1	54	33.5
無回答	7	5.3	17	10.6
総計	132	100.0	161	100.0

表Ⅲ－18

Q9 コロナ禍前と比べて、変わったと感じている親の様子 （あてはまるものすべて）	高密度		低密度	
	人	%	人	%
1 孤立している親が増えた**	64	48.5	60	37.3
2 子育てに不安のある親が増えた	56	42.4	61	37.9
3 子どもとの関わり方がわからない親が増えた	37	28.0	40	24.8
4 自分の気持ちを話す親が増えた	32	24.2	45	28.0
5 外出自粛などにより変化した家庭生活や家族との関係に ストレスを抱える親が増えた	82	62.1	108	67.1
6 経済的に困窮している家庭が増えた	10	7.6	7	4.3
7 感染症対策で他の親子と距離を取っていると思われる親が 増えた	61	46.2	70	43.5
8 親自身が問題を抱えていることが増えた（精神疾患、 病気、介護、家族との関係など）	21	15.9	17	10.6
9 子どもの発達を気にする親が増えた	40	30.3	45	28.0
10 保育所（園）、幼稚園などにスムーズに入所・入園できる かが心配	36	27.3	41	25.5
11 その他	9	6.8	20	12.4
無回答	14	10.6	20	12.4

**は $\chi^2=18.671$ df=1 p<.01

表Ⅲ-18 続き Q9-1「孤立している親が増えた」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
人口密度「高」	64	48.5	68	51.5	132	100.0
人口密度「低」	60	37.7	99	62.3	159	100.0
計 (人)	124		167		291	

表Ⅲ-19

Q10 コロナ禍前と比べて、変わったと感じている子どもの様子(あてはまるものすべて)	高密度		低密度	
	人	%	人	%
1 発達の気になる子どもが増えた	28	21.2	30	18.6
2 他児、他者との関わりが難しい子が増えている	33	25.0	52	32.3
3 虐待やネグレクトが疑われる子が増えた	3	2.3	8	5.0
4 親からの関わりに不安のある子どもが増えている	14	10.6	26	16.1
5 その他	16	12.1	21	13.0
無回答	67	50.8	69	42.9

表Ⅲ-20

Q11 コロナ禍前と比べて、子育て支援に対する親のニーズは変化していると感じるか	高密度		低密度	
	人	%	人	%
大いに感じる	14	10.6	16	9.9
感じる	59	44.7	81	50.3
あまり感じない	44	33.3	42	26.1
全く感じない	2	1.5	1	0.6
無回答	13	9.8	21	13.0
総計	132	100.0	161	100.0

表Ⅲ-21

Q13 コロナ禍になって以降、子育て支援情報の取得方法として親の利用が進んでいると思うもの(あてはまるものすべて)	高密度		低密度	
	人	%	人	%
1 電話	18	13.6	19	11.8
2 インターネット上のホームページやポータルサイト	98	74.2	114	70.8
3 スマートフォンアプリ	60	45.5	75	46.6
4 SNS (Facebook、Instagram、Twitter、LINE、YouTubeなど)	80	60.6	111	68.9
5 チラシやフリーペーパーなどの紙媒体	14	10.6	32	19.9
6 ZoomなどWEBによるオンライン交流事業**	34	25.8	20	12.4
7 その他	5	3.8	3	1.9
無回答	10	7.6	11	6.8

**は $\chi^2=20.210$ df=1 p<.01

表Ⅲ－21 続き

Q13-6 「ZoomなどWebによるオンライン交流事業」に関するクロス分布結果

	そうである		そうではない		計	
	人	%	人	%	人	%
人口密度「高」	34	25.8	98	74.2	132	100.0
人口密度「低」	20	12.6	139	87.4	159	100.0
計（人）	54		237		291	

表Ⅲ－22

Q14 ご自身で解決できない場合にどのように解決しているか (あてはまるものすべて)	高密度		低密度	
	人	%	人	%
1 行政と連携する	79	59.8	105	65.2
2 公的サービスを紹介する	44	33.3	42	26.1
3 民間サービスを紹介する	27	20.5	19	11.8
4 その他	5	3.8	8	5.0

表Ⅲ－23

Q17 オンラインや電話での支援はどのような親が利用しやすいと感じるか (あてはまるものすべて)	高密度		低密度	
	人	%	人	%
1 妊婦	35	26.5	35	21.7
2 初めて子育てする親	37	28.0	56	34.8
3 転出者	13	9.8	12	7.5
4 転入者	31	23.5	43	26.7
5 高齢出産した親	8	6.1	10	6.2
6 その他	6	4.5	17	10.6
無回答	80	60.6	85	52.8

表Ⅲ－24

Q18 オンラインや電話での支援事業に手応えはあるか	高密度		低密度	
	人	%	人	%
1 大いに感じる	6	4.5	6	3.7
2 感じる	26	19.7	37	23.0
3 あまり感じない	13	9.8	29	18.0
4 全く感じない	0	0.0	5	3.1
無回答	87	65.9	84	52.2

記述Ⅲ－１ 設問 8「コロナ禍で生じた相談内容の変化をもたらした要因は何か」

回答	165名
無回答	128名
回答率	56.3%

基本的にコロナ禍においては一とりわけ緊急事態宣言の期間では一、“外出自粛”が求められる。子育て家庭も同じように求められるため、「相談内容の変化に影響した要因は何か」に関する多くの自由記述が、この“外出できない”“外出をためらう”“自宅にこもる”などという状況を出発点にしている。また、“新型コロナウイルスに感染したくない”ということを出発点にしている回答もあるし、“子育て支援サービスが提供されていない・制限されている”ことを出発点にしている回答もあった。

具体的には、例えば、「外出制限」「巣ごもり生活による影響」というシンプルなものから、「他者と交流できない→孤立する→ストレスがたまる」、「夫が在宅勤務に変わった→仕事の邪魔にならないよう子どもを外に連れ出したい→連れ出す場所が少ない（閉まっている・人数制限をしている）ので、連れて行ける所を知りたい」などと詳細かつ因果的に説明するものまで多様な回答が見られた。また、相談内容の変化に影響した要因を尋ねているにもかかわらず、“影響を受けた結果”すなわち親子の大変な様子を（その要因とともに／要因抜きに）詳述するといった回答も見られた。

したがって、この自由記述結果を合理的に整理することは極めて困難であったが、1人で複数の内容を記述しているか否かなどを気にせず、また、類似の記述内容がいくつあったかをカウントすることもせず、要因と様子とをまとめることとした。また、新型コロナ禍とは無関係と思われる記述はこの分析では取り上げないこととした。

◆外出しない・できないことを出発点にした記述

- ・ストレスを感じる。（ストレスがたまる）
- ・他者との接触が少なくなった→親子ともに人見知り状態になっている。
- ・親が他者と話す機会・出会う機会が減った→ストレスを感じる。
- ・親が他者と話す機会・出会う機会が減った。
 - 人と話したい・かかわって欲しいという気持ちの高揚。
 - 自らスタッフに話しかけ、日頃の孤立感を吐露する。
- ・親が他者と話す機会・出会う機会が減った。→不安が募る。
 - ネットの情報に頼る。→より不安になる。
- ・気楽に話す相手・機会／相談する相手・機会が減った。
 - 孤立する。（誰かと話をしたい）
- ・他者に子育てについて相談しにくくなった。
 - これまで解決できたことができなくなる。（SNS などでは限界がある）
- ・他者に会うことができなくなった。
 - 気がかりなことがあっても（相談できず）自分だけで解決せざるを得ない。
 - 不安が増大する。
- ・従来、ママ友との交流・公園デビュー・祖母との対面で知り得た情報が得られない。
 - 不安になる→ネットからの偏った情報を得ている保護者もいる。
- ・家庭にいたことが増えた。→身近な育児の相談が簡単にできなくなった。
 - 不要不急の外出を避ける。
 - 人との接触を控える。

- 気軽に相談・雑談・気分転換がしにくい。
- ・ママ友を作る機会が減った。
- ・ママ友と会う機会が減った。→子育ての悩みを共感できる機会が減る。
- ・母親同士の交流が少なくなった。→ストレス解消の場がなくなった。
- ・保護者同士のつながりがなくなった。
 - 子育ての情報が伝達されない。
 - 子どもとどう向き合って良いか分からない家庭が増えている。
- ・自宅で子どもとだけ一緒にいることが辛くなる。
- ・家族で密に過ごすことが増えた。
 - 母親が一息つけなくなる→重荷やストレスを抱えての生活
- ・ずっと家の中で過ごすことが子どもにとって良くないのでは、と不安になる親も多い。
- ・親子だけでずっと1日家で過ごすのは無理がある。→不自由さを感じる。
- ・親は家に子ども閉じこもりがちになる。→ストレスを感じる。
- ・ステイホームとなる。→運動不足になる。→良質な睡眠が得られない。
 - ストレスがたまる。
- ・ステイホームとなる。→義父母と一緒に時間が増える。
- ・里帰り出産ができない。→ストレスになる。
- ・実家に帰れない・帰省できない。→祖父母等との直接のかかわりが断たれる。
- ・実家を頼りにくくなった。
- ・外食・公園でストレスを発散する機会や人とのかかわりが減った。
 - 無意識のうちに心のバランスを崩している。
- ・外出が減った。→家族での思い出作りも少なくなる。→ストレスがたまる。
- ・子どもを連れて出かけられなくなった。→子ども同士が遊べる機会がなくなってしまう。
- ・外出する機会が少なくなった。
 - 子どもと向き合う時間が増え。
 - (遊び方などが分からず)子どもとうまく向き合えない。(遊べない)
- ・子どもが1日中家にいる。→誰とも会話せず他者とのかかわりもない。
 - 人見知りが増える。
- ・普段遊びに行けていたところに行けなくなった。

◆子育て支援サービスなどの休止や制限を出発点にした記述

- ・親同士の交流の場が少なくなった。(≒他の親子の様子を見る・他の親子と一緒に遊ぶ機会が減った)→子育てに関して気づく・学ぶ機会が減った。
- ・親同士の交流が持てなくなった。
 - 他児の成長・発達を参考にする機会が少なくなる。
 - 自分の子育てに不安を持つ。
- ・ほかの親子との交流の機会が少なくなった。
 - 乳幼児を育てている親にとってわが子が順調に発達しているかどうかを知る。手段が限られる。
- ・交流会やサークル活動が休止となった。
 - 実際に集まることができず情報が届きにくい。
- ・児童館などの閉館→親同士の交流の場が少なくなった。
 - 親同士が情報を交換しにくくなった。
- ・子育てひろばなどの休館で親子の居場所がなくなる。

- 親も子もストレスを感じる。
- ・地域の行事・集まりが減った。→地域内での人間関係（関係性）が薄れた。
- ・各種講座に参加する機会が減った。→子育てなどについて学ぶ機会が減った。
- ・母子保健業務として提供されてきた教室が中止された。
 - 離乳食のことを学べなかったり他の母親と話す機会を逸したりする。
 - 不安な母親が増える。
- ・4か月健診時に健康センターで離乳食の話を集団で聞けなくなった。（主治医への個別相談になる）
 - 他の親子に出会う機会がなくなり「これでいいのか」と不安になる。
- ・立ち会い出産ができない。（パートナーが立ち会えない）→母親の不安が増大する。
- ・出産後の面会ができない。（実家の親等が産科施設に来れない）
- ・今まで普通に受けられていたサービスが受けられなくなった。
- ・幼稚園や小学校の休園・休校期間は、友だち関係の相談は児童館しかないと言われた。
- ・地域から発信される情報（地域密着型の情報）が届きにくくなっている。
- ・一時保育を利用できなかつたり（自分の両親や親族の子どもを預けられなかつたり）する時期があった。→保護者だけで子育てをしている家庭が増えた。

◆コロナ感染を避けたい・感染が怖いことを出発点にした記述

- ・医療機関を受診することをためらう。
- ・他者と接することになるので外出そのものが不安になる。
- ・コロナに罹らないかという心理的不安。
 - 家にいる・出かけない→親子ともにストレスを感じる。
- ・親子間のスキンシップ（乳幼児にとって特に大切）が不十分になった。
- ・感染したら周囲・近隣からどのように言われるか心配になる。
- ・マスク生活により人の表情が読み取りにくくなった。
- ・感染を恐れて外出を控える→他の親子とのつながりが持てない。
 - 子育ての情報を得られない。
- ・子育て支援の場に行くことを自ら諦める／夫から止められる。
 - ちょっとした悩みでも共有したい・聞いてほしいと思っていた人にとっては苦痛。
- ・コロナに感染して子どもの面倒を見られなくなることや家族に負担をかけることをおもんばかり、他の親子との交流や外出に慎重になっている。

◆新型コロナ禍による就業状況の不安定化・悪化を出発点にした記述

- ・産休中であつたが、職場復帰ができなくなった。
- ・家庭の収入が減少した。→悩みが増えている。
- ・夫の収入が減少した。→ストレス
- ・夫の仕事が減る・夫が失業する。→家庭内に様々な問題が生じる。
- ・夫がリモート勤務となった。→ストレス
- ・夫の在宅時間が増えた。→不満→夫婦間の関係性が悪化する。
- ・夫が在宅勤務になった。
 - 子どもをおとなしくさせる工夫や母親同士のおしゃべりの機会減でストレスを感じる。
- ・リモートワークが増加した。

- 家庭内に居場所がない夫と家事の量が増えた妻が互いにイライラをぶつけ合う
- ・夫と自宅と一緒にいる時間が増える。(リモートワークで) →夫への不満がたまる
- ・夫が在宅勤務に変わった。
 - 子どもの泣き声・声に気を遣う。(仕事の邪魔をしないように気をつける)
 - 子どもを連れだしたいが(なかなか開いている所がないので)連れ出す先が知りたい。
- ・夫が在宅勤務になりインターネットでの会議等で静かにする必要がある。
 - できるだけ子どもを外に連れ出すが、昼食も作る必要があるため、これまでよりも家事と育児の負担が増えた。
- ・経済的な問題が多く生じている可能性がある。
 - 「入所・入園」希望の相談が一貫して多いが、その中でも就労を含めて支援することが増えた。／幼稚園よりも保育所に入る相談が増えた。

◆感染・流行の長期化(緊急事態宣言・まん延防止等重点措置などのコロナ施策なども含めて)を出発点にした記述

- ・長期間の自粛、見通しの立たないこと、何が正解かが不明なことなどから生じる不安。
- ・先の見えない(社会の先行きが見えない)不安。
- ・緊急事態宣言が出る。→施設等が休みとなる。
 - 母子とも行き場がなくなりストレスを抱える。
- ・自粛生活当初(2020年度)は子どもの睡眠時間・生活習慣の相談が多かった。
 - 自粛生活が長引いた(=マスク生活が長引いた)ことで2021年度は言葉の発達の遅れの相談が増加。
- ・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置によって家にいることが多くなった。
 - 祖父母や近隣の人とのかかわりが減った。
- ・どのような感染症なのかが分からない点が多いため不安を感じている。

◆新型コロナ感染防止対策を出発点にした記述

- ・感染防止のために求められる行動や生活様式の大きな変化・人との関わりの制限。
 - 自分の課題に目を向ける機会が増える。
- ・行動の制限や人とのつながりの制限。
 - 孤立した子育て→悩みを相談する相手がない。
- ・行動の制限→不安感や負担感。
- ・人に会えない。→孤独
- ・常に人との距離を取る必要がある。
- ・子どもが他者とのかかわりを制限された。
 - 同年齢・異年齢のかかわり体験が少なくなる。
 - マイペースなかかわり。
- ・一人遊びが増加する。
- ・集団の遊び場が提供されない。→子どもの対人関係の発達が心配。
- ・県をまたぐ移動の制限→実家の親に頼れない。
- ・自粛を求められる。
 - 対面相談の相手、悩みを分かり合う相手がいなくなる。
 - 孤立感
- ・行動制限の中での育児では「したいことが十分にできてやれない」という葛藤が常にある。→ストレスにつながっている。

- ・人と人の関わりが希薄とならざるを得ない。
→子どもの育ち（成長・発達）に戸惑う保護者や集団での保育を望む保護者
- ・「三密を避ける」といった対策→孤独な育児となった。
→子育てのことを尋ねる人がいない。
- ・生活様式の変化—対人的かかわりを制限することが含まれる。—によって、子どものコミュニケーション能力や人間関係形成力の発達不全を心配する保護者がいる
- ・社会的には密を避け人と接触を控えるべき。
→しかし、子どもの育ちによって外出して人とふれあうことは必要なこと。
→この狭間にあって保護者は悩まざるを得ない。

◆その他、出発点が明確にできないものの、意味のある記述と思われるもの

- ※（日本）社会全体で共有されている不安感
- ※発語（発話）が遅れる乳幼児が多くなっている。
- ※妊娠中から出産後までの期間がコロナ禍と重なっており、子どもが生後7～8か月になって初めて子連れで外出した人も多い。
→一般的にはもっと早い時期からひろばや活動に参加するので焦りを感じる。
- ※妊娠・出産から生活全般・子育てについて、必要な支援を十分に・スムーズに受けられるかと、漠然と不安に思う保護者が増えた。
- ※子育て中の悩みや不安の内容は以前と大きく変わっていないが、悩みや不安の度合いが大きく（深く）になっている感じがする。以前は会話中の何気ない言葉や雰囲気から「悩むのは・不安なのは自分だけではない」と感じてもらいやすく悩みや不安が大きくなる前に安心し、他のことに目を向けることができていたが、今はそれができにくくなっている状況である。
- ※対面で（直接に）人に会うことに抵抗感を持つ人がでてきている。

記述Ⅲ-2 設問12「コロナ禍で親のニーズはどのように変化したか」

回答	156名
無回答	137名
回答率	53.2%

新型コロナウイルス感染症によって、外出制限・行動制限を求められるようになったせいで、あるいは、わが子も含めて自分たちが新型コロナウイルスに感染することへの不安によって、保護者が子育てにかかわって求める支援（ニーズ）が以前とどのように変わったかが十分に記述されているものに限定して整理・分類をすることとした。

例えば「子どもの発達について参考にできる子育て仲間が必要」「相談できる場所」といった記述が見られたが、これは通常するときでも見られる保護者のニーズとも解釈可能であり（外に出られなくなったから“以前にも増して”という含意があるかもしれないが）、前提となるコロナ禍のどんな側面に影響を受けているかが判断しにくいいため、整理・分類から除外することとした。

また、ニーズというよりは保護者の置かれた状況のみを記述しているもの—例えば「他者との関わりが減り、孤立している方もいると思う」なども整理・分類から除外した。さらに、ニーズの変化には「増えた・見られるようになった」ものばかりでなく「減った・みられないようになった」ものも含めることとした。

なお、【 】内はコロナ禍によってもたらされる「前提」別の記述数の合計であり、()内は類似内容の記述数（記述者数ではない）である。

◆「集団で集まったり活動したりすると感染の危険性が増す」という前提から生じるニーズの変化【14】

- ・大人数より少人数（小集団）での講座やイベント、居場所などを希望するようになった。（2）
- ・講座やイベントは希望せず、ただ安心して遊べる・過ごせる場所、他愛ない話ができる場所をより強く求めるようになった。（2）
- ・親子で参加できる季節のイベントや教室などにはできるだけ参加したいと意欲を見せる保護者が増えた。
- ・子育てサークルへの入会希望が減った。
- ・センターやひろばなどを利用する保護者が増えた（2）
- ・利用者が固定化する反面、育児不安が高じて「かけこみ寺」的利用をする保護者も増えた。
- ・蜜を避けるべきと思う反面、子どもどうして群れて遊ばせたいと思うようになった。
- ・グループ活動で交流して顔なじみを増やすというよりは、自分の好きな時間に好きな遊びを楽しむ・好きな講座を受ける傾向の人が増えた（コロナが拍車をかけた）
- ・リフレッシュが理由での一時預かりが減った。
- ・オンラインでの集まりには強いニーズはなく、望んでいるのは直接の対面による出会い・交流。
- ・ひろばなどに出かけていっても蜜を避ける必要から他の親子とかかわれず不満をもつ保護者がでてきている。

◆「以前に比べて子育て仲間と集う機会が減った」という前提から生じるニーズの変化【37】

- ・親どうしてももっと話せる場所がほしいとする保護者が増えた。
- ・これまで以上に話し相手（他者とのコミュニケーション）を求めるようになった（14）
- ・これまで以上に親子の居場所（人が集まれる場や機会）を求めるようになった（3）
- ・交流の場がなくなったことに不安を感じるようになった（3）
- ・他の親子との交流や情報交換を対面で求めるようになった。
- ・仲間が作れない・育児の悩みを共有できる仲間ができない・情報交換ができないことから、孤独・孤立を感じる（2）
- ・親同士での情報交換ができない・子育ての悩みを話せないため、不安になる保護者が多くなっている（2）
- ・孤立した子育てを余儀なくされ、これまで以上に（安心して）親同士のつながり・他者とのつながりを求める保護者が増えた（5）
- ・仲間と集う場所は相談できる場所でもあるので、以前よりも相談相手を求めるようになった（2）
- ・わが子が同じ月齢・年齢の子どもと交流する・遊べる機会が欲しいとする保護者が増えた（3）
- ・子どもの年齢・月齢が同じくらいの親同士の交流を求める保護者が増えている。

◆「子育てかかわる情報を他者から直接対面で得られなくなった」という前提から生じるニーズの変化【14】

- ・子育てにかかわる情報を SNS で発信してほしいと希望するようになった。

- ・広報誌に「親子がふれあえる広場」とあるが、実際に開設しているのかどうかが知りたい。
- ・なんとか情報交換ができる機会が得られないかと希望する保護者が増えた。
- ・育児の不安を訴えるようになった。
- ・困った時・悩んだ時・などにインターネット情報や SNS を検索するようになった (2)
- ・TV・インターネット・アプリなどといった対面ではない手段へのニーズが高まっている可能性がある。
- ・情報が入りにくくなったため、心ゆるせる友達ができなくなり、孤立を感じるようになった。
- ・今まで情報を得られていた場や機会がなくなるにより不安に思う親子が多くなった。
- ・スマートフォンなどからの情報に依存する中、保護者はわが子の成長にとって必要な関わりや体験を模索するようになった。
- ・居場所がどこにあるか・開いているかなどの情報を以前よりも求めるようになった (2)
- ・交流の機会が減り他の親子の様子が見られなくなったことで、わが子の発達の状態に関する情報やわが子と同じ月齢の子どもの発達に関する情報を求めるようになった (2)

◆「ずっと家庭内で子どもと過ごしている・過ごさざるを得ない」という前提から生じるニーズの変化【26】

- ・わが子が・家庭内でどのように親子で過ごしたらよいか知りたい (2)
- ・他児と触れ合えなくなったため、保育所への入所が必要かもしれないと考えてしまう。
- ・子どもと2人きりでいると息が詰まり、子どもを保育園に預けたい(仕事を探したい)＝保育所申込や一時預かりに関する相談が増えた。
- ・毎日(とにかく)親子で出かけられる場所・親子で楽しめる場所を探すようになった (4)
- ・以前より母親自身のリフレッシュのための事業が求められているように感じる
- ・(自分の時間が欲しくて)一時保育や託児サービスの需要が増えている (4)
- ・子どもと離れて1人で過ごせる時間が欲しい。
- ・短時間でも良いので子どもを預かって欲しい。
- ・子育てに協力してもらえる人(や場)、自分に寄り添い支えてくれる人を求める保護者が増えた。
- ・子どもと二人きりなので、つらさや孤独を感じると訴える保護者が増えた。
- ・ずっと側にいることでわが子の様子が細かく観察できるため、子どもの気になる点に関する電話相談が増えた。
- ・電話やオンラインで支援者につながれると安心できる保護者もいる。
- ・不安なことを身近に聞ける人がいないので、子育て相談などで電話をかけてくる保護者が増えた。
- ・家の中だけでは子どもの面倒を見きれず、事業を通して友達を作りたいという声が増えた。
- ・自宅以外の居場所をこれまで以上に希望する保護者が増えた。
- ・自粛生活の中で親が子どもと日中家の中で過ごすことが大半となり、親は子どもを介しての大人同士の会話の機会を欲するようになった。

- ・家庭内で過ごす時間が多くなったので、いつもと違うことがしたい（フリーマーケットやハロウィンパーティを企画したが予想以上に参加者が多かった）という保護者が増えた（2）

◆**「感染することの不安・心配」「自由に外出することがままならない（外出・行動制限）」という前提から生じるニーズの変化【42】**

- ・感染の不安から外出できない保護者であっても、心の中では交流や出会いを求めている。
- ・子どもを連れて出かける場所が少ないので（商業施設等は感染が心配なので）、感染から守られて安全に遊べる場所（居場所）やイベントを求めるようになった（15）
- ・自身の安全を確保してもらったうえで自分の不安を聞いてもらえる場が必要な保護者が増えた。
- ・子育てひろばなどに対して（安心して遊べるように）（消毒・換気などの）コロナ対策を徹底するよう求める（8）
- ・「自分がしんどくなったら（どこに相談したら良いのかが分からないので・相談場所が少ないので）どうしよう」と心配するようになった。
- ・保護者が自分の感じるストレスを軽減したいと以前よりも強く思うようになっていく（2）
- ・帰省できない／友だちと遊びに行けない／会いたい人に自由に会えないため、以前よりも自分の話を聞いてもらいたい・相談したいと思う人が増えている（聞いてもらえる場所を必要としている）（4）
- ・里帰り出産ができず、上の子どもを預かってもらえるところがなくて困る人が増えた。
- ・緊急事態宣言の期間中でも「開館」「開室」を求める保護者が増えた（3）
- ・（人数制限があっても良いので）（他の居場所は閉鎖しているため）、〇〇（＝スタッフの勤務先）だけは開けて欲しいとする保護者が増えた（4）
- ・短時間であっても良いので他の保護者と交流したいという利用者が増えた。
- ・会いたい人とも自由に会えず、「誰かと話したい・聞いてほしいと」という思いを持つ保護者が増えたように感じる。

◆**「失職や在宅勤務・育休取得者の増加など就労状況の変化」という前提から生じるニーズの変化【3】**

- ・父親のリモートワークや育休取得が増えたことで、父親によるセンター・ひろば利用が増加した。
- ・父親が在宅勤務となって自宅内にいづらくなり、母子で出かける場所を求めるようになった。
- ・職場復帰ができるかどうかの不安が高まっている。

◆**「新型コロナの感染予防」が第一義となった時代」であるという前提から生じるニーズの変化【9】**

- ・子育てに対する不安感が強くなったり、日々の生活で不安なことが増えたりして、支援・相談を求めるケースが増えている（2）
- ・子育てに不安を感じるようになり、以前には当たり前を満たされていた「子どもを普通に遊ばせたい」「子どもをいろんな人と関わらせたい」と保護者は思うようになった。

- ・乳幼児健診が個別に医療機関で受けるようになったり、妊婦対象の講座等も中止になったり、相談機会が減っており（これまでのプログラムがなくなるせいで）、不安になっている保護者が増えている（2）
- ・予防のための人数制限によって利用できていたはずのサービスや資源が利用できなくなり、子どもの発達や母親の育などに関して支援を受ける機会が少なくなった保護者が戸惑っている。
- ・感染拡大予防のため、あらゆる場所が閉鎖されているため、親子で遊びに行く場所が見つからなくて悩んでいる。
- ・子どもの体調如何にかかわらず受け入れてもらえる支援の場が必要と感じる。
- ・感染対策を実施して開所しているが、以前の利用人数には至っていない状況から考えると、遊び場を利用するニーズは減ってきていると思われる。

以上、合計 145 の記述が「ニーズの変化」として整理・分類できた。なお、コロナ禍を特徴づける「どの側面を前提として」いるかが明確ではないものの、コロナ禍によって惹起された課題を把握・分析している点で有用だと思われる記述内容を以下に抜き書きしておく。

- ※「対面で人と交流したい」「自宅以外にも居場所が必要」「ただ話を聞いてもらえる」というニーズは、コロナでより明確になり、こうしたニーズに応えることの重要性が再確認できた。
- ※アンビバレントな状況・感情に悩む保護者もいる（コロナ禍であっても対面で相談・対話を求める人、人が集まる場に出かけるのは不安だが人とかかわらないおのも不安な人）。
- ※遠方の親戚や友人に気軽に会う・頼ることが難しくなっているので、これまで以上に地域社会が子育て家庭を支援する需要が高まっている。
- ※これまで経験したことのない不安・心配の中で生活しているので、保護者への精神的ケアが必要であると感じる。子どもに関しては、自由に遊べないなど制限のかかった中で生活しているので、そうした中でもどのように豊かな経験ができるかを考えないといけない。
- ※コロナ対策として交流やプログラムに一定の制限が課せられていても、可能な範囲で参加したいとする保護者が増える一方、まだ感染を恐れて動けない保護者もあり、そうした人への対策が必要である。

記述Ⅲ-3 設問 15 「コロナ禍で子育て支援を十分に提供するにはどのような工夫が必要か」

回答	251名
無回答	42名
回答率	85.7%

この問いは、調査時点においてもなお続いているコロナ禍の下での支援上の工夫、しかも「子育て支援」を十分に提供するための工夫を尋ねている。子育て支援とあるので、地域子育て支援拠点事業・利用者支援事業（基本型）に限定したものではないが、これらの事業を中心としたいわゆる地域における子育て支援に関する工夫とは大きくかけ離れた領域の記述（例えば、給付金はそれを本当に必要な人に手厚く届ける／民間

(NPO 等)の親子ひろばが継続できるための公的資金の充実)は、この整理・分類からは除外した。

また、工夫ではなく回答者が必要だと思っている支援内容に関する記述(例えば、親も子どもも楽しく遊び語らえる場作り/カウンセリング/ウイルス感染拡大防止のための利用者とアドバイザー〔支援者〕との相互理解/安心安全に遊ぶことのできる場の確保と提供)や、工夫とは記されていても具体性に欠ける記述(例えば、安心して悩みを話せる工夫/子育て中の親子への情報提供ができる工夫をする)、さらに“コロナであるかどうかは関係なく”と断りを入れている記述(例えば、コロナに関わらず、支援してほしい方の意見・相談に注意していきたい/コロナ禍であろうがなかろうが、子育て支援を行うにあたり、利用者(親)の背景に心を寄せて、共感し、寄り添うことが大切など)も整理・分類からは除外した。

最も数の多かった回答は「Ⅰ. 新型コロナの感染対策を実施する・徹底する」という工夫、次に多かったのは「Ⅱ. 情報を保護者が得やすくなる手段の工夫—SNS(ラインなど)やオンライン(Zoomなど)で発信・提供する—」という工夫であった。まずは、この2種の回答(116/47)について、以下に詳細な整理・分類結果を示す。なお、<内は総計、【 】内は中計、()内は小計である。

Ⅰ. 新型コロナの感染対策を実施する・徹底するという工夫<116>

◆「感染を拡大することを防止」することに力点を置いた対策【16】

- ・感染症拡大防止策を徹底したうえで事業を開催していく。
- ・密にならないようにし、消毒・清掃を徹底する。
- ・感染対策がしっかりとできている環境を提供する。
- ・基本的感染対策の徹底。
- ・感染防止対策の徹底。
- ・基本的な衛生対策。
- ・新型コロナ感染症・感染拡大防止対策についての周知。
- ・感染対策として、利用の入り口をオンラインにする。
- ・コロナ対策といわれる検温、手指消毒、ひろばの場所とおもちゃの掃除消毒、換気、人数制限など感染防止対策の基本をしっかり行っていくことにつきる(2)
- ・地域の感染状況の把握。
- ・感染拡大予防を徹底的に行う→各家庭に注意をよびかける、利用する際のお願いをする、蜜を避ける工夫・スペースと人数制限の工夫などを行う、市内の会員さまのみの利用(里帰り出産など県外在住者には利用を断わる)、ひろば終了後の消毒の徹底。
- ・感染しないための知識や方法等を親に伝えていく。
- ・保護者どうしは1メートルの間隔をあけてもらうようにしている。
- ・コロナフレイルを緩和できるようなプログラムの実施。
- ・感染リスクを減らす為に、予約制・消毒の徹底・検温等を行う。

◆「利用者が安心して利用(来館・交流・相談等)できる」ことに力点を置いた対策【47】

- ・感染対策を徹底し、来所する利用者(親子)が気軽に・安心してゆったり利用(交流・参加・遊び)できる環境を整える(31)

※感染対策に関する表現は回答者によって多寡があり多様であったが、それらを網羅すると「人数制限(開催回数増)」「予約制」「マスク着用を利用者に依頼」「三密の

回避を利用者に依頼」「検温を利用者に依頼」「玩具・遊具の消毒」「部屋の消毒」「部屋の換気」「職員の検温」「職員の体調管理」である。

- ・利用者が安心できるよう／たとえ短い時間でも家庭から出て安心して過ごすことができる拠点となるよう（また、孤立せず安心して子育てできるよう）、感染の予防対策を徹底していることをホームページや配布物などでなどで発信・周知する（5）
- ・（保護者が職員と話ができる環境を提供することが重要なので、緊急事態宣言が出たとしても）閉所せずひろばの開所を継続するために、感染対策を徹底する（4）
- ・安心して利用できるひろば作りのためには、感染予防対策をしっかりと行うが、コロナに対する捉え方・危機感や感染予防の意識が人によって異なるので、対策の内容を伝えて理解を得たり、利用者に寄り添った言葉かけや対策を考えたりする必要がある（4）
- ・安心した子育て支援・子育て支援のため、感染対策をしっかりとしたうえで対面の場を提供する（あるいは、Web上での交流事業を提供する）。
- ・対面相談を希望する場合には、利用者に安心感を持ってもらうために、十分な感染対策をする。
- ・こども園の中にあるプレイルームのため、次のような「諸制限」が必要だと感じている→密を避けるためにも入室制限、滞在時間の制限、同学年・同年齢の子どもとその保護者の交流会など利用層の限定、曜日や時間などの限定。

◆「感染拡大防止」と「安心・安全の利用」のどちらに力点を置いているかは判断しづらいが、開設・サービス提供を前提としたコロナ対策に関する記述【53】

- ・感染症対策を十分に徹底したうえでの施設（子育てひろば）を開館する（2）
- ・感染症対策をしっかりとったうえで講演会などの行事など開催する（2）
- ・感染症対策として…
 - ① 利用人数制限（利用組数制限）や回数増（入れ替え制）をして事業を実施する（13）
 - ② 密を避けるために利用日や時間を制限する（2）
 - ③ 手洗い・消毒（室内、玩具等）や換気の対策をしたうえで事業を実施する（9）
 - ④ 互いの距離が取れる広い部屋を確保したうえで事業を実施する（2）
 - ⑤ 利用者および職員の健康管理（検温・マスク着用）を行ったうえで事業を実施する（5）
- ・感染対策（人と人の距離を取ること）と親子のふれあい・交流の場（人と人とをつなげること）とのバランスを取った支援が必要である（2）
- ・感染対策と拠点事業の両立のため、プログラムや活動などを戸外や自然の中で実施する（5）
- ・感染対策（利用制限等も含めて）をしっかりと実施していることを利用者に周知する（4）
- ・感染防止を優先させると、今まで子育てに大切だと考えられてきたふれあいや直接会って声を届けるなどがすべて悪いものになってしまう。助け合う・共有することをできる範囲で実現するとなると、少人数での活動やや個別的な支援をどう強化していくかを考えることになる。
- ・できる限り事業を提供できるように（利用人数を減らしてでも）、利用者に感染症拡大防止対策に協力してもらう（距離をとってもらう、玩具・絵本・共用部分の消毒の徹底など）。
- ・感染を防ぐための工夫（消毒や参加者への情報発信など）と自身の体調管理、感染を防ぐための全体の意識の高さが必要である。

- ・(園に併設のひろばであるため)園の子ども達や職員の体調管理に努め、園内やおもちゃの消毒を徹底し、参加組数・参加時間を限定し、安心して過ごしてもらえる環境作りを進める。
- ・保育所型の拠点のため、利用者が在園児と関わることや在園児と場所を共有することを避けるために、別の場所の確保が必要である(2)
- ・行事など実施するにあたり、感染対策を徹底し続け、参加する親にも協力は求めていく。一部協力的でない親が存在するが、それによって周囲の親に不安を抱かせないよう公平に毅然とした対応が必要。

II. 情報を保護者が得やすくなる手段の工夫<47>

- ・ひろば・センター等からの情報発信(通信など)は、これまでHP・電子メール・郵送・配布によっていたが、今後は、スマートフォンやオンライン(子育てナビなどのアプリ、LINE、You TubeなどのSNS)を整備・活用して常に・広く周知する(17)
- ・ホームページを充実させて、自分達の拠点の特徴を積極的に広報・周知する/他の拠点の特徴を広報・周知する(5)
- ・親になる人々が以前にもましてSNS等から情報を得る世代となってきたため、支援のきっかけとしては、ホームページやSNS等からの情報発信を考える必要がある(5)
- ・利用者がよく利用するスマートフォンやインターネット・オンライン(LINEなどのSNS)を利用して情報提供をする(5)
- ・コロナ禍の下であっても実施している事業やサービスに関する情報を幅広く・あらゆる手段・様々な媒体を通して提供する(4)
- ・コロナ禍の下であってもセンターは利用可能だということをSNSで周知できる方法をこれからも継続していく。
- ・まずは保護者に足を運んでもらえるよう、SNSなどを通して、場所や開所時間なども情報を分かりやすく提供する。
- ・(感染対策をしながら)インターネットなどで開設状況やイベントなどの情報を提供する(2)
- ・子育て支援に関する諸事業について、乳幼児健診の場で、広報誌で、アプリ等で繰り返しできる限り多くの保護者に知らせていく。
- ・旬の情報を利用者である保護者が分かりやすくとどり着ける方法で提供する。
- ・具体的な子育て情報をインターネット上に載せることで、パソコンやスマートフォンを通して利用者がより身近にそれを得られるようにする。
- ・SNSなどを使って新しい情報を早く提供する一方、SNSなどによって生じるトラブルを警戒する人、紙媒体が良い人もいるので、紙媒体も利用していく。
- ・インターネット検索によってすぐに情報が入るので、正しく新しい情報を常に更新しておく。
- ・必要な情報を誰でもいつでも簡単に見ることができるよう、インターネットやSNSを活用する。
- ・スマートフォンやパソコンだけに頼らず、訪問や郵送も活用しながら、常に情報を出す・声をかけることが必要である。

以下、回答数は少なくなるが、「III. 情報提供以外の対面による支援が難しい場合の代替手段(オンラインのこと)」に関する回答、「IV. 外出しない・できない保護者が支援につながるための工夫」に関する回答、「V. コロナ禍における子育て家庭のニー

ズを把握すること」に関する回答、「VI. 新型コロナウイルスの影響で課題を抱えるようになった（課題を抱えている可能性のある）保護者に支援が届くための工夫」に関する回答、「VII. 新型コロナウイルス感染症が1日でも早く収束させることをまずは目指すとする」回答、「VIII. 新型コロナウイルス感染者数が落ち着いてきた（減少してきた）ことを受けた工夫」に関する回答、「IX. 人材の育成や人材の確保が必要だとする」回答、「X. 分類が難しい“その他”」の回答の順に整理・分類結果を示す。なお、〈 〉内は総計、（ ）内は小計である。

III. 直接に対面による支援（情報提供以外）の提供が難しい場合の代替手段としての工夫<19>

- ・電話や電子メール等の手段によって、利用者が対面以外の方法で相談できるようにする。
- ・直接来館できない利用者の場合、電話での相談ができることを伝え、このことをSNSなどによって発信する（2）
- ・オンライン（SNSなど）を利用して「悩み相談（相談業務）」を実施する（5）
- ・オンラインなどを利用して「講座」を提供する（3）
- ・オンラインなどを利用して「交流会」を実施する（5）
- ・オンラインを活用した新たな「親子の交流の場」を提供する
- ・オンラインによる事業を確立する・積極的に支援に活用する（3）

IV. 外出しない・できない保護者が支援につながるための工夫<35>

- ・インターネットなどを通して家庭でも遊べるもの・遊びのヒント（手遊び、手作り玩具や季節のモチーフの制作など）などを提供する（3）
- ・拠点から地域に・各家庭に積極的にアウトリーチしていく（6）
 - ① アウトリーチなどこちらから出向く機会をつくる。
 - ② 自宅にいても支援が受けられるようにする。
 - ③ 近郊の公園などへの出前保育。
 - ④ これまでは対面という方法が当たり前と感じていたが、こちらからのアウトリーチ（出前講座・個別訪問・オンラインでの講座や訪問の実施など）によって、利用者一人ひとりとの繋がりを作っていくことが重要になってくる。
 - ⑤ 利用者が来る・集うから発想を変え、拠点から出向いて事業を説明し事業への参加勧誘をする。
 - ⑥ 「孤育て」とならぬよう（感じさせぬよう）、常にプレイルームを開室させておくなど「つながりを感じられる」が大切だが、それが難しいのならば、こちらからのアウトリーチが必要である。
- ・出かけられない利用者との電話連絡を密にする／利用者に子育て支援サービスの情報を提供する／利用者が（気軽に）電話相談ができるようにする（7）
- ・孤立している保護者を把握して、オンラインによって互いにつながるようにする。（3）
- ・電話やリモートコンタクトなどを利用して親子とコミュニケーションをとる方法を模索する。
- ・来所できない親子に対しては、電話などで状況把握し、必要であれば家庭を訪問する。
- ・しばらく顔を見ていない利用者も関しては、電話で様子を確認する。
- ・連絡先としてスマートフォンを活用することが支援へのスムーズなアクセスにつながる。

- ・まず拠点とのつながりを持ってもらうことが重要なので、インターネットを使った情報発信、家庭訪問、少数制の交流場所の確保が必要である。
- ・自宅から出ることが少ないため、SNSなどの広報で支援活動を保護者に知ってもらい、来所につなげたり、SNSなどで職員と情報交換・相談等につなげたりする。
- ・家にいながらも相談窓口まですぐに辿り着けるように、分かりやすく見やすい支援事業内容・事業所の専用ホームページを見直して再作成する。
- ・孤立している親子に必要な情報を提供し、あらゆる子育て支援機関と連携しながら支援する。
- ・孤立しやすい状況なので、気軽に相談できる窓口を多く設ける。
- ・人とのつながりが極端に少なくなり、ワンオペ育児で疲れている母親が、少しの時間でも子どもと離れ、大人どうしで会話できる機会を提供する。
- ・自宅からひろばなどに行けず孤立している親子には、訪問相談を実施したり、他機関と連携して支援したりと、積極的にアプローチする。
- ・家にずっといると子育てアプリやネット情報に頼りがちになる（わが子と向き合う時間が奪われてしまう）ので、外に出たくなるようなイベントや専門家のお話会なども増やしてみる。
- ・外出したい保護者のために、少人数で（回数を増やし）直接に交流ができる機会の提供続ける。
- ・ちょっと誰かと話したい・親子だけでいると息がつまると感じる時に気軽に行ける場所を確保しておく。
- ・外出を促すために、さらなる拠点を通いやすい場所に増設する。
- ・利用者の自宅から一番近い支援拠点を紹介する（それぞれの拠点の内容も伝えられるよう拠点に出向いて情報収集もしておく）。

V. コロナ禍における子育て家庭のニーズを把握することから工夫が始まるとする回答

<13>

- ・こちらから積極的に声かけし、寄り添う気持ち・一緒に考えていこうとする態度を常に心がけて、困りごと・悩みごとがあればそれを気軽に相談しやすいような雰囲気をつくる (3)
- ・利用者とコミュニケーションをとり、何を求めておられるか、耳を傾けてニーズを把握する (2)
- ・子育て中の家庭からのニーズを聞き出し（把握して）、早めの対応を整える。
- ・子育て支援に求められているニーズ（Zoomでの相談や動画コンテンツなど、どれだけ求められているのか、またその効果・弊害など）を調査する。
- ・親のニーズを知り、それに応えることができる支援をできるだけ整える。
- ・子育て中の母親の現状を把握し、コロナ禍での子育てを楽しめるよう「お届け便」を発行する。
- ・個別ニーズを把握したうえで、それを行政に伝える／新たな取り組みを行政に提案する。
- ・ニーズを知り、コロナ禍の中でできることを吟味しつつ、気持ちに寄り添える支援を展開する。
- ・メディアで取り上げられている一部の事柄だけでなく、子育て中の家族の声をしっかり聞いて、必要な支援をスピーディーに提供すべき。
- ・必要なところへ支援が届いているかを知るために、子育て世代のニーズをとらえたい。

VI. 新型コロナウイルスの影響で課題を抱えるようになった（課題を抱えている可能性のある）保護者に支援が届くための工夫に関する回答<19>

- ・ほとんどの子育て家庭が利用する「母子保健サービス（健診や新生児訪問など）」を提供している保健センター（保健師、助産師など）と連携して、悩みのある保護者のニーズに応じていく（3）
- ・いつでも必要な時に相談を受け支援を提供できる状況をつくる（2）
- ・来所した親子の様子にも気をつけ（利用者のちょっとした変化に気づけるように目を配るなど）、疲れている様子の母親たちには声をかけ少しでもリラックスできる環境を作るように努める（2）
- ・休館をしないで、いつでも利用できる、気軽に相談できるという場・雰囲気を常に提供する（2）
- ・一人で孤軍奮闘している親、課題を抱える子を持つ親、近くに知り合いのいない親などどんな状況の親にとっても頼れる場所になることが子育て支援にとって必要であり、そうした場になるためには、まずはスタッフの顔を知ってもらうこと、遊べる場所があることなど、電話相談などがあることを知らせる。
- ・気になる親子がいる場合は電話で様子を尋ねるようにする。
- ・気持ちが落ち込んだときに、すぐ手を差し延べられるシステム（Zoom の活用等）を作る。
- ・地域ぐるみの声かけが可能となるように働きかける。
- ・一人ひとりと丁寧に関わり、話す機会（話を聴く機会）を持つ。
- ・保護者はこれまで経験したことのない不安な生活を送っているので、精神的ケアが必要である。
- ・子どもや親の体調が悪いときでも気軽に話せるオンライン交流（Zoom）の場を開く。
- ・拠点で保護者が来るのを待つ支援だけではなく、拠点から出向いていく支援を展開する。
- ・孤立し不安を抱えている親の話を聴き、気持ちが楽になるよう・子育てを楽しんでもらえるようアドバイスする。
- ・コロナ禍での子育ての不安が解消できるための支援場所の増設が必要である。

VII. 新型コロナ感染症が1日でも早く収束させることをまずは目指すとするという主旨の回答<3>

- ・個々人が“マスク装着・三密回避・外出自粛”を守り、早く以前の生活が戻れること。
- ・薬の開発によって元の生活に戻ること。
- ・乳幼児を育児している保護者にワクチン接種が進むこと。

VIII. 新型コロナウイルス感染者数が落ち着いてきた（減少してきた）ことを受けた回答<5>

- ・利用人数制限を緩和し、開館日を増やす。
- ・子育てに関する講習会や個別相談の回数を増やす。
- ・自宅でできる親子手遊びや絵本の読み聞かせの方法に関する講座を増やす。
- ・感染予防に努めながら、従前に近い形での諸事業の実施。
- ・コロナ禍で他者と疎遠になったため、コロナが収まって来た頃から、親子館事業の事前申し込みが増えた（人数制限をしていたため、キャンセル待ちが増えた）ので、予約の取り方のルール確立など運用上の工夫が必要になってきた。

IX. 人材の育成や人材の確保が必要だとする回答<5>

- ・コロナ対策のための環境整備ができる人材、コロナ禍での相談対応ができる人材を育成するための研修が求められる。
- ・子育て支援にかかわる人材の育成と確保および増員が必要である。
- ・コロナ禍において子育ての不安が解消できるための人的配置が必要。
- ・全国どこでも手の届きやすい支援を可能とするために、潜在保育士などが活動できるシステムがあると良い。
- ・利用者が楽しいと思える行事などを提供できるよう、自分たちの研鑽に励む必要がある。

X. 分類が難しい「その他」の回答<9>

- ・母親同士が話し合える場、不安感を少しでも取り除き楽しく子育てができる居場所を提供する。
- ・大人数ではなく、少人数制でスタッフが利用者の話をじっくり聞ける環境を整える
- ・選択できる相談の場の提供（オンライン相談と衛生面に配慮した個別の対面相談のいずれかが選択できる）。
- ・選択できる講座や交流の場の提供（オンラインと衛生面に配慮した対面のいずれかが選択できる）。
- ・マスクで表情がわかりにくい今だからこそ目を見て一人ひとりへの声かけを大切にす。
- ・オンラインや電話での相談など相談しやすいシステムの確立・工夫が求められる(5)
- ・予約制のイベントを増やして、保護者の個人相談に時間をかけられるようにする。
- ・職員の負担を軽減するために、行政側は環境整備などを徹底するべき。
- ・行政指導による代替拠点の確保が奏功した・機能した。

以上、合計 271 の記述が「これから必要とされる工夫」として整理・分類できた。なお、I～Xまでのどのカテゴリにも収束させることができないものの、コロナ禍の中で今後求められる有用な支援の形や方向性を示していると思われる記述内容を以下に抜き書きしておく。

※今までも必要だったが、今後は保護者が選択できる支援の形がより一層求められると思う。以前の支援の形に固執することなく、保護者のニーズに合った支援を模索し変化させていく必要があると思う。ただ、「With コロナ」と言いながら、コロナが収束してからのことがまだ誰もつかめていないのが現状であり、保護者のニーズも、また、コロナ禍で子どもにどのような弊害が出てくるかも不透明である。それだけに、刻一刻と変わる保護者からの発信をできるだけ丁寧に受け止めながら、支援をその都度変化させていくことが今は必要である。

※親以外の他人がマスクで顔半分が見えない状態が続き、大人の表情を子どもが見ることができないことが今後どう影響してくるか不安なので、透明など表情が見える性能の安全なマスクの開発が必要ではないかと思う。

※子育て支援センターは、親子が来所してくれて初めて支援を開始できる。こちらから支援を働きかけるには、行政の各機関と連携することが必須。そのために子育て支援センターと行政の風通しを良くして声をかけやすくすることが大事だと思う。

行政の機関によっては、子育て支援センターがどのような役割を果たすのか、ご存知ない場合もあるので、存在をアピールしていきたい。

※子育て支援をする側の努力不足を痛感している。コロナ禍で利用者の支援ニーズが多様化しているにも関わらず、現場が迅速に対応できていない。感染対策で提供できるキャパが減っているうえに、こうした情報発信や支援方法の工夫を支援側が怠り、利用者にさらなる努力を求めるのは支援と言えない。

※外に出かける機会を増やし、子育て中の保護者のつどいに参加すること。施設としては広報を充実させ、利用できる施設や制度を周知できるように工夫する。失業するなど、経済的に困っている世帯もあることから、わざわざ「支援」を強調するのではなく、親子向けバザーなど楽しい企画も必要だと思う。

記述Ⅲ-4 設問 16「コロナ禍以降、新たに気づいたこと、感じていること」

(自由記述抜粋)

- ・人と接すことを求めている親が多く、感染対策をしながら広場開放を続けることは必要なことだと感じて居る。周囲の人とともに育っていくことの大切さを再確認できた。
- ・感染対策を十分にしたうえでの対面での交流の大切さ。
- ・コロナが気になり、気持ちよく外出できないと言っておられる方が多いので、消毒換気などを徹底し、他の場所に行けなくてもここなら安心して遊ばせられる、気晴らしできると思える場所づくりが必要と感じた。
- ・ネットを利用してなんでも調べることのできる時代となったが、やはり対面で行う温かな言葉がけやふれあいを求める方々が増えていると感じる。
- ・家にこもって孤立している母親が多く、こうした母親が気軽に交流できる機会が少なくなり、相談相手や話す相手もない等の共通の悩みをもつ親同士が出会い、自宅以外での居場所、ゆっくりできる場所を作っていきたい。
- ・いつでも子育てをする親にとっては拠点やひろばなどは大いに必要と改めて感じる。
- ・感染症対策をしながら安心して利用できる場の提供。
- ・家から出てきて人と交流したり親子でリフレッシュできる場の提供。
- ・外出自粛をされている保護者の方が多い中、感染症予防がしっかりと行われている施設に出かけて子どもを遊ばせてやりたい、保護者自身も話を聞いてもらいたいと感じている方が多いように感じる。
- ・以前も大切だと感じていたが、痛感したのが、母が同じ子育て中の母と話す場、交流の場が大切であるということ。おしゃべりすることで悩みや不安が軽減される。同じ境遇の母がいると知ることによって辛さも軽減する。
- ・特別なプログラム提供ではなく、いつも通り親子で行ける場所を設定するというシンプルなことが緊急時には特に必要とされる。
- ・やはり人と人とのつながりは大切だとあらためて気づいた。
- ・孤独な子育てほど、つらく苦しい子育てはないと感じる。

- ・人との関りの大切さ。子どもと2人でずっと家にいて、誰とも会話せずについて、子育て支援拠点の園庭開放のみ始まった時にすぐに遊びに来て、私達と話すと泣いた母親がいた。孤立している親子にとって拠点の重要性をすごく感じた。
- ・親も子も友達作りが進まず、孤独な状態にいる親子が多い。人とつながりたい、話をしたいと思いつながりながらもオンライン事業にはハードルを感じている人もまだ多い。外に出て来られる人はまだいいが、ひきこもってしまっている人がどれくらいいるのか、精神面、発達面等に不都合がおきていないか気になるが、知ることができない。
- ・子育ての孤立化は、母親にとっても子どもにとってもよくない。ほかの親子の様子を見る、見かける、それが思った以上に子育てに役立っているし、母親のメンタルも救っていることを感じた。同じ立場の人との交流は重要だと感じた。
- ・大勢の人の中で過ごすことが難しい人もいるので（感染防止のため）人数制限をしてゆったり過ごしてもらえようとする場所も必要だと感じた。

- ・未就園児の親子にとっては、子育て支援事業に参加することを、とても楽しみにしてくださっているのだということがわかった。
- ・あそびのプログラムやあそび場のニーズの高さ。
- ・コロナ禍になって人数制限や消毒など気遣いすることが増えてみて、以前の行事などみんな楽しめていたことが改めてよかったなと感じたが、どんな制限のある中でも色々な工夫で広場を開設したり行事もできることを学んだ。
- ・保護者の方々は「子どもを遊ばせる場」をととても求めていることが、コロナ禍で明るみになったように思う。また、親子で家にこもらざるを得ない状況はとてもストレスを感じているお母さんが多いことも気づいた。
- ・行事を人数制限して行う必要があったため、今まで申し込みがアバウトだったのが、みんなきちんと予約申し込みするようになった。（人数の把握がしやすくなった、というメリットもある。）

保育所や幼稚園なども子育て支援をしているが、緊急事態宣言中は室内開放など室内に入る事ができないため、一人歩きできるまでの子どもが遊びに行ける所が限られている。

そのため、家の中で過ごしている家庭が多いと考えられる。

子育てでしんどさを感じている親にとっては家の近くで気楽に遊びに行ける所が必要と感じる。

- ・コロナの流行している中、感染予防で戸外へ出ない人と、あまり気にせず外出する人のコロナに対する考え方の差が大きい。
- ・2極化していると思った。（どんどん利用する人かほぼ外に出していない人）
- ・咳等に敏感な親が増えた。
- ・コロナ禍で小学校のセレモニーがなかった1年生（現2年生）は、上級生に手を引いてもらうこともなかったため、（幼稚園保育所では最上級生だったため）上級生を敬う機会がなく、全学年が一番揉めごとが多いと感じる。

<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍になって以降人見知りによって他人との距離感（ソーシャルディスタンス含め）に差がある。その中でのひろばの在り方つまりどのような利用者様にも気持ちよく過ごしていただく難しさ。
<ul style="list-style-type: none"> ・人との対話が増えず、ネットの中の情報だけが頼りとなっているため、思うようにいかない子育てに不安が大きくなっていると感じる。 ・子育ての情報が豊富な反面、実際にはどうしたらいいのかを悩んでいる保護者が多くいる。 ・コロナ禍で自粛する親が増え、親子が密室で過ごしているため、親がストレスになっているケースが多い。親が大人としゃべれていないことで、子育ての情報を得る機会が減ったため、情報をスマホから得ようとしてさらに不安になって相談される人が増えた。 ・育児のノウハウを学ぶにも親から子ではなく、他者（専門家・支援者）から聞く方がすんなり受け入れられるような感じではないか。親戚と会う機会が減ったことも原因の一つかと。 ・コロナ禍で出産された方（特に初めての方）が子育て仲間と出会える機会が大幅に減ってしまい、子育ての中で感じるちょっとした迷いや疑問、悩みなどの話がなかなかできず、小さなことも色々気にされている人が増えているように感じる。
<p>経済的な困窮からの子育て不安が多くみられるようになった。</p>
<p>保護者とのコミュニケーションの中で、コロナの状況の中で、連れていける場所やできることが減ったことを残念に思う気持ちが伝わってきた。</p>
<p>オンラインの取り組みが増えて、便利になったが、SNSやYouTubeから離れられなくなったとの相談も多くなってきた。親子の会話も減っており、家でしゃべらないという小学生もいる。自分の気持ちを言葉で表現できる子どもが減って、トラブルも多い。</p>
<p>子育てを取り巻く環境が大きく変化した。メリットデメリットあると思うが、就業しており預け先の見つかった人と、預け先のない人とではその後の出生率に差がでるのではないかと感じている。また屋外であっても同じ遊具で遊んでいる親子同士で会話が始まる様子があまり見られなくなった。</p>
<p>保護者があまり深くまわりと関わらない傾向を感じる。ママ友等の関係。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナに限らず、改めて価値観は多様であること。それぞれの背景に配慮しながらの配慮が必要であることを再確認した。 ・家庭によっての不安感はさまざまであること。（コロナ禍による感染症に恐れ神経質になりネガティブになる家庭もあれば、子どもの発達のためや経験のためにも、イベントなどがなくなることに不安を覚える家庭など）不安感の多様性により、一律に満足の得られる提供方法が難しいこと。

<p>コロナが流行していなくても、日々の子育てに悩みを抱えている親が多いのに、コロナ流行後、さらに外に出づらく家庭で過ごすことが多く息詰まる方が増えているので、拠点やひろばに来れている人は悩みを聞くことはできるが、閉じこもっている親子さんがとても気になる。</p>
<p>子育ては、コロナ禍でなくても大変だと思ふようなことが多いと思うが、コロナ禍になって、祖父母からの支援が受けられない、気軽に外出できない、など制限され、一層子育てする親御さん自身が頑張らないといけないのではないかと推察する。しかし、施設に来ている方々は今できることに集中し、明るくお子さんと関わっていらっしゃる方が多く、頭が下がる。</p>
<p>やはり母親も少しゆっくりできる時間が欲しいと感じている人がとても多く見受けられました。特に未就園児の親は24時間ずっとなので、短時間でも離れることで、少しリフレッシュできる機会が持てるような環境作りができればよいと思います。</p>
<p>コロナ禍でも以前でも変わらないのは子どもの健やかな成長と家族の健康そして幸せ。遠くへ出かけたり外食したりという機会は減ってしまったが子どもが喜ぶこと、子どものためにという親の気持ちは変わらない。親も子も今与えられた環境の下懸命に生きている。</p>
<p>子どもへの見守りとともに、親への寄り添いがとても大事だと感じる。親が孤独にならず、楽しい毎日を過ごせる気持ちになれるようゆったりとくつろいでほしい。</p>
<p>閉塞的な日々の中で、親のストレスが溜まっていると考える。子育てに特化せず、親のストレスケアをすることが結果として子育て支援につながるのではないか。</p>
<p>妊娠、出産、育児・・・と生活が大きく変化する中でコロナ禍を過ごす方は、大きな不安とストレスを感じていると思う。また、親子ともに運動不足、体力不足となっていることも感じられる。運動しながらストレスを減らせる取り組みがあればいいのではないか。</p>
<p>乳幼児期の社会的かかわりの必要性。</p>
<p>孤立しないように情報提供を、生まれた後から行い地域に早くデビューできるようにする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・マスクをしたままでの対応の難しさ。 ・マスク着用でのコミュニケーションの難しさ。 ・直に子どもを抱いたり、触れ合ったりの支援が難しい。距離をおいての支援の工夫が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・SNSの普及を早急に進めるべき。 ・新たな支援媒体等の積極的活用を検討していかなくてはならないと感じるが、その整備にかかる費用や運営・活用に向けた研修があればと思います。（オンライン等のネットの活用等） ・オンライン。ただし、施設にその設備がない。

<p>今後、感染者が増えてまた流行りだしても、できる限り閉めないで、開館できるようにしていくことができたらと思う。思った以上に必要とされている親子が多いと感じた。</p>
<p>消毒できるおもちゃの素材を考えたもので提供する</p>
<p>保健所等他の支援施設との連携の大切さ</p>
<p>コロナ禍において、親子間の交流を取ることが難しくなっている。また、支援者側もどのようにつなげて行くべきなのか悩んでいる。</p>
<p>消毒の徹底や三密回避・マスク着用等、考えうる感染防止対策を実施しているが、100%安全を保障できるとはいえず、また人数制限をしているため、声高に利用促進をPRすることもはばかれる状況だった。その結果、利用する人と利用を敬遠する人の2極化が進み、利用者の幅が狭まったように感じている。(同じ人が常連化して利用している)</p> <p>コロナ禍収束までの期間が長期化するにつれて、子育て支援が「不要不急」化してしまうのではないかと危惧している。</p> <p>動画配信や電話相談などの活用も取り組んだが、実際に来館している親子の様子から、やはり従来の他の親子とのふれあいが大切なのではないかと感じている。子育て支援=人との関わり・繋がりの中での親子の成長を支援していくことではないかと思う。</p> <p>今後の状況にアンテナを張り、求められている子育て支援の形を、柔軟に模索していきたいと考えている。</p>
<p>2020年4月からは子育て支援事業は全て中止されたが、社会の状況に応じて、子育ては不要不急に当たらないとして、その後はできる方法で事業を実施している。赤ちゃん親子のひろばは慎重に対応するために実施できないことが多いが、初めての育児をする方への支援の必要性は一番高いと感じる。今後の赤ちゃん親子の支援について検討の必要がある。</p>
<p>2020年3月から5月末までは、ウイルスの特性も不明で、休校に伴い休館は当然だったと思う。(電話相談は開設) しかし6月以降、ひろばは再開したが、人が集まることを避けなければならない中で、とても不安だった。学校の再開に伴うとのことだが、学校とひろばが同等というのは疑問があった。しかし感染対策にも慣れ、ウイルスの研究も進んできた秋以降は、模索しながらではあるが、上司と相談して進めていけていることは、今後も継続していきたい。</p>
<p>緊急事態宣言発令中閉室だった親子ひろばが、解除後開室すると「待っていました」「行くところがなかった」などのお言葉をいただき、改めておやこひろばを皆さんが必要としていることを実感した。まだ新型コロナは収束していないが、利用者さんが気兼ねなく互いにお話ししたり、遊ぶことができるように、私たち職員は常に環境を整えていこうと思う。</p>
<p>保護者の気持ちに寄り添うように温かく見守りながら支援をしていく。</p>

<p>医療現場だけでなく保育、福祉の現場で働いている職員の現状など行政はもっと理解し、支援するべきと思う。</p>
<p>乳幼児へのコロナ対策（マスク・手洗いの徹底・ソーシャルディスタンス等は、限界がある。感染リスクにいつもさらされている。日々安心安全な子育て支援を実施するには、施設全体が滅菌できるような設備が必要。</p>
<p>感染予防のため遠方の家族と会うことを我慢し、中には下の子が生まれたばかりだからと上の子も一緒に家の中で子どもと過ごしている親子もいる。地域から孤立して子育てをするのではなく、予約をしなくてもフラッと寄ると誰かお友達のいるいつでも遊べる児童館に一日でも早く戻れることができればと思う。</p>
<p>人とかかわりの中で子育てすることの大切さ。親も子どもも、やはり地域のコミュニティーの中で、人と関わりを持ちながら生きていくことが重要であるということ。</p>
<p>ボランティア頼みとする子育て支援の部分は社会状況の変化が生じた折に、サービスの継続は困難を伴う。地域に根差した民間の支援サービスが休止することなく継続できるような行政の人的補助等、援助体制を準備することが必要だと感じる。</p>
<p>父親が在宅勤務になり、大変な面（昼食の準備や子どもがパソコンを触ったり、会議中に声が聞こえる等）があるが、仕事が終わると育児や夕食の支度をしてもらえる話を伺うことが増えた。在宅勤務も子どもが幼いときには、プラスの面もあることに気がついた。</p>
<p>どんな状況であっても人とつながりたいと動ける方とそうでない方がいらっしゃる。今回のことはそれをよりはっきりとさせられた気がする。動けずにいる方達のことにも気になるが、そこはきっと他の機関や制度がフォローしてくれていると信じて、出会える利用者さんたちへの対応を誠実にしていきたい。そのために、他の機関などともっと情報を共有したい。今出会えている利用者さんたちはやはり対面を求めている。私たちスタッフがいつもと変わらず待つ（迎える）ことができれば、利用者さんも、それを見守ってくれている地域の方も、変わらないに日常にほっとできるのではないかと思う。そしていつか、動けずにいた方の何かのきっかけになればと情報を発信していこうと思う。</p>
<p>子育ては家庭だけであるものではなく、他の子どもや保護者との関わりの中で行っていくことで、保護者の子どもへの関わりや保護者自身の心の安定につながる。また、保護者の心の安定が子どもにとって最も大切ということを改めて感じた</p>
<p>感染拡大防止のため、行事のお膳立てを施設スタッフが全て行うようになり、会員はお客さん状態になっており、活動が受動的になっている。コロナ明けには、活動を自主的に戻す必要がある。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ以降ではなく、コロナ以前からあった問題が浮き彫りになっただけのような気がする。（孤立や貧困など） ・コロナ禍以前もコロナ禍以降も、必要とされている子育て支援にそう変化はないと感じる。

記述Ⅲ-5 設問 19

「オンラインや電話での支援事業への手応えの有無についてそのように答えた理由」

(自由記述抜粋)

◆手応えを感じている理由

〈電話〉

<ul style="list-style-type: none">・利用者の好きな時間かけられる。・自分の名前や住所などを伝えなくても話ができる。・不安になったときに直ぐに相談ができる。・直接対面しないので、感染リスクへの不安が減る。・対面は負担という相談者にとって、気軽に利用できる。
<ul style="list-style-type: none">・話を聞いてもらえたという安心感からの感謝の言葉などで手応えを感じる。・電話では話をきいてもらえてスッキリしたとの声もきく。・電話対応で、相手がホッとした気持ちになっているのがわかる。・電話はコロナ禍でもかけやすく話しやすいのか問い合わせがある。・電話相談は、顔が見えないので思っていることが話しやすいと電話をかけてきてくださった方がいたため。・孤独に子育てしていたので嬉しいという声をきいた。・気にかけてもらえている、嬉しいとの声がある。・とにかく話したいのか悩みとともに子どもの様子をたくさん話してくれた。最後は明るい声で「ありがとうございました。」と言って切られるのを聞くと世間話のような内容でも気分を軽くできたのかな、次は来てもらえるようにつなげたかなと思う。
検診が延期になり、我が子の発達発育に不安があったので、電話で相談できてよかったとの声があった。
<ul style="list-style-type: none">・直接会って話しにくいことも電話なら話しやすくなったり、悩みを気軽に言えると思う。・顔を見せない分、話やすい。また何度か電話で話していくうちに、安心感が生まれ面接へとつなげやすい。
<ul style="list-style-type: none">・広場には来ない方の利用が多く、対象の幅は広がっている。・子育て相談をすることに抵抗を感じている人や出産後でなかなか外出できない人にとっては電話相談はしやすい方法だと思う。・支援センターの場には行きたいけど、妊婦だったり、感染が怖かったり、人見知りだったりして電話での相談や他愛のない話などが増加している。・敷居が低いため、電話をかけやすいのではないかと思う。聞きやすかったり、話を聞いてもらえるところがある、というだけでほんの少しでも気がまぎれたり心配事の解

<p>消に繋がっているようだ。出産したばかりやコロナ禍で外に出にくい、地方からきて近くに知り合いがいないなどの親子には特に必要な支援であると思う。</p>
<p>地域の子育てひろばなので、割と近隣で出かけた家庭の利用が多かった。その中でも、電話相談が可能という選択肢があることは安心感にも繋がっていると思う。（感染症対策、子どもの状態を見て連れて行けなくても、話せるという観点から）</p>
<p>土日に相談できる場所がない、話す相手がいないなど、よく聞くので、特に土日の電話相談の必要性を感じる。</p>
<p>閉館している時に電話訪問をしたが、「誰かと話したかった」とか「お電話嬉しかったです」とのお声があった。</p>
<p>緊急事態宣言発令のためプレイルームが閉室になった。そのため、利用者に電話をかけて日々の様子を伺ったところ、様々な声（しんどさ、何気ない相談、誰かと話ができよかったなど）をきくことができた。</p>
<p>当市に引っ越し予定の方が市外や他府県から電話相談されることが多くある。また育児相談や母がしんどいといったことは、顔は見えない電話が話しやすいと思われる。どんなことでも相談してほしいという気持ちで相談を受けているが、そういった電話から来所や他の機関につながられることもある。妊婦や幼い子どもが複数もつ母は自宅から出ることが難しくそうした方々にも電話やオンラインは利用しやすいと考えられる。</p>
<p>電話の問い合わせや相談に応じた後、支援センターも気軽に来れるところだと伝えることで、来所に繋げることができた。</p>
<p>オンライン事業でお知らせした電話番号にかけてきてくださった。</p>
<p>電話やメールでの相談事業を対応。</p> <p>匿名性が高いこと。面談では、感染リスクが高くなるので、直接お会いしなくても相談ができる。特にメールは、時間を気にしなくて相談者のペースで相談ができる。また、子育て支援の情報提供の機会でもある。</p>

〈オンライン事業〉

<ul style="list-style-type: none"> ・まだ外に出たくない方にとってそれでもオンラインでつながれることは嬉しいときく ・出向いていくのが困難な方、興味はあるけど行ってまではという方と繋がることのできる。 ・外出したくてもできない利用者がいるので、家の中でできるツールがあるのは便利。 ・多数ではないが、外出を控えたいと思っている方や出かける準備が大変だと感じている方などには参加しやすいと思うから。
<ul style="list-style-type: none"> ・参加者から「参加してよかった」「参考になった」「お友達ができた」等いい意見を多くきく。 ・オンライン上であっても子育てする者につながれることが喜ばれているように感じる

<ul style="list-style-type: none"> ・閉室中に Zoom をしたが、外に出れないときに Zoom があってよかったですと言っていただけて、私たちもやってよかったのだと思ったし、嬉しかった。少しの時間だったが、お母さんたちとやりとりもでき、画面通してだがホッとした。 ・ズームでの相談に積極的に参加された。 ・オンライン事業も多くなっているし、参加された方が 2 回目も参加されているのを見たのでそう思った。 ・対面に関しては、コロナ禍のため不安があるが、オンラインだと参加したいという人が多いため。 ・オンラインで講師とつながり、身体を動かす事業があった際、普段講師と対面しての事業時より、リラックスして和やかに参加している場面もあった。
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での様子がよくわかる。まわりの目を気にする必要がないため、母も悩みを打ち明けやすく深く気持ちを知ることができた。 ・会えない間の家庭での様子がわかり、母の悩みことも知ることができた。 ・参加者の様子が少しわかったから。
<p>外に行けない状況にあるときに、何か「利用できるものがある」といだけで安心できると思う。オンライン事業もやったことがないと手を出しにくいが経験してみると気分転換になっているようだ。</p>
<p>感染対策としては、なにより安心して参加できる。また、気楽に夫の参加ができる。</p>
<p>親子での遊びの場、交流会（ファミリースクール）が緊急事態宣言で半分しか開催されなかったが、Zoom やメールにて先生に出演してもらい制作物を完成することができた。</p>
<p>オンラインでも話している内容は相手に十分に伝わるし、相手の考えや表情などたくさん情報が得られるため。</p>
<p>数はそれほど多くはないが、子育て仲間と出会えたり支援者と出会う機会になっていると思う</p>
<p>今年度より、オンライン育児相談を開始。感染への不安から、外出を控えている親を中心に需要があると感じている。自宅から安心して相談できたという声もあった</p>
<p>今の親はオンラインに精通している方が多いため。</p>
<p>子育てセミナーは感染を気にせず気軽に参加できるという声が多かった。一方でそれをきっかけに対面交流したいという声も高く、その後に広場を訪れる親子もたくさんいた。オンラインは、工夫をすれば子育て支援への導入ツールとしては有効と感じた。</p>
<p>動画の再生回数や、SNS のフォロワー数が増えているのを見ると、様々な理由で施設の利用を躊躇していても、つながっていると感じることができる。コロナ禍の収束はまだ見えないが、収束後、それが支援へとつながっていくことを願っている。</p>

<p>本来は直接会っての支援が望ましいが、緊急事態宣言などで閉室がやむを得ないときなどに「あなたのことを忘れていませんよ」「あなたのことを考えていますよ」と発信できるツールとして考えられる。また、足を運びたくても運べない人や遠方の利用も可能ということで新しい支援の形として効果や可能性を感じる。</p>
<p>直接、支援施設に訪れることができなくても、気軽に相談しやすい点。 オンライン普及は時代の流れに沿っており、今後もさらに広がる可能性があるため。</p>
<p>コロナ禍で、まだまだ外出を控えている妊婦、親子が多い中、外に出ることもなく手軽に相談できるといったことは大変心の支えになると思う。早くそういった設備を整えてもらえたらと思う。</p>
<p>オンラインでコミュニケーションが取れることを発信する側、受け取る側が双方発見したことは、今後のコミュニケーションで大きな力になると思います。</p>
<p>インスタグラムを始めたことで、素早く情報を届けることができる。 他の人には聞かれないかと思っておられる方の話を顔を見て聞ける様子やとても良いとの母からの声がある。</p>
<p>Facebook やホームページの情報発信をみて初めて利用される方が多いので。</p>

◆手応えを感じない理由

<p>相談したくても中々アクションを起こす人は少ないのではないかと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・今の時点では、電話での相談はあまりなく、直接相談される方が多いため、今後どのくらい利用があるかみていきたいと思う。 ・電話相談を実施しているが、あまりかかってこない。 ・電話相談も行っていますが、ほとんどない。遊びに来られたときなどに対面で相談される方がほとんどで、件数が多くないため。 ・名のらなくても相談できるのが利点の一つかと思う。ただ、ここを利用している人の相談が多いので、電話より来館して話をされることの方が多いため。 ・相談業務はほとんど対面で受けるため、電話相談もほとんどない。 ・当所では電話相談を行っているが、来所相談が圧倒的に多く、電話相談件数が少ない状態が続いている。
<ul style="list-style-type: none"> ・電話での相談より対面での相談の方が相談者の満足感が高いように感じる。 ・相談や悩みごとはある程度の信頼関係があり、対面でないと話しにくいのかと思う。 ・やはり、できるものなら、そばに寄り添って話がしたい。肌のぬくもりが感じられる様な環境がいいと思う。 ・相談したいと電話をかけて来られる保護者に対して、電話でも受け付けるが、その中で希望があれば来館いただくようにしている。顔を合わせ、子どもの様子も見な

<p>から気軽に話せる雰囲気作りをすることで、話したい、話を聞いてほしいという最初のハードルが低くなり、電話をされる保護者が増えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接会って、話すことで、相手の表情、思いを読みとれることができ、寄り添えることができると思うから。 ・今まで対面で、子ども達を遊ばせながら、おうちの方もリラックスされた状態で、育児相談が出てくることが多かったが、電話での育児相談になると身構えてしまうのか、相談件数があまりなかった。感染予防対策を十分に行い人数を制限する等、工夫した子育て支援事業を期待されている保護者の方が多いように感じる。 ・拠点ひろば開設時より育児相談専用電話を設置しているが、年間1~2回程度の利用。育児については実際に担当者に会って相談をしたい方が多いと感じる。子どもが親のそばにいるときに電話やオンラインで相談しにくいので、ひろばに来所して、子どもを遊ばせながら相談するほうが、利用しやすいと推測される。また、信頼関係が取れたほうが、相談しやすい。 ・顔を突き合わせ、表情を見ながら相談に応じる必要性を強く感じるため。 ・実際にお会いして、お話を聞く機会をもった方がゆっくりと相談が受けられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用する人は少な目、こちらからの電話には「ほっとした、うれしかった」などの反応はあるが、自分から発信するのはハードルが高いのかも。 ・電話を行政にかけることのできる親が減っており、当方よりアウトリーチが必要だと感じるが多くなった。 ・遊びに来る場所という認識はあるが、電話での相談ができる場所であることを周知できていないように思う。
<p>利用者支援事業の相談では、転入の方の相談が多い。転入の方は土地勘もなく電話での説明ではわかりづらい。実際に、一緒に地表を見て場所を確認する作業が大切だと思っているため。（オンラインでの相談はしていない。）</p>
<p>はじめ緊急事態宣言中、ほとんどの人が家にこもっているときは、オンラインや電話がよかったかもしれないが、今は、ひろばに来れるのでリアルで話をしたり、聞いたりがよいと思う人が多く、オンライン講座の申し込みは少ない。</p>
<p>市のホームページに「工作」や「ティッシュであそぼう」を載せているが、そのことについて親から聞いたことがない。</p>
<p>コロナ禍にオンラインで工作などを発信したが、いまいち反応が分からずだった。市が主催のオンライン講座にも応募は少ない。親はオンラインよりも実際に支援施設に行ったり、他の人とふれあうことを望んでいると思われる。</p>
<p>オンラインでは支援事業はできにくいと思うから。また利用者も少ないと思うから。</p>
<p>離れた場所においてはオンラインが便利だが、子育て支援は近隣に相談できる人がいるなら会うことにより引き出せる話があると思う。</p>

<p>周知が難しい。子どもが他のこと興味をもち、画面から外れることが不安。 ネット環境がない。</p>
<p>オンライン相談やオンライン事業を始めたが、利用者は数名で利用が伸びない。オンラインではなく対面での支援を求めている人が多い。少数派でもオンラインの選択肢があることは必要だと思う。 電話で話すよりも子どもの様子を見ながら対面で悩み相談を受けるほうが状況がよくわかり、対話も弾むが、初めの相談の第一歩。</p>
<p>電話は入口で、実際に来館することがやはり大事かと思う。オンラインや電話は緊急時や来館への受付的な部分や補助的。あくまで、対面が中心かと余計に感じる。</p>
<p>子育てについての支援については、対面での支援の方が、伝わりやすいと思う。</p>
<p>感染に不安を抱える方が来館できずに、外出もできずに、孤立している場合がある。特に転入して来られた方の孤立がある。そのような場合は、どこに相談すればよいのか、誰に話を聞いてもらえればよいのか、どこに行けばよいのかといった適切な状況提供をしていきたい。</p>
<p>オンラインでは、周りの生活音やW i F i 環境がうまくつながらなかつたりして落ち着いて話ができない。</p>
<p>簡単に入力できる相談用メールフォームを開設（匿名可）その利用があったため。</p>
<p>電話相談の利用はあるが、オンラインでの支援には取り組んでいないため。</p>
<p>オンラインでの支援にまだ慣れていず、戸惑いを感じる。</p>

調査IV 「乳児家庭全戸訪問事業」を担当する訪問員を対象とした基礎集計結果

※単一選択の場合は、総計欄があるが、複数選択可の場合は総計欄はない。

表IV-1

Q1 性別	人	%
女性	42	100.0
男性	0	0.0
総計	42	100.0

表IV-2

Q2 年代	人	%
20代	4	9.5
30代	8	19.0
40代	13	31.0
50代	10	23.8
60代	7	16.7
総計	42	100.0

表IV-3

Q3 保有資格	人	%
保健師	19	45.2
助産師	7	16.7
看護師	1	2.4
保健師・助産師	2	4.8
保健師・保育士	1	2.4
保育士	2	4.8
保育士・幼稚園教諭	2	4.8
幼稚園・小学校教諭	1	2.4
無回答	7	16.7
総計	42	100.0

表IV-4

Q4 勤続年数 (平均)	8.4	年
--------------	-----	---

1年未満は切り捨て

表IV-5

Q6 コロナ禍以降に変わったと感じている訪問時の親の様子 (あてはまるものすべて)	人	%
1 孤立している親が増えた	26	61.9
2 子育てに不安のある親が増えた	21	50.0
3 子どもとの関わり方がわからない親が増えた	10	23.8
4 自分の気持ちを話す親が増えた	7	16.7
5 外出自粛などにより変化した家庭生活や家族との関係にストレスを抱える親が増えた	30	71.4
6 父親に会う機会が増えた	18	42.9
7 父親からの育児相談が増えた	3	7.1
8 その他	9	21.4

表IV-5 続き Q6 その他 自由記述抜粋

- ◆ コロナ禍前から存在する問題であるから。
- ◆ 乳幼児とのお母さんが気軽に利用できる「子育てふれあいセンター」などが利用できない時期があり、人としゃべれない会えないことに閉塞感を感じるお母さんがいらっしやった。
- ◆ コロナの感染が心配ということで約3分の1が訪問を断り、電話での相談を希望。
- ◆ 昨年度のキャリアがなく比較できない。
- ◆ 産前・産後に親族等から育児協力を得られない家庭、親族間で里帰り出産や産後支援を断念する家庭が増え、行政等へ支援を求める家庭が増えた。
- ◆ 里帰りをしていない家庭が増え、訪問して会える人が増えた。家の中に入って、話を聞く機会が減った。
- ◆ 外に出る機会が減ったという訴えが増えた。
- ◆ 訪問の滞在時間が増えた。
- ◆ 在宅ワークなどで、父親が家にいて助かる、安心感があるという母親が増えた。

表IV-6

Q7 コロナ禍以降変わった子どもの様子	人	%
1 発達の気になる子どもが増えた	10	23.8
2 他児、他者との関わりが難しい子が増えている	8	19.0
3 虐待やネグレクトが疑われる子が増えた	5	11.9
4 親からの関わりに不安のある子どもが増えている	9	21.4
5 その他	7	16.7
6 無回答	19	45.2

表IV-6 続き Q7 各項目を選んだ理由 自由記述抜粋

【Q7-1】

- ◆ 外出自粛が続いている状況で、自宅かつ主に母親との遊び、関わりに限られるため、新たな経験や他者からの刺激がなく、遊び方・関わり方がパターン化している。以上からことばや理解のゆっくりさを感じる。
- ◆ コロナ感染不安により、他児や祖父母等との交流を避けて自宅にいる場合、他者との関わりがないため ことばの発達がゆっくりだと感じるが増えている。
- ◆ 増えたかはわからないが、10 ヶ月健診が保健センターとのアンケートのやりとりのみになっている。本来の時期に健診ができず、発育発達をみれないことでフォローが遅くならないか。
- ◆ 上の子の言葉の遅れを相談されることが増えた。
- ◆ 親から気になると相談を受けることが多い。(特に兄弟)

【Q7-2】

- ◆ 親どうしのコミュニケーションが少なくなってきた分、情報交換も困難。
- ◆ 家族以外触れあうことが減っているため。
- ◆ 祖父母との交流も減り、両親以外の他者との関わりの経験が少ない児が増えている。
- ◆ 保護者が他の子どもとの関わりがないので、我が子が集団に入る前に不安に思われている。

【Q7-3】

- ◆ 里帰りできず、きょうだい児を含めて自宅にこもって育児をしている母親が増えており、母親の育児負担感が増えている。
- ◆ コロナ禍が直接的原因とは言い切れず、明らかな増加とは言えないが、経済的困窮やステイホームによるストレス等で、リスクが高くなる家庭、問題が潜在化しやすい状況はある。

【Q7-4】

- ◆ 家で過ごすことが増えストレスを親子とも感じている。
- ◆ 外出自粛が続き、親のストレスで子ども怒ることが増えており、親の顔色をうかがったり萎縮したりする姿がみられる（母の話より）。

【Q7-5】

- ◆ 幼稚園児から不登校気味の子が増えた。
- ◆ コロナ禍で変わったとは感じていない。とくに変化は感じない。昨年度のキャリアがなく比較できない。
- ◆ 母親同士の交流がなくなったため、子ども同士の交流も少なく、これから先にいろいろ出てくるのではと気になる。
- ◆ お母さん自身が不安を感じている方が増えていると思う。

表IV-7

Q8-1 訪問のしやすさ	人	%
しやすくなっている	1	2.4
変化なし	12	28.6
しにくくなっている	28	66.7
無回答	1	2.4
総計	42	100.0

表IV-8

Q8-2 訪問を拒否するケース	人	%
増えている	24	57.1
変化なし	16	38.1
減っている	1	2.4
無回答	1	2.4
総計	42	100.0

表IV-9

Q8-3 親の訪問希望	人	%
高まっていると感じる	4	9.5
どちらとも言えない	28	66.7
低くなっていると感じる	9	21.4
無回答	1.0	2.4
総計	42	100.0

表IV-10

Q8-4 非接触の訪問希望	人	%
増えていると感じる	12	28.6
どちらとも言えない	26	61.9
減っていると感じる	3	7.1
無回答	1	2.4
総計	42	100.0

表IV-11

Q8-5 他の部署や専門機関との連携事案	人	%
増えていると感じる	14	33.3
どちらとも言えない	24	57.1
減っていると感じる	2	4.8
無回答	2	4.8
総計	42	100.0

表IV-12

Q8-6 訪問員として感じる訪問の必要性	人	%
高まっていると感じる	33	78.6
どちらとも言えない	8	19.0
低くなっていると感じる	0	0.0
無回答	1	2.4
総計	42	100.0

表IV-13

Q8-7 訪問方法を変える必要がある	人	%
そう感じている	8	19.0
どちらとも言えない	17	40.5
そうは思わない	16	38.1
無回答	1	2.4
総計	42	100.0

記述Ⅳ-1 設問9 「コロナ禍の訪問で最も求められていると感じること」

回答	38名
無回答	4名
回答率	90.5%

「話し相手」「感染対策」など極めてシンプルな回答から、コロナ禍によって影響を受けた親子の状況を丁寧に説明したうえで、それに対して必要だと思われる訪問員の対応を複数挙げる回答まで、幅広い内容が見られた。()内は記述の数である。

I. 新型コロナ禍による生活状況の変化から生じる影響を取り上げ、それを考慮してうえで自分たち訪問者に求められる役割等を記述した回答

<影響1> (親子ともに) 外出の機会が減ったり・他者との交流が減ったりしている (10)

→これに応じて求められること

- ・情報を伝えること。
- ・コミュニケーションを取ること。
- ・母親が家族以外の人と話せること。
- ・顔を見ること。
- ・話の傾聴。
- ・不安などを感じている母親が増えていると思うので、その不安を聴きとること。
- ・他の家庭の様子なども伝えつつ、親の不安を和らげること。
- ・人と話す機会が減っているので、より丁寧な訪問が必要。
- ・他者との交流や集団での活動の機会が減っているので、訪問員(自身)が困ったときに相談できる一人であると母親に認識してもらうこと。
- ・孤独を感じていると思うので、いつでも頼れるところがあるという安心感が必要。

<影響2> 地域の親子が交流できる場(子育て支援センターなど)や機会が限定される (4)

→これに応じて求められること

- ・緊急事態宣言下で「子育てセンター等」利用できる施設が閉鎖されるので、代わりに行く場を伝える。
- ・オンラインでの相談先の周知すること。
- ・母子の集える場所の閉鎖で集う場所がなくなり、不安がある母親にとって、専門職員が児の発達を観察し、アセスメント(良好であれば母の育児も自信につながることになる)その時期に個別的なアドバイスをすること。
- ・集える機会・時期が来れば、安心して来所してもらえると伝えること。
- ・交流の場が絶たれていることから生じる「不安・不平・不満・愚痴」すべて聴くこと。

＜影響3＞親族などからのサポートが得られにくくなっている（4）

→これに応じて求められること

里帰り（出産）ができない人について：

- ・困ったときには相談できる場所があることを伝えること。

祖父母に頼れない人について：

- ・不安が高まるので、精神面の支援を含め、より丁寧な支援が必要。
- 予定していた親族のサポートや支援が受けられなかった人について：
- ・必要な支援を早い時期に提供すること。
 - ・産後の支援者の有無を確認すること。

＜影響4＞産科施設などの医療機関において十分な知識・技術を学びにくくなっている（3）

→これに応じて求められること

- ・産院で十分な指導が受けられないまま退院する人もいるので、「授乳・育児手技」など不安に思っていることを確認しながら指導・助言すること。
- ・分娩医療機関での入院中に必要な育児手技や知識を獲得できない人がいるので、精神面の支援を含め、より丁寧な支援が必要。
- ・妊娠期や産後入院中の指導がしにくくなっているため、「育児技術」が獲得できていないケースが増えている→実際に家で困る状況がないか、具体的に把握・指導していくこと。

＜影響5＞感染予防の視点から病院受診をためらう（1）

- ・病院受診をためらう保護者がいるため、以前よりも丁寧に医療、育児の知識、対応方法を分かりやすく伝えること（→継続した支援につながるような、寄り添いの姿勢）。

II. 訪問員として十分な感染対策をする必要性に言及した回答（11）

- ・感染拡大防止策の徹底。
- ・感染対策。
- ・感染予防。
- ・感染予防をしたうえでの訪問。
- ・対策はしっかりしていることをアピールして訪問を受け入れてもらうこと。
- ・訪問員・その他訪問に関わる職員が感染症対策を徹底し、体調管理をしたうえで訪問することと、感染症対策の内容を対象者に明示すること。
- ・当然の感染対策をしながらも、できるだけ平素の対応を心がけること。（→親の緊張感や不安をほぐすことにつながるから）。
- ・感染予防を徹底したうえで、短時間でも訪問すること→育児に関する情報を伝えるこ

- と、子どもの発達や発育を一緒にみていくことで母に安心感を持ってもらうこと)。
- ・感染予防に注意しつつ、より丁寧に母の不安等の訴えを傾聴すること。
- ・感染対策を講じたうえで、可能な範囲で訪問活動を継続すること／訪問拒否・未訪問ケースへは連携的な対応。
- ・感染対策、事前の健康チェックをしたうえで訪問し、抱えている不安、ストレスをまずしっかり受け止めること。

III. コロナ禍の状況において感染を避けたい気持ちがあるかもしれないが、家庭訪問の目的や意義を家庭の側に理解してもらう必要性に言及した回答 (5)

- ・必要な訪問（サービス）であることを理解してもらうこと。
- ・安心して訪問を受けてもらえるようにすること。
- ・訪問の目的を相手にきっちり説明をすること。
- ・訪問を断られた場合は電話で対応すること。
- ・訪問を受ける「メリット（子育ての不安が解消した等）」が訪問を「受け入れる不安」を上回ることを理解して貰うこと。

IV. コロナ禍であってもなくても訪問員としての重要な役割を記述した回答（孤立や不安への対応が多い）(14)

- ・育児不安を生じやすくマタニティブルーにもなりやすい出産後2～3週間時期にタイミングのよい電話をし、希望に沿った新生児訪問ができること。
- ・「あなたは一人ではなく、気にかけている人がいます」という思いが訪問で伝わるだけでも意義がある。
- ・母親の孤立感を解消すること。
- ・必要に応じて適切な場所につなぐ／継続支援／孤立が気になる保護者には集う場の紹介や行政の乳幼児相談の利用等を案内し孤立しないようにすること。
- ・不安の軽減／安心して育児ができるよう支援すること。
- ・話し相手。
- ・不安に対する正確な情報提供（安心感）。
- ・自宅で孤立している母親からの訴えを傾聴すること。
- ・親子が孤立しないように困ったときの相談先の紹介。
- ・保護者（特に母親）の話をよく聞くこと。
- ・日頃の母の労をねぎらい、傾聴すること。
- ・心配なこと・困っていることを聞く／子育てに関する社会資源を紹介する。
- ・母の心配事や悩みを表出できるような関り。
- ・訪問することで母に孤立感を与えず、他の人はどうしているのか情報を伝えること。

※なお、上記のいずれにも分類できなかった回答として「自分自身がコロナ禍に関して誤った認識をもたないこと」「コロナ禍による生活の変化や困り感を把握する」があった。前者は上記の「Ⅱ」あるいは「Ⅲ」にも関連するとは思われるが、どちらかと言えば「偏見を持たないための自戒の言葉」に映る。後者は新型コロナ禍による影響は家庭によって異なることを前提とした意見である。

記述Ⅳ-2 設問 10「コロナ禍において訪問する際、困っていること」(抜粋)

回答	20名
無回答	22名
回答率	45.5%

【訪問に対する抵抗感】

- ◆ チャイムをして出てこられるのに抵抗がある方が多いように思う。
- ◆ 夜勤で寝ているときに訪問して嫌がられる。
- ◆ 感染を気にして対面での訪問を希望しない方がいる。その場合は電話での相談を行っているが、母や子の様子が見えないため、母や子の様子が確認できるビデオ通話等を検討する必要がある。
- ◆ 以前から全戸訪問しているため、町内在住者は妊婦訪問、新生児訪問をほとんど受け入れてもらえるが、転入者はコロナ感染を理由に断られることが多い。(前のところは全戸ではなかったから、と)。
- ◆ コロナ以前は、約束した日時に訪問すればよかったが、今は訪問当日、事前に体調確認のTEL(赤ちゃんのお世話、授乳、おむつ交換でTEL応答なかったり)で、再々TELが必要だったりする。
- ◆ コロナ禍を理由とした訪問拒否ケースのリスクアセスメント
- ◆ 行政の専門職が実施する新生児訪問の率に大きな変化はありませんが、一部委託をしているこんにちは赤ちゃん訪問では感染危惧をされる方があります。対面を避け、電話で保護者の思いをお聞きし、書類はポストインする等、対面にこだわらず保護者に必要な情報をお届けしたり心身の状態を把握できるようにしています。

【訪問希望もコロナの影響で訪問できない】

- ◆ 不安が高く、継続して訪問を希望されているが、家族が濃厚接触者に該当するため訪問ができないこと。
- ◆ 児のきょうだいの通う保育園や父の会社等でクラスターが起きて、家族が濃厚接触者にあたり、訪問を希望されているのに訪問が先延ばしになってしまう方がおられること。この場合は、電話で授乳や体重増加等の相談を行っている。

- ◆ 病院では両親学級など集団指導が行われていないため「夫もともに聴きたい」と分娩や育児始動に意欲を示される方はおられたが、緊急事態宣言が発令されたり、妊婦さんの死亡例がニュースになったときには「やっぱり訪問は。。」と断られることもあった。でも TEL 指導は行え、その機会があったうえでか、新生児訪問は受け入れられるケースがほとんどだった。

【訪問員自身の感染に対する不安感】

- ◆ コロナワクチンの接種（優先）対象が医療従事者から始まったとき、訪問事業者は優先対象ではなかった。自身の安全も含め、無症状で感染させることにならないかという不安はあったので、医療者として対応してほしかった。
- ◆ 予防接種や、感染対策を講じていても「もし自分が…」とという思いは拭えない。
- ◆ 事前の訪問調整電話では体調が良いと確認しているが、訪問時に「実は昨日熱があった」と言われたことがある。事前に教えてもらい、訪問を再調整することが良いと感じた。
- ◆ 訪問員自身の感染リスクの低減対策。

【訪問時の様子】

- ◆ 自宅への訪問はできても、玄関先で児の体重測定や話をするすることがあり、ゆっくり話ができなくなったことがあった。
- ◆ コロナ禍で産院での育児指導の方法が変化し、他の妊婦や産婦との関わりを持つことができなく、母親の仲間づくりができる場が少ない。お産の振り返りや、育児の大変さを他者と共有できず日々不安を抱えている母親が多いと感じる。

記述Ⅳ-3 設問 11「コロナ禍の訪問で工夫していること、工夫が必要なこと」(抜粋)

回答	28名
無回答	14名
回答率	66.7%

- ◆ 基本的な感染対策の徹底
 - ・日ごろからの体調管理。
 - ・マスク、消毒、予防衣。
 - ・短時間の訪問。
 - ・双方の体調確認。
 - ・事前に体調確認の電話。訪問時の接触時間短縮のため、あわせて新生児基本情報などは聞き取っておく。
 - ・玄関ドアを開けた状態で話す。
 - ・一日に複数件訪問する場合は、密にならないよう家屋には入らない。
 - ・緊急事態宣言下では手紙をポストインするのみ。
 - ・一日一件にしている。
- ◆ 安心への配慮
 - ・訪問時期をずらすことや電話で済ませること、どこで話すかなどの希望にそうように。
 - ・感染対策をとっていることがわかるように、清潔動作が伝わるようにしている。
 - ・訪問は全戸何うことになっていることを伝える。
 - ・電話での日程調整の際に、訪問員が感染対策をとっていることを伝える。
- ◆ 訪問以外でのフォロー
 - ・気になる方には再訪問や電話訪問でつながりを継続したり、地区担当保健師と連携。
 - ・訪問後もまめに電話をして不安や困りごとがないか確認。
 - ・訪問を拒否されても電話相談での支援を受けられるように関係を築く。
 - ・電話訪問でもたくさん話を聴く。
 - ・オンライン育児相談を開設。
- ◆ 保護者への不安に寄り添う
 - ・専門職としての指導より傾聴や気軽に話してもらえるよう心がける。
 - ・子育て世帯が家に閉じこもり孤立しないようにしている。
 - ・「何かあれば相談を」と気軽に相談してもらえるよう声かけを心がけている。
 - ・話を聴くことに徹し、親の悩みに寄り添うよう努力。

兵庫県在住の3歳未満の乳幼児を育てる保護者の皆さま 向けアンケート【プレゼント応募可】

【調査テーマ】コロナ禍における親の「孤育ち」実態および子育て支援に対するニーズの変化

【調査方法】WEBアンケート 【配布方法】QRコードまたはURL

【調査依頼元】NPO 法人育ちあいサポートブーケ（兵庫県川西市）

アンケートにご協力いただき誠にありがとうございます。

対象は、2018年12月1日～2021年11月30日生まれのお子さまがいる、兵庫県在住の保護者の皆さまです。11月30日に3歳のお誕生日を迎える方は対象外となり、プレゼントのご応募も対象外となります。

設問は全部で20問47項目、回答に要する時間は約15分ほどです。

プレゼントのご応募や調査結果をご希望の方は、アンケートの最後にお名前（漢字）とメールアドレスをご記入ください。調査対象でない方、回答のない方、お名前のみ、メールアドレスのみのご応募は無効となります。当選後は、ご住所とお子様の生年月日（2021年11月30日時点で3歳未満であること）を母子手帳等で確認させていただきます。あらかじめご了承ください。また、お預かりした個人情報とは当調査およびプレゼント発送以外には一切使用いたしません。

当調査は兵庫県全域を対象とし、コロナ禍が子育て環境におよぼす影響を明らかにすることを目的としています。なお、調査結果の公表において個人が特定されることはありません。

調査結果は2022年3月に当法人ホームページ等で公開させていただきます。コロナ禍などにより親子が孤立しやすい社会においても、あらゆる子育て家庭に寄り添える支援へと発展させるため、大切に活用させていただきます。【調査元：NPO 法人育ちあいサポートブーケ／兵庫県川西市】

	設問	回答
1	ご回答される方についてお教えてください。あてはまる答えの括弧に○または✓を入れてください。	1 () 母親 2 () 父親 3 () その他の養育者
2	ご回答者様の年代をお教えてください。	ア () 10代 イ () 20代 ウ () 30代 エ () 40代 オ () 50代 カ () 60代以上

3	<p><u>差し障りなければ、あてはまる項目すべてに○または✓を入れてください。</u></p> <p>いずれにも該当しない、回答したくない場合は、「該当なし」に○または✓を入れてください。</p>	<p>1 () 共働きである</p> <p>2 () ひとり親である</p> <p>3 () 外国籍である</p> <p>4 () 今の自治体に転入して1カ月以内である</p> <p>5 () 現在、産前産後8週間以内である</p> <p>6 () 多胎児(双子、三つ子など)の子どもがいる</p> <p>7 () 低体重で生まれた子どもがいる</p> <p>8 () 発達が気になる子どもがいる</p> <p>9 () 医療ケアの必要な子どもがいる</p> <p>10 () 該当なし</p>
4 -1	<p>現在の<u>お仕事</u>についてあてはまるものに○または✓を入れてください。その他を選んだ場合は、ご状況を具体的に()内にご記入ください。</p>	<p>1 () 会社員・派遣社員・契約社員・公務員</p> <p>2 () 専門職・技術職</p> <p>3 () パート・アルバイト</p> <p>4 () 自営業・自由業・家族従業員</p> <p>5 () 内職</p> <p>6 () 無職</p> <p>7 () その他</p> <p>()</p>
4 -2	<p>現在の<u>勤務状況</u>について、<u>あてはまるものすべてに○または✓を入れてください。</u></p> <p>その他を選んだ場合は、ご状況を具体的に()内にご記入ください。</p> <p>※例えば、パート・アルバイトで1日7時間以上、週3日、在宅で勤務されている場合は「1日7時間以上(フルタイム)勤務」「在宅ワーク」「週4日以内」を選びます。フルタイム出勤と時短や在宅ワークを組み合わせている場合は、「1日7時間以上(フルタイム)勤務」「1日7時間未満(時短)勤務」「在宅ワーク」のすべてを選びます。</p>	<p>1 () 該当なし</p> <p>2 () 育休中</p> <p>3 () 1日7時間以上(フルタイム)勤務</p> <p>4 () 1日7時間未満(時短)勤務</p> <p>5 () 在宅ワーク</p> <p>6 () 週5日以上</p> <p>7 () 週4日以内</p> <p>8 () その他</p> <p>()</p>

5	<p><u>3歳未満のお子様の性別と年齢を、年齢の高い順にお答えください。</u> <u>例えば生後8カ月の男の子のあかちゃんであれば「男0歳8カ月」とご記入ください。3歳未満のお子さんのいない方は当アンケート調査の対象外です。</u></p>	<p>1人目()年()月()日生 男・女 2人目()年()月()日生 男・女 3人目()年()月()日生 男・女 4人目()年()月()日生 男・女</p>
6	<p><u>お住まいはどちらですか。</u></p>	<p>兵庫県()市・町</p>

コロナ禍(2020年4月の緊急事態宣言後から今現在まで)の子育てについてお答えください

7	<p><u>コロナ禍においてお子さまとどのように過ごされていますか。</u> <u>あてはまるものすべてに○または✓を入れてください。</u> その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</p>	<p>1() コロナ禍前とあまり生活は変わらない 2() 以前よりも家族で過ごす時間が増えた 3() なるべく外出を控えて自宅で過ごしている 4() なるべく同居家族以外の人と会ったり遊んだりしないように過ごしている 5() 実家へ帰省するのをできるだけ控えている 6() 祖父母など離れて暮らす親族とはLINEなどSNSを利用しオンラインで交流を図るようにしている 7() 子育てひろばや児童館など子育て支援施設の利用を控えている 8() 親子で散歩や運動を心がけて過ごしている 9() 公園など屋外では他の親子と遊んでいる 10() オンラインの親子交流会を利用している 11() ママ友、パパ友など地域の知人とはLINEなどSNSを利用しオンラインで交流を図るようにしている 12() 自主的に登園を控えることもある 13() 経済的理由で就労時間が増えた分、子どもとの時間が減った 14() その他 ()</p>
---	---	---

<p>8</p>	<p><u>前問7でお答えになったようなコロナ禍の子育て環境において、日々どのように感じておられますか。</u> <u>15項目について下のア～エ4つの選択肢から1つずつを選択して、あてはまる記号をご記入ください。</u></p> <p>ア) とてもあてはまる イ) ややあてはまる ウ) あまりあてはまらない エ) 全くあてはまらない</p>	<p>①()自分が感染したら困るという不安がある ②()子どもについてイライラしてしまう ③()家族・親族に対してイライラしてしまう ④()親子だけの時間に息が詰まる ⑤()親として未熟で子どもに申し訳ない気持ち ⑥()社会からの孤立感がある ⑦()子育てに不安がいっぱい ⑧()子どもへの関わり方(遊び方、しつけ方、世話の仕方など)に自信が持てない ⑨()他の親子と交流できず寂しい ⑩()疲れて何もする気になれない ⑪()子育てが楽しめていない ⑫()子どもがかawaiiと思えない ⑬()意味もなく涙が出る時がある ⑭()わが子の成長・発達が気になる ⑮()就労や経済面の不安がある</p>
<p>9</p>	<p><u>子育ての悩みやしんどさに対し、次の人や場はどのくらい頼りになりますか。</u> <u>13項目について下のア～オ5つの選択肢から1つずつを選択して、あてはまる記号をご記入ください。</u></p> <p>ア)とても頼りになる イ)頼りになる ウ)あまり頼りにならない エ)全く頼りにならない オ)関わりを持てる機会がない</p>	<p>①()配偶者、パートナー ②()配偶者、パートナー以外の親族 ③()隣近所の人、地域の知人、友人 ④()職場の同僚や上司 ⑤()保育園、保育所、こども園の保護者仲間 ⑥()子育てサークルの仲間 ⑦()子育て支援施設(子育てひろばや児童館など)のスタッフ ⑧()保育園、保育所、こども園、託児所の職員 ⑨()療育の場にいる言語聴覚士、作業療法士などのスタッフ ⑩()医師、看護師 ⑪()助産師、保健師 ⑫()児童相談所、役所の窓口などにいるカウンセラー(心理士)、相談員など ⑬()オンライン上の相談サイトや育児アプリ</p>

<p>10</p>	<p><u>ご自身が日頃悩んでいることについて、あてはまるものすべてに○または✓を入れてください。</u> その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</p>	<p>1 () 特に悩んでいない 2 () 子どもの病気や発育・発達が気にかかる 3 () 子どもが十分に栄養をとれているか心配である 4 () 育児の方法がよくわからない 5 () 子どもとの接し方に自信が持てない 6 () 子どもとの時間を十分にとれない 7 () 話し相手や相談相手がいない 8 () 仕事や自分のやりたいことが十分にできない 9 () 近所に子どもの遊び友達がいない 10 () 近所に子育て支援施設(子育てひろばや児童館など)がない 11 () 友達付き合いがうまくいかない 12 () 子どもが園に行きたがらない 13 () 子育てに関して配偶者・パートナーの協力が少ない 14 () 配偶者・パートナーと子育ての意見が合わない 15 () 自分の子育てについて周りの見目が気になる 16 () 配偶者・パートナー以外に子育てを手伝う人がいない 17 () 子どもをしかりすぎているような気がする 18 () 地域の子育て支援サービスの内容などがわからない 19 () 近くに頼れる親戚や知人がいない 20 () 親の世話・介護で、育児に専念できない 21 () 子どもの入園先が見つからない 22 () その他 []</p>
<p>11</p>	<p><u>子育てに悩んだりストレスを感じた時には、どのようにされていますか。</u> ご自由にお答えください。</p>	<p>[]</p>

12	<p><u>ご自身の子育て環境や仕事との両立について、あてはまると思われるものすべてに○または✓を入れてください。</u></p> <p>その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</p>	<p>1()ワンオペ育児(育児負担に偏りがある状態)になっている</p> <p>2()土地勘がない</p> <p>3()子育て支援施設(子育てひろばや児童館など)が近くにない</p> <p>4()子育て仲間がいない、つくれない</p> <p>5()近くに頼れる親戚や知人がいない</p> <p>6()自分が病気になると子どもの面倒をみる人がいない</p> <p>7()親・兄弟姉妹の世話や介護をしている</p> <p>8()子どもの入園先が見つからない</p> <p>9()急な残業が入ってしまう</p> <p>10()仕事について家族の理解が得られない</p> <p>11()子育てについて職場の理解が得られない</p> <p>12()その他</p> <p>()</p>
13	<p><u>アプリやオンラインの子育て支援サービスで利用したことがあるものすべてに○または✓を入れてください。</u></p> <p>その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</p>	<p>1()アプリやオンラインで利用したことがない</p> <p>2()予防接種スケジュール</p> <p>3()ママ友探し</p> <p>4()育児記録</p> <p>5()オンライン保育</p> <p>6()オンライン交流会</p> <p>7()離乳食に関する相談・講座など</p> <p>8()育児に関する相談・講座など</p> <p>9()医療に関する相談・講座など</p> <p>10()その他</p> <p>()</p>
14	<p><u>今後、アプリやオンラインの子育て支援サービスや交流が充実すれば、子育てひろばや児童館など親子同士で対面できる場や機会は必要なくなると思いますか。あてはまるもの1つに○または✓を入れてください。</u></p>	<p>1()とてもそう思う</p> <p>2()そう思う</p> <p>3()あまりそう思わない</p> <p>4()そう思わない</p>

15	<u>前問 14でそのように答えた理由を教えてください。</u>	()
16	<u>コロナ禍において、ご自身の子育てを楽しんでくれたり、子育てに前向きになれたりした出会いや出来事があれば教えてください。</u>	()
17	<u>自治体による「新生児訪問指導」や「こんにちはあかちゃん事業」などの家庭訪問について、あなたの気持ちとしてあてはまるものをすべてに○または✓を入れてください。その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</u>	1 () 全ての母子に必要な制度だと思う 2 () ハガキなど紙面の申込みが面倒 3 () 訪問してもらえてありがたかった 4 () オンライン対応にして欲しい 5 () 希望してないのに家に来られるのは不快 6 () 絵本や子育て支援の情報をもたらえて良かった 7 () 話はしたいが感染対策で会うのに抵抗がある 8 () 虐待を疑われているのではと不安になる 9 () もっとゆっくり話を聞いて欲しかった 10 () 自分にはあまり必要だと思わなかった 11 () 相談したいことがある時に来て欲しい 12 () 知人や家族と身近な人や、近所の人に訪問されると気疲れする 13 () その他 ()

18	<p>「<u>こんなあかちゃん訪問なら希望したいな</u>」と思うものすべてに○または✓を入れてください。</p> <p>その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</p>	<p>1 () 自分が選んだ絵本を1冊もらえる</p> <p>2 () おむつの配布をしてくれる</p> <p>3 () 産後ケアの割引クーポンがもらえる</p> <p>4 () 自分の来て欲しい月齢のタイミングで来てくれる</p> <p>5 () 妊娠期にお世話になった助産師さんが訪問してくれる</p> <p>6 () 妊娠期にお世話になった保健センターの保健師さんが訪問してくれる</p> <p>7 () 妊娠期にお世話になったに、地域の子育て相談員さんが訪問してくれる</p> <p>8 () 母乳ケアや相談にのってもらえる専門家(助産師)が訪問してくれる</p> <p>9 () 子どもの関わり方(遊び方)を教えてもらえる</p> <p>10 () あかちゃんとお出かけできる場所(遊び場など)を教えてもらえる</p> <p>11 () ちょっとしたあかちゃんのことを聞いてもらえる・教えてくれる</p> <p>12 () 大人と話したいのでゆっくり話しのできる人が訪問してくれる</p> <p>13 () 親自身の心と身体について話し合える人が訪問してくれる</p> <p>14 () かかりつけ医(小児科)について教えてもらえる</p> <p>15 () 地域で提供されている子育て支援について教えてもらえる</p> <p>16 () その他</p> <p>()</p>
19	<p>これから出産を迎える妊婦さんに<u>最も勧めたいと思うことを2つ選</u>び、○または✓を入れてください。</p> <p>その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</p>	<p>1 () 産前に産後に育児の相談ができる人を見つけておく</p> <p>2 () あかちゃんが産まれたら出かけられない所へ遊びに行く</p> <p>3 () 家族にも育児休暇を取るようお願いする</p> <p>4 () 妊娠中の写真を撮っておく</p> <p>5 () いざという時に頼れる人やサービスを見つけておく</p> <p>6 () 家の片づけや掃除をしておく</p> <p>7 () 退院後の産後ケアを考えておく</p> <p>8 () アプリで近くのママ友を作っておく</p> <p>9 () その他</p> <p>()</p>
20	<p><u>子育て支援について、あなたの自治体にもっと力を入れてほしいと思うものすべてに○または✓を入れて</u>ください。</p>	<p>1 () 子どもだけで安心して遊べる場所づくりをしてほしい</p> <p>2 () 子育てひろばや児童館など、親子が安心して集まれる身近な場や機会を増やしてほしい</p> <p>3 () 親子で楽しめる文化事業(観劇や音楽会)を充実させてほしい</p>

	<p>その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</p>	<p>4()認可保育所をもっと整備して子どもの受け入れを増やしてほしい</p> <p>5()幼稚園や保育所にかかる費用負担を軽減してほしい</p> <p>6()公立幼稚園も3年保育を実施してほしい</p> <p>7()専業主婦など誰でも利用できる保育サービスがほしい</p> <p>8()安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備してほしい</p> <p>9()乳幼児医療費の助成制度をもっと充実してほしい</p> <p>10()支援が必要な子どもの保育を充実してほしい</p> <p>11()企業に対して職場環境の改善(残業時間の短縮や休暇の取得促進など)を働きかけてほしい</p> <p>12()育児休業・介護休暇の取得促進などを企業に対して働きかけてほしい</p> <p>13()再就職についての支援を充実してほしい</p> <p>14()子育てサークル・サロンへの支援をしてほしい</p> <p>15()子育てについて学べる機会を充実してほしい</p> <p>16()多子世帯への公営住宅優先入居や広い部屋の割り当てなど住環境面での配慮がほしい</p> <p>17()公園や歩道の整備をしてほしい</p> <p>18()児童手当をもっと充実してほしい</p> <p>19()家事支援サービスを整備してほしい</p> <p>20()その他</p> <p>()</p>
21 -1	<p><u>ご希望の方は、お選びいただき(いくつでも)、次項でお名前とメールアドレスの両方を忘れずにご記入ください。</u></p>	<p>1()プレゼント抽選に応募する</p> <p>2()調査結果の配信を希望する</p> <p>3()今後も子育てに関するアンケートがあれば協力したい</p>
21 -2	<p><u>お名前(ふりがな)</u></p>	<p><u>【例】ブーケ 花子(ぶーけ はなこ)</u></p>
22 -3	<p><u>メールアドレス</u></p>	<p><u>プレゼント抽選は、メールアドレスへのご連絡をもって当選発表とさせていただきます。どうぞお間違えのないようご記入ください。</u></p>
22 -4	<p><u>メールアドレス(確認)</u></p>	<p><u>確認のため、同じメールアドレスをもう一度ご記入ください。</u></p>

抽選で
うれしい商品
プレゼント

2021 年度NPO法人育ちあいサポートブーケ事業



きかせて！みんなの声

コロナ禍の子育てアンケート

こんにちは！
川西市の子育て支援団体
NPO法人育ちあいサポートブーケ
<http://bouquet-npo.com> です



コロナ禍での子育て
皆さまが必要と思う支援は
どんなことですか？
子育て中の皆さまの声をきいて
私たちは
より子育てしやすい社会をつくるための
お手伝いをしたいと考えています。
兵庫県で子育てする皆さまの声を
たくさんおきかせください！
アンケートはスマートフォンから簡単にご回答いただけます。
ぜひご協力ください！！

兵庫県在住
3歳未満の
お子さまの保護者
対象

**兵庫県在住の3歳未満の乳幼児を
育てる保護者の皆さま向けアンケート**
監修：甲南女子大学 伊藤篤教授
以下のQRコードよりご回答ください
設問：20問 47項目 15分程度
対象：兵庫県在住の
3歳未満のお子さまの保護者
(2018年12月1日～
2021年11月30日生まれ)
回答期限：2021年11月30日



<https://forms.gle/Y6XwgnUEadnzis8F8>

当調査結果において個人が特定されることは
ございません
お預かりした個人情報は当調査およびプレゼント
発送以外に使用いたしません

《プレゼントご応募について》
対象外の方、複数メールアドレスでのご応募は無
効です。当選された場合はお子さまの生年月日を
確認させていただきます。ご了承ください。

《当調査に関するお問い合わせ》
NPO法人育ちあいサポートブーケ調査
Email chosa@bouquet-npo.com

合計
21名さま

5名様



FANCL
ママの洗顔セット (5,324円相当)
マイルドクレンジングオイル
ピュアモイスト 泡洗顔料
ティーブクリア洗顔パウダー
濃密もっちり泡立てネット

5名様



FANCL
ベビーギフトセット (5,500円相当)
ベビー全身泡ウォッシュ
ベビーミルク
FANCL×UCHINO オリジナルスタイ

1名様



リブロックはじめてセットデラックス
(5,500円相当)

10名様



ミキハウスミニタオル

株式会社ファンケル
《協賛》 ブックローン株式会社 ミキハウス子育て総研株式会社
《協力》 神戸新製子育てクラブ 一徳子育て支援センター すすきぽ ひょうご子育てコミュニティ (敬称略順不同)

この調査は『2021年度ドコモ市民活動団体助成事業』からの助成金により実施するものです

地域子育て支援拠点事業・利用者支援事業所（基本型）向け

アンケート

【調査テーマ】コロナ禍における親の「孤育ち」実態および子育て支援に対するニーズの変化

【調査方法】紙面またはEメール【配布方法】郵送またはEメール【調査依頼元】NPO 法人育ちあいサポートブーケ（兵庫県川西市）

この度はお忙しい中、本調査へご協力くださいますこと誠にありがとうございます。
 こちらは拠点または事業所ごとにご回答いただく用紙です。
 2021年ご回答時点までの貴事業所における運営状況についてお答えください。
 なお、調査結果の公表において各施設や個人が特定されることはありません。
 調査結果は皆さまにもお役立ていただけるよう、2022年3月に当法人のホームページ等で公開し、フィードバックさせていただきます。

	設問	回答
1	事業所の分類と名称 どちらも当てはまる場合は 両方にチェック✓または☒を入 れてください。	1 <input type="checkbox"/> 地域子育て支援拠点事業 2 <input type="checkbox"/> 利用者支援事業（基本型） 名称 _____
2	所在地	兵庫県 _____ 市・町 TEL _____ メールアドレス _____
3	運営主体 <u>あてはまるものすべてに</u> チェック✓または☒を入れてく ださい。	1 <input type="checkbox"/> 自治体直営 2 <input type="checkbox"/> NPO 法人 3 <input type="checkbox"/> 社会福祉法人（社会福祉協議会を除く） 4 <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 5 <input type="checkbox"/> 学校法人 6 <input type="checkbox"/> 任意団体 7 <input type="checkbox"/> その他（ _____ ）

4	<p>実施場所</p> <p>あてはまるものすべてに チェック✓または☒を入れてくだ さい。</p>	<p>1☐ 保育所</p> <p>2☐ 認定こども園</p> <p>3☐ 幼稚園</p> <p>4☐ 公共施設・公民館</p> <p>5☐ 児童館</p> <p>6☐ 単独施設</p> <p>7☐ 空き店舗・商業施設</p> <p>8☐ 民家・マンションなど</p> <p>9☐ その他()</p>
5	<p>事業の開始年月</p>	<p>① 地域子育て支援拠点事業</p> <p>西暦 年 月</p> <p>② 利用者支援事業(基本型)</p> <p>西暦 年 月</p>
6	<p>各年度の総利用者数(親子の 総数)をお教えてください。</p>	<p>2018年度()人</p> <p>2019年度()人</p> <p>2020年度()人</p>
7	<p>各年度の総開設日数をお教え ください。</p>	<p>2018年度()日</p> <p>2019年度()日</p> <p>2020年度()日</p>
8	<p>開設曜日の変化をお教えくだ さい。(主な活動日を○でお囲みく ださい。)</p>	<p>2018年度 月・火・水・木・金・土・日・祝</p> <p>2019年度 月・火・水・木・金・土・日・祝</p> <p>2020年度 月・火・水・木・金・土・日・祝</p>
9	<p>個別の相談件数をお教えくだ さい</p>	<p>2018年度()件</p> <p>2019年度()件</p> <p>2020年度()件</p>
10	<p>個別相談のうち、他の部署・専 門機関と連携した案件数をお教 えください。</p>	<p>2018年度()件</p> <p>2019年度()件</p> <p>2020年度()件</p>

11	<p>各年度の<u>相談内容の項目を、多い順に上からご記入ください。</u></p> <p>※拠点や事業所における分類項目でお答えいただいて構いません。「その他」の場合は、その他に分類される具体例を挙げてください。</p>	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>2018年度</td> <td>2019年度</td> <td>2020年度</td> <td>2021年度</td> </tr> <tr> <td>1位</td> <td>{ }</td> <td>{ }</td> <td>{ }</td> <td>{ }</td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td>{ }</td> <td>{ }</td> <td>{ }</td> <td>{ }</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>{ }</td> <td>{ }</td> <td>{ }</td> <td>{ }</td> </tr> </table>		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	1位	{ }	{ }	{ }	{ }	2位	{ }	{ }	{ }	{ }	3位	{ }	{ }	{ }	{ }
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度																		
1位	{ }	{ }	{ }	{ }																		
2位	{ }	{ }	{ }	{ }																		
3位	{ }	{ }	{ }	{ }																		
12	<p><u>貴施設(同じ敷地内、隣接する建物などを含む)で実施している事業すべてにチェック✓または☒を入れてください。</u></p> <p>その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</p>	<p>1<input type="checkbox"/> 地域子育て支援拠点事業</p> <p>2<input type="checkbox"/> 一時預かり事業</p> <p>3<input type="checkbox"/> 利用者支援事業(基本型)</p> <p>4<input type="checkbox"/> 子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)</p> <p>5<input type="checkbox"/> 放課後児童健全育成事業</p> <p>6<input type="checkbox"/> 乳児家庭全戸訪問事業</p> <p>7<input type="checkbox"/> 養育支援訪問事業</p> <p>8<input type="checkbox"/> 子育て短期支援事業(日帰り型)</p> <p>9<input type="checkbox"/> 子育て短期支援事業(宿泊型)</p> <p>10<input type="checkbox"/> 病児保育事業</p> <p>11<input type="checkbox"/> その他()</p>																				
13	<p><u>コロナ禍になって以降(2020年4月以降)、貴施設(同じ敷地内、隣接する建物などを含む)で中止・休止・制限・縮小している・していた事業があれば、<u>あてはまるものすべてにチェック✓または☒を入れてください。</u></u></p> <p>その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</p>	<p>1<input type="checkbox"/> 該当なし</p> <p>2<input type="checkbox"/> 地域子育て支援拠点事業</p> <p>3<input type="checkbox"/> 一時預かり事業</p> <p>4<input type="checkbox"/> 利用者支援事業(基本型)</p> <p>5<input type="checkbox"/> 子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)</p> <p>6<input type="checkbox"/> 放課後児童健全育成事業</p> <p>7<input type="checkbox"/> 乳児家庭全戸訪問事業</p> <p>8<input type="checkbox"/> 養育支援訪問事業</p> <p>9<input type="checkbox"/> 子育て短期支援事業(日帰り型)</p> <p>10<input type="checkbox"/> 子育て短期支援事業(宿泊型)</p> <p>11<input type="checkbox"/> 病児保育事業</p> <p>12<input type="checkbox"/> その他()</p>																				

17	2021年9月までにおける全ての拠点・事業所事業の実施状況を教えてください。 ※拠点または事業所として行っている事業に限ります。			
	事業	対象者	実施状況	工夫している方法
例	<input checked="" type="checkbox"/> 親子の交流事業 <input type="checkbox"/> 子育て相談 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 講習会 <input type="checkbox"/> 利用者支援事業 (基本型) <input type="checkbox"/> 地域連携	0歳児の親子	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 工夫して継続	オンラインと併用 対面は5組まで予約制
	<input type="checkbox"/> 親子の交流事業 <input type="checkbox"/> 子育て相談 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 講習会 <input type="checkbox"/> 利用者支援事業 (基本型) <input type="checkbox"/> 地域連携		<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 工夫して継続	
	<input type="checkbox"/> 親子の交流事業 <input type="checkbox"/> 子育て相談 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 講習会 <input type="checkbox"/> 利用者支援事業 (基本型) <input type="checkbox"/> 地域連携		<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 工夫して継続	
	<input type="checkbox"/> 親子の交流事業 <input type="checkbox"/> 子育て相談 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 講習会 <input type="checkbox"/> 利用者支援事業 (基本型) <input type="checkbox"/> 地域連携		<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 工夫して継続	
	<input type="checkbox"/> 親子の交流事業 <input type="checkbox"/> 子育て相談 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 講習会 <input type="checkbox"/> 利用者支援事業 (基本型) <input type="checkbox"/> 地域連携		<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 工夫して継続	

	<input type="checkbox"/> 親子の交流事業 <input type="checkbox"/> 子育て相談 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 講習会 <input type="checkbox"/> 利用者支援事業 (基本型) <input type="checkbox"/> 地域連携		<input type="checkbox"/> ア 継続 <input type="checkbox"/> イ 休止 <input type="checkbox"/> ウ 工夫して継続	
	<input type="checkbox"/> 親子の交流事業 <input type="checkbox"/> 子育て相談 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 講習会 <input type="checkbox"/> 利用者支援事業 (基本型) <input type="checkbox"/> 地域連携		<input type="checkbox"/> ア 継続 <input type="checkbox"/> イ 休止 <input type="checkbox"/> ウ 工夫して継続	
	<input type="checkbox"/> 親子の交流事業 <input type="checkbox"/> 子育て相談 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 講習会 <input type="checkbox"/> 利用者支援事業 (基本型) <input type="checkbox"/> 地域連携		<input type="checkbox"/> ア 継続 <input type="checkbox"/> イ 休止 <input type="checkbox"/> ウ 工夫して継続	
18	<p>コロナ禍になって以降(2020年4月以降)、行った支援提供の工夫について、<u>最も手ごたえを感じているものはどのような方法ですか。</u> <u>あてはまるものを1つ選んでチェック</u>✓または☒を入れてください。その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</p>	<input type="checkbox"/> 1 オンライン <input type="checkbox"/> 2 非対面型アウトリーチ(絵本の宅配など) <input type="checkbox"/> 3 その他 ()		
19	<p>コロナ禍になって以降(2020年4月以降)の<u>新規利用者についてお聞きします。どの年齢層の登録が最も多いですか。</u> <u>あてはまるものを1つ選んでチェック</u>✓または☒を入れてください。</p>	<input type="checkbox"/> 1 生後6カ月未満 <input type="checkbox"/> 2 生後6カ月以上~1歳未満 <input type="checkbox"/> 3 1歳以上~2歳未満 <input type="checkbox"/> 4 2歳以上~3歳未満 <input type="checkbox"/> 5 3歳以上		

20	<p>コロナ禍になって以降(2020年4月以降)、拠点または事業所として最も利用者から必要とされていると思われることを1つお挙げください。</p>	<p>()</p>
----	---	------------

ご協力を賜り誠にありがとうございました。

本調査は『2021年度ドコモ市民活動団体助成事業』からの助成金により実施しています。

6	<p><u>コロナ禍になって以降</u> (2020年4月以降)、親の子育ての悩みや子育てに関する相談内容は、それ以前と比べて変化はありましたか。あてはまるものにチェック✓または☒を入れてください。</p>	<p>1☐ 変化を感じている</p> <p>2☐ あまり変化を感じない</p>
7	<p>2019年(コロナ禍前)、2020年(コロナ禍開始)、2021年(コロナ禍定着)に受けた相談で、<u>最も多かったと感じている相談内容を、各年度についてご記入ください。</u>※勤務されていない年度は空白で構いません。</p>	<p>2019年度</p> <hr/> <p>2020年度</p> <hr/> <p>2021年度</p> <hr/>
8	<p>問6で「変化を感じている」と答えた方にお伺いします。親の悩みや相談内容に感じられた変化は、<u>コロナ禍によるどのような影響が原因だと感じていますか。</u></p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; height: 100px; width: 100%;"></div>

<p>9</p>	<p><u>コロナ禍になって以降</u> (2020年4月以降)、それ以前と比べて、<u>変わったと感じている親の様子について</u>、<u>あてはまるものすべてにチェック</u>✓または<u>図</u>を入れてください。 その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</p>	<p>1□ 孤立している親が増えた 2□ 子育てに不安のある親が増えた 3□ 子どもとの関わり方がわからない親が増えた 4□ 自分の気持ちを話す親が増えた 5□ 外出自粛などにより変化した家庭生活や家族との関係にストレスを抱える親が増えた 6□ 経済的に困窮している家庭が増えた 7□ 感染症対策で他の親子と距離を取っていると思われる親が増えた 8□ 親自身が問題を抱えていることが増えた(精神疾患、病気、介護、家族との関係など) 9□ 子供の発達を気にする親が増えた 10□ 保育所(園)、幼稚園などにスムーズに入所・入園できるか心配 11□ その他 ()</p>
<p>10</p>	<p><u>コロナ禍になって以降</u> (2020年4月以降)で、それ以前と比べて、<u>変わったと感じている子どもの様子について</u>あてはまるものすべてに<u>チェック</u>✓または<u>図</u>を入れてください。 また、そのように答えた理由となった、具体的な乳児や子どもの様子をお教えてください。 その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</p>	<p>1□ 発達の気になる子どもが増えた () 2□ 他児、他者との関わりが難しい子が増えている () 3□ 虐待やネグレクトが疑われる子が増えた () 4□ 親からの関わりに不安のある子どもが増えている () 5□ その他 ()</p>

11	<p><u>コロナ禍になって以降</u> (2020年4月以降)、それ以前と比べて、<u>子育て支援に対する親のニーズは変化していると感じますか。</u> <u>あてはまるものにチェック</u>✓ または<u>☒</u>を入れてください。</p>	<p>1<input type="checkbox"/> 大いに感じる 2<input type="checkbox"/> 感じる 3<input type="checkbox"/> あまり感じない 4<input type="checkbox"/> 全く感じない</p>
12	<p><u>「大いに感じる」「感じる」と答えた方</u>にお伺いします。 <u>親のニーズがどのように変化しているか</u>お教えてください。</p>	<p>()</p>
13	<p><u>コロナ禍になって以降</u> (2020年4月以降)、<u>子育て支援情報の取得方法として、親の利用が進んでいると思うものすべてにチェック</u>✓ または<u>☒</u>を入れてください。 その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</p>	<p>1<input type="checkbox"/> 電話 2<input type="checkbox"/> インターネット上のホームページやポータルサイト 3<input type="checkbox"/> スマートフォンアプリ 4<input type="checkbox"/> SNS (Facebook、Instagram、Twitter、LINE、YouTube など) 5<input type="checkbox"/> チラシやフリーペーパーなどの紙媒体 6<input type="checkbox"/> Zoom など WEB によるオンライン交流事業 7<input type="checkbox"/> その他 ()</p>
14	<p><u>ご自身で解決できない場合には、どのように解決</u>していますか。<u>あてはまるものすべてにチェック</u>✓または<u>☒</u>を入れてください。 その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</p>	<p>1<input type="checkbox"/> 行政と連携する 2<input type="checkbox"/> 公的サービスを紹介する 3<input type="checkbox"/> 民間サービスを紹介する 4<input type="checkbox"/> その他 ()</p>

15	<p>コロナ禍になって以降 (2020年4月以降)、子育て支援を十分に提供するには、どのような工夫が必要だと思いますか。ご自由にお書きください。</p>	<p>()</p>
16	<p>コロナ禍になって以降 (2020年4月以降)、子育て支援から新たに気づいたこと、感じていることがあれば、ご自由にお書きください。</p>	<p>()</p>
<p>オンラインや電話で支援事業を行っている方のみお答えください。</p>		
17	<p>オンラインや電話での支援はどのような親が利用しやすいと感じますか。 あてはまるものすべてにチェック✓または☒を入れてください。 その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</p>	<p>1<input type="checkbox"/> 妊婦 2<input type="checkbox"/> 初めて子育てする親 3<input type="checkbox"/> 転出者 4<input type="checkbox"/> 転入者 5<input type="checkbox"/> 高齢出産した親 6<input type="checkbox"/> その他()</p>
18	<p>オンラインや電話での支援事業に手応えはありますか。 あてはまるものにチェック✓または☒を入れてください。</p>	<p>1<input type="checkbox"/> 大いに感じる 2<input type="checkbox"/> 感じる 3<input type="checkbox"/> あまり感じない 4<input type="checkbox"/> 全く感じない</p>
19	<p>Q18でそのように答えた理由をお教えてください</p>	<p>()</p>

ご協力を賜わり誠にありがとうございました。

本調査は『2021年度 ドコモ市民活動団体助成事業』からの助成金により実施しています。

6	<p>コロナ禍になって以降(2020年4月以降)、それ以前と比べて、<u>変わったと感じている訪問時の親の様子(悩みや孤立など)</u>について、<u>あてはまるものすべてにチェック✓または☒を入れてください。</u></p> <p>その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</p>	<p>1☐ 孤立している親が増えた</p> <p>2☐ 子育てに不安のある親が増えた</p> <p>3☐ 子どもとの関わり方がわからない親が増えた</p> <p>4☐ 自分の気持ちを話す親が増えた</p> <p>5☐ 外出自粛などにより変化した家庭生活や家族との関係にストレスを抱える親が増えた</p> <p>6☐ 父親に会う機会が増えた</p> <p>7☐ 父親からの育児相談が増えた</p> <p>8☐ その他</p> <p>()</p>
7	<p>コロナ禍になって以降(2020年4月以降)、それ以前と比べて、<u>変わったと感じている乳児や子ども(兄弟姉妹)の様子</u>について、<u>あてはまるものすべてにチェック✓または☒を入れてください。</u>また、そのように答えた理由となった、具体的な乳児や子どもの様子をお教えてください。</p> <p>その他を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にご記入ください。</p>	<p>1☐ 発達の気になる子どもが増えた</p> <p>()</p> <p>2☐ 他児、他者との関わりが難しい子が増えている</p> <p>()</p> <p>3☐ 虐待やネグレクトが疑われる子が増えた</p> <p>()</p> <p>4☐ 親からの関わりに不安のある子どもが増えている</p> <p>()</p> <p>5☐ その他</p> <p>()</p>

<p>8</p>	<p><u>コロナ禍になって以降（2020年4月以降）、それ以前と比べて、次の項目に変化はありますか。</u> <u>それぞれあてはまるものにチェック</u> <u>✓または☒を入れてください。</u></p>	<p>① <u>訪問のしやすさ</u> ア□ しやすくなっている イ□ 変化なし ウ□ しにくくなっている</p> <p>② <u>訪問を拒否するケース</u> ア□ 増えている イ□ 変化なし ウ□ 減っている</p> <p>③ <u>親の訪問希望（対面・非対面に関わらず）</u> ア□ 高まっていると感じる イ□ どちらとも言えない ウ□ 低くなっていると感じる</p> <p>④ <u>非接触の訪問希望（インターホン越しなど）</u> ア□ 増えていると感じる イ□ どちらとも言えない ウ□ 減っていると感じる</p> <p>⑤ <u>他の部署や専門機関との連携事案</u> ア□ 増えていると感じる イ□ どちらとも言えない ウ□ 減っていると感じる</p> <p>⑥ <u>訪問員として感じる訪問の必要性</u> ア□ 高まっていると感じる イ□ どちらとも言えない ウ□ 低くなっていると感じる</p> <p>⑦ <u>訪問方法を変える必要がある</u> ア□ そう感じている イ□ どちらとも言えない ウ□ そうは思わない</p>
----------	---	---

9	<p><u>コロナ禍での訪問で最も求められていると感じることは何ですか。</u> ご自由にお書きください。</p>	<p>()</p>
10	<p><u>コロナ禍において訪問する際、困っていることがあれば、</u>ご自由にお書きください。 特に思い当たらない場合は空欄で結構です。</p>	<p>()</p>
11	<p><u>コロナ禍での訪問で工夫していること、または工夫が必要だと思うことがあれば、</u>ご自由にお書きください。 特に思い当たらない場合は空欄で結構です。</p>	<p>()</p>

ご協力を賜わり誠にありがとうございました。

本調査は『2021年度 ドコモ市民活動団体助成事業』からの助成金により実施しています

資料5：各調査の回答市町一覧（50音順）

調査Ⅰ 28市町 447名 (有効回答のみ)	明石市・芦屋市・尼崎市・淡路市・伊丹市・猪名川町・稲美町・小野市・加古川市・加東市・上郡町・川西市・神戸市・三田市・洲本市・たつの市・太子町・高砂市・多可町・宝塚市・丹波市・丹波篠山市・豊岡市・西宮市・播磨町・姫路市・福崎町・三木市
調査Ⅱ 34市町 145事業所	相生市・明石市・赤穂市・朝来市・尼崎市・淡路市・伊丹市・市川町・猪名川町・稲美町・加古川市・加西市・加東市・神河町・上郡町・川西市・神戸市・佐用町・三田市・たつの市・太子町・高砂市・多可町・宝塚市・丹波市・豊岡市・西宮市・西脇市・播磨町・姫路市・福崎町・三木市・南あわじ市・養父市
調査Ⅲ 33市町 293名	相生市・明石市・赤穂市・朝来市・尼崎市・淡路市・伊丹市・猪名川町・稲美町・加古川市・加西市・加東市・神河町・上郡町・香美町・川西市・神戸市・佐用町・三田市・たつの市・太子町・多可町・宝塚市・丹波市・豊岡市・西宮市・西脇市・播磨町・姫路市・福崎町・三木市・南あわじ市・養父市
調査Ⅳ 24市町 42名	明石市・赤穂市・芦屋市・市川町・猪名川町・稲美町・加古川市・加東市・上郡町・香美町・川西市・佐用町・三田市・洲本市・太子町・多可町・宝塚市・たつの市・丹波市・豊岡市・播磨町・福崎町・南あわじ市・その他

〈基礎資料〉

人口密度及び世帯数に関するグループ分けに際しては、兵庫県が2021年10月1日に発表した兵庫県推計人口のデータ「https://web.pref.hyogo.lg.jp/press/documents/20211029_8884_1.pdf」に基づき実施した。

◆調査チーム

NPO法人育ちあいサポートブーケ（担当：細見 美咲 藏原 亜紀 協力：事務局）

監修 甲南女子大学人間科学部 教授 伊藤 篤

協力 西宮市利用者支援専門員 告船 和美



◆報告 2022年2月28日

NPO法人育ちあいサポートブーケ（兵庫県川西市）

E-mail home@bouquet-npo.com

<http://bouquet-npo.com>

◆この調査は『ドコモ市民活動団体助成事業』からの助成金により実施しました

◆保護者向け調査ご協賛企業

株式会社ファンケル・ブックローン株式会社・ミキハウス子育て総研株式会社（敬称略・五十音順）

◆本調査報告書は「NPO法人育ちあいサポートブーケ」のホームページにて公開しています